

1860迄 (3252件)

- 1851年-12:00|ウオリス・フツナ| |||<即位>シカ・ウ王「Alefosio Tamole」(~1876年)
- 1851年-08:00|マレーシア| |||<死去>ペラ・スルタン「シヤハブ・デ・イン・リアヤット・シヤ・イフ・アル・マルフム・ラジヤ・イヌ」
- 1851年-08:00|インドネシア| |||<即位>チルボン・カマラン君主「Sultan Anom7世 Muhammad Kamaruddin」(~1871年)
- 1851年-08:00|マレーシア| |||<即位>ペラ・スルタン「アブドゥッウッラー・ムハンマド・シヤ1世」(~1857年没)
- 1851年-07:00|ラオス| |||<就任>チャンパ・サック摂政「スア」(~1852年没)
- 1851年-07:00|タイ| |||<就任>ナン国主(チャオ)「アナンタヨット」(~1891年)
- 1851年-07:00|ラオス/タイ| |||チャンパ・サックをタイが占領(~1856年)
- 1851年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「チャグ・ハ・サンケ」(~1852年没)
- 1851年-05:30|インド| |||<就任>コンダル国統治者(タクル・サーヒブ)「サグ・ラムジ2世デ・ウ・アジ」(~18691214没)
- 1851年-05:30|インド| |||<就任>シユナーガト国支配者(ナワブ)「モハマト・マハムド・ハンジ2世」(~18820929没)、摂政「アナンツイ・アマルチャント・ウ・アサダ・ウ・ア」(~1858年)
- 1851年-05:30|インド| |||<就任>スルグジャ国ラジヤ「インドラジット・シン・デ・オ」(~18790325没)
- 1851年-05:30|インド| |||<就任>チョタ・ウダール国ラジヤ・マハラワ「シツイムジ」(~1881年7月没)
- 1851年-05:30|インド| |||<就任>村イ国ラジヤ(ラジヤ・インドラ・デ・オ)「チャンドラ・デ・オ」(~1876年没)
- 1851年-05:30|インド| |||<就任>マラーター王国宰相「Nana Sahib」(~1857年)
- 1851年-05:30|インド/イギリス| |||マニポール国はイギリスの保護国家宣言
- 1851年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ユコカント(フェルガナ)ハン「Abd Allah Bek」(数日間)
- 1851年-05:00|パキスタン/イギリス| |||パルティスタンはシヤムン・カミールに完全に編入
- 1851年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>シバルガン汗国ハキム「ハキム・カーン」ニザム・アル・ダウラ(~1855年)
- 1851年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国皇帝「アリ・アルウラ(篡奪者)」(~18530629没)
- 1851年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国皇帝「サレ・デンゲル・ゲブレ・メイヤ」(5回目~18550211)
- 1851年-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス管財人「イブラヒム・エテム・パシャ」(2回目~1853年5月)
- 1851年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Osman Pasha Said Pasha」(~1852年)
- 1851年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Cayetano Urbina y Daoiz」(~1853年)
- 1851年-01:00|ニジェール| |||<就任>ダマラム国統治者(サルキン・ダマラム)「マハムン・ケイス・ダン・イブラム」⇒「タニムン・ダン・サレマン・ハキ・ジャトウ」(2回目~1880年)
- 1851年-01:00|ニジェール| |||<就任>マラティ国統治者(サルキン・カツイ)「ダン・ハスコーレ・ダン・ラウタ・ラウラン」(~1873年)
- 1851年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>アシニー(ジヨインヴール砦)民間司令官「コケット」(~1853年)
- 1851年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ第4代総督「大佐Sir Thomas Gore Browne」
- 1851年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>グランバッサム(ヌメル砦)民間司令官「シャルル・ガブリエル・フェリシテ・マルタン・デ・ハリエール」(~1853年)
- 1851年 00:00|セネガル| |||<就任>サラム統治者(フル・サラム)「ハラ・アタ・マンジエイ」(~1854年)
- 1851年 00:00|セネガル| |||<就任>ジヨロフ帝国統治者(フルバ・ジヨロフ)「ハカ・コトウ・ヒジ・ファコンテン・ジエイ」(~1853年)
- 1851年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督「アロイス・ダ・ロウ・ジエザスキー」(2回目~1852年)
- 1851年 00:00|モーリタニア| |||<就任>ブラウナ連合エミール「シテ・イムハンマド・ウルト・ムハンマド」(~1858年12月没)
- 1851年 04:00|フエルトリコス/スペイン| |||<就任>ビエクス島知事「Jose Astorga」(~1856年)
- 1851年 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領代行「マヌエル・マリア・テイヤス」(2回目)⇒大統領「トマス・デ・エレラ」(4回目)⇒大統領「ファン・アントニオ・ベルムデス」⇒大統領「カルロス・イガザ・アロスマ」
- 1851年1月-03:00|スーダン/エジプト| |||<就任>エジプト領スーダン総督「Rustum Pasha Jarkas」(~1852.5)
- 1851年1月-03:00|スーダン/エジプト| |||<就任>エジプト領スーダン総督「リュステム・ハシヤ・チェルケス」(~1852年5月)
- 1851年1月1日-01:00|ドイツ| |||<死去>リッペ侯「レポルト2世」
- 1851年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「マーティン・シヨセフ・ムンツィンガー」Rad(~12.31)
- 1851年1月1日-01:00|ドイツ| |||<就任>リッペ侯「レポルト3世」(1870年、侯国はドイツ帝国の構成国になる~18751208死去)
- 1851年1月1日 08:00|ヒトクアン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヒトクアン諸島主任判事「Thursday October Christian II」(2期目~12.31)
- 1851年1月2日 06:00|エルサルバドル/アメリカ| |||アメリカ、エルサルバドルと最初の通商条約批准
- 1851年1月6日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「フィリップ・アキレ・ベテイヤ」(~同年)
- 1851年1月6日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<死去>ギニア暫定総督「Louis Eugene Maissin」
- 1851年1月6日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア暫定総督「Jean-Francois Marie Felix Stanislas Vidal de Lingendes」(~6.29)
- 1851年1月7日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「権敦仁」(~7.17)
- 1851年1月8日-04:00|モーリシャス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モーリシャス総督・最高司令官「ジエムス・マコーリー・ヒギンソン」(~18570921)
- 1851年1月11日-09:00|日本|東京都墨田区|嘉永3年12月10日|<大相撲>嘉永3年11月場所[江戸本所回向院](11.20~10日間)幕内優勝:(東小結)猪王山,7勝0敗2分1休
- 1851年1月11日-08:00|中国| ||清・道光30年12月10日|太平天国樹立。洪秀全指導の拜上帝会、氏の誕生日に広西省金田に樹立
- 1851年1月12日 00:00|イギリス| |||<死去>4代ニューカッスル・アンダーライン公・11代リンカン伯「ヘンリー・ヘラム・ファインズ・ヘラム・クリントン」
- 1851年1月12日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ニューカッスル・アンダーライン公・12代リンカン伯「ヘンリー・ヘラム・ファインズ・ヘラム・クリントン」4代公の長男(~18641018死去)

1860迄 (3252件)

- 1851年1月13日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|嘉永3年12月12日|佐賀藩の築地反射炉完成(日本初)
- 1851年1月14日-05:30|インド| |||<就任>トウカイ国統治者(デイトン)「ランジ ョーシン」(~1910年11月没)
- 1851年1月14日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Juan Bravo Murillo」穏和党(~18521214)
- 1851年1月15日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド 総督「ウイラ・ノウア・テ・オウレン子爵ホセ・ホアキン・ジヤリア・ラハ」(~18550506)
- 1851年1月15日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>トランスヴァール司令長官「ウィレム・フランソワ・ジューベール」(~18561217)、「ヨハン・アダム・エンズリン」(~1852年4月)、「アントリース・ウィルヘルムス・ヤコブス・プレトリウス」(2度目~185307123)、「アントリース・ヘンドリック・ポトギーター」(~18521216)
- 1851年1月15日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>トランスヴァール・フォルクスラート 議長「(コーネリス)ポトギーター」(3回目~21日)
- 1851年1月15日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領「ホセ・マリア・ノガール・デ・アリスタ・ヌエス」(~18530106)
- 1851年1月17日 00:00|イギリス| |||<死去>ノサンプトン侯「スペンサー・ジョシュア・アルウィン・コンプトン」
- 1851年1月17日 00:00|イギリス| |||<就任>ノサンプトン侯「チャールズ・ダグラス=コンプトン」(~18770303死去)
- 1851年1月20日 04:30|ベネズエラ| |||<就任>ベネズエラ共和国大統領代理「Antonio Leocadio Guzman Garcia」(~2.5)PL
- 1851年1月22日-09:00|日本|群馬県吾妻郡東吾妻町|嘉永3年12月21日|上野国の侠客国定忠治、殺傷、賭博、関所破りなどの罪で大戸関所で磔となった
- 1851年1月26日-05:30|インド| |||<就任>マンデイ国ラジャ「ビジャイ=セン」(~19021210没)、摂政「ワズル・ゴサオン」(~18661012)
- 1851年2月1日-09:00|日本| ||嘉永4年|シボルト「大日本陸海図帳」出版/間宮林蔵が最上徳内のカガト図をはじめて公刊
- 1851年2月1日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの作家マリー=シェリー/「フランケンシュタイン」
- 1851年2月1日-09:00|日本| ||嘉永4年1月|<出版>一立斎広重「東海道風景図会」及び「略画光琳風立斎百図」初編、「奇特百歌僊」「艸筆画譜」四編
- 1851年2月1日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永4年1月|<初演>「蓬莱山嗣曾我」市村座
- 1851年2月1日-09:00|日本|福井県小浜市|嘉永4年1月1日|小浜で大火, 13町, 竈数382焼失
- 1851年2月1日-08:00|中国| ||清・咸豊1年1月1日|清・咸豊と改元
- 1851年2月3日-01:00|フランス| |||ジャン=ベルナル=レオン=フーコー、「地球の自転」を証明するため、学者を招待して「パリ天文台」(14区)で「振り子の実験」を行う
- 1851年2月4日 06:00|アメリカ| |||モンゴリアで南部連合結成。南部強硬派の指導者ジョン=カルフン、南部連合暫定大統領に就任 (02/09)
- 1851年2月4日-09:00|日本|福岡県北九州市|嘉永4年1月4日|<死去>小倉新田藩(篠崎屋敷)1万石「小笠原貞謙」(25歳)⇒弟「小笠原貞嘉」が継ぐ(⇒安政元(1854)年6月5日、本家小倉藩主「小笠原忠徴」の養嗣子となって忠嘉と改名)
- 1851年2月5日 04:30|ベネズエラ| |||<就任>ベネズエラ共和国大統領「ホセ=グレゴリオ=モカス」(~18550120)PL
- 1851年2月6日-01:00|オーストリア| |||<初演>フランツ=ペーター=シューベルト《交響曲第3番変ホ長調Op. 97「ライン」》19591102-1209作曲
- 1851年2月7日 05:00|コロンビア| |||コロンビア=カタルナ、地震、死者多数
- 1851年2月12日-09:30|オーストラリア| |||エドワード=ハーグレーヴス (35) が、ニュー=サウス=ウェールズ 植民地のハーストで金を発見
- 1851年2月15日-04:00|ルイオン/フランス| |||<就任>ルイオン知事「Louis Isaac Pierre Hilaire Doret」(~18520808)
- 1851年2月15日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>トランスヴァール・フォルクスラート 議長「(コーネリス)ポトギーター」(第4回)
- 1851年2月15日 06:00|アメリカ| |||逃亡奴隷取締法に反対する黒人運動がボストンで発生
- 1851年2月17日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ヘイディングス侯=4代モイラ伯=3代ロートン伯「ホーリン=レジナルド=セルロ=ロートン=ヘイディングス」
- 1851年2月17日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ヘイディングス侯=4代ロートン伯「ハンリー=ウェイス=フォード=チャールズ=フランザジ=ネット=ロートン=ヘイディングス」先代の弟(~18681110死去)
- 1851年2月19日 00:00|イギリス| |||<死去>9代リンジー伯「ハンリー=リンジー=ベスーン」
- 1851年2月19日 00:00|イギリス| |||<就任>10代リンジー伯「ジョン=トロッター=ベスーン」(~18940512死去)
- 1851年2月21日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|嘉永4年1月21日|<死去>大久保忠成(86歳) 前下野烏山藩主
- 1851年2月23日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島州市民知事「Antonio Halleg」(2期目~8.21)
- 1851年2月23日 06:00|アメリカ| |||テキサス州で帰属問題を巡ってクーデター発生。ヒューストン知事亡命。テキサス共和国に暫定政府樹立
- 1851年2月24日-02:00|ルーマニア/オーストリア| |||<就任>オーストリア民政=軍事トランシルヴァニア総督「ヨゼフ=バロ=カヤニ=カヤニ」(4.18まで代行~5.25)
- 1851年2月26日-09:00|日本|福岡県福岡市|嘉永4年1月26日|<死去>黒田齊清(57歳) 前筑前福岡藩主
- 1851年3月-03:00|イェメン/トルコ| |||<就任>オスマン帝国イェメン=ウオリス(総督)「Mehmed Sirri Pasha」(~10月)
- 1851年3月-01:00|オーストリア| |||オーストリアで帝国参議院が新設され、キューベック男爵が長官に指名される
- 1851年3月 00:00|セネガル| |||<就任>ファクト=ロ統治者統治者(アルマ=ミ)「シハ=ウエイ=リ」(2回目~10月)
- 1851年3月1日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領代行「ホセ=フェリックス=キロス=サンチェス」(3回目~5.3)
- 1851年3月3日 00:00|イギリス| |||<死去>4代ハリントン伯「チャールズ=スタンホープ」
- 1851年3月3日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ハリントン伯「リスター=スタンホープ」先代の弟(~18620907死去)
- 1851年3月3日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永4年2月|<初演>「明烏」[作=三世櫻田治助、曲=清元千歳]中村座
- 1851年3月4日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|嘉永4年2月2日|<交替>薩摩藩72万8700石「島津齊興」隠居⇒長男「

1860迄 (3252件)

- 島津齊彬が継ぐ(⇒安政5年7月16日(18580824)、死去)
- 1851年3月5日-05:30|イギリス| |||イギリス、地理調査局開設
- 1851年3月9日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマークの物理学者ハンス=クリスチャン=エルステット /73歳(誕生17770814)/電磁気学の研究を行った
- 1851年3月9日 00:00|サントメ=プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ=プリンシペ 総督「Jose Maria Marques」(2期目~18530320)
- 1851年3月11日-01:00|イタリア| |||<初演>ジュゼッペ・フォルトゥーネーノ・フランチェスコ・ヴェルディ《歌劇「リコレット」》
- 1851年3月12日-09:00|日本|静岡県浜松市|嘉永4年2月10日|<死去>水野忠邦(58歳、寛政6(1794)0623生)前遠江浜松藩主、元老中/天保の改革を行った
- 1851年3月14日-09:00|日本|愛知県豊田市|嘉永4年2月12日|<死去>三河拳母藩2万石「内藤政優」(42歳)⇒養子「内藤政文」が継ぐ(⇒安政5(1858)年9月30日、死去)
- 1851年3月15日 00:00|イギリス| |||<死去>5代アルヘマル伯「オーガスタス=フレデリック=ケッペル」
- 1851年3月15日 00:00|イギリス| |||<就任>6代アルヘマル伯「ジョージ=トマス=ケッペル」先代の弟(~18910221死去)
- 1851年3月20日-09:00|日本| ||嘉永4年2月18日|<死去>桜間青涯(66歳)画家
- 1851年3月23日-09:00|日本|三重県津市|嘉永4年2月21日|<死去>藤堂高やつ(61歳)前伊勢久居藩主
- 1851年3月23日-08:00|中国| ||清=咸豊1年2月21日|清国で、洪秀全が天王を名乗る
- 1851年3月24日-08:00|イギリス/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事代行「統治ジュンタ(ケレゴリオ=パレト/アントニオ=ヘレイラ/マヌエル=ペレイラ=ダ=コスタ/マリア=ノ=フ=ピ=アス)」(~6.23)
- 1851年3月29日-01:00|フランス| |||物理学者のジャン=フーコー(32)が、パントン宮殿で振り子の公開実験を行なって、地球の自転を証明
- 1851年3月29日-09:00|日本| ||嘉永4年2月27日|<死去>高橋残夢(77歳)国学者、歌人
- 1851年3月30日-09:00|日本|東京都墨田区|嘉永4年2月28日|<大相撲>嘉永4年2月場所[江戸本所回向院](5日間)幕内優勝:(東前5)雲早山,4勝0敗1分
- 1851年4月-01:00|北マケドニア/トルコ| |||<就任>ウスクブ=ワリス(総督)兼マナステル=ワリス(総督)「ムスタファ=トスン=パシヤ」(~1853年10月)
- 1851年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ=グイデ=イ=ジャンゾ」 「マルコ=スツツイ=ウ=アッリ」
- 1851年4月1日 04:00|トミカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミカ副総督「サミュエル=ウェンズリー=ブラックオール」(1回目~1854年)
- 1851年4月1日 06:00|ニカラガア| |||<就任>ニカラガア独立共和国最高取締役代行「ホセ=フスト=アバウンサ=イ=ムニョス=デ=アビレス」(1回目~5.5)
- 1851年4月2日-07:00|タイ| |||<死去>チャクリ=王朝国王「ラーマ3世ナクラーオ(鄭福)」63才
- 1851年4月3日-07:00|タイ| |||<即位>チャクリ=王朝国王「ラーマ4世チョームクラオ(モンクット/鄭明)」(~18681001死去63才)
- 1851年4月6日 06:00|カナダ| |||郵便制度がカナダの植民地政府へ移管され、均一料金制度を導入
- 1851年4月8日 00:00|ポルトガル| |||ポルトガルで刷新派が蜂起を開始
- 1851年4月9日-09:00|日本| ||嘉永4年3月8日|問屋再興令、株仲間復活
- 1851年4月10日-01:00|フランス| |||<就任>フランス共和国第二共和政首相「レオン=フォシェ」オルアナスト(~18511026)
- 1851年4月10日-01:00|ドイツ| |||<初演>ゲオルヘルム=リヒャルト=ワーグナー 《歌劇「ローエングリン」》
- 1851年4月12日 06:00|アメリカ| |||南部連合軍、連邦軍兵士の立てこもるサムター要塞に砲撃。南北戦争開始
- 1851年4月16日-01:00|フランス| |||<初演>シャル=フランソワ=グノー 《歌劇「サッフォー」》
- 1851年4月20日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国大統領「ホセ=ルフィーノ=エチエナ=イ=ベ=ナベンテ」(~18550105)
- 1851年4月21日 06:00|ペリズ/イギリス| |||<就任>ペリズ 居留地管理者(ジャマカの知事に従属)「フィリップ=エド=マント=ウット=ハウス」(~1853年)
- 1851年4月23日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督「エスパーニャ侯=ラメフォート男爵Enrique de Espana y Taberner」(~1852.5)
- 1851年4月26日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル王国第18代首相「アントニオ=ホセ=デ=スザ=マヌエル=エ=メネス=セウ=エリム=デ=ノロニャ」(3期目~5.1)
- 1851年4月29日 00:00|イギリス| |||<死去>初代コッチナム伯「チャールズ=クリストファー=ヘピス」
- 1851年4月29日 00:00|イギリス| |||<就任>2代コッチナム伯「チャールズ=エドワード=ヘピス」(~18630218死去)
- 1851年4月29日 06:00|アメリカ| |||アメリカ=ワシントン=ポルチモで世界初の電車が開通
- 1851年5月 03:00|ウルグアイ| |||ウルキサはオサスの辞任を勧告するとともにエントレリオスとコリエンテスの独立を宣言
- 1851年5月1日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル王国第19代首相「ジョアン=カルロス=グレゴリオ=トミンガス=ピセンテ=フランシスコ=デ=サルタ=ニャ=オリベ=イラ=エ=ダ=ウ」(3期目~18560606)
- 1851年5月1日 00:00|イギリス| |||世界最初のロンドン万国博覧会が開会(~1015)国際博覧会の始まり/正式名称は「各国産業作品の大博覧会」[会場]ロンドン=ハイドパーク公園(イギリス)[入場者]6,039,195人
- 1851年5月1日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永4年4月|<初演>三代目瀬川如臈「勢獅子」曲・五代目岸澤式佐、振・花柳寿輔/江戸中村座
- 1851年5月3日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>ポントデルガダ 民政知事「Felix Borges de Medeiros」(~18680111)
- 1851年5月3日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領「フランシスコ=ハビエル=トウニャス=デ=イアス」(~18520130)
- 1851年5月5日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>トランスヴァール=フォルクスラート 議長「W=イルム=ヘントリック=ヤコブ=スゾーン」(3回目)
- 1851年5月5日 06:00|ニカラガア| |||<就任>ニカラガア独立共和国最高取締役「ホセ=ラウレアノ=ピネダ=ウガルテ」(1回目~8.4)
- 1851年5月7日-09:00|日本|群馬県伊勢崎市|嘉永4年4月7日|<交替>上野伊勢崎藩2万石「酒井忠恒」隠居⇒四男「酒

1860迄 (3252件)

井忠強が継ぐ(⇒慶応4(1868)6月25日、隠居)

- 1851年5月9日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>トランスヴァール・フォルクストート議長「W・イルム・ヘントリック・ヤコブスゾーン」(4回目)
- 1851年5月10日-01:00|アルジェリア/フランス| |||<就任>フランス領アルジェリア総督「エイマール・ジャン・ジャック・ペリシエ」(1回目~12.11)
- 1851年5月11日 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<死去>ヴァージン諸島主席「ジョン・アトル・マクレーン卿」
- 1851年5月11日 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヴァージン諸島主席代理「Richard H. Dyett」(~1852年)
- 1851年5月12日-09:00|日本|栃木県大田原市|嘉永4年4月12日|<死去>下野大田原藩11400石「大田原広清」(22歳)
⇒養子「大田原富清」が継ぐ(⇒文久2(1862)年9月2日、死去)
- 1851年5月13日-01:00|マルタ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地マルタ総督代理「ロバート・エリス」(2期目~11.14)
- 1851年5月15日-09:30|オーストラリア| |||オーストラリアで、ニュー・サウスウェルズ内陸部のパース周辺で金鉱脈が発見されたことが公表される
- 1851年5月15日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「Albertus Jacobus Duymaer van Twist」(~18560522)
- 1851年5月15日-01:00|ドイツ| |||ドレゼン会議で、ドイツ連邦体制の復活が決定される/プロシヤとオーストリアの間の秘密協定が結ばれる
- 1851年5月15日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、エリー鉄道開通
- 1851年5月17日 05:00|ペルー| |||ペルーのリマとカヤオ間に、南米最初の鉄道が開通
- 1851年5月25日-02:00|ルーマニア/オーストリア| |||<就任>オーストリア民政・軍事トランシルヴァニア総督「カール・ボロメウス・フルスト・ス・シュヴァルツェンベルク」(~18580625没)
- 1851年5月27日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|嘉永4年4月27日|<交替>駿河小島藩1万石「松平信賢」隠居⇒養子「松平信進」が継ぐ(⇒文久3(1863)年正月24日、51歳で死去)
- 1851年5月29日 03:00|ブラジル/ウругァイ| |||南米でアルゼンチンの相手に対する攻守同盟が成立
- 1851年5月31日-09:00|日本|長野県諏訪市|嘉永4年5月1日|<死去>諏訪忠恕(52歳)前信濃諏訪藩主
- 1851年6月-09:30|オーストラリア| |||ハークレイズ、チューロン川で金の発見/ニュー・サウスウェルズで最も豊かな金鉱
- 1851年6月 06:00|コカグア| |||パナマ運河の運河会社、正式運行を開始/コカグア湖畔のラ・ベルゲンからサンファン・デル・スルヘショトカットするルート
- 1851年6月1日-04:30|アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン対立摂政大臣(ハート)「サイード・モハマト・カーン・アリコザイ」(~18550915没)
- 1851年6月2日 00:00|イギリス| |||<死去>6代ジャック・リバー「クロフ・レイ・アシュリー=カーパー」
- 1851年6月2日 00:00|イギリス| |||<就任>7代ジャック・リバー「アントニー・アシュリー=カーパー」(~18851001死去)
- 1851年6月2日-09:00|日本| |||嘉永4年5月3日|江戸深川三十三間堂通矢「五十間堂百射」、佐藤乙三郎(10歳)が98本(総矢数100中)を記録
- 1851年6月3日 01:00|ブラジル諸島/ポルトガル| |||<就任>アングラ・ド・エロイス民政知事「Antonio de Oliveira Marreca」(~9.18)
- 1851年6月5日 06:00|アメリカ| |||ストウ『アンクル・トムズ・キャビン』の連載開始
- 1851年6月6日 01:00|ブラジル諸島/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル民政知事「Nicolau Anastacio de Bettencourt」(2期目~18520424)
- 1851年6月6日-09:00|日本|千葉県香取市|嘉永4年5月7日|<死去>下総小見川藩1万石「内田正道」(24歳)⇒弟「内田正徳」が継ぐ(⇒文久3(1863)年5月20日、死去)
- 1851年6月7日-09:00|日本|大阪府大阪市|嘉永4年5月8日|<死去>篠崎小竹(71歳)儒学者、能書家
- 1851年6月11日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>トランスヴァール・フォルクストート議長「J. N. H. グローラー」
- 1851年6月12日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Auguste Nicolas Vaillant」(~1853.7)
- 1851年6月13日-03:00|マヨット/フランス| |||<就任>フランス保護領マヨット総督「フィリップ・オーギュスタン・ボンフィス」(~18531018)
- 1851年6月23日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「セシジヨキン・ロペス・ステリマ」(~18520908)
- 1851年6月23日-09:00|日本|熊本県宇土市|嘉永4年5月24日|<交替>肥後宇土藩3万石「細川行芬」隠居⇒次男「細川立則」が継ぐ(⇒文久2(1862)年1月21日、隠居)
- 1851年6月27日-09:00|日本|東京都中央区|嘉永4年5月28日|佐久間象山(41歳)、江戸木挽町に移り塾(海舟書屋)を経営
- 1851年6月29日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア総督「Octave Pierre Antoine de Chabannes-Curton」(~18520511)
- 1851年6月30日-09:30|オーストラリア| |||オーストラリアン蒸気船会社(オーストラリアン・スチーム・ナヴィゲーション・コ)、金鉱の交通需要にこたえるために設立
- 1851年6月30日 00:00|イギリス| |||<死去>ダーク・ヘー伯「エドワード・スミス=スタンレー」
- 1851年6月30日 00:00|イギリス| |||<就任>ダーク・ヘー伯「エドワード・ジェフリー・スミス=スタンレー」(~18691023死去)
- 1851年7月-09:30|オーストラリア| |||最初の巨大金塊the Kerr Hundredが発見、パースの北80キロのルイス・クリークで発見
- 1851年7月-05:30|インド| |||<死去>コチン国統治者(マハラジャ・ガンガダラ・コウイラティ・カリカ)「ラーマヴァルマ13世」
- 1851年7月-05:30|インド| |||<即位>コチン国統治者(マハラジャ・ガンガダラ・コウイラティ・カリカ)「ケラヴァルマ4世」(~1853年2月没)
- 1851年7月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「アブドゥル・ムタリブ・ブン・ガリフ」(2度目~18560106)
- 1851年7月-02:00|サントビア| |||<就任>マコロ酋長(モレーナ)「ムマ・モトシネ」(~?)⇒「セクレウ」(~1863年6月没)
- 1851年7月1日-09:30|オーストラリア| |||<分割>ヴィクトリア植民地がニュー・サウスウェルズから分離
- 1851年7月2日-09:30|オーストラリア| |||クリストファー・トマス・ピーターズ、バララットの北方65km地点パークの牧場で金を発見

1860迄 (3252件)

- 1851年7月5日-09:30|オーストラリア| |||ジェームズ・エズモンド、ヴィクトリアのクルーズでの金の発見を公開
1851年7月5日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>トランスヴァール・フォルクスラート議長「ヨハネス・クリストフ・ステイン」
1851年7月12日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの発明家・画家・写真家ルイ・ダゲール(17891118~)「ダゲレタイプ」の開発
1851年7月15日-05:30|インド| |||<就任>サングリ国統治者(王)「トウンディ・ラオ・チンマン・ラオ・タイア・サーヒブ」(~19011212没)
1851年7月17日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金興根」(~18520505)
1851年7月18日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「トマス・ゴア・ブラウン」(~18561010)
1851年7月18日-09:00|日本|大阪府大阪市|嘉永4年6月20日|<死去>9代鴻池善右衛門(46歳)豪商
1851年7月24日 05:00|エカトル| |||<就任>エカトル国最高長官(⇒18520717暫定大統領⇒18520906大統領)「ルセ・マリア・ウルビナ」(~18561015)
1851年7月25日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、オレゴンで金が見つかる
1851年7月25日-04:00|ロシア/中国| |||清・咸豊1年6月27日;ロシア暦7月13日|清とロシアの間に17条の伊通商条約が結ばれる
1851年7月26日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督代行「フランク・イワノビッチ・ロコフスキー」(2回目~12.17)
1851年7月31日 06:00|アメリカ| |||パージニアに侵入した北軍、南軍の抵抗により敗退(第一次マサスの戦い)
1851年8月-09:30|オーストラリア| |||ジェームズ・レーガン、バラットのゴールドラン・ポイントで金を発見
1851年8月5日 06:00|ニカラガア| |||<就任>ニカラガア最高取締役「ルセ・フスト・アハ・ウサ・イ・ムニョス・デ・アビレス」(2回目~11.11)
1851年8月6日 06:00|ニカラガア| |||<就任>ニカラガア最高取締役代行「ルセ・フランシスコ・デル・モンテグロ」(~12日)
1851年8月6日-09:00|日本|長野県上田市|嘉永4年7月10日|<死去>松平忠学(64歳)前信濃上田藩主
1851年8月7日-05:30|インド| |||<死去>ヒンダール国マハラジャ「ラタン・シン」
1851年8月7日-05:30|インド| |||<即位>ヒンダール国マハラジャ「サルダール・シン」(~18720516没)
1851年8月11日 00:00|ガンビア/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガンビア総督代行「ダニエル・ロバートソン」(1回目~18520312)
1851年8月12日-01:00|スペイン/キューバ| |||ロスの部隊、スペイン軍の待ち伏せに遭い壊滅
1851年8月12日 06:00|ニカラガア| |||<就任>ニカラガア独立共和国最高取締役代行「ヨセフ・オ・ヘス・アルファロ」(~11.2)
1851年8月12日 06:00|アメリカ| |||ホストンのアイザック・シンガー(40)が、実用ミシンの特許を取得、I. M. Singer社(以下、シンガー)を創立
1851年8月14日-01:00|イタリア| |||イタリア、メルフィで地震(M6.3)死者1000人
1851年8月22日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島州知事「Francisco Gonzalez Ferro」(~18520425)
1851年8月22日 06:00|アメリカ| |||アメリカのスクナー船アメリカ号が、ワイト島一周レースで優勝する/この後、この優勝杯はアメリカン・カップと呼ばれることになる
1851年8月22日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|嘉永4年7月26日|<死去>下野宇都宮藩7700石(老中)「戸田忠温」(48歳)元社奉行・老中⇒家督を三男「戸田忠明」が継ぐ(⇒安政3(1856)年6月2日、死去)
1851年8月23日-01:00|ドイツ| |||ドイツで同盟議会による基本法の正式廃棄
1851年8月23日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「フォルトゥナート・ジョゼフ・バレイロス」(~18541203)
1851年8月26日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・セルジ・オ・デ・シヤ」(~18530219)
1851年8月27日-09:00|日本| |||嘉永4年8月|<出版>葛飾為斎「興歌手向花」
1851年9月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリス(総督)「Osman Nuri Pasha」(~1852.11)
1851年9月 06:00|ニカラガア| |||内戦/当初、ルセ・トリニダード・ムニョス將軍の率いる自由党軍が優勢. まもなくホンジュラス政府軍の支援を得た保守党軍が盛り返す
1851年9月1日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>トランスヴァール・フォルクスラート 議長「(コーニス)ポトギーター」(第5回)
1851年9月6日 03:00|ブラジル/ウルグアイ| |||ブラジル軍は国境を突破しウルグアイに侵攻/ウルグアイ軍もモンテビデオに向かう
1851年9月10日-09:00|日本| |||嘉永4年8月15日|<死去>初代藤間勘右衛門(39歳)振付家、舞踊家
1851年9月12日 05:00|エカトル| |||<辞任>エカトル国大統領「デ・イゴ・ノボア」
1851年9月14日 00:00|イギリス| |||<死去>3代トナモア伯「ジョン・ヒーリー=ハッチソン」
1851年9月14日 00:00|イギリス| |||<就任>4代トナモア伯「リチャード・ジョン・ヒーリー=ハッチソン」(~18660222死去)
1851年9月15日-09:00|日本|東京都|嘉永4年8月20日|<死去>12代市村羽左衛門(40歳)歌舞伎役者
1851年9月17日 06:00|アメリカ| |||アメリカ政府と平原インディアンがフォート・ラミ条約を締結
1851年9月18日 04:00|チリ| |||<就任>チリ共和国大統領「マヌエル・フランシスコ・アントニオ・リアン・モント・トレス」(~18610918)
1851年9月18日 06:00|アメリカ| |||「ニュー・ヨーク・デリー・ニュース」(1857ニュー・ヨーク・タイムズに改名)創刊
1851年9月19日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>アングラド・ロイスモ民政知事「Antonio Marcelino da Victoria」(~18520424)
1851年9月20日 03:00|アルゼンチン| |||<就任>アルゼンチン連邦最高議長「ファン・マヌエル・ルセ・トミンゴ・オルティス・デ・ロサ・イ・ロハス・デ・オルネオ」(~18520203)
1851年9月22日 06:00|カタール| |||ケックが連合カタールの首都になる
1851年9月25日-08:00|中国| |||清で、太平軍が永安州城を占領
1851年9月25日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永4年9月|<初演>「源氏模様娘雛形」(原作「田舎源氏」)、市村座
1851年9月30日-05:30|インド| |||<就任>ナガール国ラジャ「ラトウ・キョール・シン・マンダータ」(~1889年)
1851年10月-03:00|イェメン/トルコ| |||<就任>オスマン帝国イェメン・ウリス(総督)「Bonaparta Mustafa Pasha」(~1852.5死去)
1851年10月-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ウイディン・ウリス(総督)「ムスタファ・ザリフ・パシャ」(~1852年6月)
1851年10月-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国首席大臣代行「アレクサンゴヴィッチ」(2度目⇒18520422、首席大臣~18520925)
1851年10月 00:00|セネガル| |||<就任>ワタト・ロ統治者統治者(アルマニ)「マドゥ・ヒラン・ワン」(7回目~1852年10月)

1860迄 (3252件)

- 1851年10月 00:00|イギリス/イラン| ||イランがイギリスと奴隷売買禁止協定を調印
- 1851年10月 03:00|ブラジル/ウルグアイ| ||ウルグアイとブラジル, 5つの条約を締結/さらにウルグアイはクアレム河以北の18万平方キロの土地について領有権を放棄
- 1851年10月 05:00|パナマ| ||横断鉄道, カリブ側のリモン湾から13キロ内陸に進みチャグリス河畔のガツンに達する
- 1851年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「トメニク・アントニオ・バルトロティ」「アントニオ・ハラ」
- 1851年10月3日 00:00|イギリス| ||<死去>3代リヴァプール伯「チャールズ・セシル・コープ・ジエンキンソン」
- 1851年10月4日 03:00|ウルグアイ| ||ウルキサ, モンテビデオを包囲するオリベ軍を駆逐/コロラド党のホキン・スアレスが全権を掌握
- 1851年10月5日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|嘉永4年9月11日|<死去>安房勝山藩12000石「酒井忠嗣」(57歳)
⇒次男「酒井忠一」が継ぐ(⇒万延元(1860)年11月13日、死去)
- 1851年10月7日-09:00|日本|岡山県岡山市|嘉永4年9月13日|<死去>木下利徹(66歳)前備中足守藩主
- 1851年10月8日-09:00|日本| ||嘉永4年9月14日|<死去>2代本松齋一鯨(不明)華道家
- 1851年10月12日-01:00|アルバニア| ||アルバニア, 地震M6. 6, 死者2千
- 1851年10月14日 00:00|セントヘレナ/イギリス| ||<就任>アセンション島司令官「ウィリアム・ヒューギル・キッチン」(~18550601)
- 1851年10月14日 00:00|カナダ/イギリス| ||<就任>イギリス領ゴースト・コースト総督「ステイブーン・ジョン・ヒル」(1回目~18530607)
- 1851年10月17日-01:00|アルバニア| ||アルバニア・ペラトで地震, 死者400
- 1851年10月18日 06:00|アメリカ| ||米国作家ハーマン・メルヴィルの長編小説「白鯨」刊行
- 1851年10月18日-09:00|日本|青森県黒石市|嘉永4年9月24日|<交替>黒石藩1万石「津軽承保」(31歳)⇒養子「津軽承叙」が継ぐ(⇒明治2(1869)年8月13日、版籍奉還)
- 1851年10月19日-01:00|モンテネグロ| ||<死去>モンテネグロ司教公「ハ・トル2世」
- 1851年10月20日-01:00|モンテネグロ| ||<就任>モンテネグロ司教公摂政「ペロ・ペトロヴィッチ・ニコシ」(~18520101)
- 1851年10月22日-02:00|モンテネグロ/ボルネオ| ||<就任>モンテネグロ州暫定総督「ホキン・ピント・デ・マゼラン」(~18540424没)
- 1851年10月24日 00:00|イギリス| ||イギリスのW・ラッセルが天王星の衛星アリエルとウプリアルを発見
- 1851年10月27日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス領マルタ総督「ウィリアム・リット」(~1858年)
- 1851年10月28日 06:00|カナダ/イギリス| ||<就任>イギリス領カナダ州共同首相「フランシス・ヒンクス(カナダ西部)」「オーガスティン・ノーハート・モリン(1回目/カナダ東部)」(~18540911)
- 1851年10月29日 00:00|イギリス/インド| ||ベంగాール・イギリス領インド協会が創立
- 1851年11月-04:00|ロシア| ||モスクワとペテルブルク間で鉄道が開通
- 1851年11月-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>バグダットのワリス「コンヤリ・メフメド・ナシク・ハシヤ」(1回目~1852年)
- 1851年11月 04:00|刊| ||プロンタ・アルナスでサ・カンビア中尉の反乱/有力者を処刑した後, 略奪・放火し逃亡するが, アルゼンチンで捕らえられ処刑
- 1851年11月1日 04:00|グアドループ/フランス| ||<就任>グアドループ暫定知事「Jean-Baptiste Honore Chaumont」(~26日)
- 1851年11月2日 06:00|ニカラガア| ||<就任>ニカラガア独立共和国最高取締役「ホセ・ラウレアノ・ビネガ・ウガルテ」(2回目~18530401)
- 1851年11月4日-09:00|日本|東京都|嘉永4年10月11日|<死去>12代中村勘三郎(52歳)歌舞伎役者
- 1851年11月6日 06:00|グアテマラ| ||<就任>グアテマラ共和国大統領「ホセ・ラファエル・ガラ・トルカシオス」(2回目~18650414病死)
- 1851年11月11日 06:00|ニカラガア| ||ニカラガア独立共和国首都をマナグアに移転
- 1851年11月13日-03:30|イラン| ||<就任>ペルシャ大宰相「ミルザ・アカ・カン・ヌリ」(~18580830)
- 1851年11月14日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地マルタ総督「ウィリアム・Reid卿」(~18580430死去)
- 1851年11月14日 06:00|アメリカ| ||アメリカの作家メルヴィルが「白鯨」を刊
- 1851年11月18日-01:00|ドイツ| ||<死去>ハノーファー国王兼カンバーランド公「エルスト・アウグスト」80歳(誕生17710605)
- 1851年11月18日-01:00|ドイツ| ||<即位>ハノーファー国王兼カンバーランド公「ゲオルク5世」エルスト・アウグストの息子(~18660920, ハノーファーはプロシヤに占領・併合されて王位を失った~18780612死去59歳)
- 1851年11月18日 00:00|イギリス| ||<死去>カンバーランド公「アーンスト・オーガスタス」
- 1851年11月18日 00:00|イギリス| ||<就任>カンバーランド公「ジョージ」(~18780612死去)
- 1851年11月18日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍フリゲイト「サン・ジャント」(2150t, ニュー・ヨーク海軍工廠で建造)
- 1851年11月18日-09:00|日本|山形県天童市|嘉永4年10月25日|<加増>出羽国天童藩2万石「織田信学」⇒23153石(⇒慶応4(1868)年3月19日、隠居)
- 1851年11月26日 04:00|グアドループ/フランス| ||<就任>グアドループ知事「Tranquille Aubry-Bailleul」(~18531212)
- 1851年11月26日-09:00|日本|東京都墨田区|嘉永4年11月4日|<大相撲>嘉永4年11月場所[江戸本所回向院](11. 21~10日間)幕内優勝:(西前6)六ツヶ峰, 7勝1敗1分1休
- 1851年11月27日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<就任>トランスヴァール・フォルクスラート議長「Wilem・ヘンドリック・ヤコブ・スゾーン」(第5回~29日)
- 1851年11月28日-09:00|日本|東京都|嘉永4年11月6日|<死去>大西椿年(60歳)画家
- 1851年11月30日-05:30|インド| ||<就任>グイール国統治者(タコル)「スラジ2世」(~1918年没)
- 1851年12月 05:00|ペルー| ||リマ・カリヤオ間に南米初の鉄道開通
- 1851年12月1日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド暫定総督「ロマン・ルイ・マリー・マリス」(2回目~1852年)
- 1851年12月2日-01:00|フランス| ||フランス, ルイ・フィリップ大統領のクーデター, 第二共和制の崩壊, 立法議会の解散と普通選挙の復活を宣言
- 1851年12月4日 00:00|イギリス| ||<死去>サフォーク伯・バーキシャー伯「トマス・ハワード」
- 1851年12月4日 00:00|イギリス| ||<就任>サフォーク伯・バーキシャー伯「チャールズ・ジョン・ハワード」(~18760814死去)

1860迄 (3252件)

- 1851年12月11日-01:00|アルジェリア/フランス| |||<就任>フランス領アルジェリア総督「ラントン伯爵ジャック・ルイ・セザール・アレクサンドル」(~18580831)
- 1851年12月14日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Federico Roncali [穏和党] (~18530414)
- 1851年12月18日-08:00|中国| |||中国の貴州でミャオ族の反乱が拡大
- 1851年12月19日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの風景画家ターナー/76歳(誕生17750423)
- 1851年12月20日-01:00|スペイン| |||<就任>アストゥリアス公(スペイン国王の推定相続人)「イサベル」イサベル2世の長女(~18571128~19310423死去)
- 1851年12月21日-01:00|フランス| |||フランス、国民投票でルイ・フィリップのクーデターを承認
- 1851年12月31日-01:00|オーストリア| |||オーストリアで大晦日勅書、欽定憲法を廃止し新絶対主義政策へ
- 1852年-05:30|インド| |||<就任>ガンゴール国ジャ「チャンドラバハス・シヤール・デオ」(~1858年)
- 1852年-05:30|インド| |||<就任>ジャスタン国統治者(ハチャール)「アラ・チエラ・ハチャール・シュリ・ウ・アイト・ウル・ホダ」(~19040129没)
- 1852年-05:30|インド| |||<就任>ハヴガール国統治者(タクル・サヒブ)「アケハラジ 4世バブ・シムジ」(~1854年没)
- 1852年-05:30|インド| |||<就任>ポル国統治者(ラオ)「ハハトシジ・ケラバシジ」(~1859年没)
- 1852年-05:30|インド| |||<就任>マイハル国統治者(タークル)「ラギヒル・シン」(~1869年)
- 1852年-05:30|インド| |||<就任>ルハダ国統治者(ラジヤ・マハラ)「ダリル・シン」(~1867年6月没)
- 1852年-05:30|インド/イギリス| |||ウタールプラデシュ国をイギリス領インドが管理(~1857年)
- 1852年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>コーカト・ハン国ハン「Abdulla Beg」(~1853年)
- 1852年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<退位>コーカト・ハン国ハン「ムハンマド・フダヤール・ハン」逃亡
- 1852年-05:00|パキスタン| |||キルギットをトルコが占領(~1860年)
- 1852年-04:00|UAE| |||<死去>トバイ統治者(ハキム)「Sheikh Maktum1世 ibn Bati ibn Suhayl」
- 1852年-04:00|UAE| |||<就任>トバイ統治者(ハキム)「Sheikh Said1世 ibn Bati」(~1859年死去)
- 1852年-03:00|カンタラ| |||<死去>ブニョロキタ王「Olimi5世 Rwakabale」
- 1852年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのワシ「イスマイル・パシャ」(~1854年)
- 1852年-03:00|カンタラ| |||<即位>ブニョロキタ王「Kyebambe4世 Kamurasi」(~1869年死去)
- 1852年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「Ahmad ibn Ahmad al-Haymi」(~1857年)
- 1852年-03:00|コモロ| |||<即位>ンスワニ・スルタン国スルタン「サイティ・アフダラ・ヒン・サリム」(~18910202没)
- 1852年-03:00|マヨット| |||アントルナがマヨット保護領に追加された
- 1852年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカスワシ「Izzet Mehmed Pasha」(~同年)
- 1852年-02:00|ブルンジ| |||<就任>ブルンジ王国摂政「ンテウアリ」
- 1852年-02:00|ブルンジ| |||<即位>ブルンジ王国国王「ムウヰジ 4世」(~19080821死去)
- 1852年-01:00|ベナン| |||<死去>クワンデのバリア国支配者「フケヤ・タリキ・ニム・シク」
- 1852年-01:00|ベナン| |||<死去>サンティエロ統治者「サビ・ダケバラ・サンティエロ」
- 1852年-01:00|フランス| |||<就任>キース公「フランソワ・ポール」アソリの弟(~同年死去)
- 1852年-01:00|ベナン| |||<就任>クワンデのバリア国支配者「ウオンクル・タボ」(~1883年没)
- 1852年-01:00|アルジェリア| |||<即位>トゥグルト・スルタン「アブド・アル=カティール3世」(~同年)⇒「スレイマン4世」(~1854年)
- 1852年 00:00|トゴ| |||<就任>アヘン統治者(アブダ)「クアウォ・アテ・ヌヘ」
- 1852年 00:00|キニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー(ビサウ配下)総督「オノリオ・ペレイラ・バレット」(3回目~1854年)
- 1852年 00:00|キニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督「リナ・ニコ・エウァンジエリスタ・ド・サントス」⇒「ルセ・マリア・ロベ・デ・アヒラ」(~1853年)
- 1852年 00:00|セネガル| |||<就任>ブントウ統治者(アルマミ)「アマド・ウ・アマテ・イ・マクンバ・シ」(~1853年9月)
- 1852年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヴァージン諸島主席「John Cornell Chads」(~18540228死去)
- 1852年 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領「トマス・デ・エレラ」(5回目)⇒「アントニオ・プラナス」⇒「ペルナルト・アルセ・マタ」(1回目)⇒「サルバトル・カマチョ・ロルダン」(~1853年)
- 1852年1月-05:30|インド| |||<就任>ダングール国摂政「ムシ・サタール・フサイ」(~1857年)
- 1852年1月 00:00|イギリス/ミャンマー| |||Lambert提督、ラングーン港を封鎖しビルマ国王の御用船を掌捕
- 1852年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ジョナス・フラー」Rad(2期目~12.31)
- 1852年1月1日-01:00|モンテネグロ| |||<就任>モンテネグロ司教公「ダニロ2世」(⇒3.13モンテネグロ公ダニロ1世~18600813)
- 1852年1月1日-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||ロスの首長がイギリスと奴隷貿易廃止協定を締結
- 1852年1月1日 08:00|ビトケアン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ビトケアン諸島主任判事「アブラム・Blatchly Quintal」(~12.31)
- 1852年1月12日-09:00|日本|京都府京都市|嘉永4年12月21日|<就任>京都所司代「脇坂安宅」(⇒1857(安政4年8月1日))
- 1852年1月12日-09:00|日本|東京都千代田区|嘉永4年12月21日|<就任>老中「内藤信親」(~文久2年5月26日)
- 1852年1月14日-01:00|フランス| |||フランスで、大統領の権限を強化し、任期を10年とする新憲法が発表される
- 1852年1月16日-09:00|日本|香川県高松市|嘉永4年12月25日|高松城下、下町・福田町より出火。50軒焼失
- 1852年1月17日-02:00|南アフリカ| |||イギリスが、サント・ルガー協定に調印/南アフリカのボア人の国家南アフリカ共和国(トランスバル共和国)が独立
- 1852年1月20日-09:00|日本|東京都|嘉永4年12月29日|<死去>阿武松緑之助・阿部松親方(相撲/6代横綱) [1791年生~](享年60)
- 1852年1月22日 03:00|ブラジル| |||ペルナンブコ州Paudalhoで、Marimbondosの反乱が発生
- 1852年1月26日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「メフメト・エミン・ラウフ・パシャ」(5期目~3.5)

1860迄 (3252件)

- 1852年1月27日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国首相「クリスチャン・アルブレヒト・ブルーメ」(1回目~18530421)
- 1852年1月28日-06:00|プータン| |||<就任>プータン摂政「タムチョ・ロント・ラップ」(~1856年)
- 1852年1月30日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領代行「ホセ・マリア・サン・マルティン・イ・ゴン」(1回目~2.1)
- 1852年2月-04:00|ロシア| |||ロシアでエルミタージュ博物館が公開
- 1852年2月 03:00|アルゼンチン| |||プエロスアイレスとのあいだにサン・ニコラス協定。「アルゼンチン連合」成立
- 1852年2月1日-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||ベニン湾(ナイジェリア南西部)をイギリス保護領宣言
- 1852年2月1日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領「フランシスコ・ハビエル・ド・ウエナス・デ・イラス」(2回目~18540201)
- 1852年2月1日 06:00|ホンジュラス| |||<就任>ホンジュラス共和国大統領代行「フランシスコ・ゴメス・イ・アルケレス」(~3.1)
- 1852年2月2日-01:00|フランス| |||テュマ(28)の「椿姫」がパリのヴォードヴィル座で上演される
- 1852年2月2日 00:00|イギリス| |||ロンドンのフリーストリートに世界初の男性用公衆トイレができる/王立芸術協会が設置し運営にあたる有料トイレ。ウェイトングルームと呼ばれる/用を足すだけで2ペンス、手を洗い服にブラシをかけると2~3ペンス
- 1852年2月2日 03:00|ウルグアイ| |||メスの首都駐留部隊、プエロスアイレス西方10キロのカロサ高地に陣取り、ウルグアイ軍を迎え撃つ/午後1時までメス軍は殲滅/戦死者は自由軍400人、メスの軍1200人/大戦争終結/コロラド=ウルグアイ合同軍により、オリベ派勢力はウルグアイから全面排除
- 1852年2月3日 03:00|アルゼンチン| |||<就任>プエロスアイレス暫定総督「アレハンドロ・ロペ・センテ・ロペス・イ・フレンズ」(~4.6)
- 1852年2月10日-09:00|日本| ||嘉永5年1月21日|<死去>5代鶴屋南北(57歳)歌舞伎役者、歌舞伎作者
- 1852年2月12日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラード議長「J. J. P. プリンズロー」(第3回)
- 1852年2月14日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラード議長「ピーター・エルスト・クルーガー」(第2回)
- 1852年2月16日 03:00|ウルグアイ| |||<就任>ウルグアイ東方共和国大統領代理「ベルナルド・ベロ」国民党(1期目~3.1)
- 1852年2月17日-01:00|ドイツ| |||<初演>フランス・リスト《ピアノ協奏曲第1番変ホ長調》18400700作曲
- 1852年2月17日-01:00|フランス| |||フランスで新聞の事前許可制が法制化される
- 1852年2月18日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<死去>ラ・コメロ伯「Jose Alvarez de las Asturias Bohorquez y Belvis de Moncada」
- 1852年2月18日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||ラ・コメロ島とエル・イロ島はスペイン王領テリフェ島の一部に組み込まれる
- 1852年2月20日-09:00|日本| 東京都墨田区| 嘉永5年2月|<大相撲>嘉永5年2月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(東前7)雲竜, 8勝0敗1分1休
- 1852年2月22日-05:30|インド| |||<就任>ナワガル国統治者(ジャム・サハブ)「ウイホーシ 2世ラマラジ」(~18950428没)
- 1852年2月22日-03:30|イラン| |||イラン・クチャンで地震M5. 8、死者2千
- 1852年2月22日-09:00|日本| 大阪府大阪市| 嘉永5年2月3日|<大坂嘉永5年2月の大火「中船場焼」>夜九つ時(午前0時頃)大坂の中心街、中船場の堺筋唐物町の南へ3軒目の木綿問屋から出火、東南へと延焼/唐物町の南側から北久太郎町一丁目、久太郎丁、久宝寺町、南久宝寺町、ほうきや丁、東堀伝馬町まで焼失し朝四つ時(10時頃)鎮火/町家1030軒、土蔵5か所、空き家58軒焼失
- 1852年2月23日 00:00|イギリス| |||<就任>イギリス連合王国第33代首相「第14代ダートマス伯爵エドワード・スマースタリー」保守党(1期目~12.19)
- 1852年2月24日-09:00|日本| ||嘉永5年2月5日|<死去>宮沢雲山(72歳)漢詩人
- 1852年2月26日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||イギリス軍の兵員とその家族を載せた軍隊輸送船(蒸気船)「ハーケンハット」が南アフリカ西ケープ州の港からの出港直後、岩に衝突し沈没。約450人が死亡
- 1852年2月29日-09:00|日本| 福島県会津若松市| 嘉永5年2月10日|<死去>陸奥会津藩23万石「松平容敬」(50歳⇒閏2月25日、甥「松平容保」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年2月4日、隠居)
- 1852年3月1日 03:00|ウルグアイ| |||<就任>ウルグアイ東方共和国大統領「ファン・フランシスコ・ベロ」国民党(~185309254)
- 1852年3月1日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領ギアナ総督代行「フィリップ・スト・カンター」(4回目(~6.14)
- 1852年3月1日 06:00|ホンジュラス| |||<就任>ホンジュラス共和国大統領「ホセ・トリニダード・フランシスコ・カバニェス・フィアス」(~18551018)
- 1852年3月4日 06:00|アメリカ| |||<就任>アメリカ合衆国第14代大統領「フランクリン・ピアース」民主党(~18570303)
- 1852年3月4日-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月23日|<コゴリ>が錯乱状態から断食に入り、死去/42歳(誕生:18090401)ロシアの作家
- 1852年3月5日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「カ・ムスタファ・レシット・パシャ」(3期目~8.6)
- 1852年3月6日-09:00|日本| 大分県玖珠郡玖珠町| 嘉永5年2月16日|<交替>豊後森藩12500石「久留島通明」隠居⇒叔父「久留島通胤」が継ぐ(⇒安政6年11月30日(18591223)、死去)
- 1852年3月7日-09:00|日本| 東京都| 嘉永5年2月17日|<死去>4代中村歌右衛門(55歳)歌舞伎役者
- 1852年3月8日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「ガエリエーティン・パシャ」(~9.14)
- 1852年3月10日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「エグザン・伯爵アーチボルト・ウィリアム・モンゴメリー」(1回目~18530106)
- 1852年3月12日 00:00|ガンビア/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガンビア総督「リチャード・グレイブス・マクトル卿」(2回目~8.18)
- 1852年3月14日-01:00|ドイツ| |||<初演>ロベルト・アレクサンダー・シューマン《劇音楽「マンフレッド」Op. 115》
- 1852年3月17日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラード議長「(コーリス)ポトキーター」(6度目~20日)
- 1852年3月17日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領西部カナリア諸島副知事「Jose Joaquin Monteverde」(~18540303)
- 1852年3月17日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領東部カナリア諸島副知事「リムエロウ侯Rafael de Muro y

1860迄 (3252件)

Colmenares) (~18540303)

- 1852年3月17日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| |||カナリヤ諸島は、東部カナリヤ諸島と西部カナリヤ諸島の2つの政権に分かれる (~18540303)
- 1852年3月18日 10:00|ホリネシア/フランス| |||<就任>アヒネ統治者「Ma`i hara Te ma ri`i Ari`i peu」vahine) (~18540626)
- 1852年3月20日 06:00|アメリカ| |||ハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクル・トムの小屋』出版
- 1852年3月22日-03:00|エチオピア| |||<死去>ハル首長国エミール「アブ・ハカル2世・イブン・アブト・アルムナシ
- 1852年3月22日-03:00|エチオピア| |||<就任>ハル首長国エミール「アブマト3世イブン・アビハカル」 (~1866年)
- 1852年3月23日-09:00|日本|愛媛県大洲市|嘉永5年閏2月3日|新谷藩御屋敷奥より出火、長屋家中屋敷など焼失
- 1852年3月28日-01:00|フランス| |||ベレル兄弟がパリ不動産銀行を設立
- 1852年3月31日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地総督「ジョージ・キャサート」 (~18540526)
- 1852年4月 00:00|イギリス/ミャンマー| |||英軍、ハンター・テイ、シラム、マルバン、バセイン各港を占領/第2次英緬戦争開始
- 1852年4月 06:00|ニカラガ| |||国土の3分の1におよぶ地域を「モスティア王国」の領土とし、実効支配を認める
- 1852年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マルキオール・ピリ」 「ピエトロ・リギ」
- 1852年4月5日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相代行「アレクサンダー・ハッハ」 (~11日)
- 1852年4月5日-08:00|中国| |||清・咸豊2年2月16日|太平天国が、清軍の包圍陣を突破して北上
- 1852年4月6日 03:00|アルゼンチン| |||<就任>外交を委託されたエンレ・リオス総督「フスト・ホセ・テ・ウルクエザ・イ・ガルシア」 (~6. 1)
- 1852年4月11日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「カール・フェルディナント・グラーフ・フォン・ブールシャウエンシュタイン」 (~18590517)
- 1852年4月14日-04:00|ロシア| |||<初演>ミハイル・イヴァノヴィッチ・グリンカ《スペイン序曲第2番「マトリートの夏の夜の思い出」》
- 1852年4月16日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「バレンティン・カニエト・イ・ミランダ」 (~18531203)
- 1852年4月16日-09:00|日本|山口県下関市|嘉永5年閏2月27日|<死去>長門長府藩5万石「毛利元運」(36歳)⇒甥「毛利元周」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年3月5日、隠居)
- 1852年4月19日-09:00|日本| |||嘉永5年3月|<出版>一勇齋国芳「橋本屋白糸の像」
- 1852年4月23日-09:00|日本|愛知県岡崎市|嘉永5年3月5日|<交替>三河奥殿藩16000石「松平乗利」隠居⇒長男「松平乗謨」が継ぐ(⇒文久3(1863)年9月11日、信濃田野口藩16000石へ藩庁移転)
- 1852年4月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>パーテン大公「レオポルト」
- 1852年4月24日-01:00|ドイツ| |||<即位>パーテン大公「ルートヴィヒ2世」 (~18560122死去)
- 1852年4月24日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>アングラ・ド・ロイス民政知事「Nicolau Anastacio de Bettecourt」PR(4期目~18570819)
- 1852年4月24日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>ルメイ民政知事「Luis Teixeira de Sampaio」 (~18570814)
- 1852年4月25日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カナリヤ諸島市民知事「Antonio Ordonez Villanueva」 (~6. 14)
- 1852年4月27日 00:00|リベリア/フランス| |||リベリア共和国がフランスによって承認された
- 1852年4月30日-04:00|ロシア| |||ロシア暦:1852/4/18|ロシアのピアニストで作曲家のアントン・ルビンツァインのオペラ「トミトリートンスコイ」がサンクトペテルブルクで初演
- 1852年4月30日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副知事「James Frederick Love卿」 (~18570131)
- 1852年5月-03:00|イェメン/トルコ| |||<死去>オスマン帝国イェメン・ウリス(総督)「Bonaparta Mustafa Pasha」
- 1852年5月-03:00|スーダン/エジプト| |||<就任>エジプト領スーダン総督「Isma`il Haqqi Pasha abu Jabal」 (~1853年)
- 1852年5月-03:00|スーダン/エジプト| |||<就任>エジプト領スーダン総督「イスマイル・ハッキ・ハシヤ・アブ・ジャハル」 (~1853年)
- 1852年5月-03:00|イェメン/トルコ| |||<就任>オスマン帝国イェメン・ウリス(総督)「Kurt Mehmed Pasha」 (~1856. 5)
- 1852年5月-01:00|ナジエリア/イギリス| |||<就任>ベコン湾英国領事「Louis Frazer」 (~18530721)
- 1852年5月1日-09:00|日本|奈良県桜井市|嘉永5年3月13日|<交替>大和芝村藩1万石「織田長恭」隠居⇒養子「織田長易」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月24日、版籍奉還)
- 1852年5月4日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カナリヤ諸島総司令官「Eusebio de Calonge y Fenollet」 (~12月)
- 1852年5月4日 04:00|ポルトリコ/スペイン| |||<就任>ポルトリコ知事兼提督「Fernando de Norzagaray y Escudero」 (~18550130)
- 1852年5月5日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルスタード議長「(コーリス)ホトギーター」(7回目)
- 1852年5月5日-09:00|日本|岐阜県大垣市|嘉永5年3月17日|<死去>戸田氏宥(73歳)前美濃大垣新田藩主
- 1852年5月6日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルスタード議長「アンドレアス・テト・ロス・スパイス」
- 1852年5月7日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルスタード議長「C. ヴァイルゾーン」
- 1852年5月7日-09:00|日本|東京都江東区|嘉永5年3月19日|深川三十三間堂で鶴田辰五郎(21歳)の通し矢あり。総矢数140, 005本の内、通し矢5, 383本
- 1852年5月8日-09:00|日本|大分県大分市|嘉永5年3月20日|死去>松平近訓(54歳)元豊後府内藩主
- 1852年5月8日-01:00|オーストリア/デンマーク/フランス/ドイツ/スウェーデン| |||ロシア暦4月26日|デンマークなどの安全保障に関して、イギリス、ロシア、オーストリア、プロシヤ、スウェーデンがロンドン議定書に調印
- 1852年5月11日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「イタボライ子爵アキン・ホセ・ロドリゲス・ストレス」(2回目~18530906)
- 1852年5月11日 09:00|日本|福井県越前市|嘉永5年3月23日|<越前府中(越前市)嘉永5年の大火>暮れ六つ過ぎ(18

1860迄 (3252件)

時過ぎごろ)、内西裏庚申町上の端の農家岩佐屋甚助方から出火、翌日朝五つ(8時ごろ)鎮火/町家全焼1365軒、半焼72軒、土蔵全焼409棟、半焼74棟、藩士屋敷7軒、寺27か所、堂14か所、塔頭2か所、神社5か所、平出村32軒を焼失、3人死亡

- 1852年5月12日 03:00|仏領ギナ/フランス| |||<就任>ギナ総督「Joseph Napoleon Sarda-Garriga」(~18530225)
- 1852年5月12日-09:00|日本|大阪府大阪狭山市|嘉永5年3月24日|<交替>河内狭山藩11000石「北条氏久」隠居⇒養子「北条氏燕」が継ぐ(⇒文久元(1861)年10月21日、隠居)
- 1852年5月18日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍フリゲイト「プリンストン」(1370t, チャールズタウン海軍工廠で建造)
- 1852年5月21日 00:00|イギリス| |||<死去>5代コンウォリス伯「ジェームズ・マン」爵位廃絶
- 1852年5月21日-08:00|中国| ||清・咸豊2年4月3日|清の浙江の奉北県などで抗糧暴動が発生
- 1852年6月-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ウエイン・ワリス(総督)「アフドゥルカラム・サミハ・シャ」(~1855年)
- 1852年6月1日-01:00|クワチア| |||<就任>タムチア王国総督・司令官代行「ラザロ・フライヘル・フォン・ミュラ」(~1859年8月)
- 1852年6月1日 03:00|アルゼンチン| |||<就任>アルゼンチン連邦大統領「フスト・セ・デ・ウルキザ・イ・ガルシア」(18540305まで臨時理事~18600305)
- 1852年6月5日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスタード議長「(コーリス)ポトギーター」(第8回~25日)
- 1852年6月6日 00:00|イギリス/中国| ||清・咸豊2年4月19日|清国とイギリスの間に、廈門の敷地交換協定が調印される/イギリス租界が設置される
- 1852年6月7日-04:00|日本|長崎県長崎市|嘉永5年4月20日|暁、長崎本石灰町八五郎宅の灰を入れる樽小屋の残り火より出火、長崎村小島郷に延焼し611戸が焼失
- 1852年6月8日 13:00|日本|大阪府大阪市|嘉永5年4月21日|<大坂嘉永5年4月の大火「道頓堀焼」>夜の四つ時(22時ごろ)、大坂の繁華街で芝居小屋が建ち並ぶ道頓堀南の芝居町あたりから出火、伏見町、自安寺町、千日前あたりは残らず焼失、蛭子橋から法善寺、竹林寺、元京橋町、相生町まで焼け、翌朝四つ(10時ごろ)鎮火/家屋1500軒、土蔵3か所、空き家62軒が焼失
- 1852年6月10日-09:00|日本|埼玉県飯能市|嘉永5年4月23日|医師伊古田純道が、帝王切開の手術を行う
- 1852年6月13日-09:00|日本|大分県佐伯市|嘉永5年4月26日|<死去>毛利高翰(58歳)前豊後佐伯藩主
- 1852年6月14日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島市民知事「Eusebio Calonge y Fenollet」(~1853. 3)
- 1852年6月14日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領ギナ総督代行「コンラート・パレンス」(~22日)
- 1852年6月16日 10:00|ホーランド/フランス| |||<就任>ホーランド海軍細分化指揮上級海軍士官兼ソシエ諸島共和国弁務官「Th eogene Francois Page」(~1854年)
- 1852年6月18日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永5年5月|<初演>「夏姿女團七」[作・三代目櫻田治助], 中村座
- 1852年6月19日-09:00|日本|東京都大田区|嘉永5年5月2日|武蔵大森に大砲試射場完成
- 1852年6月22日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領ギナ総督「ヨハン・ジョージ・オットー・スチュアート・フォン」(~18550825)
- 1852年6月23日-09:00|日本|長野県長野市|嘉永5年5月6日|<交替>信濃松代藩13万2千石「真田幸貴」隠居⇒孫「真田幸教」が継ぐ(⇒慶応2(1866)年3月9日、隠居)
- 1852年6月25日-09:30|オーストラリア| |||マラビジ-川の氾濫によって、ガングアイの町では人口250人中89人が死亡し、新しい町がより高い土地に建設される
- 1852年6月27日-09:00|日本|大阪府大阪狭山市|嘉永5年5月10日|<死去>北条氏久(37歳)前河内狭山藩主
- 1852年6月30日 00:00|イギリス/ニューゼーランド| |||イギリス本国の議会で、ニューゼーランドが自治植民地として発足
- 1852年7月-03:00|サウジアラビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ヒジャース総督「アフドゥルケッパ・シャ」(~1855年1月)
- 1852年7月-02:00|シリア-アラブ/トルコ| |||<就任>タマスカス・ワリス「Agha Abdulaziz Pashaj」(~10月)
- 1852年7月1日-05:30|インド| |||カチで、アジア最初の一般対象の郵便制度が導入される
- 1852年7月1日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督代行「コール」(~29日)
- 1852年7月5日 00:00|ポルトガル| ||ポルトガルが1822年憲法を改正
- 1852年7月9日-09:00|日本|東京都千代田区|嘉永5年5月22日|江戸城西ノ丸焼失
- 1852年7月10日-05:30|インド| |||<死去>カラウリ国マハラジャ「ナルシン・パール」
- 1852年7月12日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスタード議長「(コーリス)ポトギーター」(第9回)
- 1852年7月15日-09:00|日本| ||嘉永5年5月28日|<死去>内山真弓(67歳)歌人
- 1852年7月16日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事代理「Jacques Brunot」(~18530923)
- 1852年7月21日-09:00|日本|京都府舞鶴市|嘉永5年6月5日|<交替>丹後田辺藩35000石「牧野節成」隠居⇒長男「牧野誠成」が継ぐ(⇒明治2(1869)年3月5日、死去)
- 1852年7月24日-09:00|日本|長野県長野市|嘉永5年6月8日|<死去>真田幸貴(62歳)前信濃松代藩主、元老中
- 1852年7月28日-01:00|スイス| |||スイスで鉄道法が制定される
- 1852年7月29日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「アレクサントル・ジャン=バティスト・ジョゼフ・ジャック・ド・ウエルナック・デュラン・デュレ」(~1863年1月)
- 1852年7月29日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「レイモン・ジャン=バティスト・ド・ウエルナック・ド・サン=モール」(~1857年4月)
- 1852年7月29日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督「ヘンリー・クレモン・コッパ」(~10月)
- 1852年7月30日-01:00|フランス| |||パリに郵便ポストが登場
- 1852年8月 06:00|アメリカ| |||北軍パ-ジニアに再侵攻、リットン解放作戦を実行するが失敗(第二次マサスの戦い)
- 1852年8月5日-09:00|日本|埼玉県さいたま市岩槻区|嘉永5年6月20日|<死去>武蔵岩槻藩23000石「大岡忠固」(60歳)⇒8月25日、三男「大岡忠恕」が継ぐ(⇒慶応2(1866)年3月29日、隠居)
- 1852年8月6日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「メフメト・エミン・アリ・ハ・シャ」(1期目~10. 3)

1860迄 (3252件)

- 1852年8月8日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>レユニオン知事「Louis Henri Hubert Delisle」(~18580108)
- 1852年8月13日-09:00|日本|茨城県下妻市|嘉永5年6月28日|<死去>常陸下妻藩1万石「井上正誠」(19歳)⇒養子「井上正信」が継ぐ(⇒安政3(1856)年9月4日、17歳で死去)
- 1852年8月15日-09:00|日本| ||嘉永5年7月1日|<死去>2代浜野矩随(82歳)装剣金工
- 1852年8月16日-05:30|インド| |||<就任>ホンチ国ラジャ・イ・ラージガン・ラジャ・カラン・バ・ハードウル「モティ・シン」ジャンムー・カンミールのマハラジャから与えられた(~18920517没)
- 1852年8月18日 00:00|イギリス| |||<死去>10代ハミルトン公・7代ブランドン公「アレクサンダー・ハミルトン」
- 1852年8月18日 00:00|イギリス| |||<就任>11代ハミルトン公・8代ブランドン公「ウィリアム・ハミルトン」先代の息子(~18630708死去)
- 1852年8月18日 00:00|ガンビア/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガンビア総督代行「ダニエル・ロートソン」(2回目~10.21)
- 1852年8月21日-09:00|日本| ||嘉永5年7月7日|<死去>尊超入道親王(51歳)有栖川宮織仁親王の王子
- 1852年8月26日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「W.ハッセル・エン」(~18530512)
- 1852年9月-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのワリス「メフメド・レシット・ハッシャキョズリュクリュ」(~1857年7月)
- 1852年9月2日 06:00|アメリカ| |||<就任>アメリカ海軍外輪フリゲイト「ハウタン」(3765t,ゴズポート造船所で建造)
- 1852年9月2日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永5年7月19日|<初演>「児来也豪傑譚話」<児来也(藤橋)のだんまり>、[作・二代目河竹新七]、児来也・八代目市川團十郎、富貴太郎・市川九蔵、河原崎座
- 1852年9月4日-05:30|インド| |||<即位>カウリ国マハラジャ「ハート・パール」(~18540314)
- 1852年9月8日-08:00|インド/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「マヌエル・テ・サルタニャ・ダ・ガマ」(~1856年)
- 1852年9月11日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>キエフ軍総督・キエフ県民事最高責任者兼ホジリヤウ・ホルニニ総督「Knyaz' Illarion Illarionovich Vasilchikov」(~18621124死去)
- 1852年9月11日 03:00|アルゼンチン| |||ミトレら、ウルキがサンタフェに出張中にフエノスアイレスでクーデター。ラプラタ諸州連合を離脱。「アルゼンチン共和国」を名乗る
- 1852年9月13日-05:30|インド| |||<就任>カボルタラ国ラジャ「ランティル・シン」(~18610312)
- 1852年9月14日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「メフメド・フルシット・ハッシャ」(~18561026)
- 1852年9月14日 00:00|イギリス/スペイン/ポルトガル| |||<死去>初代ウェリントン公・初代トウロ候・初代シダ・ロドリゴ公・初代グイートリア公「アーサー・リチャード・ウェルズリー」83歳(誕生17690430)イギリスの元首相
- 1852年9月14日 00:00|イギリス/スペイン/ポルトガル| |||<就任>2代ウェリントン公・2代シダ・ロドリゴ公・2代グイートリア公「アーサー・リチャード・ウェルズリー」(⇒18630725兼6代モントン伯~18840813死去)
- 1852年9月16日-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリニア・ワリス(総督)「ムスタファ・アリ・ハッシャ」(~18551101)
- 1852年9月21日 00:00|カナダ/オランダ| |||<死去>オランダ領ゴールド・コースト総督「アンソニー・ファン・デル・エフ」在任中
- 1852年9月21日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールド・コースト暫定総督「ヒーロ・ショムルス」(~18560925在任中死去)
- 1852年9月24日-01:00|フランス| |||パリで、アンリ・ジ・ファールが、蒸気エンジン付きの飛行船を世界で初めて飛行させる/パリからトラップまで約27km
- 1852年9月25日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国首席大臣「イリヤ・ガラ・シュ・アニン」(第1回~18530326)
- 1852年10月-09:30|オーストラリア| |||シドニーで労働組合、技術者組合連合が設立される
- 1852年10月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ゴカント(フェルガナ)摂政「Musulman Qul」
- 1852年10月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Ali Acafi Pasha」(~1854.8)
- 1852年10月 00:00|セネガル| |||<就任>フクタ・トロ統治者統治者(アルマニ)「アマドゥ・ハマト・シン」(1回目~1853年6月)
- 1852年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリッポ・ベルツツィ」「ガエターノ・シモンチーニ」
- 1852年10月1日 13:00|日本|京都府|嘉永5年8月18日|近畿洪水、鴨川氾濫、三条・五条仮橋流失
- 1852年10月3日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「タマッ・メフメド・アリー・ハッシャ」(~18530514)
- 1852年10月4日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラード議長「J. J. P. プリンスロー」(第4回)
- 1852年10月11日-09:30|オーストラリア| |||オーストラリア最初の大学のシドニー大学が開設される
- 1852年10月12日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「アーサー・エドワード・ケネディ卿」(1回目~18541013)
- 1852年10月18日-03:00|マダガスカル| |||<死去>マダガスカル首相「ライニハロ」
- 1852年10月18日-03:00|マダガスカル| |||<就任>マダガスカル首相「レイヴ・オニヒトリニエー」(~18640714解任)
- 1852年10月19日-05:00|パキスタン| |||<死去>バハールワルプ国ナワブ・アミール「モハマト・バハールワル・カン3世」
- 1852年10月19日-05:00|パキスタン| |||<就任>バハールワルプ国ナワブ・アミール「サテク・モハマト・カン3世」(~18530220)
- 1852年10月21日 00:00|ガンビア/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガンビア総督「ルーク・スマイス・オコナー」(~18590423)
- 1852年10月28日 06:00|エルサルバドル/グアテマラ/ニカラガ/ホンジュラス| |||<就任>中央アメリカ連邦暫定大統領「フランシスコ・アントニオ・カステリオン・サプリア(ニカラガ)」(~11.10)
- 1852年10月31日-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー内閣長官「アンリ・ギスラン・ジョゼフ・マリー・ド・ブルッケル」(~18550330)
- 1852年11月-08:00|中国| |||捻軍の首領の一人張樂行が安徽で蜂起し、各地に捻軍蜂起が波及
- 1852年11月-05:00|パキスタン| |||<就任>バハールワルプ国ワジール「ムンシ・チャカス・ライ」(~1853年没)
- 1852年11月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Arnavut Suleyman Pasha Re' fet」(~1854.12)
- 1852年11月1日-01:00|ドイツ| |||<就任>ロヒテンベルク公「ニコラス」(~118910106)
- 1852年11月2日 06:00|アメリカ| |||アメリカ大統領選挙、ヒースが当選
- 1852年11月4日-01:00|イタリア| |||<就任>サルデーニャ王国首相「カール・ベネディクト・ベンソ」(~18590719)
- 1852年11月9日 00:00|イギリス| |||<死去>シュルズベリー伯・ウオーターウオード伯「ジョン・タルボット」
- 1852年11月9日 00:00|イギリス| |||<就任>シュルズベリー伯・ウオーターウオード伯「ハートラム・アーサー・タルボット」先代の二従弟(~185

1860迄 (3252件)

60810死去)

- 1852年11月12日-09:00|日本| ||嘉永5年10月1日|<死去>桜井梅室 (84歳) 俳人
- 1852年11月15日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラト 議長「(コーリス)ホトキター」(第10回)
- 1852年11月17日-01:00|フランス| ||フランスで「クレイ・フォンシェ(不動産信用銀行)」と、株式等で大衆の資金を広く集めて産業投資を行う新たなタイプの銀行「クレイ・モリエ(動産銀行)」が設立される
- 1852年11月20日-08:00|ブルネイ| ||<死去>ブルネイ・スルタン「オマル・アリ・サイフ・イン2世」
- 1852年11月20日-08:00|ブルネイ| ||<即位>ブルネイ・スルタン「アブドゥル・ムミン・イブン・ニハングラン・シャー・バンダル」(~18850529死去)
- 1852年11月20日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラト 議長「J. J. P. フリンロー」(第5回)
- 1852年11月23日-04:00|セイシェル/イギリス| ||<就任>イギリス領セイシェル長官代行「ダッシュウッド・ワット・リケッツ」(~18530510)
- 1852年11月23日-09:00|日本|岩手県盛岡市|嘉永5年10月12日|莊恩坊日覚南部利宣の外護により、相馬大作菩提のため盛岡に感恩寺を創す
- 1852年11月26日-09:00|日本|香川県さぬき市|嘉永5年10月15日|寒川郡長尾西村より失火. 36軒焼失
- 1852年12月 04:00|セントルシア/イギリス| ||<就任>イギリス領セントルシア副総督「モーリス・パワー」(~1855年)
- 1852年12月1日-09:00|日本|香川県さぬき市|嘉永5年10月20日|寒川郡長尾寺の門前で火事. 30軒程焼失
- 1852年12月2日-01:00|アントワープ| ||<再任>アントワープ公国共同大公「フランス皇帝(ホナポルト家)フレデリック3世」(~1870年)
- 1852年12月2日-01:00|フランス| ||フレデリック三世戴冠. 自由帝政を宣言
- 1852年12月2日-01:00|フランス| ||フランスの建築家ジャック・イニャス・イトルワの設計による、サカスのための建物「シルク・フレデリック」(11区)が完成
- 1852年12月2日-01:00|フランス| ||フランス、元老院がフレデリック1世の甥フレデリックを推戴<即位>フランス国王(ホナポルト朝)フレデリック3世(ルイ=フレデリック・ホナポルト) [フレデリック1世の甥] (~18700904)
- 1852年12月8日 06:00|カナダ| ||ケベックでラヴァル大学開設
- 1852年12月10日-09:00|日本|茨城県石岡市|嘉永5年10月29日|<死去>初代都々逸坊扇歌 (49歳、文化1(1804)年生) 寄席芸人/「どどいつ」を創案した
- 1852年12月11日-09:00|日本|東京都墨田区|嘉永5年11月|<大相撲>嘉永5年11月場所[江戸本所回向院] (10日間) 幕内優勝: (東前3) 雲龍, 7勝1敗1分1休
- 1852年12月13日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<就任>ケリクアラント・ウェスト酋長(カプティン)「ニコラス・ウォーターボーン」イギリス民事委員 (~18711027)
- 1852年12月14日-01:00|スウェーデン| ||<就任>セーデルマンラント 公「カール・オスカル」(~18540313死去) 王太子カール(後のカール15世)の息子
- 1852年12月19日 00:00|イギリス| ||<就任>イギリス連合王国第34代首相「第4代アバディーン伯爵ジョージ・ハミルトン・ゴードン」ホイッグ党 (~18550206)
- 1852年12月20日-06:30|ミャンマー/イギリス| ||イギリスが、ビルマのペーグー地方の合併を一方向的に宣言/第2次ビルマ戦争が終結
- 1852年12月20日 00:00|カナリア諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリア諸島総司令官「Jose Maria de la Vina」(~1853年)
- 1852年12月27日-09:00|日本|東京都|嘉永5年11月17日|小万年青が流行し、3両以上の高値の鉢物の売買が禁止される
- 1852年12月28日 00:00|ポルトガル| ||<就任>アソチアル地区民政知事「Joao Maria de Abreu Castelo-Branco」(~18540104)
- 1852年12月29日-09:00|日本|東京都|嘉永5年11月19日|歌舞伎役者の真似をして諸家に入出入りする、自称狂言師の出入りが禁止される
- 1852年12月29日-08:00|中国| ||清・咸豊2年11月19日|太平軍が漢口を占領
- 1852年12月29日 13:00|日本|大阪府大阪市|嘉永5年11月19日|<大坂嘉永5年11月の大火「南船場焼、井池火事」>亥の刻(22時ごろ)、井池(どぶいけ)筋の北久宝寺町から出火、夕方からの烈風吹きすさぶなか東方へ延焼、炎の勢いはますます激しくなり、そうこうしているうちに夜が明けたが鎮火せず、ようやく正午になって消えた。家数1300軒ほど、土蔵7か所、空き家60軒が焼失
- 1852年12月31日-09:00|日本|石川県|嘉永5年11月21日|<死去>銭屋五兵衛. 干拓工事で毒を流したとの噂で投獄され、獄死 (80歳、安永2(1773)1125生) 加賀の商人、海運業者
- 1853年-08:00|マレーシア| ||<即位>カバン・ハスラジャ「トクンク・ハジ・イヤク・ビン・トクンク・ムハンマド」(~1859年)
- 1853年-08:00|インドネシア| ||<即位>チボーン・クスマン君主「Sultan Sepuh10世 Raja Dipati Satria」(~1875年)
- 1853年-08:00|インドネシア| ||<即位>マンクガラン君主「Mangkunegara4世」(~1881年)
- 1853年-08:00|マレーシア/ブルネイ| ||ブルネイ(サラワク統治領)からサラワク独立
- 1853年-07:00|ラオス| ||<就任>チャンパーサク摂政「スーリヤ」(~1855年没)
- 1853年-05:30|インド| ||<就任>アジヤガル国ラジャ「ヒンジャイ・シン」(~18550912没)
- 1853年-05:30|インド| ||<就任>ウアラ国統治者(タクル・サーヒブ)「フレデリック・パターイ」(~1860年没)
- 1853年-05:30|インド| ||<就任>カラハンティ国ラジャ「ウディット・プラータップ・デオ」(~18810407没)
- 1853年-05:30|インド| ||<就任>キム統治者(シム)「シンガ・マニク」シロン、カンから分割(~1859年)
- 1853年-05:30|インド| ||<就任>ジャンシ国統治者(ラジャ)「ダモタル・ラオ」(~1854年)
- 1853年-05:30|インド| ||<就任>ジョヨス国摂政「ラクシュミ・バイ」(~1857年没)
- 1853年-05:30|インド/イギリス| ||カイラガル国、カラハンティ国、カワラダ国、カンカ国、チュイカタン国、ナガオン国、マライ国はイギリス領インド(ナガールの一部として)に併合

1860迄 (3252件)

- 1853年-05:30|インド/イギリス| |||ハスター国はナグプールへの従属をやめ、イギリスの保護領となる
- 1853年-05:00|パキスタン| |||<死去>トルコ国統治者(ミフタル)「シャー・モハマト・アフサル2世」
- 1853年-05:00|パキスタン| |||<就任>トルコ国統治者(ミフタル)「モハマト・モタラム・シャー3世」(~1858年没)
- 1853年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<復位>コカンド・ハン国ハン「ムハンマト・フダヤール・ハン」(2期目~1858年逃亡)
- 1853年-04:00|UAE| |||<就任>ウム・アル・カイワイン統治者(ハキム)「Sheikh Ali ibn Abdullah Al Mu`alla」(~1873年)
- 1853年-04:00|UAE| |||<退位>ウム・アル・カイワイン首長「Sheikh Abdullah bin Rashid Al Mualla」
- 1853年-03:00|スーダン/エジプト| |||<就任>エジプト領スーダン総督「セルム・サイフ・ハシヤ・アル=ジヤサリ」(~1854年)
- 1853年-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ウイェン・ワリス(総督)「イブラヒム・ハシヤ」(~1855年7月)
- 1853年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ王国ムミ「キリ4世ガヒンテイロ」(~1895年11月)
- 1853年-01:00|ベナン| |||<死去>ケトウ国支配者「アデビヤ」
- 1853年-01:00|ニジェール| |||<就任>アル国統治者(アモカル)「アフマト・アル・ラッファ・イブン・ムハンマト・グマ」(1回目)
- 1853年-01:00|ガボン/フランス| |||<就任>ガボン・ギニア湾入植地司令官「ピータース・テオフィル・キエ」(~1856年)
- 1853年-01:00|ベナン| |||<就任>ケトウ国支配者「アデグベテ」(~1858年12月没)
- 1853年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウ総督(北アフリカ総司令部総督)「Joaquin Aguando」(~1854年)
- 1853年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>アジニ(ジヨインウイル砦)民間司令官「ト・テウナル」(~1855年)
- 1853年 00:00|トーゴ| |||<就任>ア林統治者(アフ・カ)「コジヨウ・イ・シ・イウエ」(~1884年没)
- 1853年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>グランバッサム(ヌムル砦)民間司令官「フランソワ・シラ」(~1854年)
- 1853年 00:00|トーゴ| |||<就任>ココッ統治者(ソマ)「ナムサ」
- 1853年 00:00|セネガル| |||<就任>シシ統治者(ブール・シシ)「クバ・ントフェン・ファマク・ジユ」(~1871年)
- 1853年 00:00|セネガル| |||<就任>ジヨロ帝国統治者(ブールバ・ジヨロ)「ビヤンブ・アラム・ジュレシヤンジエイ」(~1855年)
- 1853年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督代行「フランシスコ・アルベルト・デ・アゼベド」⇒総督「デイゴ・マリア・モイス」⇒「セルマリア・コレイア・ダ・シルバ」⇒「オリア・ペレイラ・バレット」(3回目~1854年)
- 1853年 00:00|セネガル| |||<就任>ブントウ統治者(アルマシ)「ウマル・サネシ」(~1857年4月)
- 1853年 00:00|モロッコ| |||<就任>モロッコ大宰相「モハマト・ガリット」(~1854年2月)
- 1853年1月-06:30|ミャンマー| |||ヒルマ和平派の王弟シントン、カウの両王子、王都を脱出して交戦派の国王に謀叛
- 1853年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ウイヘルム・マティアス・ナエフ」Lib(~12.31)
- 1853年1月1日 08:00|ヒトケアン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヒトケアン諸島主任判事「マシュー・McCoy」(2期目~12.31)
- 1853年1月2日-09:30|オーストラリア| |||メルボルン大学設置法成立
- 1853年1月2日-01:00|トイツ/オーストリア| |||<就任>トイツ連邦議会大統領特使(フランクフルト・アム・マイン)「アントン・フライヘル・フ・ロクシュ」(~18551012)
- 1853年1月2日-09:00|日本|兵庫県小野市|嘉永5年11月23日|<死去>一柳末周(62歳)前播磨小野藩主
- 1853年1月3日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド 総督ロバート・ウインヤード(~18550906)
- 1853年1月4日-09:00|日本|宮城県仙台市|嘉永5年11月25日|<死去>画人、菊田伊洲
- 1853年1月6日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「セントジャーマンス 伯爵エドワード・克蘭ギル・エリオット」(~18550313)
- 1853年1月6日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国暫定大統領「ファン・パウティスタ・セバシヨス・ゴマス・サヌト」(~2.7)
- 1853年1月7日-09:00|日本|東京都千代田区|嘉永5年11月28日|江戸城内富士見宝蔵、放火により焼失
- 1853年1月10日 00:00|イギリス| |||ロンドンに世界初の地下鉄が開業
- 1853年1月10日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント副総督「リチャード・グレイヴス・マクトネル」(~1854年)
- 1853年1月10日-09:00|日本|広島県福山市|嘉永5年12月|<加増>備後福山藩10万石「阿部正弘」→11万石(⇒安政4(1857)年6月17日、死去)
- 1853年1月11日-09:00|日本| ||嘉永5年12月2日|<死去>西沢一鳳(51歳)歌舞伎作者
- 1853年1月14日 14:00|日本|大阪府大阪市|嘉永5年12月5日|(~6日)<大坂嘉永5年12月の大火「上町焼」>真夜中の亥の下刻(23時ごろ)、東横堀川材木町の久宝寺橋東詰の北にある材木屋から出火、東は谷町を超えて法円寺坂まで焼け、北は本町筋南側の鎗屋町まで延焼、翌日申の刻(16時ごろ)鎮火/町家2480軒、土蔵18棟、空き家162軒焼失
- 1853年1月16日-09:00|日本|和歌山県|嘉永5年12月7日|<死去>徳川治宝(82歳)前紀州藩主
- 1853年1月18日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島管理者「Rupert Barber Deering」(~9月)
- 1853年1月18日-09:00|日本|岐阜県海津市|嘉永5年12月9日|<死去>竹腰正定(62歳)前美濃今尾藩主、尾張藩家老
- 1853年1月19日-01:00|イタリヤ| |||<初演>ジュゼッペ・フォルトゥーノ・フランチェスコ・ウエルティ《歌劇「トロヴァトーレ」》
- 1853年1月19日 00:00|イギリス| |||<死去>6代オックスフォード 伯モーターマー伯「アルフレッド・ハーレー」断絶
- 1853年1月20日 00:00|イギリス/ミャンマー| |||イギリスがヒルマのペグーを正式に併合
- 1853年1月22日-09:30|オーストラリア| |||メルボルン大学設立法、国王の承認を受ける
- 1853年1月24日 06:00|アメリカ| |||ニューヨークとシカゴ間の鉄道が開通
- 1853年1月24日-09:00|日本|東京都|嘉永5年12月15日|勝お順(17歳)、佐久間象山(42歳)に嫁入り
- 1853年1月24日-09:00|日本|兵庫県三田市|嘉永5年12月15日|<死去>九鬼隆国(72歳)前摂津三田藩主
- 1853年1月25日-09:00|日本|茨城県つくば市|嘉永5年12月16日|<交替>常陸谷田部藩16300石「細川興建」隠居⇒長男「細川興貴」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月22日、版籍奉還)
- 1853年1月29日-01:00|フランス| |||フランス皇帝ルイ・フィリップ3世、ウヰエーノ・モンティヰョ(フランス皇后ウヰエーノ)と結婚
- 1853年1月30日-09:00|日本|東京都千代田区|嘉永5年12月21日|江戸城西丸の再建造営完成

1860迄 (3252件)

- 1853年2月-05:30|インド| |||<死去>コチン国統治者(マハラジャ・ガンガダラ・コウイラティ・カリカ)「ケラヴァアルマ4世」
- 1853年2月-05:00|パキスタン| |||<就任>パハール王ル国ワシル「ファキール・シラジ・ウッディーン」(~同年没)⇒「ジャマダル・アフマト・カン・マザイ」(1回目)
- 1853年2月 00:00|イギリス/ロシア| |||イギリス、ロシアの77ヶ島を占領
- 1853年2月3日-09:00|日本|滋賀県野洲市|嘉永5年12月25日|<加増>近江三上藩1万石「遠藤胤統」⇒12000石(⇒万延元(1860)年4月15日、城主格となる⇒文久3(1863)年10月7日、隠居)
- 1853年2月6日-01:00|オーストリア/イタリア| |||ミラノでジュゼッペ・マツィーニの労働者の反乱が起こる/ラッッキー將軍のオーストリア軍に鎮圧される
- 1853年2月7日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領代行「マヌエル・アホリナオ・ホセ・マリア・イグナシオ・ロンバルディニ・デ・ラ・トル」(~4.20)
- 1853年2月8日-09:00|日本|群馬県|嘉永6年|<完成>高崎藩の国学者富田永世「上野名跡志」
- 1853年2月8日-09:00|日本| ||嘉永6年1月|<出版>葛飾為斎、一陽齋豊国(初代国貞)、二代国貞(梅蝶楼)、一勇齋国芳、玉蘭齋貞秀、一猛齋芳虎「贈答百人一首」
- 1853年2月8日-09:00|日本| ||嘉永6年1月|<出版>清水芳玉女父子「本朝武芸百人一首」
- 1853年2月11日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事代行「ハリデー」(~25日)
- 1853年2月12日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)代行「マヌエル・フェリサル・デ・ソウザ・エ・メロ」(~3.6)
- 1853年2月15日 04:00|ドミニカ共和国| |||<就任>ドミニカ共和国大統領「ペドロ・サンタ・ファミリア」(3回目~18560526)
- 1853年2月18日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ビルマ王「ミント・ン・ミン」(~18781001没)
- 1853年2月18日-06:30|ミャンマー| |||<廃位>ビルマ王「パガウン」
- 1853年2月19日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・リカルド・ケラサ」(~9.29)
- 1853年2月19日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||オーストリアとプロシヤの間に通商条約が締結される
- 1853年2月20日-05:00|パキスタン| |||<就任>パハール王ル国ナワブ・アミール「ファス・モハマト・カン」(~18581003没)
- 1853年2月21日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、貨幣法制定
- 1853年2月21日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永6年1月14日|<初演>「興話情浮名横櫛」<切れ興三>【作・三代目瀬川如皐】興三郎・八代目市川團十郎、お富・四代目尾上梅幸、泉屋多左衛門・三代目関三十郎、中村座
- 1853年2月22日-09:00|日本|愛媛県大洲市|嘉永6年1月15日|<死去>伊予大洲藩5万石「加藤泰幹」(41歳)⇒長男「加藤泰祉」が継ぐ(⇒元治元(1864)年8月16日、21歳で死去)
- 1853年2月24日-09:00|日本|福井県小浜市|嘉永6年1月17日|<死去>酒井忠順(63歳)前若狭小浜藩主
- 1853年2月25日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア総督「Martin Fourichon」(~18540131)
- 1853年2月25日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事「ハリス男爵ジョージ・フランシス・ロバート・ハリス」(2期目~18540126)
- 1853年2月27日-01:00|ドイツ| |||<死去>オルデンブルク大公「アウグスト(ハール・フリートリヒ・アウグスト)」69歳
- 1853年2月27日-01:00|ドイツ| |||<即位>オルデンブルク大公「ペーター2世(ニコラス・フリートリヒ・ペーター)」アウグストの子(~19000613死去72歳)
- 1853年2月28日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督代行「アラン・ロバート・マクナルド」(~4.18)
- 1853年3月-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ| |||ヘルツェゴヴィナ東部の反乱が中断
- 1853年3月 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島市民知事「Jose Maria Lavina」(~10.21)
- 1853年3月2日-01:00|ハンガリー/オーストリア| |||オーストリア皇帝がハンガリーに農奴解放令を発布
- 1853年3月2日 06:00|アメリカ| |||<発足>アメリカ、ワシントン準州設置
- 1853年3月3日 06:00|アメリカ| |||アメリカ連邦政府が徴兵法を発布
- 1853年3月4日 06:00|アメリカ| |||<就任>アメリカ合衆国14代大統領「フランクリン・ピアース」民主党(~18570304)
- 1853年3月6日-07:00|タイ| |||<即位>ナン王国第12代国主「アナンタウォンウォーラッティティート(アナンタヨット)」(~18910529)
- 1853年3月6日-01:00|イタリア| |||<初演>ジュゼッペ・フォルツェニノ・フランチェスコ・ヴェルディ「歌劇「椿姫(トラヴィアータ)」」
- 1853年3月10日-09:00|日本|東京都墨田区|嘉永6年2月|<大相撲>嘉永6年2月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(東前2)雲龍、6勝0敗1分1預2休
- 1853年3月11日 01:00|日本| ||嘉永6年2月2日|<嘉永6年小田原地震>巳の刻(10時ごろ)、小田原付近を震源とするマグニチュード6.7の地震発生/小田原城天守の瓦や壁が落ち、城内のところどころで建物が倒壊大破/城下の竹ノ花町や須藤町、大工町は全壊/箱根、根府川などの関所が破壊され、箱根双子山付近では落石のため2日間ほど道路不通/24人死亡、家屋倒壊1088軒、同半壊2304軒、同破損2152軒
- 1853年3月14日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラド議長「(コーリス)ボトキーター」(第11回~24日)
- 1853年3月17日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国司令長官「ピーター・ヨハネス・ボトキーター」(~18541106)
- 1853年3月17日-01:00|オーストリア| |||<死去>ドップラー/49歳(誕生18031129)ドップラー効果を発見したオーストリアの物理学者
- 1853年3月19日-08:00|中国| |||太平天国軍が南京に入城し、天京と改名して首都とする
- 1853年3月20日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンシペ総督「Francisco Jose de Pina Rolo」(~18550728)
- 1853年3月21日-05:30|インド| |||<即位>パラトル国マハラジャ「ジャシワント・シン」(~18931212没)、摂政「ダオ・キヤン・ラム」(~1855年)
- 1853年3月24日-09:00|日本|大阪府大阪市|嘉永6年2月15日|<死去>3代中山文七(90歳)歌舞伎役者
- 1853年3月25日-05:30|インド| |||<就任>サシ国支配者(ナワブ)「アブドゥル・カリム・モハマト・ヤクト・ハーン2世」(~18681201没)

1860迄 (3252件)

- 1853年3月26日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国首席大臣「アレクサンディッチ」(2回目~18551228)
- 1853年3月30日-01:00|アントラ| |||<就任>アントラ公国共同大公「ウルヘルコ・ジョセフ・カイクサル・イ・エストラーデ」(1875年8月よりアリカンテ、その後ローマに亡命~18790826)
- 1853年4月 05:00|コロンビア| |||ロペス前大統領の起草になる新憲法が議会で成立
- 1853年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ドメニコ・マリア・ベルゾッピ」(「ピエール・マッテオ・ベルティ」)
- 1853年4月1日 05:00|コロンビア/パナマ/エクアドル/ペルー/ブラジル/コスタリカ/ベネズエラ/ニカラグア| |||<就任>ヌエバ・グранаダ共和国大統領「ホセ・マリア・ラモン・オバンド・イ・デル・カホ」(2回目~18540417)
- 1853年4月1日 06:00|ニカラグア| |||<就任>ニカラグア独立共和国最高取締役「ホセ・フルト・チャモ・ペレス」(~18540228)
- 1853年4月1日-09:00|日本|奈良県高市郡高取町|嘉永6年2月23日|<死去>大和高取藩25000石「植村家貴」(47歳)⇒4月22日、養子「植村家興」が継ぐ(⇒7月17日、急死)
- 1853年4月2日 06:00|アメリカ| |||ニュー・ヨーク・セントラル鉄道会社設立
- 1853年4月3日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金左根」(~18590214)
- 1853年4月4日-01:00|ドイツ| |||ハノーファーとオルデンブルクが関税同盟に参加
- 1853年4月4日-08:00|中国| |||董家渡天主堂(上海)完成
- 1853年4月8日-09:00|日本| ||嘉永6年3月|<出版>山形素真「狂歌調子笛」
- 1853年4月8日-09:00|日本| ||嘉永6年3月|<出版>柴田是真「狂歌本朝二十四孝」
- 1853年4月8日-09:00|日本| ||嘉永6年3月|<出版>松川半山・浦川公左・菊川竹溪・暁鐘成等「西国三十三ヶ所名所図会」
- 1853年4月14日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Francisco Lersundi Hormaechea」穏和党(~9.19)
- 1853年4月15日 07:00|メキシコ| |||保守派によるクーデター
- 1853年4月16日-05:30|インド| |||ボンベイとターネー間に、インド最初の鉄道が開通
- 1853年4月17日-09:00|日本|福井県小浜市|嘉永6年3月10日|<越前小浜嘉永6年の大火>今在家町から出火、小浜の町ほぼ全域が炎に包まれた/焼失数、南川の対岸にあった家中の侍屋敷13軒、町方2411軒(その内借家1301軒)、土蔵910か所、納屋72棟/そのほか焼失した主な建物は、能舞台、下陣、町役所、米手形役所、制札場、社倉、牢屋敷など藩の施設24か所、寺37か所
- 1853年4月19日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ王国首相「フリス・アドリアン・ヴァン・ホル」(1回目~18560701)
- 1853年4月20日-01:00|イタリア| |||マツイーニ派がミラノで蜂起するが失敗
- 1853年4月20日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領「アントニオ・ロペス・サント・アナ・イ・ペレス・デ・レボロン」(5回目~18550812)
- 1853年4月21日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国首相「アンデルス・サント・エ・エルステッド」(~18541212)
- 1853年4月26日-09:00|日本|東京都江東区|嘉永6年3月19日|江戸深川三十三間堂通火「全堂日矢数」で、鶴田辰次郎が5,583本(総失数10,015本中)を記録
- 1853年4月27日-09:00|日本| ||嘉永6年3月20日|<死去>中林竹洞(78歳)画家
- 1853年5月-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス管財人「マフムト・シェリフ・パシャ」(~1854年)
- 1853年5月1日-05:30|インド| |||インド文官職の公開試験選抜制度を導入
- 1853年5月1日 03:00|アルゼンチン| |||サンタフェ(一説にパタゴニア)を首都とする「アルゼンチン連合」が新憲法公布
- 1853年5月4日 00:00|イギリス/イェメン| |||イギリスと南部イェメン首長が恒久平和条約を締結
- 1853年5月5日-03:30|イラン| |||イラン・シラスで地震M6.2、死者9千人
- 1853年5月6日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国コネチカット州で、列車が開橋状態の旋回橋へ信号を無視して進入しノウォーク川河口付近の船着き場に転落、死者48人
- 1853年5月6日-09:00|日本| ||嘉永6年3月29日|<死去>3代鶴賀新内(不明)新内節太夫
- 1853年5月6日-08:00|中国| ||清の咸豊3年3月29日|太平天国軍が南京に入城し、天京と改名して首都と/軍事共産主義の実現を目指す
- 1853年5月10日-04:00|セイシェル/イギリス| |||<就任>イギリス領セイシェル長官「ジョージ・トンプソン・ウェイド」(~18610925)
- 1853年5月10日 00:00|イギリス/カナダ| |||モントリオールとリバプールの間に蒸気船定期航路が開設される
- 1853年5月11日 04:00|ガイアナ/イギリス| |||<就任>イギリス領ガイアナ総督代行「ウィリアム・ウォーカー」(2回目~18540523)
- 1853年5月12日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「ジョージ・フィルポツ中佐」(~9.18死去)
- 1853年5月14日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ムスタファ・ナイリ・パシャ」(1期目~18540529)
- 1853年5月14日-01:00|ドイツ| |||<死去>ドイツの作曲家ハインリッヒ/49歳(誕生18030725)ハインリッヒ・ヘンツェルを著した
- 1853年5月16日-05:30|インド| |||<即位>ゴーン国統治者(マハラジャ・ガングラ・コウイラディ・カリカル)「ラウ・イヴァルマ4世」(~18640211没)
- 1853年5月22日-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルント総督代行「アレクサンドル・ペトローヴィッチ・ペレミシエフ」(~6.14)
- 1853年5月22日 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>フランス領セネガル総督代行「アントン・レザール・ウエラン」(~18540130)
- 1853年5月24日 00:00|ガンビア/イギリス| |||上コンゴは、コンゴ王によってイギリスに割譲された
- 1853年5月25日 03:00|アルゼンチン| |||アルゼンチンで連邦制の中央政府樹立、ブエノスアイレス州が反対
- 1853年5月30日-09:00|日本|京都府綾部市|嘉永6年4月23日|<死去>九鬼隆度(54歳)前丹波綾部藩主
- 1853年6月 00:00|セネガル| |||<就任>ファタ・ト・ロ統治者統治者(アルマミ)「フェルナンド・ラモン・マドゥ・ウ・ニヤック」(1回目~1854年4月)
- 1853年6月1日-01:00|ドイツ| |||<初演>フランツ・リスト《ハンガリー幻想曲》
- 1853年6月7日 00:00|ガイアナ/イギリス| |||<就任>イギリス領ゴールドコースト副総督「ジェームズ・コールマン・フィッツパトリック」(2回目~8.27)

- 1853年6月7日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永6年5月|千駄木の植木商、森田六三郎により牡丹と菊細工を主とした植物園「花屋敷」開園(浅草)【日本最古の遊園地】
- 1853年6月9日-01:00|フランス| |||フランスで公務員の退職手当金基金設立
- 1853年6月13日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスタッド議長「(コーリス)ポトキータ」(第12回~22日)
- 1853年6月13日-09:00|日本|三重県亀山市|嘉永6年5月7日|<交替>伊勢亀山藩6万石「石川総紀」隠居⇒義弟「石川総禄」が継ぐ(⇒文久2(1862)年9月17日、死去)
- 1853年6月14日-02:00|ラトビア| |||<就任>ケールラント総督「ピョートル・アレクサンドロヴィッチ・ウアルエフ」(~18580510)
- 1853年6月15日 06:00|アメリカ| |||ステイヴン・フォスター、『なつかしきケンタッキーのわが家』発表
- 1853年6月16日-09:00|日本|千葉県富津市|嘉永6年5月10日|<死去>阿部正嵩(48歳)前上総佐貫藩主
- 1853年6月17日 00:00|イギリス| |||<死去>9代ハントリー侯・アホイン伯「ジョージ・ゴートン」
- 1853年6月17日 00:00|イギリス| |||<就任>10代ハントリー侯・アホイン伯「チャールズ・ゴートン」(~18630918死去)
- 1853年6月21日-09:00|日本| |||嘉永6年5月15日|<死去>2代杵屋勝五郎(不明)長唄三味線方
- 1853年6月23日-05:30|インド| |||<就任>シャープラ国摂政「ラニ・ムルタニ」(~18700611)
- 1853年6月28日 00:00|イギリス| |||<死去>8代ウィームズ伯・4代マーチ伯「フランス・ウィームズ=チャーリス=ダグラス」
- 1853年6月28日 00:00|イギリス| |||<就任>9代ウィームズ伯・5代マーチ伯「フランス・ウィームズ=チャーリス」(~18830101死去)
- 1853年6月30日-09:00|日本|岩手県|嘉永6年5月24日|陸奥南部藩閉伊郡の農民1万6000人以上が仙台藩領内へ逃散を求め、領界に集合。領内各地では、強訴、打ち壊しが多発⇒南部藩も交渉に応じる
- 1853年7月-09:30|オーストラリア| |||アメリカ人ビジネスマン、フリーマン・コブ、他の3人のアメリカ人とともにコブ・アント・コブを設立、メルボルンとポートメルボルン間の運送を行う
- 1853年7月-09:30|オーストラリア| |||オーストラリア最初の無償公立図書館、メルボルンに開設
- 1853年7月-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国皇帝「ウエベ・ハイレ・マリヤム(篡奪者)」(~18550209)
- 1853年7月 06:00|カナダ/アメリカ| |||グラント・トランク鉄道のモントリオール〜米国メイン州・ポートランド間開通
- 1853年7月1日 06:00|アメリカ| |||フィラデルフィア攻防戦。砲術機関の猛攻撃により火事嵐発生
- 1853年7月5日-09:00|日本| |||嘉永6年5月29日|<死去>柳斎重春(51歳)浮世絵師
- 1853年7月8日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=ヴァイマル=アイゼナハ大公「カール・フリードリヒ」
- 1853年7月8日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=ヴァイマル=アイゼナハ大公「カール・アレクサンダー」(~19010105死去)
- 1853年7月8日-09:00|日本|岩手県|嘉永6年6月3日|<南部三閉伊一揆仙台強訴>発頭人筆頭である多助のもとに野田通の田野畑村から一揆を起こす/白赤だすきそして筵に「小〇」(困るの意味)と書き、のぼり旗として、槍隊・棒隊と隊列を組んで、浜通りを南下しながら資産家に軍資金や食料を出させ、出さないと家財家屋を打ち壊して歩いた
- 1853年7月8日-09:00|日本/アメリカ|神奈川県横須賀市|嘉永6年6月3日|ペリーが軍艦4隻サスケハナ・ミシシッピ・サトガ・フリマスを率いて浦賀に来航する(黒船来航)
- 1853年7月10日-09:00|日本|岩手県|嘉永6年6月5日|<南部三閉伊一揆仙台強訴>釜石に集合した一揆の人数は約1万6千余人にも達し問道を進み、篠倉峠を乗り越え約半数が仙台領気仙郡唐丹村への越訴に成功し、仙台藩に、政治的要求3カ条と具体的要求49カ条を提出
- 1853年7月13日 06:00|アメリカ| |||ニューヨーク市で徴兵反対暴動。これをきっかけにマルクのコミュニードがマンハッタンを占拠
- 1853年7月14日 04:30|ベネチア| |||ベネチアで地震、死者800
- 1853年7月14日 06:00|アメリカ| |||アメリカで最初の万国博覧会、ニューヨーク国際博覧会開催(~1101)[会場]ニューヨーク・ブライアント公園[入場者]1,150,000人
- 1853年7月15日-05:30|インド| |||<就任>シャープラ国統治者「ラジャデーイラジ」「ラクシュマン・シン」(~18700611没)
- 1853年7月17日-09:00|日本/アメリカ|神奈川県横須賀市|嘉永6年6月12日|ペリー、再来を告げ浦賀出港
- 1853年7月17日-09:00|日本|福井県福井市|嘉永6年6月12日|福井城下で大火、大手門・九十九橋・侍屋敷・町家671軒など焼失
- 1853年7月21日-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||<就任>ベナン湾英国領事「ベンジヤミン・キャンベル」(~18590417死去)
- 1853年7月27日-09:00|日本|東京都千代田区|嘉永6年6月22日|<死去>徳川家慶。江戸城で病死(暑気当たりとされる)(61歳、寛政5(1793)0514生)江戸幕府第12代将軍
- 1853年7月29日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督代行「チャールズ・ロジャース・ネビット」(4回目~18541010)
- 1853年7月30日 00:00|イギリス| |||イギリス海軍の最後の外輪スloop「HMSバラクータ」ペンブローックで竣工(1881年12月にチャタム工廠で解体)
- 1853年8月 04:00|BES諸島| |||<就任>ホネル副知事代理「Cornelis Boye」(⇒18540401副知事~18590105)
- 1853年8月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=アルテンブルク公「ゲオルク」
- 1853年8月3日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=アルテンブルク公「エルスト1世」(~19080207死去)
- 1853年8月3日-09:00|日本| |||嘉永6年6月29日|<死去>2代野沢吉兵衛(不明)浄瑠璃三味線方
- 1853年8月5日 05:00|コロンビア| |||<就任>ヌエバ・グラタ大統領代理「セルゲ・オバルディヤ」自由党(~18550401)
- 1853年8月6日-03:00|ベラルーシ/ロシア| |||<就任>ウイテプスク、モギリョフ、スモレンスクのロシア総督「パーヴェル・ニコラエヴィッチ・イグナティエフ」(~1854年)
- 1853年8月9日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国司令長官「マルティヌス・ヴァッセル・フレトリス」(~18570106)
- 1853年8月9日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスタッド議長「ヘンリクス・アルベルトウス・フレトリス」(第1回~13日)
- 1853年8月10日 00:00|イギリス| |||<死去>ウオリック伯・ブルック伯「ヘンリー・リチャード・グレイ」
- 1853年8月10日 00:00|イギリス| |||<就任>ウオリック伯・ブルック伯「ジョージ・ガイ・グレイ」先代の息子(~18931202死去)
- 1853年8月12日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国ロードアイランド州ホークケット郊外のValley Fallsでプロビデンス&ウスター鉄道の列車が正面衝突。

1860迄 (3252件)

- 1853年8月21日-09:00|日本| ||嘉永6年7月17日|彗星西上刻に出現/長さ3尺/24日の後に見えなくなる
1853年8月21日-09:00|日本|奈良県高市郡高取町|嘉永6年7月17日|<死去>大和高取藩25000石「植村家興」(19歳)
⇒養子「植村家保」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月20日、版籍奉還)
1853年8月22日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|嘉永6年7月18日|ロシア使節極東艦隊司令長官フ・チャーチンが軍艦4隻を率いて長崎に来航、修好を求む⇒10月23日通商が拒否されロシア艦隊は上海へ出帆
1853年8月24日-11:00|ニューカドニア/フランス| ||<設立>ニューカドニア・フランス植民地(オセアニアのフランス領ホーリンシアに從属(~18600114))
1853年8月24日 06:00|アメリカ| |||米国ニューヨーク州のレストラッフェ・ジョージ・クラムが「ホ・テトツプ」を発明
1853年8月27日-05:30|インド| |||<就任>パスター国ラジャ「パ・イラム・テ・オ」(~18910720没)
1853年8月27日 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領ゴールド・コースト副総督代行「ブ・ロティ・G・クルクシャンク」(~18540116)
1853年8月27日-09:00|日本|東京都|嘉永6年7月23日|幕府、内海御台場御普請役を設定
1853年8月29日-09:00|日本|兵庫県丹波市|嘉永6年7月25日|<死去>丹波柏原藩2万石「織田信敬」(18歳)⇒翌年4月14日、養子「織田信民」が継ぐ(⇒慶応元(1865)年6月10日、死去)
1853年9月-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島管理者「Henry James Day」(~18550505)
1853年9月 07:00|メキシコ| |||ユカタンの反乱軍降服。一部はさらに長期にわたり抵抗を続ける。捕虜の多くはキューバへ奴隷として売却される。戦争による犠牲者は全人口の半分25万人におよぶ
1853年9月1日-04:00|モリシャス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官代行「ウィリアム・サ・ラント」(2回目~27日)
1853年9月1日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領代行「ベルナルド・アルセ・マタ」(2回目~1854年)
1853年9月5日 10:00|ハワイ| |||<就任>ハワイ諸島王国首相「Lot Kamehameh(カハハメ5世)」(~14日)
1853年9月6日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「ホリオ・エルモ・カルネロ・レオン(1854年から子爵)」(~18560903没)
1853年9月7日-08:00|中国| |||上海で小刀会が蜂起
1853年9月10日-09:00|日本|北海道|嘉永6年8月8日|<死去>松前昌広(29歳)前蝦夷松前藩主
1853年9月11日-04:00|ジョージア| |||<就任>ミンクレリア公「ニコラス」(~18670104)、摂政「エタリン・チャウ・チャウ・アセ」(~1856年)
1853年9月12日-09:00|日本| ||嘉永6年8月10日|<死去>6代田中伝左衛門(不明)歌舞伎囃子方
1853年9月12日-09:00|日本|兵庫県姫路市|嘉永6年8月10日|<死去>播磨姫路藩15万石「酒井忠宝」(25歳)⇒10月25日、従弟「酒井忠顕」が継ぐ(⇒万延元(1860)年10月14日、死去)
1853年9月14日-01:00|フランス/イギリス/トルコ| |||英仏連合艦隊がオスマン朝支援のためダータ・ル海峡に侵入
1853年9月14日 10:00|ハワイ| |||<就任>ハワイ諸島王国首相「John Kaleipahala Young2世」(2期目~18550116)
1853年9月18日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<死去>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「ジョージ・フィル・ツツ中佐」
1853年9月18日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「トマス・コング・リーヴ・ローフ 中佐」(~24日死去)
1853年9月19日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルスラード 議長「(コーリス)ボトキータ」(13回目~28日)
1853年9月19日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Luis Jose Sartorius」穏和党(~18540717)
1853年9月22日-01:00|ルクセンブルク| |||<就任>ルクセンブルク行政長官会議議長(⇒18571129政府議長)「シャル・マティアス・ツェンズ」(~18600926)
1853年9月23日-01:00|スペイン/キューバ| |||スペイン政府、前プエルトリコ総督で熱心な奴隷制廃止論者のファン・デ・ラ・ペスエラ侯爵をキューバ総督に任命
1853年9月23日 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリブ諸島総司令官「Jaime Ortega y Olleta」(~18540809)
1853年9月23日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「ゲイ・ドン伯Louis Henri」(~1856. 9)
1853年9月24日-11:00|ニューカドニア/フランス| |||<就任>ニューカドニア司令官「Auguste Febvrier-Despointes」(~18540101)
1853年9月24日-11:00|ニューカドニア/フランス| |||フランス、ニューカドニアを占領し、「フランス領」とする(現在もフランス領)
1853年9月24日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<死去>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「トマス・コング・リーヴ・ローフ 中佐」
1853年9月24日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「ソルデン・オーグリー」(1期目~10.11)
1853年9月25日 03:00|ウルク・アイ| |||<就任>ウルク・アイ東方共和国大統領「ベ・ナンソ・フロレス」コロト 党(1回目~18550910)
1853年9月25日 03:00|ウルク・アイ| |||<就任>ウルク・アイ東方共和国臨時政府三頭政治:Juan Antonio Lavalleja(~18531022在任中死亡)、フルクトウカ・リベラ(~18540113在任中死亡)、ベ・ナンソ・フロレス(~18540312)
1853年9月25日-09:00|日本|新潟県長岡市|嘉永6年8月23日|越後長岡藩栃尾郷の農民1万人が、紬買い占めなどに反対し、米屋、織屋を打ち壊す
1853年9月29日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ピ・ニエロ子爵ミゲル・シメス・ド・リゲス・サント・パル・テ・カストロ・エ・ヒカス」(~18540302)
1853年10月-02:00|ルーマニア/ロシア| |||<就任>モルダヴィア行政評議会(デ・イヴァン)のロシア副議長(ワラキアの大統領に從属)「カール・イノビッチ・オステン=サケン伯爵」(~18540902)
1853年10月-02:00|モルダヴィア/ルーマニア/ロシア| |||モルダヴィア・ワラキアをロシアが占領(~1854年)
1853年10月 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サンティアゴ 総督「ヘンリー・ハーリー卿」(~1856年5月)
1853年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・バティスト・ブラスキ」フランチェスコ・ヴァッリ
1853年10月1日 06:00|アメリカ| |||ニューヨーク手形交換所設立

1860迄 (3252件)

- 1853年10月2日-04:00|ロシア/日本| ||嘉永6年8月30日|樺太のクシコタンにロシア軍艦が来航し、兵舎を建てる
- 1853年10月7日-09:00|日本|島根県松江市|嘉永6年9月5日|<交替>出雲松江藩18万6千石「松平齊貴」強制隠居⇒婿養子「松平定安」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1853年10月8日 04:00|米領グアージン諸島/イギリス| ||<就任>セント・マス島・セントジョン島総督「Hans Hendrik Berg」(2期目~18620414)
- 1853年10月10日 00:00|ユトジボワール/フランス| ||<就任>ダブー(テュス砦)民間司令官「ベルナル・フランソワ・ベネシュ」(~1854年)
- 1853年10月11日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督代理「アーサー・ウィリアム・ハイル」(~11.12)
- 1853年10月16日-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワキア総督・領主「ケオルグ・フィリペスク(臨時行政評議会議長)」(~11.13)
- 1853年10月17日-09:00|日本| ||嘉永6年9月15日|幕府、大船製造の禁を解除
- 1853年10月17日-09:00|日本|東京都千代田区|嘉永6年9月15日|<就任>老中「内藤信親」(~1862年5月26日)
- 1853年10月18日-03:00|マヨット/フランス| ||<就任>フランス保護領マヨット総監代行「アントン・レブレット」(~18541213)
- 1853年10月18日-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督領主「コンスタンティン・サントウ・ストゥルザ」(臨時行政評議会議長)(1回目~11.21)
- 1853年10月21日 00:00|カナリア諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Jaime Ortega y Olleta」(~18540809)
- 1853年10月22日 04:00|ケレタ/イギリス| ||<就任>ケレタ 副総督「ロバート・ウィリアム・キート」(~1856年5月)
- 1853年10月23日-04:00|ロシア/トルコ| ||ロシア暦10月11日|オスマン帝国がロシアに宣戦布告し、クリミア戦争が始まる
- 1853年11月-01:00|北マケドニア/トルコ| ||<就任>ウスク・クリス(総督)兼マステイル・クリス(総督)「アリ・リザ・メフメト・パシャ」(~1854年2月)
- 1853年11月2日 06:00|アメリカ| ||北部、大統領選挙。ホイッグ党は混乱のため統一候補を立てられず、北部民主党のクレメント・L・ウァテリングが大統領に当選
- 1853年11月3日 07:00|メキシコ/アメリカ| ||ウオーカーら、ラパスに上陸。「バハ・カリフォルニア独立共和国」を宣言
- 1853年11月12日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督代理「ソウルデン・オーグリー」(2期目~20日)
- 1853年11月13日-02:00|ルーマニア/ロシア| ||<就任>ロシア特命全権委員、モルダヴィア行政評議会議長(ティウアン)「ブカレスト」アレクサンドル・イワノヴィッチ・ブトベルク男爵」(~18540719)
- 1853年11月13日-02:00|ルーマニア/ロシア| ||ワキアはロシアに占領された(~18540719)
- 1853年11月15日 00:00|ポルトガル| ||<死去>ポルトガル女王「マリア2世」34歳(誕生18190404)
- 1853年11月15日 00:00|ポルトガル| ||<即位>ポルトガル王「ペドロ5世有望王」(~18611111死去)マリア2世とフェルナンド2世の子
- 1853年11月17日-05:30|インド/イギリス| ||ファルタン国はイギリスの管理下に置かれた(~18600210)
- 1853年11月17日 00:00|イギリス| ||<死去>ボートフォート公「ヘンリー・サマセット」
- 1853年11月17日 00:00|イギリス| ||<就任>ボートフォート公「ヘンリー・サマセット」先代の子(~18990430死去)
- 1853年11月18日 06:00|ベリーズ/イギリス| ||<就任>ベリーズ 居留地管理者(ジヤマカの知事に従属)代行「ジョージ・ハーレー」(2回目~18540309)
- 1853年11月18日-09:00|日本| ||嘉永6年10月18日|破魔弓、菖蒲甲、刀、羽子板など、金銀金物や箔の使用を禁止
- 1853年11月20日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督「チャールズ・エリオット卿」(2期目~18540213)
- 1853年11月21日-05:30|インド/イギリス| ||ジャンシー国はイギリス領インドの一部(北西部州の一部)
- 1853年11月21日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国フォルクスター 議長「(コーリス)ポトキーター」(14回目~12.6)
- 1853年11月21日-02:00|ルーマニア/ロシア| ||<就任>モルダヴィア行政評議会(ティウアン)のロシア副議長(ワキア大統領に従属)「クニャースのミハイル・アレクサンドロヴィチ・ウルソフ」(~同年)
- 1853年11月21日-02:00|ルーマニア/ロシア| ||モルダヴィアはロシアに占領される(~18540902)
- 1853年11月22日 00:00|イギリス| ||<死去>4代ダートマス伯「ウィリアム・レグ」
- 1853年11月22日 00:00|イギリス| ||<就任>5代ダートマス伯「ウィリアム・ウォルター・レグ」先代の息子(~18910804死去)
- 1853年11月23日-09:00|日本|東京都千代田区|嘉永6年10月23日|<任命>第13代征夷大将軍「徳川家定(家祥より改名)」
- 1853年11月24日 00:00|セントヘレナ/イギリス| ||<死去>イギリス領トリスタン・ダ・ケニヤ島民総代「ウィリアム・ケラス」
- 1853年11月25日 00:00|南極/アメリカ| ||バークオリエンタルでアメリカ人大尉ジョンJ.ヒアトがヒアト島発見
- 1853年11月27日-09:00|日本|岩手県|嘉永6年10月27日|閉伊郡一揆で、南部藩は農民側の提案を受け入れ、首謀者も処罰せず、一揆は終結する
- 1853年11月30日-04:00|ロシア/トルコ| ||<クリミア戦争:スィフの海戦>ロシアのナモフ提督の黒海艦隊が、スィフに投錨していたトルコ艦隊を襲って撃破
- 1853年12月-09:30|オーストラリア| ||グイクトリア、金鉱管理法の修正/3、6、12か月の許可料をそれぞれ2、4、8ポンドとする
- 1853年12月 00:00|セントヘレナ/イギリス| ||<就任>イギリス領トリスタン・ダ・ケニヤ島民総代「アレクサンダー・コットン」(~1857.10)
- 1853年12月1日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|嘉永6年11月|江戸幕府、浦賀に造船所開設(1876年閉鎖)
- 1853年12月1日-09:00|日本|東京都墨田区|嘉永6年11月|<大相撲>嘉永6年11月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(東前1)雲龍, 8勝0敗2休
- 1853年12月1日-09:00|日本| ||嘉永6年11月1日|幕府、外国語を船舶や銃砲の名称およびその練習用語に用いることを禁じ薬屋などの商標にも洋字の使用を禁止

1860迄 (3252件)

- 1853年12月3日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ファン・ヌニョ・ゴンザレス・デ・ラ・ペス・エライ・カベッロ」(~18540921)
- 1853年12月5日-05:30|インド| |||<即位>カンカウ国統治者(マハラジャ・テ・イラージ)「ナルハル・デ・オ」(~1903年5月没)
- 1853年12月11日-05:30|インド| |||<死去>ナグプール国統治者(マハラジャ・セナ・サヒブ・スハ-)「ラグージ 3世ハフ・サヒブ」
- 1853年12月11日-05:30|インド/イギリス| |||ナグプール国がイギリス領インド(中部州の一部)に併合される
- 1853年12月13日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 暫定知事「Louis Laurent Auguste Guillet」(1期目~18540113)
- 1853年12月15日-09:00|日本|東京都|嘉永6年11月15日|<死去>5代澤村宗十郎(52歳)歌舞伎役者
- 1853年12月17日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《ピアノソナタ第1番ハ長調Op. 1》
- 1853年12月20日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン 総督代理「Ramon Montero y Blandino」(1期目~18540202)
- 1853年12月25日-09:00|日本|山形県東根市|嘉永6年11月25日|<死去>出羽長瀬藩11000石「米津政謨」(66歳)⇒養子「米津政易」が継ぐ(⇒万延元(1860)年5月9日、隠居)
- 1853年12月30日 07:00|メキシコ/アメリカ| |||米国, メキシコがガズデン買収条約に調印/アリゾナとニューメキシコ州全土が米国領となる, メキシコとの国境画定
- 1854年-13:00|トンガ/イギリス| |||H. M. S. ヘルムスのイギリス大尉H. デナムが、ミネルバ礁と名付けて2つの岩礁をチャート化した
- 1854年-08:00|フィリピン| |||<死去>キントゥ・サ・スルタン「Sikandar Kudratullah ムハンマド・シヤマルル・Azam bin Raja Tiwa」
- 1854年-08:00|インドネシア| |||<即位>サンハス国スルタン「Umar Kamal ud-din」(~1866年)
- 1854年-08:00|インドネシア| |||<即位>スマタラ 君主「Natakusuma」(~1879年)
- 1854年-08:00|フィリピン| |||<即位>キントゥ・サ・スルタン(摂政)「Datu Amirul Intirinu Musa」(~1857年)
- 1854年-05:30|インド| |||<就任>ジュバル国統治者(ラ)「カラム・チャント」(2回目~18770317)
- 1854年-05:30|インド| |||<就任>スルガナ国統治者(デ・シュムク)「ムガル・ラオ」(~1867年)
- 1854年-05:30|インド| |||<就任>ターコティ国統治者(ターケル)「ハラスラム」(~1856年没)
- 1854年-05:30|インド| |||<就任>バウガール国統治者(タクル・サヒブ)「ジャシュワツィムジ・ハ・ウ・シムジ」(~18700411没)
- 1854年-05:00|キルギス| |||<死去>キルギス汗国カーン「オモン・カーン」
- 1854年-05:00|パキスタン| |||<即位>カトール朝国王「Muhtarram Shah Kator3世」
- 1854年-04:00|セイシェル/イギリス| |||<就任>イギリス領セイシェル長官代行「ウリアム・フォート」(3度目~同年)
- 1854年-03:00|ペラルーシ/ロシア| |||<就任>ウイテフスク、モクシヨフ、スモレンスクのロシア総督「クニャージ・ミハイル・アレクサンドロヴィッチ・ウソワ」(~18560229)
- 1854年-03:00|エリトリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国マッサラ総督「イブラヒム・ハ・シャ」(~1861年)
- 1854年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バスのリス「ハシム・ダハズ・アサド・ウエイシ・ハ・シャ」(1回目~1855年)
- 1854年-02:00|ザンビア| |||<就任>カゼンバ 統治者(ムワ・カゼンバ)「カゼンバ 6世チヤンタ1世ムノナ1世」(~1862年没)
- 1854年-02:00|ルーマニア| |||<復位>ワキア公「バルブ・スティルバイ」(2期目~1856年)
- 1854年-02:00|ルーマニア/トルコ| |||ワキアをオスマントルコが占領(~18540821)
- 1854年-01:00|フランス| |||<就任>キース公「フランソワ・ルイ」フランソワ・ポール弟(~1872年死去)
- 1854年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Mariano Rebagliato y Pescetto」(~1857年)
- 1854年-01:00|ニジェール| |||<就任>ドゥツ支配者(ザルマキョイ)「コツム」(~1865年)
- 1854年-01:00|リビア/トルコ| |||<即位>オスマン帝国フェザン・スルタン「ジューマ・イブン・ハリファ」反乱(2度目~1856年)
- 1854年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>グランバッサム(ヌムル砦)民間司令官「ピエール・アレクサンドル・マイユタル」(1回目~1855年)
- 1854年 00:00|トゴ| |||<就任>ゲニガバ 統治者(フィオ)「エウエ・セー」(~1856年没)
- 1854年 00:00|セネガル| |||<就任>サルム統治者(フル・サルム)「ソセ・ビゲ・ンジエ」⇒「クンバ・ンタマ・ムホジ」(~1859年)
- 1854年 00:00|セネガル| |||<就任>サア統治者(ファンカマ)「ジユカ・サンバラ・ジヤロ」(~1880年)
- 1854年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>ス統治者「サタン・ライ」(ロウにて)
- 1854年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>タブー(テュコス砦)民間司令官「ターハン」
- 1854年 00:00|セネガル| |||<就任>バウル統治者(ティン)「セ・ヤン・ンゴン・ジエケン・ファル」(1回目~1855年)
- 1854年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督「ペドロ・エンリクス・ロマオ・フェレイラ」
- 1854年 00:00|セネガル| |||<就任>ブントウ統治者(アルマミ)「アマティ・ゲイシ」(反乱~1856年)
- 1854年 04:00|モントセラト/イギリス| |||<就任>イギリス領モントセラト大統領「Hercules George Robert Robinson」(~1855年)
- 1854年 04:00|トミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミニカ副総督代行「ジェームズ・レイン・フレムナー」(~1856年)
- 1854年1月1日-11:00|ニューカレドニア/フランス| |||<就任>ニューカレドニア司令官「Louis Tardy de Montravel」(~18541031)
- 1854年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「フリートリッヒ・フレイヘーローゼ」Lib(1期目~12. 31)
- 1854年1月1日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||オーストリアとプロイセンの間で通商協定が実施(-18651231)
- 1854年1月1日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領「セルマリア・カルティア・アニーノ」(~同年)⇒「ファン・エチャリア」(~1855年)
- 1854年1月1日 08:00|ヒトケアン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヒトケアン諸島主任判事「アーサー・Quintal2世」(3期目~12. 31)
- 1854年1月3日-12:00|ニューゼーランド/イギリス| |||<就任>ニューゼーランド 総督代行「ロバート・ヘンリー・ウィンヤート」(1回目~18550906)
- 1854年1月3日-09:00|日本|IHI|嘉永6年12月5日|<創設>石川島造船所(中央区佃島)徳川齊昭、水戸藩
- 1854年1月3日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|嘉永6年12月5日|露使フチャーチン、長崎に再び来港、通商を促す(幕府

1860迄 (3252件)

の代表に拒絶される)

- 1854年1月4日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルスラード議長「C. D. (コーリス)ホトキーター」(15回目~2. 1)
- 1854年1月4日-01:00|フランス/イギリス/トルコ| |||オスマン朝の要請でイギリスとフランスの連合艦隊が黒海へ侵入
- 1854年1月4日 00:00|ポルトガル| |||<就任>アンガル地区暫定民政知事「Joao Silverio de Amorim da Guerra Quaresma」(~6. 25)
- 1854年1月4日 00:00|南極/アメリカ| |||サランに乗ってウィリアム・マクナルト大尉がマクナルト諸島発見
- 1854年1月6日-09:00|日本|兵庫県東海市|嘉永6年12月8日|<交替>播磨三草藩1万石「丹羽氏賢」隠居⇒婿養子「丹羽氏中」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1854年1月7日 05:00|ペルー| |||カステージャ、政権復帰を狙い蜂起
- 1854年1月7日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|嘉永6年12月9日|<死去>出羽亀田藩2万石「岩城隆喜」(63歳)⇒翌年2月28日、四男「岩城隆永」が継ぐ(⇒翌年5月14日、死去)
- 1854年1月8日 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー-島総督司令官知事「William Carr Beresford」
- 1854年1月10日 04:00|セントクリストファー-ネイビス| |||<就任>ネイビス大統領「フレデリック・シーモア」(~1857年)
- 1854年1月10日 05:00|タークス-カイコス諸島/イギリス| |||<就任>タークス-カイコス諸島評議会議長「William Robert Inglis」(~1862年)
- 1854年1月13日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ知事「Philibert Augustin Bonfils」(~18560528)
- 1854年1月16日 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領コールト=コースト総督・最高司令官「ステイブソン・ジョンヒル」(2回目~12. 13)
- 1854年1月18日 07:00|メキシコ| |||ウーカ、さらにソノラ州まで支配を広げ、「ソノラ共和国」を宣言
- 1854年1月18日-09:00|日本|富山県富山市|嘉永6年12月20日|<死去>越中富山藩10万石「前田利友」(21歳)⇒翌年2月12日、弟「前田利声」が継ぐ(⇒安政6(1859)年11月22日、隠居)
- 1854年1月18日-01:00|チエコ/スロバキア| |||ユリウス暦1月6日|ホヘミアがグレゴリウス暦を採用
- 1854年1月24日-09:00|日本| ||嘉永6年12月26日|幕府、新貨南鐐一朱銀を発行
- 1854年1月26日 04:00|トリニダード-トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事代行「レジント・レ・チャールズ・ハウチャー」(~3. 10)
- 1854年1月29日-09:00|日本| ||嘉永7年|水戸藩主徳川斉昭の命によって編纂がすすめられていた『北島志』全5巻、豊田亮らによって完成。北地の歴史と地理・ロシア交渉等まで詳述。イカリに関しては17世紀に派遣した快風丸関係、イカリ川の鮭漁等について触れる
- 1854年1月29日-09:00|日本| ||嘉永7年1月|<出版>溪斎英泉「英雄画史」
- 1854年1月29日-09:00|日本|京都府京都市|嘉永7年1月1日|田中久重、京都寺町で蒸気力を利用した「からくり芝居」を興行
- 1854年1月30日-09:30|オーストラリア| |||フリーマン・コブ、コブ・アント・コブを駅馬車会社に転換、フォレスト・クリク、ベンディング、メルボルン間に定期便を運行
- 1854年1月30日 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>フランス領セネガル総督「オーギュスト・レオポルド・フロット」(2回目~12. 16)
- 1854年1月31日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア総督「Louis Adolphe Bonard」(~18551030)
- 1854年2月 00:00|モロッコ| |||<就任>モロッコ大宰相「モハメド・アル・サファール」
- 1854年2月1日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領代行「ビセンテ・ゴメス」(~15日)
- 1854年2月2日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィピン総督「マヌエル・パビア」(~10. 28)
- 1854年2月5日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|嘉永7年1月8日|露ブチャチン艦隊、長崎出港
- 1854年2月5日-08:00|中国| ||清・咸豊4年1月8日|太平軍の北上部隊が、天津近郊で敗北し退却
- 1854年2月6日-01:00|フランス/イギリス/ロシア| |||ロシアがイギリス、フランスと国交を断絶
- 1854年2月13日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「モンゴメリー・ウリアムス 中佐」(~10. 3)
- 1854年2月13日-09:00|日本/アメリカ|神奈川県横須賀市|嘉永7年1月16日|アメリカ合衆国印度洋艦隊司令官マッシュ・ペリー提督が軍艦7隻を率いて神奈川沖に再来日
- 1854年2月15日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領「セルマリア・サンマルティン・イ・フゴン」(2回目~18560201)
- 1854年2月15日-08:00|中国/アメリカ| ||清・咸豊4年1月18日|上海にアメリカ租界が開設される
- 1854年2月16日-01:00|ドイツ| |||<初演>フランチリスト《交響詩「ホルフェウス」》
- 1854年2月17日-02:00|南アフリカ| |||南部アフリカにボータ人が「オレンジ 自由国」建国(⇒第二次ボータ戦争後1902年英国植民地に)
- 1854年2月17日-09:00|日本|兵庫県三田市|嘉永7年1月20日|<交替>摂津三田藩36000石「九鬼隆徳」隠居⇒長男「九鬼精隆」が継ぐ(⇒安政6(1859)年8月19日、36歳で死去)
- 1854年2月21日-09:00|日本| ||嘉永7年1月24日|嘉永一朱銀の通用開始
- 1854年2月22日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド総督代行「ブラトン・イワノビッチ・ロコフスキー」(3回目~18550124)
- 1854年2月22日-01:00|ドイツ| |||<初演>フランチリスト《交響詩「前奏曲」》
- 1854年2月23日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||イギリスがボータ人とブルムフォンテン条約を結び、オレンジ 自由国の独立を承認
- 1854年2月24日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オレンジ 自由国臨時政府大統領「ジョサイアス・フィリップス・ホフマン」(~3. 29)フォルスラード会長
- 1854年2月27日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルスラード議長「(コーリス)ホトキーター」(16回目)
- 1854年2月28日-01:00|ポーランド| |||スタニスワフ・モシツェ作曲のオペラ「ハルカ」初演

1860迄 (3252件)

- 1854年2月28日 04:00|英領ガージン諸島/イギリス| |||<死去>バージン諸島主席「John Cornell Chads」
- 1854年2月28日 06:00|ニカラガア| |||<就任>ニカラガア共和国大統領「ホセ・フクト・チャモ・ペレス」(~18550312)
- 1854年2月28日 06:00|アメリカ| |||ウイコンシン州リボンで、旧ウィッグ 党を母体に民主党の分派などが結集し共和党が結成される
- 1854年3月1日 07:00|メキシコ| |||メキシコの自由主義者、独裁と腐敗を極めるサタナを追放。その後内戦に移行
- 1854年3月1日-09:00|日本| ||嘉永7年2月3日|幕府、異国船見物禁止令布告
- 1854年3月2日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「暫定軍事評議会:ホキン・デ・サンペント・モレイラ・レイス/アントニオ・ファウステイノ・ド・ス・サントス・クレス・/シヨアン・バシント・タバレス」(~10.18)
- 1854年3月3日-09:30|オーストラリア| |||メルボルンとウリアムズ・タウン間に電信線が開通
- 1854年3月5日 03:00|アルゼンチン| |||<就任>アルゼンチン連合第3代大統領「フスト・ホセ・デ・ウルキサ」連邦派(~18600305)
- 1854年3月6日-09:00|日本|愛媛県松山市|嘉永7年2月8日|<再建>松山城天守閣(天明4年の落雷による焼失)
- 1854年3月8日-09:00|日本|神奈川県横浜市中区|嘉永7年2月10日|横浜山手外国人墓地創始
- 1854年3月9日 06:00|ペリリス/イギリス| |||<就任>ペリリス 居留地管理者(シマヤカの知事に従属)「ウリアム・ステイブソン」(~1857年)
- 1854年3月9日-09:00|日本| ||嘉永7年2月11日|<死去>2代吉住小三郎(55歳)長唄唄方
- 1854年3月10日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事「チャールズ・エリオット卿」(~18561027)
- 1854年3月12日-01:00|フランス/イギリス/トルコ| |||イギリスとフランスが、ロシアに対抗するためにオスマン帝国と軍事同盟を結ぶ
- 1854年3月12日 03:00|ウルク・アイ| |||<再任>ウルク・アイ東方共和国大統領「ベナシオ・フローレス」コロラド 党(1回目~18550910)
- 1854年3月13日-08:00|マレーシア| |||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「トウアック・ザ・イタル・ラシト・ムアッザム・シャー1世・イブニ・アル=マルフム・スルタン・アフマト・タジ・ユテ・イン・ハリム・シャー」
- 1854年3月13日-08:00|マレーシア| |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「トウアック・アフマト・タジ・ユテ・イン3世 ムカラム・シャー・イブニ・アル=マルフム・スルタン・ザ・イタル・ラシト・ムアッザム・シャー」(~18790622没)
- 1854年3月13日-01:00|スウェーデン| |||<死去>セーテルマンラント 公「カール・オスカル」
- 1854年3月14日-05:30|インド| |||<即位>カウリ国マハラジャ「マタン・パール」(~18690816没)
- 1854年3月16日 04:00|英領ガージン諸島/イギリス| |||<就任>バージン諸島主席「Cornelius Hendricksen Kortright」(~1857.1)
- 1854年3月18日 00:00|イギリス| |||<死去>初代リッチフィールド 伯「トマス・ウリアム・アンソン」
- 1854年3月18日 00:00|イギリス| |||<就任>2代リッチフィールド 伯「トマス・ジョージ・アンソン」(~18920107死去)
- 1854年3月21日-09:00|日本/アメリカ|神奈川県横浜市中区|嘉永7年2月23日|横浜村の応接所で、ペリーの持参した模型蒸気機関車の試運転を行う
- 1854年3月22日-09:00|日本/アメリカ|神奈川県横浜市中区|嘉永7年2月24日|再来したペリーは、モルスの通信機を将軍に献じ横浜で1マイル間の有線通信公開実演を行う/日本初の電気通信
- 1854年3月24日 04:30|ペネズエラ| |||ホセ・ゲレゴリオ・モカス大統領、奴隷解放令を発布
- 1854年3月24日-09:00|日本|東京都墨田区|嘉永7年2月26日|<大相撲>嘉永7年2月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(西前4)象ヶ鼻、8勝0敗2休
- 1854年3月27日-01:00|イタリア| |||<死去>パルマ公「カルロ3世」暗殺される/31歳
- 1854年3月27日-01:00|イタリア| |||<即位>パルマ公「ロベルト1世」(~18590609~19071116死去63歳)
- 1854年3月27日 00:00|イギリス| |||<死去>4代ホートランド 公「ウリアム・キャウエンデ」イッシュ=スコット=ペンティンク
- 1854年3月27日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ホートランド 公「ウリアム・キャウエンデ」イッシュ=ペンティンク=スコット(~18791206死去)
- 1854年3月28日-01:00|フランス/イギリス/ロシア| |||ロシア暦3月16日|イギリスとフランスが黒海に艦隊を派遣し、ロシアに宣戦布告
- 1854年3月29日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オランジ 自由国臨時政府大統領「シヨサイアス・フィリップ・ス・ホフマン」(~4.15)
- 1854年3月29日-09:00|日本|東京都台東区|嘉永7年3月|<初演>2代目河竹新七の「都鳥廓白浪」が河原崎座で
- 1854年3月31日-09:00|日本/アメリカ|神奈川県横浜市中区|嘉永7年3月3日|江戸幕府と米国使節ペリーが横浜で「日米和親条約」に調印/日本は下田と箱館(函館)を開港し、鎖国解除
- 1854年4月-01:00|ドイツ| |||<初演>フランス・リスト《交響詩「マゼッパ」》
- 1854年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「シロラモ・ゴジ」|「ピエトロ・ウゴリーニ」
- 1854年4月2日-01:00|フランス| |||パリで、週刊紙のル・フィガロが復刊
- 1854年4月3日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルスター 議長「(コーリス)ホトギーター」(第17回~10日)
- 1854年4月5日-05:30|インド| |||<就任>クランド・ワト=ジュニア部統治者(王)「トリンバクワオ・アハ・サヒブ」(~1869年没)、「ウイナクワオ・アッパ・サヒブ・ハトワルタン」(~1876年)、「ガンパトラオ・ハリハラオ・バフ・サヒブ」(~1899年没)
- 1854年4月5日-05:30|インド| |||クランド・ワト 国がシニア部とジュニア部に分割
- 1854年4月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>ドイツの医師バセト-/55歳(誕生17990328)バセトウ氏病を発見した
- 1854年4月13日-08:00|中国/イギリス| |||清・咸豊4年3月16日|<就任>第4代香港総督「サー・ジョン・ハウキング」(~18590909)
- 1854年4月14日-04:00|モリシャス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官代行「ウリアム・ザラント」(3回目~18550118)
- 1854年4月15日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オランジ 自由国国家大統領代行「シヨサイアス・フィリップ・ス・ホフマン」(⇒9.13、大統領~18550210)
- 1854年4月15日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オランジ 自由国政府書記「ヤコフ・ス・グーレンダール」(~18550903)
- 1854年4月17日 05:00|コロンビア/パナマ/エクアドル/ペルー/ブラジル/コスタリカ/ペネズエラ/ニカラガア| |||<就任>ヌエバ・グラタダ 共和国大統領「ホセ・マリア・デ・イオニオ・ロ・イ・オルティス(臨時政府最高責任者)」(~12.4)ケテターにより
- 1854年4月17日-09:00|日本|山形県鶴岡市|嘉永7年3月20日|<死去>酒井忠器(65歳)前出羽庄内藩主

1860迄 (3252件)

- 1854年4月20日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||オーストリアとプロシヤの間に対ロシア同盟が成立
- 1854年4月20日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|嘉永7年3月23日|ロシア使節、海軍中将ワグネル軍艦3隻にて再び長崎へ来航
- 1854年4月21日 05:00|コロンビア| |||<就任>ヌバ・グランダ共和国大統領代行「トマス・ホセ・ラモン・デル・カメン・デ・エレラ・イ・ペレス・ダ・ビラ」(チョコタで反乱~8.5)
- 1854年4月21日-09:00|日本|静岡県下田市|嘉永7年3月24日|幕府が下田奉行を再び設置
- 1854年4月24日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク州総督「バスコ・ゲデス・デ・カヴァリョ・メネズ」(~18570926)
- 1854年4月25日-09:00|日本|静岡県下田市|嘉永7年3月28日|吉田松陰、米艦にて密出国を願うが拒否され、下田奉行所に自首、拘禁される
- 1854年4月26日 06:00|アメリカ| |||アメリカのマサチューセッツに移住援助協会が発足
- 1854年4月27日-09:00|日本|東京都品川区|嘉永7年4月|品川沖台場のうち1から3番までが完成
- 1854年4月28日 04:00|アルバ/シント・マルテン/キュラソー/BES諸島| |||<就任>オランダ領アンティル総督代理「Jacob Bennebroek Gravenhorst」(~18560225)
- 1854年4月30日 03:00|ブラジル| |||リオのマア・ペトローリス間にブラジル最初の鉄道が開通
- 1854年5月 00:00|セネガル| |||<就任>ファタ・トロ統治者(アルマミ)「ママトゥ・ビラン・ワン」(8回目~1856年3月)
- 1854年5月 07:00|メキシコ| |||ラパスのウーカ軍、内部の腐敗により崩壊/蜂起した住民に追われ米国に逃げ帰る
- 1854年5月2日-09:00|日本|東京都新宿区|嘉永7年4月6日|牛込矢来下の水車で製造中の火薬が爆発、死傷者多数
- 1854年5月2日 03:00|日本|京都府京都市|嘉永7年4月6日|(~7日)<京都嘉永7年の大火「毛虫火事」>午の中刻(正午ごろ)、御所築地内の南東に位置する仙洞御所北殿から出火、内侍所(賢所:神鏡を奉安している建物)、紫宸殿(儀式を行う建物)などへたちまち炎が移り、准后(皇族の待遇を受けている臣下)の住まいも炎上/御所から出た炎は一条殿と今出川殿の屋敷を焼いて町家へ移り、町家の焼失は下は出水通り堀川まで、堀川通りは榎木町まで、大宮通りは下立売まで、西は沼日暮まで、出水通りは浄福寺通りまで、一条通り上長者町通りは千本通りまで焦土と化した/上は知恩院笹屋町裏通りまで、元誓願時通り南側堀川まで、今出川通りは新町まで焼失し、それより東は武者小路通り烏丸までなど御所近辺は残らず灰となった/翌日卯の刻(5時ごろ)鎮火/被害は町数229か町、家数にして8958軒、土蔵624棟が焼失
- 1854年5月5日 04:00|BES諸島| |||<就任>セント・ユースティウス島副知事「Willem Hendrik Johan van Idsinga」(~1860年)
- 1854年5月5日 06:00|ニカラガ| |||ニカラガでふたたび保守党(当時立憲党を自称)と自由党(当時民主党を自称)との間に内戦開始
- 1854年5月9日-09:00|日本|東京都|嘉永7年4月13日|<死去>角力年寄・稲川政右衛門、自殺
- 1854年5月9日-08:00|中国| |||清・咸豊4年4月13日|イギリス・フランス・アメリカの抗議で上海が自由港となる
- 1854年5月14日-05:00|パキスタン/イギリス| |||カト国はイギリスの保護下
- 1854年5月19日-05:30|インド| |||<就任>チャルナー国ラジャ「ジャット・シン」(~18671114没)、摂政「ラニ」(~1863年1月)
- 1854年5月19日-09:00|日本|東京都中央区|嘉永7年4月23日|吉田松陰密航事件に連座して、佐久間象山も逮捕され伝馬町獄入り
- 1854年5月22日-09:00|日本|千葉県君津市|嘉永7年4月26日|<死去>上総国久留里藩3万石「黒田直静」(45歳)⇒養子「黒田直和」が継ぐ(⇒慶応2(1866)年4月2日、隠居)
- 1854年5月23日 04:00|ガイアナ/イギリス| |||<就任>イギリス領ギアナ総督「フィリップ・エドモンド・ウッドハウス」(~18570725)
- 1854年5月23日-09:00|日本|千葉県木更津市|嘉永7年4月27日|<交替>上総請西藩1万石「林忠旭」隠居⇒弟「林忠交」が継ぐ(⇒慶応3(1867)年6月24日、伏見にて死去)
- 1854年5月23日-04:00|ロシア/韓国/朝鮮| |||清・咸豊4年4月27日|ロシア船が咸鏡道で住民を殺害
- 1854年5月26日-06:30|ココス諸島| |||<死去>ココス(キリング)諸島統治者「John Clunies-Ross」
- 1854年5月26日-06:30|ココス諸島| |||<就任>ココス(キリング)諸島統治者「John George Clunies-Ross」(~18710608死去)
- 1854年5月26日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地総督代行「チャールズ・ハンリー・ダーリング」(~12.5)
- 1854年5月26日-02:00|ギリシャ/イギリス/フランス| |||ヒレウスはクリミア戦争中にギリシャの中立を強制するために英仏軍に占領された(~18570228)
- 1854年5月27日-09:00|日本| |||嘉永7年5月|<出版>長谷川雪堤、喜多武一、山崎武陵、板橋貫雄等の挿画「成田山名所図会」
- 1854年5月28日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ首相(閣僚理事会議長)代行「コンスタンティノス・ミハイル・カリス」(~8.29)
- 1854年5月29日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「クプリュルメフト・エミン・パシャ」(1期目~11.23)
- 1854年5月29日-02:00|ウクライナ| |||プロウイナがロシアから完全分離
- 1854年5月30日 06:00|アメリカ| |||ヒアース、カンザス=ネブラスカ法に署名/ミズーリ州とアイオワ州の西側に広がる地域が準州として昇格。北緯40度を境として、カンザス州とネブラスカ州に分割される
- 1854年6月-05:00|ガブスタン/ロシア| |||シベリア・キルギス部が廃止され、旧中ジユスと旧大ジユスの大部分が完全にロシアに編入された
- 1854年6月-03:00|イェメン/イギリス| |||<就任>イギリス領アデン代理人「ジェームズ・Outram」(~9月)
- 1854年6月5日 06:00|カナダ/アメリカ| |||アメリカとカナダの間に互惠通商条約が調印される、カナダの農産物に対して米市場開放
- 1854年6月5日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|嘉永7年5月10日|江戸幕府「鳳凰丸」(600t)浦賀造船所で竣工(日本で建造された最初の洋式大型軍艦)

1860迄 (3252件)

- 1854年6月5日-08:00|中国| ||清・咸豊4年5月10日|上海に英仏米が管理する税関が設置される
- 1854年6月7日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国フォルスワード議長「ヨハネス・ヘルマンス・グロブラー」(第8回~15日)
- 1854年6月10日-01:00|ナイジェリア/イギリス| ||<死去>ビッファラ湾英国領事「ジョン・Beecroft」
- 1854年6月10日-01:00|ナイジェリア/イギリス| ||<就任>ビッファラ湾英国領事代理「ジェームズ・ウィリアム・Bishop Lynslager」(~18550922)
- 1854年6月10日-01:00|赤道ギニア/イギリス| ||<就任>フェルナント・ポ-総督代行「ジェームズ・ウィリアム・リンズレーガー-司教」(~18580527)
- 1854年6月10日-09:00|日本|香川県高松市|嘉永7年5月15日|高松城下中新町出火。78軒焼失
- 1854年6月13日-09:00|日本/ロシア|北海道|嘉永7年5月18日|クシコクンのロシア兵、全員退去
- 1854年6月14日-01:00|オーストリア/トルコ| ||オーストリア-オスマン条約が調印され、奥がドナウ川流域の2州を占領
- 1854年6月15日-09:00|日本/アメリカ| ||嘉永7年5月20日|日米通貨交換比率(金:金貨1ドル=通用銀8匁3分6厘、銀:銀貨1ドル=通用銀16匁、銭:1ドル=1貫600文)及び石炭価格の協定成立
- 1854年6月19日-01:00|ドイツ| ||<死去>ロイス=ケータ侯「ハインリヒ62世」
- 1854年6月19日-01:00|ドイツ| ||<就任>ロイス=ケータ侯「ハインリヒ67世」(~18670711死去)
- 1854年6月19日-08:00|中国| ||清・咸豊4年5月24日|広東で天地会が蜂起
- 1854年6月20日-09:00|日本/アメリカ|静岡県下田市|嘉永7年5月25日|幕府が、日米和親条約付録協定(下田協定)に調印
- 1854年6月24日-01:00|オーストリア| ||<初演>フランツ・ペーター・シュベルト《歌劇「アルフォンソとエストレーラ」》
- 1854年6月25日 00:00|ポルトガル| ||<就任>アンチャル地区民政知事「Jose Gerardo Ferreira de Passos」(~18560601)
- 1854年6月25日-09:00|日本/アメリカ|静岡県下田市|嘉永7年6月1日|ペリ-艦隊、下田を発ち離日-那覇から香港へ
- 1854年6月26日 10:00|ポリネシア/フランス| ||<就任>アヒネ統治者「Te uru ra`i Ari`i mate」(~18680626)
- 1854年6月29日-09:00|日本|福岡県北九州市|嘉永7年6月5日|<交替>小倉新田藩(篠崎屋敷)1万石「小笠原貞嘉」本家小倉藩主「小笠原忠徴」の養嗣子となって忠嘉と改名⇒兄「小笠原貞寧」が継ぐ(⇒安政3(1856)年6月6日、隠居)
- 1854年7月-03:00|スーダン/エジプト| ||<就任>エジプト領スーダン総督「アリ・ハシヤ・シリアル=アルナウト」(~11月)
- 1854年7月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュコラのワリス「オスマン・ハシヤ」(~9月)
- 1854年7月 00:00|イギリス/ニカラガ/アメリカ| ||米軍艦「シャイアン」、ふたたびグレートタンに上陸。英軍基地を破壊/イギリスは屈服
- 1854年7月5日-01:00|フランス| ||プロ-ニュの森が完成
- 1854年7月5日-09:00|日本|東京都|嘉永7年6月11日|江戸柏木淀橋の火薬製造所で大爆発事故。付近家屋に大被害
- 1854年7月6日 06:00|アメリカ| ||ミシガン州で、奴隷制に反対するミシガン市民が、新党を結成し、「共和党」と名付ける
- 1854年7月7日-05:30|インド| ||ホッパ・イにインド人経営の最初の紡績工場ができる
- 1854年7月7日-01:00|ドイツ| ||<死去>G. S. オーム/67歳(誕生17870316)オームの法則のドイツの科学者
- 1854年7月7日 01:00|日本|福井県福井市|嘉永7年6月13日|<福井嘉永7年の「塩町大火」>巳の刻(午前10時ごろ)京町の隣の塩町の鍛冶屋次郎助方から出火、城西の町家のほとんどを焼き尽くし、さらに北方の神明町、松本町まで延焼、町家のほか与力町裏や上油町の足軽組屋敷も焼失、丸山、幾久村までも飛び火/町家224軒、土分屋敷54軒、卒分(足軽など)家390軒、計2686軒焼失/そのほか土蔵196棟、小屋3棟、物置3棟、西本願寺掛所、東本願寺掛所、本覚寺、光照寺など寺社61か所、在家道場23軒、山伏の家9軒、武道道場2棟、御堂2棟、牢屋1か所/消火のための潰家22軒
- 1854年7月9日-07:00|日本| ||嘉永7年6月15日|<嘉永7年伊賀上野地震>暁、丑の刻(午前2時ごろ)伊賀、伊勢から大和、近江国にわたり、マグニチュード7クラスの地震/全体の被害は、1308人死亡、家屋全潰5787軒、同全焼62軒、土蔵全潰1246棟、寺社全潰570か所、堤防破壊622か所、山崩れ4506か所
- 1854年7月11日-05:30|インド| ||<就任>ハラール国統治者(テイワン)「ゾラル・モハマト・カーン」(~18780828没)
- 1854年7月11日-09:00|日本/アメリカ|沖縄県|嘉永7年6月17日|琉球王府、米国と琉米修好約条を締結
- 1854年7月13日-02:00|エジプト/トルコ| ||<死去>オスマン帝国領エジプト総督「アッバス・ヒルミ・ハシヤ」宮廷内で召使により暗殺される(誕生1813年)
- 1854年7月13日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ムハンマド・サイト・ハシヤ」(~18630118没)
- 1854年7月14日-04:00|オマーン/イギリス| ||クイヤムリヤ諸島が英国に割譲(~19671130)
- 1854年7月15日-02:00|モルトバ/ロシア| ||<就任>ロシア領ベッサラビア州総督「ミハイル・セルゲイェヴィチ・イリンスキー」(~18571110)
- 1854年7月17日-01:00|ドイツ| ||<死去>ヘッセン=フィリップ=スタール=バルヒェルト方伯「カール」
- 1854年7月17日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Fernando Fernandez de Cordova」穏和党(~18日)
- 1854年7月17日-01:00|ドイツ| ||<就任>ヘッセン=フィリップ=スタール=バルヒェルト方伯「アレクシス」(~1866年退位、宗主のヘッセン選帝侯領がプロシヤ王国に併合されるに伴い、消滅)
- 1854年7月17日-01:00|オーストリア| ||ウィーンとトリエステの間に、急勾配のゼーリング峠を通過する世界初の山岳鉄道路線が開設される
- 1854年7月17日-01:00|スペイン| ||マドリッドでエスカルピョ派の反乱。各地でプロシヤアミエントと都市蜂起があいつぐ
- 1854年7月18日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Angel Saavedra」穏和党(~19日)
- 1854年7月19日-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワラキア総督・領主「コンスタンティン・イオラダッハ・カンタクジノ」(臨時行政長官)(~18540923)
- 1854年7月19日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Baldomero Espartero」進歩党(~18560714)

1860迄 (3252件)

- 1854年7月20日-09:00|日本|北海道|嘉永7年6月26日|幕府、松前藩領の箱館一帯を直轄領とする
- 1854年7月20日-08:00|中国| ||清・咸豊4年6月26日|反清復明、滅満興漢を旗印として、中国南部から東南アジアにわたって広く組織された秘密結社の「天地会」が反乱を起こし、広州を包囲
- 1854年7月22日-09:00|日本|東京都|嘉永7年6月28日|<死去>歌川国直(62歳)浮世絵師
- 1854年7月24日-05:30|インド| ||<就任>チュダ 国統治者(タークル)「ハ・チャルシツ・ライツ」(~19080113没)
- 1854年7月24日-09:00|日本|北海道函館市|嘉永7年6月30日|幕府が箱館奉行を再置
- 1854年7月26日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|嘉永7年7月2日|<死去>豊後日出藩25000石「木下俊方」(25歳)⇒弟「木下俊程」が継ぐ(⇒慶応3(1867)年5月29日、隠居)
- 1854年7月31日-01:00|スペイン| ||エスパーテロ将軍が、各地のブロンツァメントと都市蜂起などを背景として政権を樹立
- 1854年8月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワリス「Arif Mehmed Pasha」(~1855. 10)
- 1854年8月2日-09:00|日本| ||嘉永7年7月9日|幕府、日本製造の洋式大船に日本国惣船印として白地に旭日章の幟の使用を布達
- 1854年8月6日-09:00|日本|東京都|嘉永7年7月13日|<死去>椿椿山(54歳、生年1801年)画家
- 1854年8月9日-01:00|ドイツ| ||<死去>サケン王「フリート・リヒ・アウグスト2世」馬車事故による怪我によって
- 1854年8月9日-01:00|ドイツ| ||<即位>サケン王「ヨハン」(~18731029死去)
- 1854年8月9日 00:00|カナリア諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Gregorio Suarez Morales」(~30日)
- 1854年8月15日-05:30|インド| ||東インド 鉄道の加カッタとフーグリ間に初の旅客列車が開通
- 1854年8月16日-02:00|フィンランド/イギリス/フランス| ||連合軍(イギリスとフランス)によるオランダ 諸島の占領(~1855年11月)
- 1854年8月17日 06:00|アメリカ| ||<グ・ラットの虐殺>米ラミー砦でス族インディアンの返り討ちで米兵全滅
- 1854年8月19日-02:00|ルーマニア/オーストリア| ||<就任>ワキア総督・領主「エドワード・フライヘル・フォン・パッハ(オーストリア民事委員)」「ヨハン・ハプテスタ アレクシウス・グラーフ・コロニニコロンベルク(オーストリア軍事総督)」(~18560325)
- 1854年8月19日-02:00|ルーマニア/ロシア| ||ワキアはオーストリアが占領(~18541005~事実上18560325)
- 1854年8月20日-09:00|日本| ||嘉永7年7月27日|<死去>不知火諾右衛門(54歳)第8代横綱
- 1854年8月22日-02:00|ルーマニア/オーストリア| ||オーストリア軍が、オスマン軍の同意を得てモルダヴィア公国とワキア公国を占領
- 1854年8月22日-09:00|日本|熊本県|嘉永7年7月29日|肥後の石造り水道アチ型の通潤橋が完成
- 1854年8月29日-02:00|ギリシャ| ||<就任>ギリシャ首相(閣僚理事会議長)「アレクサンドロス・ニコラウ・マコリス」(4回目~18551004)
- 1854年8月30日 00:00|カナリア諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Pedro Garcia Arredondo」(~18560904)、暫定市民知事「Francisco Belmonte y Vilches」(1期目~10. 30)
- 1854年9月-03:00|イェメン/イギリス| ||<就任>イギリス領アデン代理人「ウィリアム・Marcus Coghlan」(~1859年)
- 1854年9月-02:00|キプロス/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領キプロス管財人「セメレ・イン・ムフメド・ハシヤ」(~1855年)
- 1854年9月-02:00|ルーマニア/オーストリア| ||<就任>モルダヴィア総督領主「エドワード・フライヘル・フォン・パッハ(オーストリア民事委員)」「ヨハン・ハプテスタ アレクシウス・グラーフ・コロニニコロンベルク(オーストリア軍事総督)」(~18560325)
- 1854年9月-02:00|ルーマニア/ロシア| ||モルダヴィアはオーストリアに占領される(~18560325)
- 1854年9月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュコラのワリス「サリム・ムフメド・ラキフ・ハシヤ」(~1855年1月)
- 1854年9月-01:00|スペイン/キューバ| ||ペドロ・マテオ、「黒い戦士」号事件の責任を問われ更迭。コンチャがふたたびキューバ 総督に着任
- 1854年9月 00:00|イギリス| ||コレラの流行に飲料水が関係していることをイギリスのメーが証明
- 1854年9月2日-02:00|ルーマニア/オーストリア| ||<就任>モルダヴィア総督領主「コンスタンティン・サントウ・スタルガ」(臨時行政評議会議長)」(2回目~10. 7)
- 1854年9月3日 00:00|イギリス| ||イギリス海軍のアロー級砲艦「HMSヒューゲル」ロンドンにあるC. J. マ社及びR&Hグリーン社で竣工(1863年香港で薩摩藩に売却され乾行と命名)
- 1854年9月6日-09:00|日本|奈良県葛城市|嘉永7年閏7月14日|<死去>永井直養(52歳)前大和新庄藩主
- 1854年9月7日-09:00|日本|イギリス|長崎県長崎市|嘉永7年閏7月15日|イギリス東インド 艦隊の司令長官スターリングが軍艦4隻を率いて長崎入港。露艦隊探索のため諸港の出入りを要求⇒8月29日退去
- 1854年9月11日 06:00|カナダ/イギリス| ||<就任>イギリス領カナダ 州共同首相「アラン・ネレ・アマクナブ 卿(1回目/カナダ 西部)」「オーガスティン・ノバート・モリン(2回目/カナダ 東部)」(~18550127)
- 1854年9月12日-09:30|オーストリア| ||メルルンとポート・メルルン(サントリツ)間に、最初の公営の蒸気機関鉄道がオープン
- 1854年9月13日-02:00|ウクライナ/イギリス| ||<就任>ウクライナ連合軍イギリス司令官「ラケラン男爵FitzRoy James Henry Somerset」(~18550629死去)
- 1854年9月14日-02:00|ウクライナ/フランス| ||<就任>ウクライナ連合軍フランス司令官「Armand Jacques Leroy de Saint-Arnaud」(~26日死去)
- 1854年9月14日-01:00|フランス/イギリス/ウクライナ/トルコ| ||英仏土連合軍がクリミア半島へ上陸開始
- 1854年9月16日-09:00|日本|島根県安来市|嘉永7年閏7月24日|<死去>松平直興(55歳)前出雲母里藩主
- 1854年9月17日-01:00|スイス| ||マッターホルン初登頂
- 1854年9月17日-09:00|日本|千葉県富津市|嘉永7年閏7月25日|<交替>上総佐貫藩16000石「阿部正身」隠居⇒長男「阿部正恒」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月22日、版籍奉還)
- 1854年9月19日-09:00|日本|東京都|嘉永7年閏7月27日|<死去>不知火諾右衛門・湊親方(相撲)8代横綱[1801年10月生~](享年52)
- 1854年9月21日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ハバナ侯爵ルイス・ガブリエル・デ・ラ・コンチャ・イ・イリゴエン」(2回目~18591124)

1860迄 (3252件)

- 1854年9月22日-09:00|日本| ||嘉永7年8月|<出版>一光齋芳盛「海外人物輯」
1854年9月22日-09:00|日本| ||嘉永7年8月|<出版>一立齋広重「扶桑蓬萊百首狂歌集」
1854年9月23日-02:00|ルーマニア/オーストリア| ||<就任>ワラキア総督・領主「ハ・フ・デ・イミトリ・ビ・ベ・スク・シュティルバ」(2回目~18560625)
1854年9月26日-02:00|ウクライナ/フランス| ||<死去>ウクライナ連合軍フランス司令官「Armand Jacques Leroy de Saint-Arnaud」
1854年9月26日-02:00|ウクライナ/フランス| ||<就任>ウクライナ連合軍フランス司令官「Francois Certain de Canrobert」(~18550516)
1854年9月27日 06:00|アメリカ/フランス| ||ニューヨーク市のコリス・ライン大西洋定期航路, 側輪蒸気船「アーケティック」が、ニューファンドランド島のケープ・レース沖で、フランスの鋼製蒸気船「ベスタ」と衝突後に沈没. 乗員乗客合わせて534人のうち、女性と子供109人を含め約350人が死亡
1854年9月27日-09:00|日本|大阪府大阪市|嘉永7年8月6日|<死去>8代市川團十郎. 大坂・島の内御前町の旅館「植久」で喉を突いて自殺(32歳、文政6(1823)1005生) 孝行者として表彰された人気歌舞伎役者
1854年9月28日-04:00|ロシア/イラン| ||イランとロシアが秘密協定を締結
1854年9月29日 05:00|コロンビア/アメリカ| ||アメリカ海軍スloop「アルバニー」(1042t)コロンビアのAspinwallにて遭難沈没
1854年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・グイ・ディ・ジヤンツ」 「ピエトロ・バルビエリ」
1854年10月3日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督「ワリマン・マレー」(1期目~18590618)
1854年10月4日-09:00|日本|埼玉県川越市|嘉永7年8月13日|<交替>武蔵国川越藩17万石「松平典則」隠居⇒養子「松平直侯」が継ぐ(⇒文久元(1861)年12月6日、隠居)
1854年10月7日-02:00|ルーマニア/オーストリア| ||<就任>モルダヴィア総督「グリゴリー・アレクサンドル・ギカ」(2回目~18560703)
1854年10月8日-09:00|日本|東京都|嘉永7年8月17日|<死去>高田郡吉田村出身の眼科医「土生玄碩」江戸にて(87)
1854年10月9日-08:00|中国| ||清・咸豊4年8月18日|<即位>昇平天国:定南王「胡有禄」(~1855年10月)、鎮南王「朱洪英」(~18580724)
1854年10月10日 05:00|バハマ/イギリス| ||<就任>バハマ植民地総督「アレクサンダー・バーナマン卿」(~18570418)
1854年10月12日-05:30|インド| ||<就任>レウコンジャ「ラウラージ・シン」(~1857年)
1854年10月13日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督代行「ロバート・ド・ガン」(1回目~12.27)
1854年10月14日-09:00|日本/イギリス|長崎県長崎市|嘉永7年8月23日|長崎奉行、日英和親条約に調印/長崎・箱館の2港が開港される
1854年10月14日-08:00|中国| ||清・咸豊4年8月23日|曾國藩の湘軍が、太平天国軍から武漢を奪取
1854年10月16日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国フォルスラード 議長「(コーリス)ホトキータ」(第18回~17日)
1854年10月16日 00:00|イギリス| ||<死去>5代アビントン伯「モンタギュー・パーティ」
1854年10月16日 00:00|イギリス| ||<就任>6代アビントン伯「モンタギュー・パーティ」(~18840228死去)
1854年10月17日-09:30|オーストラリア| ||メルボルン『エイジ』創刊
1854年10月17日-02:00|ウクライナ| ||クリミア戦争でセヴァストポリ攻防戦がはじまる
1854年10月18日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「セル・ド・リケス・コエリョ・ド・アマラル」(1回目、18550117まで暫定~18600808)
1854年10月18日-09:00|日本|愛知県岡崎市|嘉永7年8月27日|<死去>松平乗利(44歳)前三河奥殿藩主
1854年10月20日-09:00|日本/イギリス|長崎県長崎市|嘉永7年8月29日|英国使節スターリング、長崎出港
1854年10月23日-09:00|日本/オランダ| ||嘉永7年9月2日|幕府、オランダに対して下田と箱館の2港を開港
1854年10月25日-02:00|ウクライナ/フランス/イギリス/トルコ/ロシア| ||クリミア戦争:パルチザンの戦い>イギリス・フランス・トルコ連合軍がロシア軍に勝利
1854年10月25日 04:00|セントピント/イギリス| ||<就任>イギリス領セントピント副総督代行「ウィリアム・ホルド」(1度目~同年)
1854年10月28日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<再任>スペイン領フィリピン総督代理「Ramon Montero y Blandino」(2期目~11.20)
1854年10月30日-02:00|ルーマニア| ||<即位>モルダヴィア公「グリゴリー・アレクサンドル・ギカ」(2期目~18560603~18570824死去)
1854年10月31日-09:30|オーストラリア| ||ヴァンデイメンスランド 憲法法、国王の承認を受ける。憲法の承認を受けた最初の植民地
1854年11月-03:00|スーダン/エジプト| ||<就任>エジプト領スーダン総督「アリ・ハッサン・アル・シャカス」(~1856年)
1854年11月-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<就任>ボロジヤベッサリア総督「Nikolay Nikolayevich Annenkov」(~18550417)
1854年11月1日 00:00|セネガル/フランス| ||ゴレ島はセネガル植民地から分離し、アフリカ西海岸海軍師団司令官の支配下に置かれた
1854年11月6日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国フォルスラード 議長「(コーリス)ホトキータ」(第19回~10日)
1854年11月6日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|嘉永7年9月16日|<交替>陸奥棚倉藩6万石「松平康爵」隠居⇒弟「松平康圭」が継ぐ(⇒文久2(1862)年8月22日、死去)
1854年11月8日-09:00|日本| ||嘉永7年9月18日|<死去>永楽保全(60歳)陶工
1854年11月8日-09:00|日本| ||嘉永7年9月18日|吉田松陰、萩で蟄居の判決/佐久間象山、松代で蟄居の判決
1854年11月15日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン領メキシコ総督「Manuel Buceta del Villar」(1期目~1856年)
1854年11月16日-09:00|日本|東京都江東区|嘉永7年9月26日|深川八幡宮修復成就
1854年11月18日-09:00|日本|兵庫県加東市|嘉永7年9月28日|<死去>丹羽氏賢(44歳)前播磨三草藩主
1854年11月19日-09:00|日本| ||嘉永7年9月29日|幕府、武家諸法度を改正

1860迄 (3252件)

- 1854年11月20日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督「マヌエル・クルスホ」(~18561205)
- 1854年11月20日 10:00|ポロニア/フランス| |||<就任>フランス領ポロニア知事兼ソシエテ諸島帝国弁務官「フーゼ 侯Joseph Fidele Eugene」(1期目~18560313)
- 1854年11月20日-07:00|日本|北海道松前郡松前町|嘉永7年10月1日|<完成>松前城
- 1854年11月21日 10:00|ポロニア/フランス| |||<就任>ソシエテ諸島外特定フランス司令官「Louis Francois Roy」(~1856年)
- 1854年11月21日-09:00|日本| ||嘉永7年10月2日|幕府、警火令を発する
- 1854年11月23日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「カ・ムスタファ・レシト・パシヤ」(4期目~18550502)
- 1854年11月23日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>タウリアのロシア総督「Graf Nikolay Vladimirovich Adlerberg」(~18560606)
- 1854年11月28日-07:00|日本|北海道|嘉永7年10月9日|<蝦夷(北海道)松前嘉永7年の大火>丑の刻(午前2時ごろ)中川原町の茶屋・米屋から出火した。燃えさかる炎は火元の川原町をはじめ、蔵町、横町、下中町、袋町と延焼。ついで大松前町、枝が崎町まで延びて泊川石坂まで灰にした。一方、馬形町に延びた炎は、端立町、大田町、一本橋まで焼いた。馬形中町に延びた炎は浜町、後町、新町まで灰にするという大火となった。被害総数20人余死亡、焼失家屋およそ1700軒
- 1854年11月30日-09:30|オーストラリア| |||オーストラリアで採掘料に反対して金鉱夫がユリカ砦に籠城
- 1854年11月30日-02:00|エジプト| |||エジプト総督が、レップスにスエズ運河の建設を許可
- 1854年12月-05:30|インド| |||<就任>ムト・ル国統治者(ラジエ・ゴルパテ・パハドウル)「ハルワントラオ・ラジエ・ゴルパテ」(~18620327没)、摂政「クリナジ・ホー」(~1861年)
- 1854年12月-01:00|フランス| |||<初演>ルイ・イクトル・ベルオズ《オトリオ「キリストの幼時」》
- 1854年12月 05:00|ペルー| |||ペルー、奴隷解放令を発布。先住民の貢納制廃止
- 1854年12月 05:00|コンビア| |||ム、急進派の主張を実現できないまま、ゴルコ・ヌと保守党の連合に敗れ退陣。これを機にトラコニアスの政治的影響は消失
- 1854年12月 06:00|ニカラガ| |||ヒ・スピ・スで金鉱発見
- 1854年12月1日-09:00|日本|栃木県佐野市|嘉永7年10月12日|<死去>下野佐野藩16000石「堀田正衡」(60歳)⇒11月29日、嫡孫「堀田正頌」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月22日、版籍奉還)
- 1854年12月2日-01:00|オーストラリア/フランス/イギリス| |||オーストラリアとイギリス・フランスの間に攻守同盟が成立
- 1854年12月2日-01:00|アルジェリア/フランス| |||フランスの植民地当局によりトゥグルト・スルタン国廃止
- 1854年12月3日-09:30|オーストラリア| |||400人の兵士がユリカ砦を攻撃、150人の鉱夫中30人が死亡、兵士も5人が死亡するが、首謀者は逃亡
- 1854年12月3日 01:00|カボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カボベルデ 総督「アントニオ・マリア・パレイロス・アロバス」(~18580328)
- 1854年12月4日 05:00|コンビア/パナマ/エクアドル/ペルー/ブラジル/コスタリカ/ベネズエラ/ニカラガ| |||<就任>ヌエバ・グランド共和国大統領代行「ホセ・アルセニオ・ビセンテ・デル・カメン・デ・オバルデ・イ・イ・オレフェ」(~18550401)
- 1854年12月4日-09:00|日本/ロシア|静岡県下田市|嘉永7年10月15日|フ・チャーチンのロシア使節、再び下田に来航
- 1854年12月5日-02:00|南アフリカ| |||<就任>イギリス領ケープ植民地総督「ジョージ・グレイ卿」(~18610815)
- 1854年12月9日-08:00|中国/フランス| ||清・咸豊4年10月20日|上海のフランス軍が小刀会を攻撃
- 1854年12月10日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島総司令官「Agustin Nogueras y Pitarque」(~1856年)
- 1854年12月12日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国首相「ヘーダーク・ゲルケ・バン」(18550105まで代行~18561018)
- 1854年12月13日-03:00|マヨット/フランス| |||<就任>フランス保護領マヨット総監「アンドレ・セザール・ウエラン」(~18570815)
- 1854年12月13日 00:00|カナ/イギリス| |||<就任>イギリス領ゴルト・コスト総督・最高司令官代行「ハンリー・コー」(~18570323)
- 1854年12月13日-09:00|日本| ||嘉永7年10月24日|吉田松陰、萩にて幽閉-萩の野山獄、金子重輔は岩倉獄に入る
- 1854年12月15日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「ヘレイン・セルソング・イガース」(~18561010)
- 1854年12月15日 10:00|ハワイ| |||<死去>ハワイ諸島王国国王「カハメハ3世」
- 1854年12月15日 10:00|ハワイ| |||<即位>ハワイ諸島王国国王「カハメハ4世」(~18631130死去)
- 1854年12月16日 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>フランス領セネガル総督「ルイ・レオン・セザール・ファイトルベ」(1回目~18610601)
- 1854年12月19日 06:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領カナダ州総督「エドモント・ウォーカー・ヘッド」卿(~18611025)
- 1854年12月20日-09:00|日本|東京都江東区|嘉永7年11月|<大相撲>嘉永7年11月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(西前7)沖ノ濱,8勝0敗2休
- 1854年12月23日-09:00|日本/ロシア| ||嘉永7年11月4日|地震のため、フ・チャーチンの乗艦「イナ号」が大破
- 1854年12月23日 00:00|日本| ||嘉永7年11月4日|<安政東海地震>五つ半過ぎ(午前9時ごろ)、推定マグニチュード8.4という巨大地震が発生/震源は遠州灘沖で、揺れを感じた有感範囲は東北地方から九州東北部にわたり、特に伊豆から天竜川河口に至る、地域に被害が集中/沼津では城内、城下の家屋が残らず倒潰し、領内の駿河、伊豆、三河大浜で、家屋の倒潰1648軒、土蔵の倒潰416棟、51人死亡/三島宿は家屋の倒潰986軒、焼失45軒とほとんど全滅/愛鷹山のふもとの小林では、長さ2丁(220m)、幅50間(90m)の地が陥没し、民家12軒が土中に埋まった/富士川流域の白鳥山で山崩れが起き、同川は流れが止まった/同川支流の稲子川の上稲子付近、安倍川及び同川支流の藁科川流域、大井川支流の笹間川流域など多数の地点で山崩れが発生/久能では陣屋ほか侍屋敷が残らず大破、百姓家倒潰257軒、10人死亡/駿府では城の石垣が崩壊し、倒潰した家屋が多く、600軒焼失、200人余死亡/相良陣屋では家屋が残らず倒潰、領内の百姓家倒潰1587軒、37人死亡/掛川城では天守が半壊し城内の建物の倒潰が多く、城下の家屋倒潰及び焼失1116軒、58人死亡、領内の家屋倒潰3857軒、50人死亡/横須賀では城内の建物がすべて倒潰し、領内を含め家屋倒潰4500軒余、114人死亡/日阪宿は全潰、袋井宿は9割方倒潰し200人死亡/地震の後、津波が起こり房総半島から土佐の沿岸を襲った/伊豆半島南部から遠州灘沿岸及び伊勢志摩、熊野灘沿岸で、伊豆

- 半島南端の下田では、地震約1時間後、5mに及ぶ津波が襲来、家屋840軒が流失・全潰、30軒が半潰・床上浸水となり4軒しか無事ではなく122人が死亡/同港へ停泊中の叩ア軍艦ディナが大破/伊勢長島では全戸数800軒の内80軒が残っただけで9割の家屋が流失し23人死亡/志摩半島の甲賀では、10mの津波が押し寄せ、家屋流失134軒、土蔵31棟、11人死亡/和具では全400軒のうち270軒が流失し42人死亡/尾鷲では全戸数959軒のうち661軒が流失し198人が死亡/被災地すべての被害は家屋の倒潰、流失、焼失が約3万軒、2000人~3000人が死亡したと推定
- 1854年12月24日-09:00|日本| ||嘉永7年11月5日|<安政南海地震>七つ時(16時ごろ)マグニチュード8.4という巨大地震/震源は紀伊水道南方で、特に紀伊半島沿岸では、紀伊田辺で家屋倒潰255軒、同流失532軒、同焼失441軒、土蔵焼失264棟/紀伊の広村では、全戸数339軒のうち125軒が流失し、10軒が倒潰/紀州藩領全体の被害は家屋全潰・破損1万8086軒、同流失8496軒、同焼失24軒、699人死亡/阿波でも津波による被害は大きく、牟岐では9mの津波が押し寄せ家屋は全滅し20人死亡/小松島では全1000軒のうち80軒しか残らなかった/徳島藩領の被害は家屋倒潰3066軒/土佐では高知城内の天守櫓や家屋が破損し、土佐藩領内の被害は家屋倒潰3082軒、同流失3202軒、同焼失2481軒で372人が死亡/讃岐では高松で天守櫓が破損、同藩領の被害は家屋倒潰2973軒/伊予宇和島では領内の家屋倒潰・流失2360軒の被害/豊後大分藩では家屋倒潰4546軒、18人死亡/大坂湾にも津波が殺到し、停泊中の船8000隻が破損、1000軒の家屋が損潰し7000人が死亡/被災地全体の被害は家屋全潰1万軒、同流失1万5000軒、同焼失6000軒、1万8000人が死亡したと推定
- 1854年12月24日 13:00|日本|東京都台東区|嘉永7年11月5日|亥刻、浅草聖天町より出火、西風烈しく猿若町三丁目へ移り、二丁目一丁目三座芝居並びに茶屋其の外一円焼け
- 1854年12月27日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「スティーブ・ジョン・ヒル卿」(1回目~18550116)
- 1854年12月29日 04:00|セントピント/イギリス| ||<就任>イギリス領セントピント副総督「エドワード・ジョン・エド」(1回目~1857年)
- 1855年-05:30|インド| ||<就任>パナマ国統治者(ジョージ)「マクス・ダニエル・ラサド」(~1868年没)
- 1855年-05:30|インド/イギリス| ||アジヤガル国がイギリス領インドに占領される(~1859年)
- 1855年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| ||<即位>カラカルパク対立汗「Muhammad Jarlik Tura Khan」(~1856年死去)
- 1855年-04:30|アフガニスタン| ||<就任>シバルガン汗国ハキム「サダッラー・ワリムハンマド・カン・ハラザイ」(~1859年)
- 1855年-04:30|アフガニスタン| ||アフガニスタンがシバルガンを占領(~1859年)
- 1855年-04:00|UAE| ||<就任>アブ・ダビド統治者「Sheikh Zaid1世 ibn Khalifa Al Nahayan」(~1909.5死去)
- 1855年-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>バグダットのワシ「ムハメド・ベイ」(~1856年)
- 1855年-03:00|カタル| ||<就任>カタル統治者(ムハマド)「ビシワ・カコ」(~1856年)
- 1855年-03:00|イェメン| ||<即位>ラッシー朝イマム「ムタワキル・アルムシニ・ヒン・アブタ」(~18780729死去)
- 1855年-03:00|エジプト/エジプト| ||ファシダ 周辺の白ナイル川上流がエジプトのスタンに併合
- 1855年-02:00|キプロス/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領キプロス管財人「オスマン・シエリフ・ハシヤ」(~1856年)
- 1855年 00:00|コトジボワール/フランス| ||<就任>アシニ(ジョージア)民間司令官「ピエール・アレクサンドル・マイユタル」
- 1855年 00:00|セネガル| ||<就任>ケール統治者(タンメル)「ピエール・ゴネ・ラティル・ファル」(~1860年没)
- 1855年 00:00|セネガル| ||<就任>ジョロフ帝国統治者(フェルバ・ジョロフ)「ピエール・ムンタ・クンバ・グワイ・ンジエイ」⇒「ムバニハ・アブ・クンバ・グワイ・ンジエイ」⇒「ラット・コトウ・マ・シゲーン・ベヤ・ファル・マリク・ンジエイ」⇒「ピエール・マ・シゲニ・ベヤ・ファル・マリク・ンジエイ」⇒「アル・ブウリ・ベヤ・ラム・ンジエイ」⇒「バカン・タム・ヤゴ・ンジエイ」(~1858年)
- 1855年 00:00|コトジボワール/フランス| ||<就任>タブー(テュクス)民間司令官「ピエール・アレクサンドル・マイユタル」
- 1855年 00:00|セネガル| ||<就任>バウール統治者(ティン)「マコトウ・クンバ・ヤンテ・ファル」(2回目~1856年)
- 1855年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| ||<就任>ビサウ総督「オリオ・ペレイラ・パレット」(4回目~1858年)
- 1855年 00:00|マリ/フランス| ||フランス領セネガル総督によってメイニス砦が設立される
- 1855年 04:00|アンティグア・バブダ| ||<就任>アンティグア総督「カー・ペイリー・ハミルトン」(1回目~1859年)
- 1855年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| ||<就任>イギリス植民地セントクリストファーズ 副総督「ヘラクレス・ジョージ・ロバート・ロビンソン」(~1859年)
- 1855年 04:00|セントピント/イギリス| ||<就任>イギリス植民地セントピント大統領「Edward Everard Rushworth」(~1860年)
- 1855年 04:00|セントルシア/イギリス| ||<就任>イギリス領セントルシア副総督代行「テウエル」(~1856年)
- 1855年 04:00|フォークランド/イギリス| ||<就任>イギリス領フォークランド 諸島総督「Thomas Edward Laws Moore大佐」(~1862年)
- 1855年 04:00|グレナダ/イギリス| ||<就任>グレナダ 副総督代行「フランス・エルバートン・チェックリー」(2回目~1856年)
- 1855年 05:00|ケイマン諸島/イギリス| ||<就任>イギリス領ケイマン諸島主任判事「ウィリアム・エデン」(~18790917死去)
- 1855年 05:00|パナマ| ||<就任>パナマ大統領「イシドロ・デ・テイゴ」⇒「タミアン・セハ・チコ」⇒「ペルナルト・アルセ・マタ」(3回目)
- 1855年1月-03:00|サウジアラビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ヒジャーズ 総督「ミュハンテ・イス・ムハメド・カミル・ハシヤ」(~1856年5月)
- 1855年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>アレクソ・ワシ(総督)「Tepedenlizade Ismail Rahmi Pasha」(~12月)
- 1855年1月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュコラのワシ「ヘキンバシ・イスマイル・ハシヤ」(~3月)
- 1855年1月1日-01:00|スイス| ||<就任>スイス連邦大統領「ジョナス・フラー」Rad(3期目~12.31)
- 1855年1月1日 08:00|ビトケアン諸島/イギリス| ||<就任>イギリス領ビトケアン諸島主任判事「George Martin フレデリック・Young」(~18560503)
- 1855年1月2日-09:00|日本| ||嘉永7年11月14日|<死去>源清麿。自害(42歳)刀工
- 1855年1月5日-01:00|ノルウェー| ||<就任>ノルウェー首席国務長官「ヨルゲン・ヘルマン・フォクト」(~18581208)
- 1855年1月5日 05:00|ペルー| ||カステイリャ前大統領、政権復帰を狙い蜂起。若き日のカヒスも反乱に参加
- 1855年1月7日 05:00|ペルー| ||<就任>ペルー共和国大統領「ラモン・カステイリャ・イ・マルサド」(2回目、18581024まで暫定~18621024)

1860迄 (3252件)

- 1855年1月7日 05:00|ペルー| |||カステージャ、ラ・パルマの戦いで政府軍に勝利/セルウィノ・エチェケ大統領退陣
1855年1月8日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>タスマニア植民地総督「ヘンリー・ヤング」(~18611210)
1855年1月10日-01:00|フランス/イタリア/イギリス| |||サルデーニャ王国が英仏同盟に参加
1855年1月11日 10:00|ハワイ| |||<即位>ハワイ王「カメハメハ4世」(~18631130)
1855年1月12日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)代行「ボン・レティーロ子爵ルイス・ペドロ・レイラト・ケート・フェラス」(~28日)
1855年1月14日-09:00|日本|群馬県沼田市|嘉永7年11月26日|中町天王宮(須賀神社)の本殿が築造される
1855年1月15日-09:00|日本| ||安政1年11月27日|「安政」に改元
1855年1月16日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督代行「ロバート・ドーガン」(2回目~同年)
1855年1月16日 10:00|ハワイ| |||<就任>ハワイ諸島王国首相「Victoria Kamamalu」(~18631219)
1855年1月18日-11:00|ニューカドニア/フランス| |||<就任>ニューカドニア司令官「Joseph Fidele Eugene du Bouzet」(~18561028)、代理「Jules Marcelin Albert Testard」(~1861年死去) (⇒18561028司令官~18561221)
1855年1月18日-05:30|スリランカ/イギリス| |||<就任>イギリス領セイロン総督代行「チャールズ・ジャスティン・マッカーシー」(2回目~5.11)
1855年1月18日-04:00|モリシャス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官代行「チャールズ・マレー・ヘイ」(1回目~6.12)
1855年1月19日-09:00|日本/ロシア| ||安政1年12月2日|地震による破損で、修理のために戸田港へ回航中のディアナ号が沈没
1855年1月20日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>ニューサウスウェールズ植民地総督「ウィリアム・デニソン」(~18610122)
1855年1月20日 04:30|ベネチア| |||<就任>ベネチア共和国大統領代理「Joaquin Herrera y Valdes」(~31日)PL
1855年1月20日-08:00|中国| ||清・咸豊4年12月3日|雲南の銀山でムスリムの鉱夫と漢族の鉱夫の間で衝突事件が起こる
1855年1月22日-09:00|日本| ||安政1年12月5日|<死去>初代井上八千代(88歳)日本舞踊家元
1855年1月24日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド総督代行「フリドリヒ・ヴィルヘルム・レナート・グラーフ・フォン・ベルク」(~3.15)
1855年1月26日-01:00|フランス| |||<死去>ロマン主義を代表するフランス詩人・小説家ジェラルド・ド・ネヴアルが46歳で自殺(1808年~、晩年精神病を患う)「火の娘」「散歩と回想」「オレリア、あるいは夢と人生」などの作品を著した
1855年1月27日 06:00|カタール/イギリス| |||<就任>イギリス領カタール共同首相「フランシス・ア・マクナブ卿(2回目/カタール西部)」「スティーブン・ハスカル・タジェ(1回目/カタール東部)」(~18560524)
1855年1月28日 05:00|パナマ| |||パナマ地峡横断鉄道完成
1855年1月29日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島郡|安政1年12月12日|薩摩藩が桜島瀬戸村造船所で日本初の洋式軍艦「昇平丸」を建造【国産軍艦第一号】
1855年1月31日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Andres Garcia Camba」(~8月)
1855年1月31日 04:30|ベネチア| |||<就任>ベネチア共和国大統領「ルチオ・モッタ」PL(2期目~18580315) 奴隷解放を含む新憲法を提示
1855年2月 00:00|セネガル| |||<滅亡>ワロ国
1855年2月1日-05:30|インド| |||東インド鉄道のハワー駅が開業
1855年2月1日-09:00|日本|東京都品川区|安政1年12月15日|品川沖に第五台場、第六台場(砲台)竣工
1855年2月2日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクストadt議長「(コーネリス)ホトキーター」(20回目)
1855年2月6日 00:00|イギリス| |||<就任>イギリス連合王国第35代首相「第3代パーマストン子爵ヘンリー・ジョン・テンブル」ホイッグ党(~18580220)
1855年2月7日-09:00|日本/ロシア| ||安政1年12月21日|日露和親条約調印/下田・箱館・長崎をロシアに開港し、択捉-ウルフ間を国境と定める/また樺太を両国人雑居地とする
1855年2月9日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国皇帝「テオドロス2世」(~18680413没)
1855年2月9日-03:00|エチオピア| |||<退位>エチオピア帝国皇帝「サハラ・テンゲル」
1855年2月9日-09:00|日本| ||安政1年12月23日|朝廷、毀鐘鑄砲の命令を発する
1855年2月9日-09:00|日本|佐賀県鹿児島市|安政1年12月23日|<死去>鍋島直永(42歳)前肥前鹿児島藩主
1855年2月10日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オレンジ自由国暫定国家大統領「ヤコブス・ヨハネス・ヴェンター」(1回目⇒15日、国家大統領~8.27)
1855年2月10日 06:00|アメリカ| |||海外で生まれたアメリカ人の子供に米市民権を与えるように国籍法が修正される
1855年2月14日 10:00|日本|東京都|安政1年12月28日|<江戸神田安政元年多町の大火>西の下刻(19時ごろ)、多町二丁目の北側にある乾物屋・三河屋半次郎宅より出火、連雀町、新銀町、佐柄木町、須田町へと延焼/ついで須田町二丁目から日本橋方面へと延焼し、通り新石町から通り町筋の本銀町、本石町、本町四丁目、本両替町、駿河町と焼き、北鞆町から品川町、室町一丁目、日本橋の際までを灰とした/東に延びた炎は、小柳町から黒門町、三島町、岸町、永井町、富士町を灰とし、紺屋町辺りから浮世小路、塩町、瀬戸物町、小田原町、本船町、同河岸通りまでをひとなめにした/翌日明け方になると西の方の武家屋敷街および周辺の雉町、四軒町、三河町四丁目、同裏町辺りをなめまわし、さらに養安院屋敷、鎌倉町、竜閑町、松下町、永富町から皆川町の周辺までを灰とした/これらの町に挟まれた町々はすべて全焼し翌朝辰の刻(午前8時ごろ)鎮火/町数にして凡そ120町余りが焼失
1855年2月17日-09:00|日本|宮城県仙台市|安政2年|作並温泉(新湯)開湯
1855年2月17日-09:00|日本| ||安政2年1月|<出版>雄斎国輝と宮城玄魚「俳人百家撰」
1855年2月17日-08:00|中国| ||清・咸豊5年1月1日|清仏両軍が小刀会を制圧
1855年2月21日-09:00|日本/アメリカ| ||安政2年1月5日|幕府、日米和親条約批准書を交換

1860迄 (3252件)

- 1855年2月22日-09:00|日本|広島県福山市|安政2年1月6日|福山藩、学問所誠之館を開館
- 1855年2月23日-01:00|ドイツ| ||<死去>カール=フリードリヒ=カウス/77歳(誕生17770430)/ドイツの天才数学者
- 1855年2月24日 06:00|アメリカ| ||アメリカ、ヒース大統領、請求裁判所設置法案に署名
- 1855年2月28日-02:00|トルコ| ||トルコ=ブルサで地震M7.1、死者1900
- 1855年3月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| ||<死去>ヒヴァ=ハン国イナク朝ハン「アブル=ガ=ズ=イー=ムハンマド=アミン=ハド=カール」
- 1855年3月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| ||<即位>ヒヴァ=ハン国イナク朝ハン「アブド=ウッラー」(~18550901死去)
- 1855年3月-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン| ||トルクメン=テック部族連合は、サラクでヒヴァ=ハン国を打ち負かし、独立を宣言
- 1855年3月 00:00|シエラレオネ| ||西インド 諸島出身のウィリアム=ドラペが週刊新聞The New Eraを創刊
- 1855年3月1日 00:00|アイスランド/デンマーク| ||<就任>アイスランド 総督代行「トルド=カール=シヨナソン」(~6.26)
- 1855年3月2日-04:00|ロシア/ポーランド/フィンランド| ||ロシア暦2月18日|<死去>ロシア皇帝=ポーランド 会議王国国王=フィンランド 大公「ロシア皇帝ニコライ1世」58歳(誕生:17960702)
- 1855年3月2日-04:00|ロシア/ポーランド/フィンランド| ||ロシア暦2月18日|<即位>ロシア皇帝=フィンランド 大公「アレクサンドル2世」(~18810313死去)
- 1855年3月2日 00:00|イギリス| ||<死去>4代スタンホープ 伯「フィリップ=ハンリー=スタンホープ」
- 1855年3月2日 00:00|イギリス| ||<就任>5代スタンホープ 伯「フィリップ=ハンリー=スタンホープ」(~18751224死去)
- 1855年3月2日-09:00|日本|東京都|安政2年1月14日|<死去>砲術家=高島秋帆/58歳(誕生:寛政10(1798)0815)
- 1855年3月4日-09:00|日本|東京都墨田区|安政2年1月16日|<死去>兵学家、江川英龍(太郎左衛門)/55
- 1855年3月6日 06:00|アメリカ| ||タイガ=ラ瀑布にかかる吊り橋が完成し、初の列車が通る
- 1855年3月10日-08:00|マレーシア| ||<即位>ジョホール=ダール=タジム占領地域=植民地マラジャ「ラジャ=テムンガ=ン=トウン=デ=ン=イブ=ラヒム」(~18620131没)
- 1855年3月12日 06:00|ニカラグア| ||<就任>ニカラグア共和国大統領代行「ルチア=マリア=エストラダ=レイエス」(~10.25)、(事実上)「ホ=ンシア=ノラル=アオスタ」(~20日)
- 1855年3月12日 06:00|ニカラグア| ||<退任>ニカラグア独立共和国大統領「フルト=チャモロ」
- 1855年3月13日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラート 議長「(コーリス)ホ=トキ=ター」(第21回)
- 1855年3月13日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副卿「カ=ライル伯爵ジョージ=ウィリアム=フレデリック=ハワード」(1回目~18580312)
- 1855年3月14日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安政2年1月26日|薩摩藩が洋式軍艦琉大砲船を昇平丸と命名
- 1855年3月15日-02:00|フィンランド/ロシア| ||<就任>ロシア領フィンランド 総督「フリードリヒ=ヴィルヘルム=レナルト=グラーフ=フォン=ベルク」(~18611211)
- 1855年3月17日-09:00|日本|東京都墨田区|安政2年1月29日|(本所松前侯屋敷より出火)回向院方丈書院裏へ移り、夫れより本堂の棟へ燃付き焼亡
- 1855年3月18日-09:00|日本|岐阜県|安政2年2月1日|飛騨地震/M6.7、死者少なくとも203人/金沢などでも被害
- 1855年3月21日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| ||<就任>イギリス領海峡植民地総督「エドモント=オーガス=ブランデル」(2度目~18590806)
- 1855年3月21日-09:00|日本|大阪府岸和田市|安政2年2月4日|<死去>和泉岸和田藩53000石「岡部長寛」(22歳)⇒2月25日、兄「岡部長寛」が継ぐ(⇒明治元(1869)年12月28日、隠居)
- 1855年3月23日-09:00|日本/ロシア| ||安政2年2月6日|日露通商友好条約が締結される/千島列島は日本の領土と認められる
- 1855年3月24日-05:30|インド| ||カルカッタとアグラーの間にインド 最初の長距離電信線が開通
- 1855年3月26日-09:00|日本| ||安政2年2月9日|<死去>西原文虎(66歳)俳人
- 1855年3月30日-01:00|ベルギー| ||<就任>ベルギー=内閣長官「ピエール=ジャック=フランソワ=ド=テッカー」(~18571109)
- 1855年3月30日 00:00|イギリス/アフガニスタン| ||アフガニスタンとイギリス東インド 会社の間で永久友好条約(ペ=シャワール条約)が調印される
- 1855年3月30日-09:00|日本|大阪府大阪市|安政2年2月13日|<死去>2代中村富十郎(70歳)歌舞伎役者
- 1855年3月31日 00:00|イギリス| ||<死去>シャーロット=ブロンテ/38歳(誕生18160421)「ジェーン=エア」の女流作家
- 1855年4月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュトラーのワリス「アカ=アブド=ウルアジズ=ハシヤ」(~12月死去)
- 1855年4月1日-05:30|インド| ||<就任>ラング=ール国統治者(ナワブ)「モハマト=ユソフ=アリ=カーン」(~18650421没)
- 1855年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「カ=エターノ=ベルツィ」(フランチェスコ=ロッシ=ニ)
- 1855年4月1日 05:00|コロムビア/パナマ/エクアドル/ペルー/ブラジル/コスタリカ/ベネズエラ/ニカラグア| ||<就任>ヌエバ=グранаダ 共和国大統領代行「マヌエル=マリア=マリーノ=イバルグエン」(~18570401)
- 1855年4月4日-09:30|オーストラリア| ||オーストラリアで最初に建造された軍艦スピアファイ号進水
- 1855年4月8日-09:00|日本|北海道|安政2年2月22日|蝦夷松前藩(藩主:松前崇広)、蝦夷地大半を上知され天領化/第二次蝦夷地幕領期
- 1855年4月8日-09:00|日本|北海道函館市|安政2年2月22日|函館開港
- 1855年4月13日-09:30|オーストラリア| ||メルボルン大学、最初の講義が行われる
- 1855年4月15日-09:00|日本|東京都|安政2年2月29日|<死去>遠山景元(金四郎)/63歳(誕生:寛政5(1793)0823)/町奉行
- 1855年4月15日-09:00|日本|富山県富山市|安政2年2月29日|<富山「安政大火」>夜半、町はずれの西中野村の農家平蔵の家から出火、城下町全体に延焼し72か町、3か村、社寺と町家併せて5851戸、土蔵56軒、納屋142棟を焼失/城内では藩主の千歳御殿をはじめ丸の内勘定所、東柵形前の公事場(裁判所)、外総曲輪吟味所(警察の取調所)、郡役所が焼失
- 1855年4月17日-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<就任>ホロシヤ=ベッサラビア総督「Graf Aleksandr Grigoryevich Stroganov」

1860迄 (3252件)

(~18620629)

- 1855年4月17日-09:00|日本| ||安政2年3月|<出版>二代北斎、素真、貞秀、広重等「利根川図志」
- 1855年4月18日 00:00|イギリス/タイ| |||香港総督ジョン・バウリングがバンコクで、イギリス・タイ友好条約(バウリング条約)を締結
- 1855年4月19日-09:00|日本| ||安政2年3月3日|幕府、朝廷の指示により、諸国寺院に梵鐘の鉄砲改鑄を命令し、銅鉄による仏像の新鑄を禁止
- 1855年4月22日-09:00|日本|東京都|安政2年3月6日|<死去>初代坂東しうか(43歳)歌舞伎役者/5代坂東三津五郎
- 1855年4月22日-09:00|日本|東京都千代田区|安政2年3月6日|江戸城本丸の金蔵から、徳川家慶の遺産のうち4000両が盗まれる
- 1855年4月25日-09:00|日本| ||安政2年3月9日|踏絵の制(切支丹宗取調のため二百年來の制度)漸く廃せられる
- 1855年4月26日-09:00|日本/ロシア|静岡県沼津市|安政2年3月10日|沈没したデリア号の代替船として、ロシア人の指導で建造された新造船完成進水「戸田丸」と命名
- 1855年4月27日 04:00|米領ガージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントロア総督「Johan Frederik Schlegel」(~18610531)
- 1855年4月30日-08:00|中国| |||貴州でミャオ族が蜂起
- 1855年4月30日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの作曲家で指揮者ピョップ 没/68歳(誕生17861118)「埴生の宿」を作曲した/スタンフォード 大教授
- 1855年5月1日-01:00|スペイン| |||スペインで統一「永代財産」解放令
- 1855年5月2日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「メフメト・エミン・アリ・パシャ」(2期目~18561101)
- 1855年5月5日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島管理者代理「Thomas Samuel Stewart」(~18560608)
- 1855年5月6日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド 総督代行「統治評議会:ホキン・デ・サンタ・リタ・ボテリョ/ルイス・ダ・コスタ・カンポス/フランシスコ・ザビエル・ペレス/ペルナルト・ヘイトル・ダ・シルヴェイラ・エ・ロリーナ/ウイクトル・アヌタシオ・モラン・ガルセス・パルハ」(~11.2)
- 1855年5月8日-09:00|日本/ロシア|静岡県沼津市|安政2年3月22日|ブチャーチン提督らロシア側交渉団は、ヘタ号で帰国の途につく
- 1855年5月11日-05:30|スリランカ/イギリス| |||<就任>イギリス領セイロン総督「ヘンリー・ジョージ・ウオード」(~18600630)
- 1855年5月12日-09:00|日本| ||安政2年3月26日|<死去>2代鶴賀鶴吉(68歳)新内節太夫
- 1855年5月13日-09:00|日本|愛知県田原市|安政2年3月27日|<交替>大垣新田藩1万石「戸田氏綏」(51歳)⇒5月21日、養子「戸田氏良」が継ぐ(⇒明治2(1869)年5月27日、陣屋移転し大垣新田藩から野村藩に改名)
- 1855年5月13日-09:00|日本|兵庫県小野市|安政2年3月27日|<死去>播磨小野藩1万石「一柳末延」(42歳)⇒長男「一柳末彦」が継ぐ(⇒文久3(1863)年6月9日、隠居)
- 1855年5月14日 00:00|イギリス| |||(英)シニームでソウリン、ハーフ・ソウリン製造開始
- 1855年5月15日-01:00|フランス| |||パリ国際博覧会開催(~11.6)仏初の国際博覧会/始めて万国博覧会と称す[会場]パリジャンセリゼ(フランス)[入場者]5,162,230人
- 1855年5月16日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Felipe Maria de la Corte y Ruano Calderon」(~18660128)
- 1855年5月16日-02:00|ウクライナ/フランス| |||<就任>ウクライナ連合軍フランス司令官「Aimable Jean-Jacques Pelissier」(~18560712)
- 1855年5月16日-09:00|日本| ||安政2年4月|<出版>一立斎広重と一猛斎芳虎「茶器財歌集」
- 1855年5月16日-09:00|日本| ||安政2年4月|<出版>間宮林蔵著(玉蘭斎貞秀、重探斎等が画く)「北蝦夷図説」
- 1855年5月16日-09:00|日本| ||安政2年4月|<出版>松川半山「浪華の賑ひ」
- 1855年5月19日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領代行「マヌエル・マリア・デ・イラス」(3回目~18550718)
- 1855年5月22日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>ビクトリア植民地総督「チャールズ・ホム」(12.31)
- 1855年5月29日-09:00|日本|岩手県盛岡市|安政2年4月14日|<死去>南部利済(59歳)前陸奥盛岡藩主
- 1855年5月30日-01:00|チュニジア| |||<死去>フサイン朝ベイ「アフマド1世」48歳
- 1855年5月30日-01:00|チュニジア| |||<即位>フサイン朝ベイ「ムハンマド2世」アル=フサイン2世の息子(~18590922死去48歳)
- 1855年5月31日-08:00|中国| ||清・咸豊5年4月16日|中国、清朝の武将の僧格林沁が太平天国の武将を捕らえ、太平天国の北伐軍を壊滅させる
- 1855年6月-09:30|オーストラリア| |||ウイクトリア議会金輸出入可決/金1オンス当たり2シリング6ペンスの関税を財源とする金鋳法も可決/最初の中国人移民制限法を可決(中国人に10ポンドの入国税を課すこと、中国人保護官の任命などを規定)
- 1855年6月1日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルスタード議長「(コーリス)ホトギーター」(第22回~19日)
- 1855年6月1日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>アセンション島司令官「ジョージ・アレクサンダー・シーモア」(~18580313)
- 1855年6月3日-01:00|スペイン| |||スペインで鉄道法が公布される
- 1855年6月4日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国司令長官「ステファヌス・ショマン」(~18580218)
- 1855年6月4日-09:00|日本|石川県加賀市|安政2年4月20日|<死去>加賀大聖寺藩7万石「前田利義」(23歳)⇒養子「前田利行」が継ぐ(⇒5月18日、死去)
- 1855年6月5日-08:00|インドネシア| |||<死去>ジョグジャカルタ・スルタン「Hamengkubuwono5世」
- 1855年6月5日-08:00|インドネシア| |||<即位>ジョグジャカルタ・スルタン「Hamengkubuwono6世」(~18770720)
- 1855年6月5日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、ノーザン党、フイデリティアで全国集会、アメリカ党を呼称
- 1855年6月6日 06:00|ニカラガア| |||キニニ大佐、軍団をサンファン・デル・ヌルテに上陸、「王国」行政府の掌握に成功
- 1855年6月8日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>南オーストラリア植民地総督「リチャード・グレイヴス・マクトゥル」(~18620304)
- 1855年6月9日-09:00|日本|福井県福井市|安政2年4月25日|<死去>越前丸岡藩5万石「有馬温純」(27歳)⇒養子「有

1860迄 (3252件)

馬道純」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月19日、版籍奉還)

- 1855年6月13日-01:00|イタリヤ| ||<初演>ジューゼッペ・フォルツァー・フランチェスコ・ヴェルディ《歌劇「シチリア島の夕べの祈り」》
- 1855年6月13日-09:00|日本|長野県長野市|安政2年4月29日|松代藩、文武学校を仮開業、弓・剣・槍・柔術所を設置
- 1855年6月14日-09:00|日本| ||安政2年5月|<刊行>桂川甫周「和蘭字彙」
- 1855年6月15日-09:00|日本| ||安政2年5月2日|<死去>小川可進(70歳)茶人、医師
- 1855年6月16日-09:00|日本|岡山県津山市|安政2年5月3日|<交替>美作津山藩10万石「松平齊民」隠居⇒養子「松平慶倫」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1855年6月24日-01:00|デンマーク| ||<就任>デンマーク王国首相代行「ルトウ・ヴィ・ニコラス・シレ」(~8.4)
- 1855年6月27日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|安政2年5月14日|<死去>出羽亀田藩2万石「岩城隆永」(19歳)⇒7月5日、弟「岩城隆信」が継ぐ(⇒8月20日、死去)
- 1855年6月27日-08:00|中国/アメリカ| ||清・咸豊5年5月14日|アメリカのボッターと台湾道の協議で通商開始
- 1855年6月27日-04:00|ロシア/日本| ||安政2年5月14日|松前藩、幕府の命令により、樺太のクシコタンにあったロシア兵陣営を焼く
- 1855年6月28日 06:00|ニカラガ| ||ウオーカー、ハース攻略をめざすが、待伏せ攻撃に会い大敗北。死傷者22名を出し、ボーンに逃げ帰る
- 1855年6月29日-02:00|ウクライナ/イギリス| ||<死去>ウクライナ連合軍イギリス司令官「ラケラン男爵FitzRoy James Henry Somerset」
- 1855年6月29日-02:00|ウクライナ/イギリス| ||<就任>ウクライナ連合軍イギリス司令官「James Simpson卿」(~11.11)
- 1855年6月29日 00:00|イギリス| ||イギリスで、デーリー・テレグラフ紙が創刊
- 1855年6月30日-05:30|インド| ||東部インドのサタール人が武装蜂起
- 1855年7月-02:00|ブルガリア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ウエイ・イン・ワリス(総督)「メフメド・モアムル・パシャ」(~1857年10月)
- 1855年7月1日-09:00|日本|石川県加賀市|安政2年5月18日|<死去>加賀大聖寺藩7万石「前田利行」(21歳)⇒養子「前田利か」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1855年7月3日 00:00|イギリス| ||<死去>3代モンテ・侯・7代インチキン伯「ジェイムズ・オブライエン」廃絶
- 1855年7月4日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラード議長「(コネリス)ホトギーター」(第23回~5日)
- 1855年7月4日 06:00|アメリカ| ||アメリカのウォルト・ホイットマン、詩集『草の葉』刊行
- 1855年7月6日-08:00|中国| ||清・咸豊5年5月23日|貴州省南部のミャオ族(苗族)が反乱を開始
- 1855年7月9日-09:00|日本| ||安政2年5月26日|<死去>仁阿弥道八(73歳)陶工
- 1855年7月14日-01:00|フランス/イラン| ||イランがフランスとの友好通商条約を調印
- 1855年7月14日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|安政2年6月|水口藩、散在する諸芸稽古場(弓・槍・剣・薙刀・居合・柔術等)統一/文武教場翼輪堂を設立
- 1855年7月16日-09:30|オーストラリア| ||ニューサウスウェールズ憲法、国王の承認を受ける(任命制の上院と制限選挙の下院); ウィクトリア憲法、国王の承認を受ける(制限選挙の上院とよりゆるやかな制限選挙の下院の2院制議会)
- 1855年7月18日 05:00|パナマ| ||<就任>パナマ大統領「フスト・アロース・マ・ケサダ」(当初は暫定国家元首~10.3)
- 1855年7月19日 00:00|イギリス| ||<死去>4代アントリム伯「ヒュー・シーモア・マクトゥル」
- 1855年7月19日 00:00|イギリス| ||<就任>5代アントリム伯「マーク・マクトゥル」(~18691219死去)
- 1855年7月23日-09:30|オーストラリア/イギリス| ||<就任>西オーストラリア植民地総督「アーサー・ケネディ」(~18620227)
- 1855年7月23日-09:00|日本|大分県中津市|安政2年6月10日|<死去>奥平昌高(75歳)前豊前中津藩主
- 1855年7月26日-01:00|ジブチ/イギリス| ||<就任>イギリス領ジブチ総督「ジェームズ・ファーガソン卿」(~18590505)
- 1855年7月28日 00:00|サントメ・プリンシパル/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシパル総督「Adriano Maria Passalacqua」(~18570321死去)
- 1855年7月28日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍スループ「コンステレーション」(1265t, コスポート造船所で建造)ノフォーク海軍工廠で
- 1855年7月29日-09:00|日本|福井県|安政2年6月16日|足羽郡花堂から出火、木田町地方赤坂町まで延焼
- 1855年8月-04:30|アフガニスタン| ||<就任>アフガニスタン対立摂政(カンダハール)「モハマト・サレク・カン・モハマト・ザイ」(~11月)
- 1855年8月 04:00|プエルトリコ/スペイン| ||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Jose de Lemery Ibrarrola Ney y Gonzales」(~18570128)
- 1855年8月1日-09:00|日本|東京都文京区|安政2年6月19日|幕府、江戸湯島鑄砲所で洋式小銃の鑄造を開始
- 1855年8月5日-09:00|日本| ||安政2年6月23日|<死去>色川三中(55歳)国学者、歌人
- 1855年8月7日-09:00|日本|福井県福井市|安政2年6月25日|福井藩、学問所を明道館と称し開館
- 1855年8月9日 07:00|メキシコ| ||<解任>メキシコ合衆国大統領「サンタ・アナ」失脚
- 1855年8月10日-09:00|日本| ||安政2年6月28日|<死去>中島棕隠(77歳)儒学者、漢詩人、狂詩作家
- 1855年8月13日 07:00|メキシコ| ||<就任>メキシコ合衆国大統領「ロドリゴ・デ・イラス・テラ・ヘガ」(1回目~15日)
- 1855年8月13日 07:00|メキシコ| ||自由党軍、メキシコ市に入城、革命成功
- 1855年8月15日 00:00|イギリス| ||<死去>サマセット公「エドワード・アト・ルファス・サンモール」
- 1855年8月15日 00:00|イギリス| ||<就任>サマセット公「エドワード・アト・ルファス・サンモール」(~18851128死去)
- 1855年8月15日 04:00|ボリビア| ||<就任>ボリビア共和国大統領「ホルヘ・コルトバ」(~18571021)
- 1855年8月15日 07:00|メキシコ| ||<就任>メキシコ合衆国暫定大統領「マルチン・カレラ・サト」(~9.12)
- 1855年8月16日-01:00|イタリヤ| ||サルデーニャ王国軍がクリミア戦争に参加
- 1855年8月18日 00:00|イギリス| ||<死去>6代マンチェスター公「ジョージ・モンタギュー」
- 1855年8月24日-09:00|日本|熊本県人吉市|安政2年7月12日|<死去>肥後人吉藩22165石「相良長福」(32歳)病死⇒12月26日、弟「相良頼基」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月22日、版籍奉還)

1860迄 (3252件)

- 1855年8月25日 03:00|スリナム/オランダ | |||<就任>オランダ 領事 アシスタント「シャル・ピエール・シンプフ」(~18590811)
- 1855年8月27日-02:00|南アフリカ | |||<就任>オランダ 自由国国家大統領「ヤコブス・ニコラス・ボショフ」(~18590906)
- 1855年8月27日-02:00|南アフリカ | |||<就任>オランダ 自由国政府書記代行「Willem Spruyt」(⇒1856年1月、政府書記~1862年1月)
- 1855年8月29日 03:00|ウルク・アイ | |||<就任>ウルク・アイ 大統領「リス・ラヌ」国民党 (~9. 10)
- 1855年9月-02:00|トルコ/ロシア | |||カス地区をロシアが占領 (~1856. 5)
- 1855年9月 06:00|ニカラガア | |||ウーカ軍、ロシア人雇い兵を補充しふたたびバズに進出。保守党軍とのたたかいに勝利
- 1855年9月1日-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン | |||<死去>ヒヴァ・ハン国イラク朝ハン「アブドゥッラー」
- 1855年9月1日-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン | |||<即位>ヒヴァ・ハン国イラク朝ハン「クトルフ・ムハンマド・ムラト・ハハト・ウル」(~1856. 2死去)
- 1855年9月2日-04:00|ロシア/イギリス/フランス | |||ウルフ 島は英仏海軍合同分遣隊に占領された (~1856年4月)
- 1855年9月5日 06:00|アメリカ | |||カンザスの奴隷制度廃止論者、自由州軍を結成
- 1855年9月6日-12:00|ニューゼーランド/イギリス | |||<就任>イギリス連邦ニューゼーランド 総督「トマス・ゴア・フレイ」(~18611003)
- 1855年9月7日-09:00|日本|岐阜県恵那市|安政2年7月26日|<死去>美濃国岩村藩2万石「松平乗喬」(35歳)⇒次男「松平乗命」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月20日、版籍奉還)
- 1855年9月8日-02:00|トルコ | |||クリミア戦争で各国連合軍がセヴァストポリスを占領
- 1855年9月10日-02:00|南アフリカ | |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラート 議長「エンリクス・アルベルトウス・フレトウス」(2回目~11日)
- 1855年9月10日 03:00|ウルク・アイ | |||<辞任>ウルク・アイ 大統領「フロリス」フランク党のクーデターにより
- 1855年9月10日 03:00|ウルク・アイ | |||<就任>ウルク・アイ 大統領代理「マニエル・バシリア・フスタマンテ」コロラド 党 (~18560215)
- 1855年9月10日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政2年7月29日|幕府、長崎海軍伝習所を開設
- 1855年9月11日-02:00|南アフリカ | |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラート 議長「エンリクス・アルベルトウス・フレトウス」(3回目~18日)
- 1855年9月11日-02:00|ウクライナ/フランス/イギリス/ロシア | |||クリミア半島のロシアの要塞セヴァストポリスが、イギリス-フランス連合軍の攻撃で陥落
- 1855年9月11日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|安政2年8月1日|佐賀藩の技術者が模型蒸気機関車を製作<日本最古の模型蒸気機関車、鉄道記念物、佐賀県立博物館所蔵>
- 1855年9月12日 07:00|メキシコ | |||<就任>メキシコ合衆国大統領「ロドリゴ・デ・イラス・テ・ラ・ベガ」(メキシコ地区総督・最高司令官) (2回目~10. 4)
- 1855年9月14日-09:00|日本|東京都千代田区|安政2年8月4日|<解任>老中「松平乗全」「松平忠優」
- 1855年9月15日-04:30|アフガニスタン | |||<就任>アフガニスタン対立摂政(ヘラート)「モハメド・ユソフ・カーン・モハメド・ザイ」(~1856年6月)
- 1855年9月18日 00:00|シエラレオネ/イギリス | |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「ステイブンス・ジョン・ヒル」(2回目~18590420)
- 1855年9月21日-04:00|ジョージア/トルコ | |||スラム(スミ)をオスマン帝国が占領 (~18560710)
- 1855年9月23日-09:00|日本|東京都|安政2年8月13日|薩摩藩西洋式大型帆船昇平丸が江戸へ回航され、幕府に献上される
- 1855年9月23日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|安政2年8月13日|<死去>画人、沖一峨(58)
- 1855年9月26日-09:30|オーストラリア | |||ニューサウスウェールズ 最初の鉄道、レッド・ファーンとパラムッタ・ジャンクション間に開通(イギリス帝国最初の国営鉄道)
- 1855年9月27日-08:00|中国 | |||清・咸豊5年8月17日|<即位>大成国王「平春王陳開(チェン・カイ)」(~18610821)、「平京王李文茂」(~1858年没)、「平東王梁培友」(~1857年)
- 1855年9月30日-09:00|日本 | |||安政2年8月20日|<死去>横山桂子(56歳) 歌人
- 1855年9月30日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|安政2年8月20日|<死去>出羽亀田藩2万石「岩城隆信」(18歳)⇒12月28日、弟「岩城隆政」が継ぐ(⇒文久元(1861)年8月12日、死去)
- 1855年10月-02:00|シリア/アラブ/トルコ | |||<就任>ダマスカス「Serhalifezade Namik Salih Pasha」(~12月)
- 1855年10月 06:00|ニカラガア | |||ウーカ、保守党の本拠ケラタガを制圧
- 1855年10月1日-01:00|サンマリノ | |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・ベネデット・ベルツツィ」(マリノ・マン)
- 1855年10月2日-01:00|デンマーク | |||デンマークがモナキ全体に共通憲法を施行し、参議会を設立
- 1855年10月2日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安政2年8月22日|薩摩藩、実験用で初の国産蒸気船雲行丸の試運転に成功
- 1855年10月4日-02:00|ギリシャ | |||<就任>ギリシャ首相(閣僚理事会議長)「デ・イミトリオス・ゲオルギウ・ウーラル」(1回目~18571125)
- 1855年10月4日 05:00|パナマ | |||<就任>パナマ大統領代行「フランシスコ・デ・ファブレガ」(~18560930)
- 1855年10月4日 07:00|メキシコ | |||<就任>メキシコ合衆国暫定大統領「ファン・アルバレス・ウルト」(~18571201)
- 1855年10月5日-09:00|日本/オランダ | 東京都|安政2年8月25日|オランダ 国王ウィレム3世から木造蒸気船「ス・ムンク」号(35トン、1850年オランダ・フレッキングで製造)が13代将軍徳川家定に贈呈(1856年、「観光丸」と改称→1876年、除籍解体)
- 1855年10月7日-05:30|インド | |||<死去>カナダ勅太守「ケラム・ムハンマド・ガウス・ハン」
- 1855年10月8日-09:00|日本|広島県広島市|安政2年8月28日|広島城下の船持、下関との間に毎月1・6の日に定期航路を開く
- 1855年10月9日-09:00|日本/イギリス | |||安政2年8月29日|日英和親条約の批准書を交換
- 1855年10月10日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス | |||<就任>サンピエール島・ミクロン島暫定司令官「Ange Gautier」(~18560514)
- 1855年10月10日-09:00|日本|東京大学|安政2年8月30日|幕府、天文方から洋書研究・翻訳のための洋学所を九段

1860迄 (3252件)

坂下に開設

- 1855年10月12日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<就任>ドイツ連邦議会大統領特使(フランクフルト・アム・マイン)「レベルクとローゼンライオン伯爵ヨハン・ベルンハルト」(~18590504)
- 1855年10月12日-09:00|日本| ||安政2年9月2日|<死去>初代一龍齋貞山(57歳)講釈師
- 1855年10月18日 06:00|ロシア| |||<就任>ロシア共和国大統領代行「サウティコフ・ニコライ」(~11. 8)
- 1855年10月23日 06:00|アメリカ| |||奴隷制度支持派に対抗してヒューズ憲法によって奴隷制度廃止論者の準州政府設立
- 1855年10月23日-09:00|日本|福島県いわき市|安政2年9月13日|<死去>陸奥湯長谷藩15000石「内藤政民」(50歳)⇒婿養子「内藤政恒」が継ぐ(⇒安政6年10月23日(18591117)、死去)
- 1855年10月29日-05:30|インド/イギリス| |||<死去>タンジャーヴール・マラーター王国国王「シヴァージー」イギリス領へ併合
- 1855年10月30日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア暫定総督「Antoine Alphonse Masset」(~18560216)
- 1855年10月30日 06:00|ニカラガ| |||<就任>ニカラガ共和国暫定大統領「パトリシオ・リバス」(~18570624)
- 1855年11月-04:30|アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン対立摂政(カンダハール)「グルム・ハイダル・カーン・モハメドザイ」(~1858年7月)
- 1855年11月-04:00|シヨージア/トルコ| |||オスマン帝国によるシグレリア占領(~1856年2月)
- 1855年11月 04:00|ドミニカ共和国/ハイチ| |||ハイチ、三度目のドミニカ侵攻/サントメの闘いでドミニカ側が勝利し、ハイチ軍は引き上げる
- 1855年11月1日-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリタニア・ワリス(総督)「オスマン・パシャ」(~18571001)
- 1855年11月2日 06:00|アメリカ| |||カンザス準州の奴隷制度廃止論者、ヒューズ憲法制定
- 1855年11月3日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「トリス・ノヴァス子爵アントニオ・セザール・デ・ウァスコンジェロス・コレア」(~18641224)
- 1855年11月4日 04:00|フォークランド/イギリス| |||<就任>イギリス領フォークランド諸島総督「トマス・エドワード・Laws Moore」(~18621122)
- 1855年11月5日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラート議長「ヨハネス・ヘルマナス・グロブール」(第8回~20日)
- 1855年11月5日-09:00|日本| ||安政2年9月26日|<死去>2代清元延寿太夫(54歳)浄瑠璃清元節家元
- 1855年11月7日-02:00|ジンバブエ/イギリス| |||イギリスの探検家デヴィッド・リヴィングストンが、ザンベジ川のヴィクトリア瀑布を発見
- 1855年11月8日 06:00|ロシア| |||<就任>ロシア共和国大統領代行「フランシスコ・デ・アギラル」(~18560217)
- 1855年11月9日-03:00|イタリヤ| |||<死去>シエラ王「ハイレ・メルコト」
- 1855年11月9日-03:00|イタリヤ| |||<即位>シエラ王「サレ・マリアム(イタリヤのメリク2世)」(1回目~1856年)
- 1855年11月11日-02:00|ウクライナ/イギリス| |||<就任>ウクライナ連合軍イギリス司令官「Sir William John Codrington」(~18560712)
- 1855年11月11日-01:00|デンマーク| |||<死去>キルケゴール/42歳(誕生:18130505)デンマークの哲学者
- 1855年11月11日-09:00|日本| ||安政2年10月2日|<死去>初代松林伯圓. 安政の大地震で(44歳)講釈師
- 1855年11月11日-09:00|日本|東京都|安政2年10月2日|<死去>藤田東湖. 安政の大地震の際、倒壊した自邸から母親を救助した後に圧死(50歳、文化3(1806)0316生)水戸藩士、儒学者
- 1855年11月11日-09:00|日本|東京都墨田区|安政2年10月2日|<死去>初代松林伯圓(講釈師)44才/自宅で静養中に圧死
- 1855年11月11日 13:00|日本|東京都|安政2年10月2日|<1855安政江戸地震>夜四つ頃(22時頃)、東京湾北部を震央とするマグニチュード7~7.1の内陸直下の大地震が発生/被害は直下地震だったため江戸に集中し、特に本所、深川の下町一帯や吉原など埋立地に多く、四谷では玉川上水の樋が崩れて出水、品川二番台場(大砲の陣地)で火薬に引火し爆発、20人が死亡/死亡者は建物の倒壊による圧死者が多く、城内10人、諸役所40人、武家方2609人、町方4741人、寺社18人で合計7418人(1万人死亡説もある)/建造物では、江戸城の石垣が崩れ、櫓や門、番所など26棟が全壊. 市中の家屋1727棟、1万5294軒が全壊及び焼失、土蔵1736棟、長屋1315棟、寺社165か所が全壊
- 1855年11月17日-02:00|ジンバブエ/ザンビア/イギリス| |||イギリスの探検家D・リヴィングストンが西洋人で初めてモシオトウニャ滝に到達し「ヴィクトリア滝」と命名
- 1855年11月17日 05:00|エクアドル/ペルー| |||国境紛争. ペルーは、ラモン・カステイラ將軍の率いる部隊を南部海岸地帯に進めるいっぽう、軍艦を派遣しグアヤキル港を封鎖. キジエルモ・フランコは、ペルー軍とMapasingue条約を結び、南部アマゾン上流地帯諸州を割譲
- 1855年11月18日-09:00|日本|東京都千代田区|安政2年10月9日|<就任>老中首座「堀田正睦」(~安政5年6月23日)
- 1855年11月19日-09:00|日本|京都府南丹市|安政2年10月10日|<死去>丹波園部藩24000石「小出英教」(27歳)⇒翌年3月28日、長男「小出英尚」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月20日、版籍奉還)
- 1855年11月21日-01:00|フランス/スウェーデン/イギリス| |||スウェーデンと英仏が11月協定を締結
- 1855年11月22日-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||<就任>ヒュアワ湾英国領事「トマス・ジョセフ・ハッチソン」(~18610606)
- 1855年11月23日-09:00|日本|東京都|安政2年10月14日|<死去>3代並木五瓶(67歳)歌舞伎作者
- 1855年11月24日-09:00|日本/フランス|沖縄県|安政2年10月15日|琉球がフランスと和親条約を結ぶ
- 1855年11月26日 06:00|アメリカ| |||奴隷制度支持派、カンザス準州のロレンスの自由州軍を攻撃
- 1855年11月27日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラート議長「(コルリス)ポトギーター」(第24回)
- 1855年11月27日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《ピアノ三重奏曲第1番♩長調Op. 8》
- 1855年11月30日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ヒュアワ湾植民地政府首相「ウィリアム・ヘインズ」(~18570311)
- 1855年12月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Nasuhzade Mehemet Hamdi Pasha」(~1857. 1)
- 1855年12月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Mahmud Nedim Pasha」(~1856. 9)
- 1855年12月-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュトラのワリス「アタラ・パシャ」(~1857年11月)

1860迄 (3252件)

- 1855年12月1日 13:00|日本/オランダ|長崎県長崎市|安政2年10月22日|オランダ人の長崎・市街遊歩が許可される
- 1855年12月3日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政2年10月24日|幕府海軍伝習所が長崎に開校し、幕臣・諸藩士・庶民ら多数の伝習が始まる
- 1855年12月9日-09:00|日本|大分県宇佐市|安政2年11月|豊前時枝藩領の14か村が、圧政に抗議して一揆を起こす
- 1855年12月10日-02:00|ロシア| |||<就任>ロシア及び北西部の地方総督「ウラジミール・イワノビッチ ナチモフ」(~18630501)
- 1855年12月10日 00:00|イギリス| |||イギリスの物理学者マクスウェルがマイケル・ファラデーの提唱した磁気力線に関する論文を発表
- 1855年12月11日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領「セルソ・イグナシオ・グレゴリオ・モンフォール・デ・ロス・リオス」(18571201まで代行;18571219から暫定~18580121)
- 1855年12月13日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|安政2年11月5日|<死去>下総生実藩1万石「森川俊民」(52歳)⇒三男「森川俊位」が継ぐ(⇒安政5(1858)年7月26日、死去)
- 1855年12月20日 06:00|アメリカ| |||第三次セミアール戦争が始まる。小規模な抵抗が三年にわたり続く(~18580508)
- 1855年12月28日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国首席大臣「アレクサンゴヴィッチ」(3度目~18560610)
- 1855年12月29日-09:00|日本|岡山県新見市|安政2年11月21日|<死去>関成煥(58歳)前備中新見藩主
- 1855年12月31日 00:00|イギリス| |||<死去>タウンゼント侯・レスター伯「ジョージ・フェラス・タウンゼント」
- 1855年12月31日 00:00|イギリス| |||<就任>タウンゼント侯「ジョン・タウンゼント」(~18630910死去)
- 1855年12月31日-09:00|日本|京都府京都市中京区|安政2年11月23日|焼失した京都御所の紫宸殿、清涼殿が完成
- 1856年-08:00|マレーシア| |||<就任>タンピオン統治者「サイド・シャバン・イブニ・サイド・イブラヒム・アル・カドリ」(~1872年没)
- 1856年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「ルイス・アウグスト・デ・アルメイダ・マセド」(~18580908)
- 1856年-08:00|インドネシア| |||<即位>ティール・スルタン「Ahmad Saifuddin Alting」(~1865年)
- 1856年-07:00|タイ| |||<就任>ランナー国主(チャオ)「カウロツリヤウォン」(~18700629)
- 1856年-07:00|オーストリア| |||<即位>チャンパーサク王「カム・ニヤイ」(~1858年没)
- 1856年-07:00|タイ| |||<即位>ハタニ王「テンク・アワマト」(~1881年)
- 1856年-06:00|プータン| |||<就任>プータン摂政「クンガ・ハルテン」,「シェラブ・ターチン」(~1861年)
- 1856年-05:30|インド| |||<就任>コチン国摂政「ガンガ・ダラ・ラクシュミ」(~1858年)
- 1856年-05:30|インド| |||<就任>タラオン国統治者(ジョーバ)「ラム・チャント」(~1872年没)
- 1856年-05:30|インド| |||<就任>ターコティ国統治者(ターケル)「ラム・シン」(~1883年没)
- 1856年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>カラカルパク対立ハン「Muhammad Jarlik Turan Khan」
- 1856年-04:00|セイシェル/イギリス| |||<就任>イギリス領セイシェル長官代行「ウィリアム・ハリソン・ホリア・グリアイス」(~同年)
- 1856年-04:00|ジョージア| |||<就任>ミンコリア摂政「グロル・ダテ・イアニ」(~1857年)
- 1856年-03:00|イェメン/イギリス| |||<就任>アデン総督「William Marcus Coghlan大佐」(~1862年)
- 1856年-03:00|スーダン/エジプト| |||<就任>エジプト領スーダン総督「ムハンマド・アブドゥル・ハリム・ハシム王子」(~同年)⇒長官「アキル・ベ・イ・アル=アルマニ」(~1858年)
- 1856年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バースラのワリス「ウヰキリ・クルビ・ベイ」(~同年)⇒「ラシード・ハシム」(~1857年)
- 1856年-03:00|カンタラ| |||<就任>ブガント王国首相「Kayirra」⇒「Kisomose」⇒「Mayanja」⇒「Mulere」
- 1856年-03:00|カンタラ| |||<就任>ムカ統治者(オムカマ)「ヌンワ・キハリヤ」(~1870年)
- 1856年-03:00|ケニア| |||<即位>ハテスルタン国スルタン「Ahmad Simba Balla ibn Fumo Luti, Mfalume」(~1858年)
- 1856年-03:00|エチオピア| |||シエワはエチオピアに併合(~1859年)
- 1856年-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス管財人「カニ・ハシム」(~1857年)
- 1856年-01:00|ガボン/フランス| |||<就任>ガボン・ギニア湾入植地司令官「アレクシス・エトウアル・ウイニオン」(2回目~1859年)
- 1856年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>アシニー(ジョイングイル砦)民間司令官「ボナヴァンチュール・ルネ・ドニ」(~1858年)
- 1856年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ第5代総督「Sir Edward Hay Drummond Hay」
- 1856年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>グランバッサム(ヌル砦)民間司令官「ノエル・フルヤス」
- 1856年 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島総司令官代理「Pascual Alvarez」
- 1856年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>ダブー(テュコス砦)民間司令官「ジャン=シャルル・ジヤントル」⇒「エトウアル・ゲダン」(~1857年)
- 1856年 00:00|セネガル| |||<就任>ハウル統治者(ティーン)「セ・ヤン・ソコ・ソ・ジエゲン・ファル」(2回目~1860年)
- 1856年 00:00|トーゴ| |||<就任>ハサル統治者(オウロ)「シントンジャ1世」(~1897年)
- 1856年 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||<死去>南グリーンランド 検査官「Carl Peter Holboll」
- 1856年 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||<就任>南グリーンランド 検査官代理「Jorgen Nielsen Moller」(~1857年)
- 1856年 04:00|トミカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミカ副総督「サムエル・ウェンズリー・ブラックオール」(2回目~1857年)
- 1856年 04:00|バルバドス/グレナダ/セントビンセント/セントルシア/トミカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス・ウインドワード諸島総督「Francis Hincks」(~18620104)
- 1856年 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>ピエクス島知事「Gregorio Tenorio」(~1857年)
- 1856年1月 04:00|トミカ共和国/ハイチ| |||トミカ軍、相次ぐ勝利。ハイチ軍を駆逐
- 1856年1月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督兼最高司令官代理「グラント・E. トマス」(~25日)
- 1856年1月1日-09:30|オーストラリア| |||タスマニアという名称が、ヴァンデイメンズランドに替えて正式の名称として採用される
- 1856年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ヤコブ・ステンフリ」Rad(1期目~12.31)
- 1856年1月2日-09:00|日本|京都府綾部市|安政2年11月25日|<死去>丹波山家藩1万石「谷衛彌」(34歳)⇒養子「谷衛滋」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)

1860迄 (3252件)

- 1856年1月4日-09:30|オーストラリア| |||南オーストラリア植民地で、初めての男子普通選挙制が導入される
- 1856年1月4日 00:00|イギリス| |||<死去>初代アイルズ・ベリー侯「チャールズ・ブルデネル＝ブルス」
- 1856年1月4日 00:00|イギリス| |||<就任>2代アイルズ・ベリー侯「ジョージ・ウィリアム・フレデリック・ブルデネル＝ブルス」先代の息子(⇒18680328兼8代カーティガン伯~18780106死去)
- 1856年1月6日-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「ムハンマド 3世・イブン・アブドゥル・カリーム」(3度目~18580328没)
- 1856年1月7日 00:00|リベリア| |||<就任>リベリア共和国大統領「ステイヴン・アレン・ベンソン」(~18640104)
- 1856年1月7日-09:00|日本| ||安政2年11月30日|<死去>4代杵屋六三郎(76歳)長唄三味線方
- 1856年1月8日-05:30|インド| |||<就任>リディイ国統治者(タル・サーヒブ)「ワテシジ・ホーシラジ」(~18620130没)
- 1856年1月10日-09:00|日本|東京都千代田区|安政2年12月3日|一橋慶喜(19歳)、一条美香子(21歳)と結婚
- 1856年1月11日-09:00|日本|北海道|安政2年12月4日|<格付>蝦夷松前藩3万石格「松前崇広」幕府から毎年1万8000両を交付される(~慶応2年4月28日隠居)/徳広が継ぐ
- 1856年1月17日-09:00|日本|東京都千代田区|安政2年12月10日|<死去>千葉周作(62歳、寛政6(1794)年生)神田お玉が池の剣術家。北辰一刀流の始祖
- 1856年1月20日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《2つのカヴァット》
- 1856年1月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハーデン大公「ルートヴィヒ2世」
- 1856年1月22日-01:00|ドイツ| |||<即位>ハーデン大公「フリードリヒ1世」(~19070928死去)
- 1856年1月22日-09:00|日本|山口県萩市|安政2年12月15日|吉田松陰、野山獄を出て松本村の自宅で塾居
- 1856年1月22日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|安政2年12月15日|<和歌山安政2年の大火「万町放火火事」>夜中の八つごろ(午前2時ごろ)、万町南側の西角、横町の伊勢甚の向かいにある有嘉の納屋が付け火(放火)され、出火、万町から隣接する福町、西ノ店、鍛冶屋町、駿河町、大工町、十方院丁と進み、本町一丁目、二丁目と焼き、米屋町、匠町、中ノ店中ノ丁、同南ノ丁と、外堀北部の城下中心街の13町を焼いた/焼失した家屋335棟、土蔵83か所
- 1856年1月23日-09:00|日本|茨城県つくば市|安政2年12月16日|<死去>細川興建(58歳)前常陸谷田部藩主
- 1856年1月25日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督兼最高司令官「Francis Hincks」(1期目~18590313)
- 1856年1月28日-09:00|日本|静岡県下田市|安政2年12月21日|日露和親条約により下田港開港
- 1856年1月29日 00:00|イギリス| |||英国女王がクリミア戦争で戦功をあげた軍人に初めて「ヴィクトリア十字章」授与
- 1856年1月29日-09:00|日本|山口県萩市|安政2年12月22日|長州姥倉の運河竣工開通
- 1856年1月30日-02:00|ブルガリア| |||ブルガリアのヴラツァに、最初のチクリシュテ(公民館)が開設
- 1856年1月30日-09:00|日本/オランダ|長崎県長崎市|安政2年12月23日|長崎奉行、オランダ使節キルチウスと日蘭和親条約締結
- 1856年1月31日-08:00|中国| ||清・咸豊6年|<死去>ダライ・ラマ「11世ケトウフ・ギヤツォ」
- 1856年1月31日-08:00|中国| ||清・咸豊6年|<就任>ヘット撰政「閣僚会議」(~同年)⇒「第3代レイン・リンホーチェ」(~18580226)
- 1856年2月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ヒヴァ・ハン国イフク朝ハン「クトルムハンマド・ムラト・ハバドゥール」
- 1856年2月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国イフク朝ハン「サイド・マフマト」
- 1856年2月-02:00|南アフリカ| |||<就任>エトレット共和国治安判事「アントニアス・テオドロス・スピアイス」(2回目~18580508)
- 1856年2月 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督代行「ジェームズ・ウィッカリー・トライスタール」(~1857年5月)
- 1856年2月1日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領代行「フランシスコ・ハビエル・ドゥエニャス・ディアス」(3回目~12日)
- 1856年2月3日-09:00|日本|岡山県倉敷市|安政2年12月27日|<交替>岡山新田藩15000石「池田政和」隠居⇒次男「池田政礼」が継ぐ(⇒明治3(1870)年正月12日、版籍奉還、生坂藩と改称)
- 1856年2月4日 00:00|イギリス| |||<死去>2代リスト＝エル伯「ウィリアム・ヘア」
- 1856年2月4日 00:00|イギリス| |||<就任>3代リスト＝エル伯「ウィリアム・ヘア」(~19240605死去)
- 1856年2月6日-09:00|日本| ||安政3年|<完成>生方鼎斎著「皇国三字史」
- 1856年2月6日-09:00|日本| ||安政3年1月|<出版>歌川国芳「国芳雑画集」
- 1856年2月6日-09:00|日本|東京都墨田区|安政3年1月|<大相撲>安政3年1月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(西小結)境川、8勝0敗1分1休/もと六ツヶ峰
- 1856年2月7日-05:30|インド/イギリス| |||<退任>アクト 国王「ワージド・アリー・シャー」(~2.13イギリス領インドに編入)
- 1856年2月7日-09:00|日本| ||安政3年1月2日|<死去>山本梅逸(74歳)画家
- 1856年2月12日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領「ラファエル・フィエルト・ホーマル」(~18580201)
- 1856年2月12日-09:00|日本| ||安政3年1月7日|<死去>生方鼎斎。福田半香邸の酒席で争いになり、帰路に金子健四郎の若党に殺害された(58歳)書家
- 1856年2月13日 00:00|イギリス/インド| |||イギリスが、北インドのアクト 藩王国を併合
- 1856年2月15日 03:00|ウルクアイ| |||<就任>ウルクアイ東方共和国大統領代理「ルセ・マリア・プーラ」コロラト 党(~3.1)
- 1856年2月16日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア総督「Auguste Laurent Francois Baudin」(~18590515)
- 1856年2月17日-01:00|フランス/ドイツ| |||<死去>ドイツの「ロマン派」詩人クリスティアン・ヨハン・ハイネがパリで(1797-、58歳)
- 1856年2月17日 06:00|ホンジュラス| |||<就任>ホンジュラス共和国大統領「ルセ・サントス・グアルディアオラ・フステロ」(~18620111)
- 1856年2月18日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーフォーク公・アランデル伯・サリ伯「ヘンリー・チャールズ・ハワード」
- 1856年2月18日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーフォーク公・アランデル伯・サリ伯「ヘンリー・クラウンビル・フィッツアラン＝ハワード」先代の子(~18601125死去)
- 1856年2月18日 04:00|ガイアナ| |||ジョージタウンで暴動。ポルトガル人農園が破壊される

1860迄 (3252件)

- 1856年2月20日-05:30|インド| |||<即位>ジャムーン・カンニール国マハラジャ「ランビール・シン」(~18850912没)
- 1856年2月20日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍メリマック級フリゲイト「メリマック」(4636t, チャールズ・タン海軍工廠で建造)
- 1856年2月28日-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス領インド総督(イギリス東インド会社)「キルバラムのカンニング伯爵チャールズ・ジョン・カンニング」(⇒18581101, イギリス領インド帝国副王兼総督)
- 1856年2月28日 00:00|イギリス/インド| |||イギリスが、中部インドのナーゲプール藩王国を併合
- 1856年2月28日 04:00|アルバ/シント・マルテン/キュラソー/BES諸島| |||<就任>オランダ領アンティル総督「Reinhart Frans van Landsberge」(~18590713)
- 1856年2月29日 00:00|イギリス| |||<死去>8代ヨーク伯・第8代オーラー伯「エドマント・ホイル」
- 1856年2月29日 00:00|イギリス| |||<就任>9代ヨーク伯・第9代オーラー伯「リチャード・エドマント・セント・ローレンス・ホイル」(~19040622死去)
- 1856年3月 06:00|コスタリカ/グアテマラ/ホンジュラス/パナマ| |||ニカラガを除く中米4国の保守党は、ウォーカーを打ち破るための連合軍を結成、「国民戦争」を宣言
- 1856年3月 06:00|ニカラガ| |||ニカラガ自由党の傭兵部隊隊長ウォーカーが政府の実権を掌握
- 1856年3月1日 03:00|ウルグアイ| |||<就任>ウルグアイ東方共和国大統領「ガブリエル・アントニオ・ペレイラ」国民党(3回目~18600301)
- 1856年3月1日 06:00|コスタリカ/ニカラガ| |||コスタリカのラファエル・モラ大統領, ウォーカーに対し宣戦布告/ウォーカー軍350名, コスタリカに侵入
- 1856年3月2日-08:00|インドネシア| |||インドネシア, サングル島, アウ山噴火地震津波, 死者3千
- 1856年3月4日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラード議長「ヨハネス・ヘルマンス・グロブール」(第3回~11日)
- 1856年3月7日-09:00|日本| ||安政3年2月|<出版>安藤広重「名所江戸百景」(~安政5年10月)
- 1856年3月7日-09:00|日本| ||安政3年2月|<出版>柳川重信(二代)「柳川画譜」三冊
- 1856年3月7日-09:00|日本| ||安政3年2月|地方街道の定期飛脚制度が始まる
- 1856年3月11日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラード議長「ヘンドリック・テトール・ビュルマン」
- 1856年3月13日 10:00|ポリネシア/フランス| |||<就任>フランス領地ニア知事兼ツィエ諸島帝国弁務官代理「Louis Francois Roy」(~12. 30)
- 1856年3月17日-09:00|日本|東京大学|安政3年2月11日|幕府, 洋学所を蕃書調所と改称/洋学の翻訳・統制に着手
- 1856年3月18日-09:00|日本|長野県伊那市|安政3年2月12日|<死去>内藤頼以(81歳)前信濃高遠藩主
- 1856年3月18日-09:00|日本|新潟県新発田市|安政3年2月12日|<死去>越後三日市藩1万石「柳沢泰孝」(24歳)⇒4月4日, 長男「柳沢徳忠」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月21日, 版籍奉還)
- 1856年3月20日 06:00|コスタリカ/ニカラガ| |||ウォーカー軍, サタ・ロサの戦闘でコスタリカ軍に敗れる
- 1856年3月30日-02:00|ルーマニア/ロシア| |||ベッサラビア地方, モルダヴィア公国に割譲される。モルダヴィア・ワラキア両公国, ケザ公を共通の君主として選出しルーマニアの統一を達成
- 1856年3月30日-02:00|モルダヴィア/ロシア| |||ロシアはブジャックの南西隅(イスマイル郡, チャフル郡, ホルグラート郡)をモルダヴィア公国に返還
- 1856年3月30日-01:00|フランス/イタリヤ/イギリス/ロシア/トルコ| |||パリで, イギリス, フランス, サルデーニヤ, オスマン帝国の4カ国連合とロシアの間の戦争, クリミア戦争を終結させるための講和条約が締結される
- 1856年3月31日-09:00|日本|栃木県大田原市|安政3年2月25日|<死去>下野黒羽藩2万石「大関増昭」(23歳)⇒養子の「大関増徳」(~文久元(1861)年10月9日, 隠居)
- 1856年4月-09:30|オーストラリア| |||南オーストラリアで最初の鉄道がアデレードとポート・アデレード間約12キロ開通
- 1856年4月-07:00|タイ/アメリカ| |||タイがアメリカと友好通商条約を締結
- 1856年4月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァハン国イラク朝ハン「サイード・ムハンマド」(~1864. 9死去)
- 1856年4月 00:00|セネガル| |||<就任>ファタト・ロ統治者統治者(アルマニ)「フェルノ・ラシン・マドゥ・ニヤック」(2回目~8月)
- 1856年4月 05:00|パナマ| |||鉄道開通後失業した黒人労働者と, ウォーカー傭兵とのあいだに衝突. 傭兵15名が死亡
- 1856年4月 06:00|コスタリカ/ニカラガ| |||コスタリカ軍, ウォーカー軍を追撃し, トランジット社の中継地ラ・ビレグンを占領. 米国人多数を殺害
- 1856年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・フィリッピ」「ピエトロ・リギ」
- 1856年4月1日 06:00|アメリカ| |||ウェスタン・ユニオン電信会社設立
- 1856年4月3日-09:00|日本| ||安政3年2月28日|幕府, 合葉座を設け, 火薬の私販を禁止
- 1856年4月4日-02:00|ギリシャ| |||トス島騎士の宮殿爆発事故>ギリシャのトス島において騎士団長の居城とされた宮殿に落雷, 地下火薬庫が爆発し4000人が死亡
- 1856年4月5日-09:00|日本| ||安政3年3月|<出版>一立斎広重「義経一代記図会」
- 1856年4月5日-09:00|日本| ||安政3年3月|<発行>飯沼愨齋「草木図説草部」
- 1856年4月6日-09:00|日本| ||安政3年3月2日|<死去>佐野長寛(63歳)漆工
- 1856年4月8日-09:00|日本|茨城県|安政3年3月4日|鉱山学者大島高任が水戸藩の反射炉で銑鉄溶解実験に成功
- 1856年4月11日 06:00|コスタリカ/ニカラガ| |||ウォーカー軍を追撃したコスタリカ軍, リバスの決戦でウォーカー軍を打ち破る
- 1856年4月13日-09:00|日本| ||安政3年3月9日|長崎・下田などの開港地で踏み絵廃止
- 1856年4月15日 00:00|イギリス| |||<死去>6代カーパー伯「ジョージ・オーガスタス・フレデリック・カーパー」
- 1856年4月15日 00:00|イギリス| |||<就任>7代カーパー伯「フランシス・トマス・グレイ・カーパー」(~19050718死去廃絶)
- 1856年4月17日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア国務院議長・閣僚委員会委員長「ゲラーフ・アレクセイ・フョードロヴィチ・ホルワ」(~18610120没)
- 1856年4月24日-01:00|フランス| |||グイクトル・ユゴーが, 叙事詩の傑作「静観詩集」を著す
- 1856年4月28日-09:00|日本|東京都中央区|安政3年3月24日|江戸幕府が築地鉄砲洲に「講武所」開校(後に神田小

1860迄 (3252件)

川町に移転)

- 1856年5月-03:00|イェン/トルコ| |||<就任>オスマン帝国イェン・ウリス(総督)「Babanli Ahmed Pasha」(1期目~1862. 12)
- 1856年5月-03:00|サジ アラビ ア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ヒジャーズ 総督「キュルト・マフムド・パシャ」(~1857年7月)
- 1856年5月 05:00|ジヤマイカ/イギリス| |||<就任>英領サントピア 総督代行「エドワード・ウェルズ・ベル」(~18570724)
- 1856年5月4日-04:00|ロシア| |||<初演>アレクサンドル・セルゲエーヴィチ・タールゴムイスキー《歌劇「ルサカ」》
- 1856年5月4日-09:00|日本|東京都江東区|安政3年4月|幕府、深川越中島に砲術訓練場を設ける
- 1856年5月7日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド 首相「ヘンリー・シーウェル」(~20日)
- 1856年5月10日-09:00|日本|滋賀県大津市|安政3年4月7日|<交替>近江膳所藩6万石「本多康融」隠居⇒弟「本多康穰」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月19日、版籍奉還)
- 1856年5月14日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島司令官「Jacques Francois Gervais」(2期目~18590504)
- 1856年5月14日-09:00|日本|東京都中央区|安政3年4月11日|江戸幕府が東京・築地に軍艦操練所を設置→後の海軍兵学校
- 1856年5月15日-09:00|日本| ||安政3年4月12日|<死去>平井顕斎(55歳)南画家
- 1856年5月16日-09:00|日本|東京都中央区|安政3年4月13日|幕府、築地鉄砲洲に陸軍講武所を開設/幕臣およびその子弟に剣術の他、洋式訓練・砲術などを教授
- 1856年5月17日-01:00|ノルウェー/スウェーデン| |||<就任>ノルウェー総督「副王カール皇太子」(1回目~11. 11)
- 1856年5月20日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド 首相「ウィリアム・フォックス」(1回目~6. 2)
- 1856年5月21日 06:00|アメリカ| |||奴隷派の武装団・暴力団が自由州人の地盤であるローレンスに入り、自由州人の村に火を付け、新聞社2社とその印刷機を破壊し、家屋や店舗を荒らした
- 1856年5月22日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ 領東インド 総督「チャールズ・Ferdinand Pahud」(~18610902)
- 1856年5月22日 04:00|グレタダ/イギリス| |||<就任>グレタダ 副総督代行「ジェームズ・ウォーカー」(~10月)
- 1856年5月22日 06:00|アメリカ| |||午後、アメリカ合衆国上院議場で、サウスカロライナ州選出の民主党下院議員フレドリック・スミス・ブルックスがマサチューセッツ州選出の上院議員チャールズ・サムナーを襲い、その杖が折れるまでサムナーを殴り続けた。サムナーはこのとき頭や首に受けた傷がもとで、3年間上院の議場に戻って来られなかった。サムナーは反奴隷制度派の殉教者になった
- 1856年5月24日-01:00|オーストリア/イタリア| |||オーストリア軍がトスカナから撤収
- 1856年5月24日 06:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領カナダ 州共同首相「スティーブン・ハスケル・タシエ(2回目/カナダ 東部)」 「ジョン・アレクサンダー・マクドナルド(1回目/カナダ 西部)」(~18571126)
- 1856年5月24日 06:00|アメリカ| |||夜、カナダ準州でジョン・ブラウンの息子のうち4人を含む集団が奴隷制度擁護派の男5人をその家から連れ出し、幅広刀で切って殺した
- 1856年5月25日-11:00|ニューカドニア/フランス| |||<就任>ニューカドニア司令官代理「Eugene Le Bris」(⇒12. 21司令官~18570505)
- 1856年5月26日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国大統領「マヌエル・デ・レグーラ・モタ・イ・アルバレス・デ・フエンテス」(~10. 8)
- 1856年5月27日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラード 議長「ヨハネス・ヘルマナス・ゲロフラー」(第10回~30日)
- 1856年5月29日-07:00|タイ/アメリカ| |||米シヤム通商条約調印
- 1856年5月29日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 暫定知事「Louis Laurent Auguste Guillet」(2期目~18570304)
- 1856年5月29日 06:00|アメリカ| |||米イリノイ州共和党発足
- 1856年6月-04:30|アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン対立摂政大臣(ヘラート)「イ・カン・バルトル」(~10月)
- 1856年6月 07:00|メキシコ| |||メキシコ法公布/共同体と教会の土地所有を禁止し、競売を強制
- 1856年6月1日 00:00|ポルトガル| |||<就任>フンチャル地区民政知事「Antonio Rogerio Gromicho Couceiro」(~18570903)
- 1856年6月2日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド 首相「エドワード・ウィリアム・スタッフォード」(1回目~18610712)
- 1856年6月2日 06:00|アメリカ| |||ジョン・ブラウンはブラックスジャックの戦いで奴隷制度擁護派のヘンリー・C・ヒート(後の南軍大佐)の他22人を捕虜にした
- 1856年6月3日-09:00|日本|東京都台東区|安政3年5月|<初演>「新台いろは書初」<松浦の太鼓>[合作・三代目瀬川如臈、三代目櫻田治助]森田座
- 1856年6月6日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ニューサウスウェールズ 植民地政府首相「ステュアート・ナルドソン」無所属(~8. 25)
- 1856年6月6日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル王国第20代首相「ヌノ・セルセ・ペドロ・デ・メント・カ・ロリム・デ・モウラ・バレット」(1期目~18590317)
- 1856年6月7日-09:00|日本|福井県大野市|安政3年5月5日|大野藩、会所を蘭学所(蘭学館)とする
- 1856年6月8日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島主任判事「George Martin Frederick Young」(1期目~18571231)
- 1856年6月10日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国首席大臣代行「ステイヴァン・マルコヴィッチ」(1度目~9. 28)
- 1856年6月14日-09:00|日本|福岡県北九州市|安政3年5月12日|<死去>豊前小倉藩15万石「小笠原忠徹」(49歳)⇒8月29日、養子「小笠原忠嘉」が継ぐ(⇒万延元(1860)年6月25日、死去)
- 1856年6月15日-07:00|日本|大阪府大阪市|安政3年5月13日|<大坂安政3年の大火「西道頓堀火事」>丑の刻(午前2時ごろ)、西道頓堀の幸橋南詰め東浜側から出火、幸町の南角まで全焼させ、さらに道頓堀川を越えて東町、釜屋町、新難波中町と延焼、翌日午の刻(午前12時ごろ)鎮火/東は西横堀川から住吉橋、幸橋、汐見橋、日吉橋までの間の両側の町筋すべてが灰となった
- 1856年6月20日-05:30|インド| |||<就任>シムル国ラジャ「シヤムシヤ・フ・ラカシュ」(~18981002没)

1860迄 (3252件)

- 1856年6月20日-01:00|モコ| |||<死去>モコ公「ワロスタン1世」
1856年6月20日-01:00|モコ| |||<即位>モコ公「シャル3世」(~18890910)
1856年6月20日-08:00|中国| |||<第一次江南大営攻略>(17日~)太平天国軍は清軍の築いた江南大営を撃破し3年にわたる包囲を解いた
1856年6月23日-09:00|日本|北海道|安政3年5月21日|箱館奉行、アイヌの人々に日本語の習熟など内地人との同化を強要
1856年6月25日-02:00|ルマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「エマノイル・グロ・ル・パレス(臨時行政会会長)」(~7.16)
1856年7月1日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ王国首相「ジャスティヌス・ジ・エイコフ・レナート・ファン・デル・ブルヘン」(~18580318)
1856年7月3日-02:00|ルマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ステファン・コンスタンティン・カルジユ(臨時行政評議会議長)」(~11日)
1856年7月3日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|安政3年6月2日|<死去>下野宇都宮藩77000石「戸田忠明」(18歳)⇒弟「戸田忠恕」が継ぐ(⇒元治2(1865)年1月25日、5万石に減封し強制隠居)
1856年7月5日-09:00|日本| ||安政3年6月4日|幕府、新鑄の二分金の通用を布告
1856年7月7日-09:00|日本|高知県高知市|安政3年6月6日|<交替>土佐新田藩13000石(浦戸城)「山内豊賢」隠居⇒養子「山内豊福」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年1月13日、自害)移す
1856年7月7日-09:00|日本|福岡県北九州市|安政3年6月6日|<交替>小倉新田藩(篠崎屋敷)1万石「小笠原貞寧」隠居⇒養子「小笠原貞正」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月、藩庁を上毛郡千束(現在の豊前市)に移す)
1856年7月9日-01:00|イタリヤ| |||<死去>イタリヤの物理学者「ウァグネル」80歳(誕生17760609)/「ウァグネル」の法則を発見した
1856年7月11日-02:00|ルマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「テオドール・ニコラエ・パリス(王子副王)」(~18570217)
1856年7月11日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国首相代行「ルトウ・ヒ・ニコラス・ツレ」(~8.22)
1856年7月11日-09:00|日本|宮崎県児湯郡高鍋町|安政3年6月10日|<死去>秋月種任(66歳)前日向高鍋藩主
1856年7月12日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<再建>イギリス領ナール植民地
1856年7月12日 06:00|ニカラガ| |||<就任>ニカラガ大統領「ウイリアム・ウオーカー」(~18570501)
1856年7月14日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Leopoldo・オドンネル」自由党(~10.12)プロシヤミエントの推薦によって政権につく/イスラエル派のデモを弾圧し、全国民兵隊を解散させ、全面的に権力を掌握
1856年7月14日-09:00|日本| ||安政3年6月13日|幕府洋書並びに翻訳書改の令を下す
1856年7月15日-09:00|日本|岡山県岡山市|安政3年6月14日|<洪染一揆>備前国岡山藩の被差別部落住民53団による強訴/八日市の吉井河原に被差別身分の約千数百人もの人々が結集、午後3時頃岡山藩の家老であった伊木氏の陣屋を目指し、途中で村役人の妨害がありましたが、これを突き破り、佐山村榎塚あたりで伊木氏の軍勢と向かい合い、その後伊木軍の責任者と会う
1856年7月16日-02:00|ルマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「アレクサンドル・デ・ミトリー・ギカ(王子副王)」(~18581018)
1856年7月17日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事代理「Louis Andre Lagrange」(1期目~12.12)
1856年7月17日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国ペンシルバニア州キャンピング・ヒルで列車が正面衝突し、炎上。レ・ケニックの行楽客など少なくとも59人が死亡
1856年7月19日-01:00|ドイツ| |||ドイツ・デュッセルドルフ郊外のネンデルタルで旧石器中期の人骨を発見(ネンデルタル人)
1856年7月19日-09:00|日本| ||安政3年6月18日|吉田松陰が「講孟余話」を著す
1856年7月22日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ウクライナのロシア総督「Grigoriy Vasilyevich Zhukovskiy」(~18710131)
1856年7月25日-05:30|インド| |||インドでヒンズー寡婦の再婚を認める法律が制定
1856年7月28日-04:00|ロシア| |||ロシアのニコライ・マトヴェエフ「イチ・チハチヨフ」中佐が、ロシア初の恒久的な樺太入植地であるデーユを設立
1856年7月28日-09:00|日本|群馬県甘楽郡甘楽町|安政3年6月27日|<交替>上野小幡藩2万石「松平忠恵」隠居⇒五男「松平忠恕」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月22日、版籍奉還)
1856年7月29日-01:00|ドイツ| |||<死去>シューマン/46歳(誕生18100608)ドイツの作曲家
1856年7月31日-09:00|日本|新潟県長岡市|安政3年6月30日|<死去>越後与板藩2万石「井伊直経」(58歳)⇒長男「井伊直充」が継ぐ(⇒文久2(1862)年9月24日、死去)
1856年8月-01:00|ドイツ| |||デュッセルドルフ近郊の窟でネンデルタル人の化石が発見
1856年8月1日-05:45|ネーデルラント| |||<就任>ネーデルラント王国首相代行「ハム・バ・ハット・カル・クワ・ラ」(~18570525没)
1856年8月1日-09:00|日本|東京大学|安政3年7月1日|幕府、蕃書調所での旗本子弟の修学を許可
1856年8月3日-09:00|日本|長崎県平戸市|安政3年7月3日|<死去>松浦皓(53歳)前肥前平戸新田藩主
1856年8月6日-09:00|日本|京都府京都市|安政3年7月6日|<死去>正親町雅子(新待賢門院)(54歳)仁孝天皇の典侍、孝明天皇の生母
1856年8月10日 00:00|イギリス| |||<死去>シュルズベリー伯・ウオーターウード伯「ハートラム・アーサー・タルボット」
1856年8月10日 00:00|イギリス| |||<就任>シュルズベリー伯・ウオーターウード伯「ハンリー・ジョン・フェットウイント=タルボット」先代の八従兄、タルボット伯(~18680604死去)
1856年8月10日-09:00|日本|東京都|安政3年7月10日|外国貿易取調掛を設置
1856年8月12日 06:00|カナダ| |||「グアンカーバー」で代議制議会が始まる
1856年8月12日-09:00|日本|東京都中央区|安政3年7月12日|水戸藩、幕命により石川島造船所で軍艦を建造、旭日丸と命名
1856年8月18日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍メマック級フリゲイト「ウオバッシュ」(4650t、フィラデルフィア海軍工廠で建造)
1856年8月18日-09:00|日本|大阪府大阪市|安政3年7月18日|大坂の安治川・木津川河口に砲台を建設
1856年8月19日 06:00|アメリカ| |||米国のゲイルボーンがコンデンシムルクを製造
1856年8月19日-09:00|日本|東京都|安政3年7月19日|外国貿易取調掛が設置される

1860迄 (3252件)

- 1856年8月20日-09:00|日本| ||安政3年7月20日|<死去>山崎美成(61歳)随筆家
- 1856年8月21日-09:00|日本|熊本県熊本市|安政3年7月21日|<交替>熊本新田藩35000石「細川利用」隠居⇒従弟「細川利永」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年7月25日、藩名を高瀬藩と改名)
- 1856年8月23日-09:00|日本| ||安政3年7月23日|日高・胆振・渡島・津軽・南部で地震/南部藩で溺死26、八戸藩で5人死亡
- 1856年8月26日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ニューサウスウェールズ植民地政府首相「チャールズ・ケーパー」無所属(~10.2)
- 1856年8月30日 06:00|アメリカ| ||オサトミで奴隷制度支持派と奴隷制度廃止論者が戦闘
- 1856年9月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワリス「Arnavud Suleyman Refet Pasha」(~同年)
- 1856年9月 00:00|セネガル| ||<就任>ファクトロ統治者統治者(アルマミ)「アマトウ・ハマト・シ」(2回目~11月)
- 1856年9月1日-08:00|中国| ||<天京事変>天京(南京)で太平天国指導部の内紛発生。韋昌輝(北王)と秦日綱(燕王)軍が東王府を襲い楊秀清とその一族・部下2万人を殺害
- 1856年9月3日 03:00|ブラジル| ||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「カアス男爵・伯爵・侯爵ルイ・アウグスト・リマ・エ・シルバ」(1回目~18570504)
- 1856年9月3日-09:00|日本/アメリカ| ||安政3年8月5日|ハリスが、下田玉泉寺を仮領事館とし、アメリカ領事館旗を掲げる
- 1856年9月3日-09:00|日本|東京都|安政3年8月5日|<死去>三升屋三三治(73歳)歌舞伎作者
- 1856年9月3日-08:00|中国| ||清・咸豊6年8月5日|雲南省大理でムスリムが蜂起
- 1856年9月4日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリヤ諸島暫定市民知事「Francisco Belmonte y Vilches」(2期目~12.10)
- 1856年9月5日 06:00|ニカラガア| ||ウカー、土地登記法を制定し、多くの土地を私物化
- 1856年9月5日-09:00|日本/イギリス|長崎県長崎市|安政3年8月7日|英水師提督シーモア軍艦3隻で長崎入港、条約改定を迫る
- 1856年9月6日-09:00|日本|京都府京都市|安政3年8月8日|<就任>関白「九条尚忠」(~文久2年6月23日)
- 1856年9月7日-09:00|日本|福岡県北九州市|安政3年8月9日|<死去>小笠原貞寧(26歳)豊前小倉新田藩主
- 1856年9月9日-09:00|日本|愛媛県松山市|安政3年8月11日|<死去>伊予松山藩15万「松平勝善」(40歳)⇒養子「松平勝成」が継ぐ(慶応3(1867)年9月20日、隠居)
- 1856年9月12日 06:00|ニカラガア| ||保守、自由両党、ウカーに対して共同で闘う協定に調印。ワタルの臨時政府は政府を解消し、ウカー戦争終了までパスを暫定大統領として認める決定。連合政権発足
- 1856年9月13日-09:00|日本| ||安政3年8月15日|<死去>杉田光正(62歳)漆芸家
- 1856年9月14日 06:00|ニカラガア| ||ワタル軍、ティパノ近郊のサン・バソットの丘に進出。ウカー軍と遭遇撃破
- 1856年9月14日-09:00|日本|栃木県足利市|安政3年8月16日|<死去>下野足利藩11000石「戸田忠文」(18歳)⇒義弟「戸田忠行」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1856年9月18日-09:00|日本|大阪府豊中市|安政3年8月20日|<死去>摂津麻田藩1万石「青木一咸」(29歳)⇒28日、養子「青木重義」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1856年9月19日 05:00|パナマ/アメリカ| ||米国、海兵隊を派遣し三日間にわたりパナマを占拠
- 1856年9月20日-09:00|日本|山口県萩市|安政3年8月22日|吉田松陰、禁固中の杉家において「武教全書」の講義を開始(翌年、叔父が主宰していた松下村塾の名を引き継ぐ)
- 1856年9月22日-08:00|シガポール/イギリス| ||<就任>イギリス領海峡植民地シガポール駐在評議員「ハンリー・サマセット・マッケンジー」(~18590713)
- 1856年9月22日 06:00|ニカラガア| ||ニカラガアを制圧したウカー、奴隷廃止令を撤廃
- 1856年9月22日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|安政3年8月24日|露使「チャーチン、長崎に来航し条約改定を迫る
- 1856年9月23日-09:00|日本| ||安政3年8月25日|<安政3年秋関東暴風雨・高潮「安政3年の大風災」>甲斐では笛吹川の支流、重川の最高水位が1丈5尺(4.5m)となって洪水となり、家屋の流失22軒、橋梁の流失45か所、道路損壊280間余(500m余)、耕地の流失36町6反(0.4平方km)の被害/駿河では吉原湊が高潮で港口がふさがれ、沼川から海水が遡上して農作物が水腐れとなり全滅/伊豆では下田湊が高潮に襲われ、激浪が民家を倒し、堤防をこわし、船舶も砕けてほとんど全滅状態/半島の南端では時化のため民家全潰24軒、同半潰62軒の被害/葦山代官支配地では、家屋倒潰292軒、なかでも三島宿が81軒倒潰/台風の強風により家屋の倒潰が多かったのは、東海道筋では川崎で宿場外の15か村で945軒が倒潰/利根川では、洪水により関宿、流山、龍が崎、土浦あたりの田畑が大荒れとなり、百姓家が倒潰、流失/相模湾から江戸湾、房総半島沿岸にかけて、高潮により作物に大被害を受け、多数の家屋が流失したり崩潰/江戸の被害は高波が陸へ上がり、この時水中に溺死が数え切れないほどだった/永代橋は大船が当たり半ば崩れ、蔵前の華徳院閻魔堂潰れ、湯島天神鳥居、神楽堂倒れる/火災が発生し芝片門前一丁目より出火、神明町、三島町、宇田川町西方焼け込む
- 1856年9月24日 06:00|ニカラガア| ||マキソ・ヘス指揮下のレオン軍(自由党)、ペロソ司令官の指揮するエルサルバドル軍を主体に編成されマナガア攻撃、マナガアを無血解放
- 1856年9月25日 00:00|カナ/オランダ| ||<死去>オランダ領ゴールト=ゴースト暫定総督「ヒロー・ショムス」在任中
- 1856年9月25日 00:00|カナ/オランダ| ||<就任>オランダ領ゴールト=ゴースト暫定総督「ピーター・ジェームス・ルケル」(~11.6)
- 1856年9月25日-09:00|日本|北海道|安政3年8月26日|蝦夷駒ヶ岳噴火/石が降り、廬舎焼失あり/死者20数人
- 1856年9月26日-01:00|フランス/ベトナム| ||フランスの軍艦がタナを砲撃
- 1856年9月26日-08:00|中国| ||<天京事変>韋昌輝(北王)は翼王府を襲い石達開(翼王)の一族郎党を殺害したが石は脱出
- 1856年9月27日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公国首席大臣「アレクサ・シミッチ」(3度目~18570701)
- 1856年9月28日-09:00|日本|広島県広島市|安政3年8月30日|<死去>広島藩の儒学者「頼聿庵」(56)
- 1856年9月29日-09:00|日本|東京都江東区|安政3年9月|<初演>「葛紅葉宇都谷峠」<文弥殺し>[原・金原亭馬生、作・

1860迄 (3252件)

二代目河竹新七|文弥、仁三、四代目市川小團次、市村座

1856年10月-09:30|オーストラリア| |||南オーストラリア憲法公布/植民地の平和、秩序、行政にかかわる全ての法を作るために、2院制の公選制議会が設立された

1856年10月-03:00|ウガンダ| |||<死去>ウガンダ王国国王「Ssuuna2世 Kalema Migeekyamyey」

1856年10月-03:00|ウガンダ| |||<即位>ウガンダ王国国王「Mukaabya Mutesa1世 Kayiira」(~18841024死去)

1856年10月 04:00|ケレダ/イギリス| |||<就任>ケレダ副総督代行「フランス・エルバートン・フェックリー」(3回目~1857年1月)

1856年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「メルキオール・ピリビ」|「ガエターノ・シモンチニ」

1856年10月1日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領「バルトロメ・カルボ・イ・デ・イラス・テ・ラマドリット」(~18580506)

1856年10月1日 06:00|ニカラグア| |||ウーカー、マヤの守備隊をいったん撤退。連合軍、マヤを占領

1856年10月2日-09:00|日本|茨城県下妻市|安政3年9月4日|<死去>常陸下妻藩1万石「井上正信」(17歳)⇒10日、叔父「井上正兼」が継ぐ(⇒慶応2(1866)年11月23日、隠居)

1856年10月3日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ニューサウスウェールズ植民地政府首相「ヘンリー・パーク」無所属(~18570907)

1856年10月8日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国大統領「フエベンチュラ・バエス・モンテス」(2回目~18580612)

1856年10月8日 00:00|イギリス/中国| ||清・咸豊6年9月10日|清国の役人が広東に停泊中のイギリス船アロー号の中国人船員12人を逮捕する(アロー号事件)

1856年10月10日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「エドワード・ヘイト・ラモン・ヘイ」(~18630703)

1856年10月12日-02:00|ギリシャ| |||ギリシャ、クレタ島、ロードス島で地震(M8.0)死者35人

1856年10月12日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Ramon Maria Narvaez」穏和党(~18571015)

1856年10月13日-01:00|スペイン| |||ナルバエス、政権の混乱に乗じふたたび権力を獲得/45年憲法を再公布

1856年10月15日 05:00|エクトル| |||<退任>エクトル国大統領「ルネ・マリア・ウルビナ」

1856年10月16日 05:00|エクトル| |||<就任>エクトル国大統領「フランシスコ・ロブレ」(~18590831)

1856年10月16日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政3年9月18日|長崎奉行、浦上村山の隠れキリシタン15人を逮捕、浦上三番崩れの弾圧が始まる

1856年10月18日-01:00|デนมาร์ク| |||<就任>デนมาร์ク王国首相「カール・クリストファー・ゲオルク・アントレー」(~18570513)

1856年10月18日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島総司令官「Jose Martinez y Luz de Barredo Tenaquero」(~18580812)

1856年10月19日-04:00|オマーン| |||<死去>アルサイド王朝スルタン「サイド2世ヒン・サルトン」

1856年10月19日-04:00|オマーン| |||<即位>アルサイド王朝スルタン「トウイニ・ヒン・サイド」(~18660211殺害される)

1856年10月19日-03:00|タンザニア| |||<死去>ザンザバル・ハミス(スルタン)「サイド」

1856年10月19日-03:00|タンザニア| |||<就任>ザンザバル・ハミス(スルタン)「サイド・マジッド・ヒン・サイド」(⇒18610402、スルタン~18701007)

1856年10月19日-09:00|日本|島根県安来市|安政3年9月21日|<死去>出雲母里藩1万石「松平直温」(27歳)⇒長男「松平直哉」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月24日、版籍奉還)

1856年10月21日-09:00|日本| ||安政3年9月23日|<死去>3代鶴沢清七(不明)浄瑠璃三味線方

1856年10月23日-09:00|日本|北海道|安政3年9月25日|北海道駒ヶ岳、大噴火により火砕流発生/噴石により死者2名、火砕流により19ないし27人の犠牲者

1856年10月23日 00:00|イギリス/中国| ||清・咸豊6年9月10日|イギリス軍が広東を攻撃し、アロー号戦争が勃発

1856年10月24日-09:30|オーストラリア| |||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「B・T・フィンズ」(~18570821)

1856年10月25日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||ヘラートをペルシャが占領(~18570727)

1856年10月26日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「マフメト・ラシッド・パシャ」(1回目~18580701)

1856年10月27日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事代行「B.ブルックス」(~18570126)

1856年10月27日 06:00|カナダ| |||グランド・トランク鉄道のモントリオールとトロント間が開通

1856年10月28日 00:00|ポルトガル| |||リスボンとカガドの間初の鉄道が開通

1856年10月29日 00:00|イギリス| |||<死去>8代スカパーラ伯「ジョン・ラムリー＝サイル」

1856年10月29日 00:00|イギリス| |||<就任>9代スカパーラ伯「リチャード・ジョージ・ラムリー」(~18841205死去)

1856年10月29日-09:00|日本| ||安政3年10月|<出版開始>佐佐木弘綱「源氏物語語怪諺解」

1856年10月29日-09:00|日本|熊本県人吉市|安政3年10月1日|<死去>相良頼徳(83歳)肥後人吉藩主

1856年10月31日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||ニューサウスウェールズ州知事がノーフォーク州知事になる(~19140630)

1856年11月-08:00|マレーシア| |||<死去>ペラ・スルタン「アブドゥッラー・ムハンマド・シャー1世」

1856年11月-08:00|マレーシア| |||<即位>ペラ・スルタン「ジャアファル・サイウデ・イン・ムアッザム・シャー・イブニ・アル＝マルフム・ラジャ・アフマド」(事実上1857年まで~18650320没)

1856年11月 00:00|セネガル| |||<就任>ファタト＝ロ統治者統治者(アルマニ)「マドゥ・ウ・ビラン・ワン」(9回目~1858年7月)

1856年11月 06:00|ニカラグア| |||ウーカー軍800名、マヤに反攻。2日間の激戦の上奪取。エストラダ軍はマヤを迂回してグラナダを攻撃。ウーカー、グラナダ防衛のためマヤを放棄

1856年11月 06:00|ニカラグア| |||トマス・テラ・グアルディアにひきいられた中米連合軍、リバスの決戦でウーカー軍を撃ち破る

1856年11月1日-09:30|オーストラリア| |||<就任>タスマニア植民地政府首相「ウィリアム・チャンプ」(~18570226)

1856年11月1日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「コカムスタファ・アレシット・パシャ」(5期目~18570806)

1856年11月1日 00:00|イギリス/イラン| |||イギリスがペルシャに宣戦布告

1856年11月2日-08:00|中国| |||<天京事変>韋昌輝(北王)が殺害され、次いで秦日綱と陳承瑤も誅され天京事変は一段落

1860迄 (3252件)

- 1856年11月4日 06:00|アメリカ| |||アメリカ大統領にJ.ブキャナンが選出される
- 1856年11月4日-08:00|中国| |||清・咸豊6年10月7日|雲南のムスリム蜂起の指導者の杜文秀が、スルタン・スライマンと称して王制を施行
- 1856年11月5日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ナール植民地特別委員「ジョン・スコット」(~18641231)
- 1856年11月6日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールト=コスト総督「ウィレム・ジョージ・フレデリック・テルクス(政府長官)」(2回目~18570429)
- 1856年11月11日-01:00|ルウェー/スウェーデン| |||<就任>ルウェー総督代行「ヨルゲン・ハーマン・フォクト」(1回目~18570112)
- 1856年11月12日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリテ暫定総督「Jose Munoz」(~同年)
- 1856年11月17日-09:00|日本|栃木県日光市|安政3年10月20日|<死去>二宮尊徳(70歳、天明7(1787)0723生)農政家、思想家/報特主義の創唱者
- 1856年11月19日-05:30|インド| |||<死去>パロタ国統治者(マハラジャ・ゲークワール)「ガンパット・ラオ・ゲークワール」
- 1856年11月19日-05:30|インド| |||<即位>パロタ国統治者(マハラジャ・ゲークワール)「カンテ・ラオ2世ゲークワール」(~18701128没)
- 1856年11月22日-09:00|日本|岐阜県大垣市|安政3年10月25日|<交替>美濃大垣藩10万石「戸田氏正」隠居→長男「戸田氏彬」が継ぐ(→慶応元(1865)年8月8日、35歳で死去)
- 1856年11月28日-09:00|日本|東京都墨田区|安政3年11月|<大相撲>安政3年11月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(東関脇)雲龍,9勝0敗1休
- 1856年11月28日-09:00|日本|福井県福井市|安政3年11月|越前府中藩校「立教館」の建物が完成し開館
- 1856年11月28日-09:00|日本|大分県日田市|安政3年11月1日|<死去>広瀬淡窓(75歳)儒学者、教育者、漢詩人
- 1856年11月28日-09:00|日本|東京都千代田区|安政3年11月1日|村田蔵六(大村益次郎)、麹町新道一番町で私塾・鳩居堂を開く。蛮書調所教授方手伝、講武所教授方になる
- 1856年11月29日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|安政3年11月2日|<死去>加藤明邦(49歳)前近江水口藩主
- 1856年12月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワシ「Ahmed Izzet Pasha」(~1857.12年)
- 1856年12月-01:00|フランス| |||フランスのジャン=マリー=ル・リガがグライダールで、Sainte-Anne-la-Palud海岸(フィニステール県)で、向かい風に向かって、馬で引っ張らせて離陸し、離陸した高さよりも高く飛行することに成功
- 1856年12月 00:00|モロッコ/イギリス| |||モロッコがイギリスと通商条約を締結
- 1856年12月 05:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー共和国初代閣僚評議会議長「ファン・マニエル・テルマル・ベルネ」(~1857年)
- 1856年12月2日-09:00|日本| |||安政3年11月5日|<死去>足代弘訓(73歳)国学者、歌人
- 1856年12月4日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリテ総督「Jose Morcillo y Ezquerria」(~1858年)
- 1856年12月4日-09:00|日本| |||安政3年11月7日|<死去>幟子女王(22歳)有栖川幟仁親王の王女、徳川慶篤の正室
- 1856年12月5日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<再任>スペイン領フィリピン総督代理「Ramon Montero y Blandino」(3期目~18570309)
- 1856年12月7日-09:00|日本/ロシア| |||安政3年11月10日|日露和親条約批准書を交換
- 1856年12月9日-03:30|イラン/イギリス| |||イギリスがブシャーを占領(~18570404)
- 1856年12月10日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島市民知事「Felix Fanlo y Oliván」(~18571110)
- 1856年12月12日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「フィッテ・ド・ヌーシー伯Armand Louis Joseph Denis」(~1859.6)
- 1856年12月13日-03:30|イラン/アメリカ| |||ペルシャがアメリカと友好通商条約を調印
- 1856年12月17日-02:00|南アフリカ| |||<就任>ライデンバーグ共和国フォルクスラート議長「フィリップ・ス・エリヤス・ケツァー」⇒「コーネリス・ホトキータ」(~18600404)
- 1856年12月17日-02:00|南アフリカ| |||<設立>ライデンバーグ共和国
- 1856年12月19日 00:00|イギリス| |||<死去>7代クインズベリー侯「ジョン・ダグラス」
- 1856年12月23日-09:00|日本|東京都|安政3年11月26日|<死去>佐竹義純(55歳、江戸定府)前出羽岩崎藩主
- 1856年12月24日 06:00|コスタリカ/ニカラガ| |||バンテルベルト,コスタリカに対し支援開始。トマス・テラ・グアルデア指揮下のコスタリカ軍,サンファン川流域のヒップス・ポイントを確保。その後,カティジョ・ビエラ,サン・カルロスをつぎつぎに占領
- 1856年12月26日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>ビクトリア植民地総督「ヘンリー・ハーグリー」(~18630910)
- 1856年12月30日 10:00|ポリネシア/フランス| |||<就任>ソシエテ諸島死地特定フランス司令官「ブゲット伯Pierre Benjamin Denis Pouget」(~1858年)兼フランス領モリアニア知事兼ソシエテ諸島帝国弁務官代理(1期目~1857.1)
- 1856年12月31日-09:00|日本|東京都|安政3年12月5日|<死去>戯作者,墨川亭雪麿(60)
- 1857年-08:00|インドネシア| |||<即位>アチェ王国スルタン「マンスール・シャー」(~1870年)
- 1857年-08:00|フィリピン| |||<即位>マギンタナオスルタン「ムハンマド・Makakwa bin Datu Intirinu」(~1883年死去)
- 1857年-08:00|インドネシア| |||<即位>リアウリガスルタン「Sulaiman2世」(~1883年)
- 1857年-05:45|ネパール| |||<死去>マスタング王「クントガ・ルプ」
- 1857年-05:45|ネパール| |||<即位>マスタング王「ジャム・デビヤント・バン・ダス」(~1863年)、摂政「ギヤル・ブクラシ・ブクリット」(~1863年)
- 1857年-05:30|インド| |||<就任>アカルコット国ラジャ「マロジ・ラオ2世シャハジ・ラオ・ホーンズレ・ブワ・サフ・ラジエ」(~1870年没)
- 1857年-05:30|インド| |||<就任>ウタールプラデシュ国ラジャ「デイラジ・シン・テオ」(~1858年没)
- 1857年-05:30|インド| |||<就任>シャイバ国摂政「ラニ・ナス・カンワルジ」(~1859年)
- 1857年-05:30|インド| |||<就任>ジャンシー国摂政「ラクシュミー・ハイ」(反乱中~18580617没)
- 1857年-05:30|インド| |||<就任>ダティア国摂政「ラニ」(~1858年没)
- 1857年-05:30|インド| |||<就任>ダラウール国ラジャ「マハラナ・ラナラムテ・ウジ3世ウイジャヤテ・ウジ」(~18600120没)
- 1857年-05:30|インド| |||<就任>ペリ国統治者(ラオ)「ウイシュヴァナート・シン」(~1861年5月没)

1860迄 (3252件)

- 1857年-05:30|インド| |||<即位>レウ国マハラジャ「ラケラジ・シン」(~18800205)
- 1857年-05:30|インド/イギリス| |||シヤンヤル国がイギリスの統治に対して反乱
- 1857年-05:30|インド/イギリス| |||シヤンヤル国がイギリス併合に対し反乱(~18580617)
- 1857年-05:30|インド/イギリス| |||チャンドリ国が英国の支配に対して反乱(~1858年)
- 1857年-05:30|インド/イギリス| |||ナガール国はイギリス領インドの統治下(~1860年)
- 1857年-05:30|インド/イギリス| |||ハンダ国がイギリスの支配に反逆(~1858年11月)
- 1857年-05:30|インド/イギリス| |||ホラハット国が英国に対し反乱(~1858年)
- 1857年-05:00|パキスタン| |||<死去>カラット国ワリ「サイン・ナシル・カン2世」
- 1857年-05:00|パキスタン| |||<就任>カラット国ワリ「コタダト・カン」(1回目~1863年3月)
- 1857年-05:00|パキスタン| |||<即位>カトール朝国王「Aman ul-Mulk」(~1892年死去)
- 1857年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのリス「ハシダルハス・アガサート・ウエイシ・ハシヤ」(2回目~1858年)
- 1857年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「Sheikh Abdullah ibn Yusuf」(~1858年)
- 1857年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト大宰相「スルフィカル・ハシヤ」(1回目~1858年)
- 1857年-01:00|北マケドニア/トルコ| |||<就任>ウスクフ・リス(知事)「アキフ・ハシエ」
- 1857年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Carlos Tolra y Marsella」(~1858年)
- 1857年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>グランバッサム(ヌール岩)民間司令官「シャル・フ・サール・ト・コルビニー」
- 1857年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>ダブー(テュコス岩)民間司令官「ボナヴァンチュール・ルネ・ト・ニコ」(~1858年)
- 1857年 00:00|セネガル| |||<就任>ブントゥ統治者(アルマミ)「ボナール・サダ・シ」(18560218から反乱~18851210)
- 1857年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>ボンペイ首長「トマス・セオフィラス・カーカー」(~1864年没)
- 1857年 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||<就任>南グリーンランド検査官「Hinrich Johannes Rink」(~1868年)
- 1857年 04:00|セントクリストファー・ネイビス| |||<就任>ネイビス大統領「カル・アサー・エドワート・ラホルト」(1回目~1860年)
- 1857年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>ヴァージン諸島首席代理「Robert Grimes Pedder」⇒代理「Thomas Price」(1期目~1858年)
- 1857年 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>ピエクス島知事「Luis de Onativia」(~1860年)
- 1857年 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国第2代閣僚評議会議長「セ・マリア・ラカダガロ」(1回目~18580715)
- 1857年 10:00|ボリネシア| |||ライアアとタハアは死に併合
- 1857年1月-08:00|中国| |||上海でイギリス人宣教師が華字月刊誌「六合叢談」を創刊
- 1857年1月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・リス(総督)「Mustafa Sherifi Pasha」(~8月)
- 1857年1月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国マニコ「アルヴァロ13世」(~18590807)
- 1857年1月 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヴァージン諸島大統領代理「ロバート・Grimes Pedder」(~同年)⇒「トマス・Price」(1期目~1858年)
- 1857年1月 10:00|ボリネシア/フランス| |||<就任>フランス領オセニア知事兼ソシエ諸島帝国弁務官「フーセフ・Joseph Fidele Eugene」(2期目~1858年)
- 1857年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「カール・エマニュエル・コンスタン・フォルネロット」Rad(1期目~12.31)
- 1857年1月5日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国フォルクスラート議長「J・P・ファーステンベルク」(~6日)
- 1857年1月6日-08:00|マレーシア| |||<死去>セラコール・スルタン「トウアンク・ムハンマド・シャー・イブニ・アル=マルフム・スルタン・イブラヒム・シャー」
- 1857年1月6日-08:00|マレーシア| |||<即位>セラコール・スルタン「トウアンク・アブドゥス・サマド・イブニ・アル=マルフム・ラジヤ・アブドゥウッラー」(~18980206没)、摂政「ラジヤ・マフムド・イブニ・アル=マルフム・スルタン・ムハンマド・シャー」(~1859年)
- 1857年1月6日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国行政評議会議長「マルティヌス・グエッセル・ブレリウス」(第1回~18600915)
- 1857年1月7日-01:00|ドイツ| |||<初演>フアンツ・リスト《ピアノ協奏曲第2番イ長調》18390913作曲
- 1857年1月12日-01:00|ルウェー/スウェーデン| |||<就任>ルウェー総督「副王カール皇太子」(2回目~6.21)
- 1857年1月12日-09:00|日本|山口県|安政3年12月17日|長州藩、軍艦完成-丙辰丸と命名
- 1857年1月13日-09:00|日本|東京都千代田区|安政3年12月18日|徳川家定、島津斉彬(一橋派)の養女篤子と婚儀
- 1857年1月15日-09:00|日本|東京都|安政3年12月20日|<死去>画人、喜多武清(81歳)
- 1857年1月20日 00:00|イギリス| |||<死去>トラント公「ジョン・ヘンリー・マナーズ」
- 1857年1月20日 00:00|イギリス| |||<就任>トラント公「チャールズ・セシル・マナーズ」先代の三男(~18880303死去)
- 1857年1月21日-09:00|日本|東京都|安政3年12月26日|<死去>初代古今亭志ん生(48歳、1808年生)落語家/三遊亭圓太→新生→真生
- 1857年1月22日-01:00|ドイツ| |||<初演>フアンツ・リスト《ピアノソナタ短調》
- 1857年1月23日-05:30|インド| |||<就任>ダール国摂政「トラウパティ・バ・イ・ラジエ・フ・アル」(~18580214)
- 1857年1月23日-09:00|日本|東京都中央区|安政3年12月28日|幕府、合薬座(講武所附属)を設け火薬の販売統制に乗り出す、独占的入手狙う
- 1857年1月24日-05:30|インド| |||カルカッタ大学が創設される
- 1857年1月26日-09:00|日本|東京都台東区|安政4年|本牧屋仙之助が上野広小路に講釈(講談)を行う場として軍談席本牧亭オープン(→鈴木演芸場)
- 1857年1月26日-09:00|日本|新潟県五泉市|安政4年|<交替>越後村松藩3万石「堀直央」隠居⇒次男「堀直休」が継ぐ(⇒万延1年7月12日(18600828)死去)
- 1857年1月26日-08:00|中国| |||<即位>ダライ・ラマ(チベット)「チンレ・ギヤツォ(ダライ・ラマ12世)」(~18750425)
- 1857年1月26日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事「ロバート・ウィリアム・キート」(1期目~18600407)
- 1857年1月26日-09:00|日本| ||安政4年1月|<出版>一立斎広重「狂歌もゝちどり」

1860迄 (3252件)

- 1857年1月26日-09:00|日本| ||安政4年1月|<出版>歌川国芳「国芳雑画集」二編
1857年1月26日-09:00|日本|東京都墨田区|安政4年1月|<大相撲>安政4年1月場所[江戸本所回向院](8日間)幕内
優勝:(東大関)猪王山,6勝0敗1分1預
1857年1月28日 04:00|プエルトリコ/スペイン| ||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Fernando Cotoner y Chacon」(~1860.7)
1857年1月28日 06:00|ニカラガア| ||連合軍,リバス東方の町サンホセを占領/翌日,ウーカ軍は反撃にでるが敗退
1857年1月31日 04:00|グレナダ/イギリス| ||<就任>グレナダ副総督「ユネリアス・ハント・リクセン・コートライト」(1回目~1858年5月)
1857年2月5日 06:00|コスタリカ/ニカラガア| ||リバス南方に退路を切開こうとしたウーカの部隊,コスタリカ軍により壊滅
1857年2月5日 07:00|メキシコ| ||メキシコで憲法制定.改革諸法の他,三権分立,共和制,二年毎に選ばれる一院制議会
,連邦制などを定める.議会の権限を大幅に強化するとともに,言論・出版・信仰の自由を保障.教会法制定
1857年2月8日-09:00|日本| ||安政4年1月14日|<死去>金井烏洲(62歳)画家,勤皇家
1857年2月12日-09:00|日本|東京都|安政4年1月18日|前年より準備の進められていた蕃書調所教育部門が江戸
九段下で正式に開講.幕臣190余人が入校
1857年2月14日 05:00|ペルー| ||<就任>ペルー共和国閣僚評議会議長(首相)「ホセ・マリア・ライガダ・イ・ガロ」(~18580412)
1857年2月14日-09:00|日本|茨城県常総市|安政4年1月20日|<死去>中山信守(51歳)常陸松岡藩主,水戸藩家老⇒
三男の信宝が継いだ
1857年2月15日-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「ニコラエ・イオン・カンタツェーノ(臨時行政評議会議長)」(~23日)
1857年2月19日-08:00|マレーシア/中国| ||中国の劉山邦(同年没)率いる反乱がクワンを占領(~23日)
1857年2月23日-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「ニコラエ・シュ・テファン・コチ=ウ・オゴリデーイ(王子副王)」(~18581019)
1857年2月24日-09:00|日本|新潟県新潟市|安政4年2月|<立藩>越後三根山藩11000石「牧野忠泰」(⇒明治2(1869)
年6月23日,版籍奉還)
1857年2月26日-09:30|オーストラリア| ||<就任>タスマニア植民地政府首相「トマス・グレッグソン」(~4.25)
1857年3月3日 06:00|アメリカ| ||アメリカ,ヒース大統領,1857年関税法に署名
1857年3月4日 00:00|イギリス/アフガニスタン/イラン| ||イギリス・イラン戦争終結/ペルシャのカージャール朝が,パリ条約に基づいて,ア
フガニスタンの独立を認める
1857年3月4日 06:00|アメリカ| ||<就任>アメリカ合衆国第15代大統領「ジェームズ・ブキャナン」民主党(~18610303)
1857年3月5日 04:00|ガブールフ/フランス| ||<就任>ガブールフ知事「Philippe Victor Touchard」(~18590312)
1857年3月5日 06:00|ペーリス/イギリス| ||<就任>ペーリス 居留地管理者(ジャマカの知事に従属)「フレデリック・シーモア」(1回
目~18620512)
1857年3月9日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<就任>スペイン領フィリピン総督「フェルナント・デ・ノルカライ」(~18600112死去)
1857年3月11日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ジョン・オシヤナー」(~4.29)
1857年3月11日 00:00|イギリス| ||世界最大の客船グレートイースタン号進水
1857年3月12日-01:00|イタリア| ||<初演>ジュゼッペ・フォルトゥネーノ・フランチェスコ・ヴェルディ《歌劇「シモン・ボッカネグラ」》
1857年3月12日 06:00|カナダ| ||90人が乗っていたグレート・ウェスタン鉄道のトロント発ハミルトン行き列車が終点に近づいた
時,カナダ西部のデジャルダン運河にかかる橋が機関車前部の車軸が破損後に崩壊.極寒の運河に投げ出された後,
外傷や溺死により59人が死亡
1857年3月14日-09:00|日本|岩手県一関市|安政4年2月19日|<死去>陸奥一関藩3万石「田村邦行」(38歳)⇒5月12日
,嫡男「田村通顕」が継ぐ(⇒文久3(1863)年10月9日,仙台藩の養子となる)
1857年3月21日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<死去>サントメ・プリンシペ 総督「Adriano Maria Passalacqua」
1857年3月21日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「政府評議会(不完全)Bernardo Fra
ncisco de Albuquerque」(~18580115)
1857年3月21日-09:00|日本|東京都中央区|安政4年2月26日|江戸城4000両盗難事件の犯人藤岡藤十郎を日本橋上
槇町で逮捕(5月13日,千住小塚原で磔になる)
1857年3月23日 00:00|カナダ/イギリス| ||<就任>イギリス領ゴールド=コースト総督・最高司令官「ベンジャミン・フリー・キャンベル・パ
イン卿」(~18580512)
1857年3月23日 06:00|アメリカ| ||ニューヨークのデパートに世界最初のエレベータが設置
1857年3月24日 04:00|セントビンセント/イギリス| ||<就任>イギリス領セントビンセント副総督代行「ウィリアム・ホルド」(2度目~5.7)
1857年3月24日-09:00|日本|静岡県|安政4年2月29日|遠江・豊田郡の幕府領農民1400人が増税反対の強訴
1857年3月25日 10:00|ポリーニア/フランス| ||<就任>フランス領ポリーニア知事兼ポリネシア諸島帝国弁務官代理「ブゲット伯Pierre B
enjamin Denis Pouget」(2期目~6月)
1857年3月26日-01:00|オランダ/日本| ||安政4年3月1日|幕府軍艦「威臨丸」オランダのキンデルダイクで竣工
1857年3月27日-03:30|イラン/イギリス| ||イギリスがホルムズ海峡を占領
1857年3月27日 06:00|コスタリカ/ニカラガア| ||リバスへの総攻撃開始/ウーカ軍の勝利
1857年3月28日-09:00|日本| ||安政4年3月3日|吉田松陰「外蕃通略」出版
1857年3月31日-06:30|コリス諸島/イギリス| ||コリス諸島はHMSジュリに乗ったスティーブン・グレンビル・マントル大尉によってイ
ギリスに併合された
1857年4月-09:30|オーストラリア| ||グレート・ノーザン鉄道の一部,ハーサクル・ポイント(ニューカッスル),イースト・メイトランド 間が開通
1857年4月-01:00|フランス| ||フランス作家ギユスターヴ・フロベール,「ボヴァリー夫人」を刊行
1857年4月-01:00|ハンガリー| ||ワキアの首都ブダペストで灯油による街灯設備を導入
1857年4月1日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド 総督「アレクサンドル・ジャン=バティスト・ジョゼフ・ジャック・ド・ヴェルニ
ャク・デュラン・デュレ」(~1863年1月)
1857年4月1日-03:30|イラン/イギリス| ||イギリスがアーヴァズを占領
1857年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「イノセント・ボネリ」 「ドメニコ・ファットーリ」

1860迄 (3252件)

- 1857年4月1日 05:00|コロンビア/パナマ/エクアドル/ペルー/ブラジル/コスタリカ/ベネズエラ/ニカラグア | |||<就任>ヌエバ・グアナカ共和国大統領「マリアーノ・オスピナ・ド・リケス」(~18610401)
- 1857年4月4日 00:00|チャン礼諸島 | |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副知事「Godfrey Charles Mundy」(~18600711死去)
- 1857年4月6日 06:00|アメリカ | |||<就役>アメリカ海軍フリゲイト「(2代)ナイガラ」(5540t,ブルックリン海軍工廠で建造)
- 1857年4月9日-01:00|オーストリア | |||<初演>アルバン・マリア・ヨハネス・ベルク《喜歌劇「ミラクル博士」》
- 1857年4月16日-01:00|オーストリア/イタリア | |||オーストリアとサルデーニャ王国が国交断絶
- 1857年4月18日 05:00|バハマ/イギリス | |||<就任>バハマ植民地総督「チャールズ・ジョン・ヘイリー」(~18640606)
- 1857年4月24日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安政4年4月|鹿児島城内に精錬所「開物館」が完成
- 1857年4月25日-09:30|オーストラリア | |||<就任>タスマニア植民地政府首相「ウィリアム・ウェストン」(~5. 12)
- 1857年4月28日-09:00|日本/アメリカ|静岡県下田市|安政4年4月5日|ハリス下田奉行と和親条約改定
- 1857年4月29日-09:30|オーストラリア | |||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ウィリアム・ヘインズ」(~18580310)
- 1857年4月29日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア | |||<就任>シマハ県軍事総督および民事行政官「クニャース・コンスタンチン・ダウイト・ウイッチ・タルハン=ムラウオフ」(~1863年)
- 1857年4月29日 00:00|カナダ/オランダ | |||<就任>オランダ領インド=インド総督「ジュール・フェリシヌ・ロマン・スタニスラス・ファン・テン・ホッペ」(~9. 9)
- 1857年5月-01:00|モナコ/フランス | |||<就任>モナコ総督・国務院議長「サンタンテ・ル伯爵ジャン・アントレ・ギユスターヴ・マルマゼ」(~1862年)
- 1857年5月1日-05:00|バキスタン | |||<死去>スワット「世俗的」国家アミール・シャリアト「サイト・アハバル・シャー」
- 1857年5月1日-05:00|バキスタン | |||<就任>スワット「世俗的」国家アミール・シャリアト「サイト・ムハラク・シャー・サヒブ」(~1863年)
- 1857年5月1日-09:00|日本|福井県坂井市|安政4年4月8日|坂井郡加戸村で火事,家156軒・寺3など焼失
- 1857年5月3日-09:00|日本|群馬県安中市|安政4年4月10日|<死去>上野安中藩3万石「板倉勝明」(49歳)⇒閏5月11日、弟「板倉勝殷」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月20日、版籍奉還)
- 1857年5月4日 03:00|ブラジル | |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「オシカ子爵・侯爵ペドロ・デ・アラウジョ・リマ」(2回目~18581212)
- 1857年5月4日 06:00|アメリカ | |||<就役>アメリカ海軍メリアック級フリゲイト「ロアノク」(4772t,ゴズポート造船所で建造)
- 1857年5月4日-09:00|日本|東京都中央区|安政4年4月11日|幕府が陸軍訓練所内に軍艦教授所(のち操練所と改称)を設ける
- 1857年5月5日-09:00|日本|福井県福井市|安政4年4月12日|福井藩,明道館内に洋書習学所(洋学所)を開設
- 1857年5月7日 04:00|セントピント/イギリス | |||<就任>イギリス領セントピント副総督代行「ジェームズ・ウォーカー」(~12. 26)
- 1857年5月10日-05:30|インド/イギリス | |||インドで妹イ(イギリス軍のインド人傭兵)の反乱が起る(~18581101)
- 1857年5月11日-05:30|インド | |||反乱軍インド兵がデリーを占拠し,ムガル皇帝ハートゥル・シャー2世を擁立
- 1857年5月12日-09:30|オーストラリア | |||<就任>タスマニア植民地政府首相「フランシス・ミス」(~18601101)
- 1857年5月13日-01:00|デンマーク | |||<就任>デンマーク王国首相「カール・クリスチャン・ホル」(1回目~18591202)
- 1857年5月17日-01:00|オーストリア/イラン | |||ベルシャがオーストリア帝国と友好通商条約を締結
- 1857年5月18日-05:30|インド | |||<就任>ハイデラーバード国統治者(ニザム・アル=モルク)「アフザル=アブ=ダウラ=マフムド=アリ1世カーン=アサフ=シャー5世」(~18690226没)
- 1857年5月19日 00:00|カンビア/イギリス/フランス | |||フランスはアルプス入植地をイギリスに割譲
- 1857年5月19日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|安政4年4月26日|<交替>伊勢神戸藩15000石「本多忠寛」隠居⇒養子「本多忠貫」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1857年5月21日 04:00|セントルシア/イギリス | |||<就任>イギリス領セントルシア管理者「ヘンリー・ヘガート=ブリン」(~1861年10月)
- 1857年5月21日 06:00|アメリカ | |||<就役>アメリカ海軍メリアック級フリゲイト「ミネリタ」(4833t,ワシントン海軍工廠で建造)
- 1857年5月23日-05:30|インド | |||<就任>ダール国ラジャ「アナンド=ラオ3世=アル」(1回目~18580214)
- 1857年5月23日-01:00|フランス | |||<死去>フランスの数学者ルイ=コシー(17890821~)解析学を発展させ「複素関数論」を唱えた
- 1857年5月23日-09:00|日本 | |||安政4年5月|佐々木弘綱「源氏物語語理諺解」出版終了
- 1857年5月25日-05:45|ネパール | |||<就任>ネパール王国首相代行「クリシュナ=ハト=ウル=クンワール=ラナ」(~6. 28)
- 1857年5月30日-01:00|ルウェー/スウェーデン | |||<就任>ルウェー総督代行「ヨルゲン=ヘルマン=フォクト」(2回目~18581208)
- 1857年6月-05:30|インド | |||<就任>ジャウン国統治者(ラオ)「ケジョ=ラオ」(反乱中~1857年10月)
- 1857年6月-05:30|インド/イギリス | |||ジャウン国がイギリスの支配に対する反乱(~1858年)
- 1857年6月 00:00|トゴ | |||<就任>ロラン摂政「ジョージ=ラテ=ロソン」(~18590610没)
- 1857年6月 10:00|ホリネシア/フランス | |||<就任>フランス領オセアニア知事兼ツシエ諸島帝国弁務官「フーゼ=侯 Joseph Fidele Eugene」(3期目~1858年)
- 1857年6月4日-09:00|日本|東京都足立区|安政4年5月13日|將軍家金蔵破りの稀代の盗賊藤岡藤十郎、富蔵等、千住小塚原で磔となる
- 1857年6月5日-05:30|インド | |||<就任>アワド国摂政「ベグム=ハス=ラット=マハル」(~18580303)
- 1857年6月6日 00:00|イギリス/インド | |||カウホールの悲劇、イギリス義勇隊が土侯軍の待ち伏せで全滅
- 1857年6月15日-09:00|日本|新潟県糸魚川市|安政4年5月24日|<交替>越後糸魚川藩1万石「松平直春」隠居⇒四男「松平直廉」が継ぐ(⇒翌年7月5日、越前福井藩の家督相続)
- 1857年6月17日-09:00|日本/アメリカ | |||安政4年5月26日|治外法権などを定めた9ヶ条の日米和親条約修補条約(下田協約)が締結
- 1857年6月18日-05:30|インド | |||<就任>ファルカバード国支配者(ナワブ)「タフアズル=フェイン=カーン」反乱を起こして国家再興(

1860迄 (3252件)

~18580103)

- 1857年6月18日-09:00|日本| ||安政4年5月27日|<死去>直胤(79歳)刀工
- 1857年6月18日-09:00|日本|静岡県掛川市|安政4年5月27日|<死去>西尾忠固(47歳)前遠江横須賀藩主
- 1857年6月20日 10:00|ポリネシア/フランス| ||<死去>マレバ 統治者「Te-Ma-puteoa」
- 1857年6月20日 10:00|ポリネシア/フランス| ||<就任>マレバ 統治者「Joseph Gregorio2世」(~18681119死去)
- 1857年6月24日 06:00|ニカラガア| ||<就任>ニカラガア共和国大統領「最高政府(トマス・マルティネス・レロ/マキシモ・ホセ・デ・ヘスス・ヘス・イ・テリリア/グレゴリオ・ファレス・ササ(18571019~18571115マルティネスの代理)/ロサリオ・コルテス・サンチェス(18571019~18571115ヘレスの代理))」(~11.15)
- 1857年6月24日-09:00|日本|北海道|安政4年閏5月4日|幕府、箱館通宝の蝦夷地での使用を開始
- 1857年6月25日-01:00|フランス| ||ポートルールの詩集「悪の華」が刊行される
- 1857年6月28日-05:45|ネパール| ||<就任>ネパール王国首相「ジャン・バハドゥル・クワール・ラナ」(2回目~18770225)
- 1857年6月29日 00:00|トーゴ| ||<就任>ゲニガハ 統治者(フィオ)「フォリ・ホウ・エ・アロフア」(~1866年)
- 1857年7月-05:30|インド/イギリス| ||マラーター帝国(ヒンダヴィ・スワラージャ)の復活を目的とした、最後のペンジュの息子によるカンプールでの反乱
- 1857年7月-03:00|サジアラビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ビジャース 総督「コンヤリ・メハメト・ナシク・ハシヤ」(~1858年11月)
- 1857年7月 06:00|アメリカ| ||ミュージカル「ニカラガア、ウォーカー将軍の勝利」、ブロードウェイで公演開始
- 1857年7月 07:00|メキシコ| ||首都駐屯部隊の蜂起。自由党政府崩壊。反乱部隊は、軍と聖職者の支持を得て議会を解散、コンフォルト大統領とファレスを逮捕。コンフォルトは、辞任/スロガ 大統領就任を宣言
- 1857年7月1日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公国首席大臣「ステイヴァン・マルコヴィッチ」(2度目~18580612)
- 1857年7月1日 00:00|イギリス| ||<死去>4代モントソ伯「ウィリアム・ホーレル=ティルニ=ロンク=ウェルズリー」
- 1857年7月1日 00:00|イギリス| ||<死去>6代マールバラ公「ジョージ・スペンサー=チャーチル」
- 1857年7月1日 00:00|イギリス| ||<就任>5代モントソ伯ウィリアム・リチャード・アーサー・ホーレル=ティルニ=ロンク=ウェルズリー」(~18630725死去)
- 1857年7月1日 00:00|イギリス| ||<就任>7代マールバラ公「ジョン・ウインストン・スペンサー=チャーチル」先代の子(~18830704死去)
- 1857年7月1日 00:00|イギリス| ||ロンドンでゲルツェンとカールヨフの「コロル」が発刊
- 1857年7月1日 06:00|カタガト| ||カタガト表示の10進法の新通貨を採用
- 1857年7月5日-05:30|インド| ||<就任>アワード 国ラジャ(ハトシャー=エ=アワード、シャー=エ=ザマン)「ヘルズ・カトル」英国の支配に対する追放された国王の息子による反乱(~18580303)
- 1857年7月9日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安政4年閏5月19日|薩摩藩主島津斉彬が、磯別邸に完成した工場群を集成館と名付ける
- 1857年7月11日-01:00|アルジェリア/フランス| ||フランスが、アルジェリアのカブリア地方を支配
- 1857年7月15日-01:00|オーストリア| ||<死去>カール・ツェルニ=66歳(誕生17910221)ピアノ教師
- 1857年7月15日 00:00|イギリス/インド| ||インド北部のカンパルで、211人のイギリス人の斬殺死体が発見される
- 1857年7月24日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領サテニアコ 総督「チャールズ・ヘンリー・ダリング」(~18620325)
- 1857年7月24日-09:00|日本|京都府京都市|安政4年6月4日|諏訪町万寿寺より失火、東本願寺枳殻御殿類焼
- 1857年7月24日-09:00|日本|東京都台東区|安政4年6月4日|<死去>3代三笑亭可楽(不明)落語家
- 1857年7月25日 04:00|ガイアナ/イギリス| ||<就任>イギリス領ガイアナ総督代行「ウィリアム・ウォーカー」(3回目~18580510)
- 1857年7月27日-04:30|アフガニスタン| ||<就任>アフガニスタン対立首長(ヘラト)「スルタン・アフマド・カーン」(~18630526没)
- 1857年7月27日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地マルタ総督代理「ジョン・Lysaght Pennefather」(~9.30)
- 1857年7月30日-05:30|インド| ||<就任>アルワル国統治者(オラジャ)「シエガン・シン」(~18741011没)
- 1857年8月-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>バグダットのワリス「シルダル・オマル・ムルティバシヤ」(~1859年10月)
- 1857年8月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| ||<就任>アレホ・ワリス(総督)「Muhendis Mehmed Kamil Pasha」(~1858.8)
- 1857年8月-01:00|チュニジア| ||チュニジアで混合裁判所設置
- 1857年8月 07:00|メキシコ| ||首都を追われた改革派は、ケレタロからグアナフアトに逃れ臨時政府を樹立。脱獄に成功したファレス最高裁長官が大統領に選出
- 1857年8月1日-01:00|イタリア| ||イタリアでヒエモンテ国民協会が創立
- 1857年8月2日-09:30|オーストリア| ||ハートとロゼン間に電信線が開通
- 1857年8月5日-09:00|日本| ||安政4年6月16日|条約を締結した各国人の上陸を許可
- 1857年8月6日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「ムスタファ・ナリ・ハシヤ」(2期目~10.22)
- 1857年8月6日-09:00|日本|広島県福山市|安政4年6月17日|<死去>備後福山藩11万石「阿部正弘」(39歳)急死⇒甥「阿部正教」が継ぐ(⇒文久元(1861)年5月27日、23歳で死去)
- 1857年8月10日-09:30|オーストリア| ||メルルの街路の照明がガスによって初めて行われる
- 1857年8月13日-09:00|日本| ||安政4年6月24日|<死去>加納諸平(52歳)国学者、歌人
- 1857年8月14日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル民政知事「Antonio Jose Vieira Santa Rita」(4期目~18771011)
- 1857年8月15日-03:00|マヨット/フランス| ||<就任>フランス保護領マヨット総監「シャルル・オーギュスト・ジョセフ・モレル」(~18600814)
- 1857年8月15日-09:00|日本|東京都|安政4年6月26日|<死去>桂文治・3代(落語家)
- 1857年8月16日-01:00|イタリア| ||<初演>ジュゼッペ・フォルツァーノ・フランチェスコ・ヴェルディ《歌劇「アロト」》
- 1857年8月19日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>アングラト・エイスモ民政知事「Antonio Maria Cordeiro」(~18580531)
- 1857年8月19日 10:00|ポリネシア| ||<死去>ライアアとタア統治者「Moe`ore Tamatoa4世」

1860迄 (3252件)

- 1857年8月19日 10:00|ホリネア| |||<就任>タイアとタア統治者「Tamatoa5世 a Tu」(~18710208)
- 1857年8月20日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ダンバー号、シニのポートジャクソンの東で難破、121人が死亡、生存者は1人
- 1857年8月20日-09:00|日本|東京都中央区|安政4年7月|<初演>「三世相錦繡文章」<お国六三>[作・三代目櫻田治助], 中村座
- 1857年8月20日-09:00|日本|秋田県秋田市|安政4年7月1日|<死去>出羽久保田藩205800石「佐竹義睦」(19歳)⇒同月20日、養子「佐竹義堯」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1857年8月21日-09:30|オーストラリア| |||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「ジョン・ペイカー」(~9.1)
- 1857年8月23日-09:00|日本|京都府京都市|安政4年7月4日|<下京諏訪町より出火、東本願寺焼亡
- 1857年8月25日-09:00|日本| ||安政4年7月6日|<死去>亀井少琴(60歳) 詩人、画家
- 1857年8月29日-05:30|インド| |||<就任>ラトム国ラジャ「パロン・シン」(~18640127没)
- 1857年8月30日 03:00|アルゼンチン| |||アルゼンチンで最初の鉄道がブエノスアイレスで開通
- 1857年9月 00:00|セネガル| |||<就任>ファト・ロ統治者統治者(アルマミ)「シハ・ウエイ・リ」(3回目反乱~10月)
- 1857年9月1日-09:30|オーストラリア| |||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「ロバート・トレンス」(~30日)
- 1857年9月2日 04:00|トミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミニカ副総督「ハリ・セント・ジョージ・オート」(1860年から代行~同年)
- 1857年9月3日 00:00|ポルトガル| |||<就任>フンシャル地区暫定民政知事「Augusto de Carvalho Esmeraldo」(~18580426)
- 1857年9月3日-09:00|日本|東京都中央区|安政4年7月15日|<初演>「網模様燈籠菊桐」<子猿七之助>[作・二代目河竹新七], 四代目市川小團次、市村座
- 1857年9月5日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの哲学者オギュスト・コント(1798-、59歳) 社会学の創始者/「実証主義(実験と観察を学問の基礎とする)哲学」の確立者
- 1857年9月7日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ニューサウスウェールズ 植民地政府首相「チャールズ・ケーパー」無所属(~18591026)
- 1857年9月7日-09:00|日本|東京都中央区|安政4年7月19日|幕府軍艦操練所を江戸築地の講武所に設く
- 1857年9月8日-09:00|日本|秋田県秋田市|安政4年7月20日|<交替>久保田新田藩(2)2万石「佐竹義核」佐竹宗家久保田藩の家督相続⇒9月16日、弟「佐竹義謙」が継ぐ(⇒明治2(1869)年5月25日、隠居)
- 1857年9月9日-01:00|チュニジア| |||チュニジアで11ヶ条の憲法が公布される
- 1857年9月9日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領コロンブス総督「コルネリス・ヨハネス・マリウス・ナトゥーラス」(1回目~18600507)
- 1857年9月11日-04:00|モリシャス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官代行「チャールズ・マレー・ヘイ」(2回目~21日)
- 1857年9月11日 06:00|アメリカ| |||1770年(7日~):モルモン教徒の一部が武装蜂起して滞留地の開拓民を襲撃して殆どを虐殺(マウンテン・ウの虐殺), アメリカ陸軍が教団に対して攻撃を開始し戦闘状態に陥る
- 1857年9月13日 00:00|イギリス| |||<死去>12代バカン伯「ヘンリー・デヴィッド・アースキン」
- 1857年9月13日 00:00|イギリス| |||<就任>13代バカン伯「デヴィッド・ステュアート・アースキン」(~18981203死去)
- 1857年9月18日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政4年8月|長崎奉行所が語学伝習所を発足し英語の学習者を一般有志者に募集
- 1857年9月20日 00:00|イギリス/インド/ネパール| |||イギリス軍がシク兵、ゲル兵を投入しセポイの乱に反攻、デリーを占拠、ムガル皇帝を捕虜に
- 1857年9月21日-04:00|モリシャス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官「ウィリアム・スティーンソン卿」(~18630109)
- 1857年9月21日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|安政4年8月4日|露使節「フチャーチン」が長崎に再来⇒9月10日退去
- 1857年9月26日-02:00|サントペー/ポルトガル| |||<就任>サントペー州総督「ジョアン・ダリス・デ・アルメイダ」(~18640225)
- 1857年9月27日-09:00|日本|栃木県下都賀郡壬生町|安政4年8月10日|<死去>下野壬生藩3万石「鳥居忠挙」(43歳)⇒三男「鳥居忠宝」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月20日、版籍奉還)
- 1857年9月28日-09:00|日本|京都府京都市|安政4年8月11日|<就任>京都所司代「本多忠民」(⇒翌年6月26日)
- 1857年9月28日-09:00|日本|東京都千代田区|安政4年8月11日|<就任>老中「脇坂安宅」(~万延1年11月19日)
- 1857年9月30日-09:30|オーストラリア| |||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「リチャード・ハンソン」(~18600509)
- 1857年10月-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ウディン・ワリス(総督)「ラザ・ノグル・メフメト・イスマット・パシ」(~1859年11月)
- 1857年10月 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領トリスタン・ダ・ケニヤ島民総代「ピーター・ウィリアム・グリーン」(~19020402死去)
- 1857年10月1日-01:00|ロシア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリタニア・ワリス(総督)「アムト・セッパシヤ」(2回目~18600804)
- 1857年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「セテミウス・ベルツィ」 「ジャコモ・ベルティ」
- 1857年10月6日-09:00|日本| ||安政4年8月19日|<死去>初代東流齋馬琴(57歳) 講釈師
- 1857年10月12日-09:00|日本| ||安政4年8月25日|伊予、安芸で地震。今治城内、松山城内破損。大洲でも地震。倒壊家屋若干。5人死亡
- 1857年10月12日-09:00|日本|奈良県天理市|安政4年8月25日|<死去>大和柳本藩1万石「織田信陽」(63歳)⇒12月16日、九男「織田信成」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年5月6日、隠居)
- 1857年10月13日-09:00|日本|北海道函館市|安政4年8月26日|幕府直営の箱館産物会所が落成
- 1857年10月15日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Francisco Armero Penaranda[穏和党](~18580114)

1860迄 (3252件)

- 1857年10月16日-09:00|日本|静岡県富士市|安政4年8月29日|<立藩>駿河川成島藩1万石「本郷泰固」(⇒安政5(1858)年7月6日、5000石没収改易)
- 1857年10月16日-09:00|日本/オランダ|長崎県長崎市|安政4年8月29日|幕府が事実上初の通商条約である日蘭追加条約をオランダ商館長カフスと長崎で調印
- 1857年10月18日-05:30|インド| ||<就任>ジャバル国支配者(ナワブ)「リチャード・ローレンス」(~1857年12月)
- 1857年10月18日-09:00|日本| ||安政4年9月|横山由清、ロビンソン・クルーザーを翻訳し、「魯敏遜漂流行紀略」と名付けて紹介
- 1857年10月21日 04:00|ホーランド| ||<就任>ホーランド共和国暫定大統領「セ・マリア・テ・リリス・イ・テ・リザラス・ホーモント・イ・ナハラ」(⇒1858年終身独裁者~18610114)
- 1857年10月21日-09:00|日本| ||安政4年9月4日|<死去>歌沢笹丸(61歳) 沢節演奏家
- 1857年10月22日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「カムスタファ・レシット・パシャ」(6期目~18580107)
- 1857年10月22日-09:00|日本| ||安政4年9月5日|幕府軍艦「咸臨丸」就役(1856年オランダで竣工)
- 1857年10月24日 00:00|イギリス| ||英国に最古のサッカークラブ「シェフィールドFC」設立
- 1857年10月24日-09:00|日本/ロシア| ||安政4年9月7日|ロシアと通商条約に当たる28ヶ条の日露和親追加条約を締結
- 1857年10月27日-09:30|オーストラリア| ||中部クィーンズランドのドーンソンのマサフレイズのホーネット・バンク牧場で11人のヨーロッパ人が殺害され、スコッターや先住民警察による報復が行われる
- 1857年10月27日-09:00|日本|東京都千代田区|安政4年9月10日|<解任>老中「牧野忠雅」
- 1857年10月30日-09:00|日本|東京都千代田区|安政4年9月13日|<就任>老中「松平忠国」(~安政5年6月23日)
- 1857年11月-08:00|中国| ||初の華字日刊紙「香港船頭貨価紙」が創刊
- 1857年11月-02:00|キプロス/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領キプロス管財人「イシャク・パシャ」(~1859年)
- 1857年11月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュトラのクリス「フェルナス・アフディ・パシャ」(1回目~1861年10月)
- 1857年11月1日-05:30|インド| ||<就任>サンパル・ル国ラジャ「スレンドラ・サイ」(反乱中~18620516)
- 1857年11月2日-09:00|日本|福岡県北九州市|安政4年9月16日|<死去>小笠原貞哲(56歳) 前豊前小倉新田藩主
- 1857年11月3日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安政4年9月17日|銀板写真機「ゲラタイプ」で薩摩藩藩主島津斉彬自らを藩士に写させる/日本人が日本人を撮って成功した唯一の銀板写真
- 1857年11月4日-09:00|日本|愛知県犬山市|安政4年9月18日|<死去>尾張犬山藩35000石(尾張藩附家老)「成瀬正住」(46歳)⇒養子で娘婿「成瀬正肥」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月20日、版籍奉還)
- 1857年11月7日-01:00|ドイツ| ||<初演>フアンツ・リスト《タンゴ交響曲》
- 1857年11月10日-02:00|モルドバ/ロシア| ||<就任>ロシア領ベッサラビア州総督「ミハイル・ルグオウ・イ・ファンツ・ド・ウエーロン」(~18621219)
- 1857年11月10日-01:00|ベルギー- | ||<就任>ベルギー-内閣長官「シャル・ラトゥール・ロジエ」(3回目~18680103)
- 1857年11月12日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政4年9月26日|ホッパ、長崎海軍伝習の一環として西洋医学の講義を始める
- 1857年11月14日 00:00|カナリア諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Francisco Sepulveda Ramos」(~11.26)
- 1857年11月15日 06:00|ニカラガア| ||<就任>ニカラガア共和国大統領「トマス・マルティネス・ゲレーロ」(~18670301)
- 1857年11月18日 05:00|サウザ島/アメリカ| ||ヒーターダンカン大尉によってサウザ島(未編入領域)は米国のために領有宣言
- 1857年11月20日-05:30|インド| ||<就任>ダティア国ラジャ「バグアニ・シン」(~18650804)
- 1857年11月21日-09:00|日本|愛知県岡崎市|安政4年10月5日|<死去>三河西大平藩1万石「大岡忠愛」(51歳)⇒弟「大岡忠敬」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月24日、版籍奉還)
- 1857年11月25日-05:30|インド| ||<就任>マラルコト国支配者(ナワブ)「エスカンタル・アリ・カン・バハードゥル」(~18710716没)
- 1857年11月25日-02:00|ギリシャ| ||<就任>ギリシャ首相(閣僚理事会議長)「アナトリス・アントレア・ミヤリス」(~18620607)
- 1857年11月26日 06:00|カナダ/イギリス| ||<就任>イギリス領カナダ州共同首相「ジョン・アレクサンダー・マクドナルド」(2回目/カナダ西部)「ジョージ・ステイブン・カルティエ卿(1回目/カナダ東部)」(~18580802)
- 1857年11月28日-01:00|スペイン| ||<就任>アストurias公(スペイン国王の推定相続人)「アルフォンソイサベルの弟、後のスペイン王アルフォンソ12世」(~1870年~18851125死去)
- 1857年12月-05:30|インド/イギリス| ||イギリス軍の反攻で妹イの乱の拠点カンポールが陥落
- 1857年12月-05:30|インド/イギリス| ||ジャバル国はイギリス領インドに併合(ハソングヤブ州の一部、19661101からハリヤ州)
- 1857年12月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>タマサス・クリス「Kutuhyalı Hacı Ali Pasha II」(~1858.12)
- 1857年12月5日-04:00|セイシェル/イギリス| ||<就任>イギリス領セイシェル長官代「チャールズ・ロバート・テルフェア」(1度目~1858年)
- 1857年12月5日-01:00|ドイツ| ||<初演>フアンツ・リスト《ファウスト交響曲》
- 1857年12月8日-09:00|日本| ||安政4年10月22日|<死去>朝川同斎(44歳) 儒学者、書家
- 1857年12月16日-01:00|イタリア| ||イタリア-南部バジリカータ、地震M7.0、死者10939人
- 1857年12月16日-09:00|日本|静岡県伊豆の国市|安政4年11月|葦山に反射炉を建造(安政元年6月、江川英龍を責任者として着工)
- 1857年12月16日-09:00|日本|東京都墨田区|安政4年11月|<大相撲>安政4年11月場所[江戸本所回向院](10日間) 幕内優勝:(東関脇)雲龍、7勝1敗1預1休
- 1857年12月16日-09:00|日本|福井県大野市|安政4年11月|大野藩、医学館を開く
- 1857年12月20日-09:00|日本|山口県萩市|安政4年11月5日|吉田松陰、萩の郊外に松下村塾を開く
- 1857年12月21日 06:00|アメリカ| ||コンフット憲法が採択される
- 1857年12月23日-09:00|日本|兵庫県佐用郡佐用町|安政4年11月8日|<死去>森長国(48歳) 前播磨三日月藩主

1860迄 (3252件)

- 1857年12月26日 04:00|セントピント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントピント副総督代行「ウィリアム・ホルム」(3度目~18580112)
- 1857年12月26日-09:00|日本|京都府京都市|安政4年11月11日|<死去>3代中村大吉(43歳)歌舞伎役者/5代瀬川菊之丞の子
- 1857年12月27日 00:00|イギリス| |||<死去>4代スペンサー伯「フレデリック・スペンサー」
- 1857年12月27日 00:00|イギリス| |||<就任>5代スペンサー伯「ジョン・ホプ・インツ・スペンサー」先代の息子(~19100813死去)
- 1857年12月27日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Gregorio Pesquera」(~18580127)
- 1857年12月27日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政4年11月12日|長崎の医学伝習所が大村町11番地の高島秋帆邸内の西北隅一屋に移される/大村町医学伝習所と呼ばれる
- 1857年12月28日 06:00|カタール| |||カタールのフレザ-川でゴールド・ラッシュが起こる
- 1857年12月29日-08:00|中国/フランス/イギリス| ||清・咸豊7年11月14日|英仏連合軍が、広州を占領
- 1857年12月31日 06:00|カタール| |||オマーンが連合カタールの首都に決定
- 1858年-13:00|トケラウ| |||<就任>フカフカ統治者「Lika」
- 1858年-12:00|ウオリス・ツナ| |||<即位>ウア王「Falakika Seilala」(~18690219死去)
- 1858年-08:00|インドネシア| |||<即位>デリスルタン「Sultan Mahmud Al Rashid Perkasa Alamisyah」(~1873年)
- 1858年-08:00|インドネシア| |||<即位>パクアラマン君主「Pakuan3世」(~1864年)
- 1858年-07:00|ラオス| |||<死去>チャンパ-サク王「カム・ニヤイ」
- 1858年-07:00|ラオス| |||<就任>チャンパ-サク摂政「チュ」(~1860年)
- 1858年-05:30|インド| |||<就任>ウタールプラデシュ国ラジャ「シエラジ・シン・テオ」(~1859年)
- 1858年-05:30|インド| |||<就任>カシヤ国統治者「サダール」「ラナ・シン」(~18690219没)
- 1858年-05:30|インド| |||<就任>クムハルサイ国統治者「タナ・サハブ」「ハニ・シン」(~1874年没)
- 1858年-05:30|インド| |||<就任>サムタル国摂政「ラニ」(~18650203)
- 1858年-05:30|インド| |||<就任>サンエリ国統治者「ターケル」「フ・ラタフ・シン」(~1901年12月没)
- 1858年-05:30|インド| |||<就任>ダティア国摂政「ラニ・フ・ラン・クワール」(~1861年)
- 1858年-05:30|インド| |||<就任>トリファテール国統治者「テ・イワン」「フ・リスグ・イ・シン」(~1880年没)
- 1858年-05:30|インド| |||<就任>バルサン国統治者「ラナ」「ジ・ヨグ・ラジ・シン」(~18671129)
- 1858年-05:00|パキスタン| |||<死去>チタル国統治者「ミフタル」「モハマト・モータラム・シャ-3世」
- 1858年-05:00|パキスタン| |||<就任>タタル統治者「ミール」「モハマト・アクラム・カーン」(~1907年1月没)
- 1858年-05:00|パキスタン| |||<就任>チタル国統治者「ミフタル」「シャ-モハマト・アマン・アル・モルク2世」(~18920830没)
- 1858年-05:00|パキスタン| |||<就任>ブル統治者「ナワブ」「アブドラー・カーン」(~1890年)
- 1858年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>ココナト・ハン国ハン「ムハマト・マラ・ベク・ハン」(~18620301死去)
- 1858年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァン国対立ハン「Muhammad Fena' Khan」(~1859.8死去)
- 1858年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<退位>ココナト・ハン国ハン「ムハマト・フター・ヤール・ハン」逃亡
- 1858年-04:00|ジョージア/ロシア| |||スヴァミアはロシア帝国へ編入
- 1858年-03:00|スーダン/エジプト| |||<就任>エジプト領スーダン長官「ハサン・サラマ・ベイ」(~1861年)
- 1858年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのワリス「メフメド・アリ・ハシヤ」(~1859年)
- 1858年-03:00|ケニア| |||<即位>パテスルタン国スルタン「Shaykh Muhammad, Mfalume」(~1870年)
- 1858年-03:00|イエメン| |||<復位>ラッシー朝イマム「アルハデ・イ・カリブ」(2期目~1872年)
- 1858年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト大宰相「ムスタファ・ハシヤ」(~1861年)
- 1858年-02:00|ジンバブエ| |||<就任>ブハラ統治者「マンボ」「ムテマ」
- 1858年-02:00|エジプト| |||フランスの考古学者、ギユスト・マリエットが遺品を展示しエジプト考古学博物館始まり(カイロ博物館)
- 1858年-01:00|カメルーン| |||<死去>ホナンジヨ王国国王「ベル2世ロフ・ベ・ベ」
- 1858年-01:00|ベナン| |||<就任>アグウェのウエ国統治者「ソジ」(~1873年)
- 1858年-01:00|マルタ/イギリス| |||<就任>イギリス領マルタ総督「ジョン・ル・マーチャント」(~18641115)
- 1858年-01:00|ベナン| |||<就任>イルシャ統治者「サヒ・テレク1世」サンテ・イロから分離建国(~1869年)
- 1858年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Manuel Gasset y Mercader」(~1859年)
- 1858年-01:00|イタリア| |||<就任>ハンツァティ伯「Jules Louis Georges Samson Berdez de Felice」(~1925年)
- 1858年-01:00|チャド| |||<即位>バギルミ王国スルタン「Abu-Sekkin Mohammed4世, Mbangi」(1期目~1870年)
- 1858年-01:00|カメルーン| |||<即位>ホナンジヨ王国国王「ベル3世ト・ウンバ・ロフ」(~1897年没)
- 1858年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>グラン・サマ(ヌムル砦)民間司令官「ピエール・アレクサンドル・マイタール」(2回目~1860年)
- 1858年 00:00|セネガル| |||<就任>シヨロフ帝国摂政「タノール・ファティム・ジエン」(~1862年)
- 1858年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>バージン諸島首席代理「Isidore Peter Lynch Dyett」(~1859年)
- 1858年1月-05:30|インド/イギリス| |||ホラット国はイギリス領インドに併合される(ベンガルの一部、1912~1936年ビハール州とオリッサ州、1936年以降はビハール州)
- 1858年1月1日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島主任判事「Isaac Christian」(~12.31)
- 1858年1月1日-09:30|オーストラリア| |||メルボルン、ヤン・インの水道システムが60万ポンドをかけて完成
- 1858年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「シヨナス・フラー」Rad(4期目~12.31)

1860迄 (3252件)

1858年1月1日 06:00|カナダ| |||英領カナダが通貨に10進法を導入
1858年1月1日-01:00|フランス/イギリス/中国| ||清・咸豊7年11月17日|アヘン戦争: 広州の戦い終結、広州陥落
1858年1月5日-01:00|オーストリア| |||ヨゼフ・ラデツキ、オーストリアの貴族・軍人(生年1766年)
1858年1月7日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ムタ・エミン・アリ・パシャ」(3期目~18591018)
1858年1月8日 00:00|イギリス| |||<死去>10代ウィンチルシー伯・5代ノッティンガム伯「ジョージ・ウィリアム・フィンチ=ハットン」
1858年1月8日 00:00|イギリス| |||<就任>11代ウィンチルシー伯・6代ノッティンガム伯「ジョージ・ジェームズ・フィンチ=ハットン」(~18870609
死去)
1858年1月11日-04:00|レニオン/フランス| |||<就任>レニオン知事代理「Lefevre」(~3.27)
1858年1月12日 04:00|セントピント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントピント副総督代行「アレクサンダー・マクロード」(1度目~24
日)
1858年1月14日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Francisco Javier Isturiz[穏和党](~18580
630)
1858年1月14日-01:00|フランス| |||フランス皇帝ナポレオン3世夫妻がパレ座に向かう途中の馬車に、イタリア人愛国者のフェリチ
ェ・オルシーニ(39)が爆弾を投げつける/皇帝夫妻は無事だが170人の死傷者がでる
1858年1月15日-01:00|フランス| |||<初演>シャルル・フランソワ・グノー《歌劇「いやいやながら医者になれ(にわか医者)」》
1858年1月15日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「Francisco Antonio Correia」(~5.
29死去)
1858年1月15日-09:00|日本| ||安政4年12月|<出版>一光斎芳盛「絵本早学」
1858年1月15日-09:00|日本| ||安政4年12月|幕府、外交官の江戸滞在を許可する
1858年1月15日-09:00|日本|福井県|安政4年12月|大野一番町に済生病院が設置される
1858年1月15日-09:00|日本| ||安政4年12月1日|水戸藩主慶篤、軍艦旭日丸を幕府に引き渡す
1858年1月15日-09:00|日本|日本製鉄|安政4年12月1日|南部藩、釜石で洋式高炉による銃鉄の製造に成功【近代
製鉄発祥地】(→富士製鉄→新日鉄)
1858年1月16日-02:00|エジプト/スーダン| |||エジプトのケイプのファーマンによって奴隷制度が廃止された
1858年1月18日-09:30|オーストラリア| |||12人の石工がクィーンズランドで最も古い労働組合の1つを形成
1858年1月18日 00:00|イギリス| |||<死去>6代デヴオンシャー公「ウィリアム・ジョージ・スペンサー・キャウエンティッシュ」
1858年1月18日 00:00|イギリス| |||<就任>7代デヴオンシャー公「ウィリアム・キャウエンティッシュ」先代の従兄弟甥(~18911221死去
)
1858年1月19日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領「ベニート・ハブス・ロドリゲス・ガルシア」(対立、18610611まで暫定;
メキシコシティで18610111~18630531;18630531から対立~18670515)
1858年1月21日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領「フェリックス・マリア・スロガ・トリロ」(1回目~12.23;24日まで総
司令官、その後暫定)
1858年1月24日 04:00|セントピント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントピント副総督「エドワード・ジョン・エア」(2度目~185904
28)
1858年1月25日-01:00|ドイツ/イギリス| |||英ヴィクトリア女王・プロシヤ王フリードリヒ3世結婚式(メンデルスゾーンの結婚行進曲が
演奏され同曲が有名となる)
1858年1月27日-09:30|オーストラリア| |||トレンズ 不動産法、国王の承認
1858年1月27日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島市民知事「Jose Martinez Tenaguero」(~7
.1)
1858年2月1日-09:30|オーストラリア| |||オーストラリアで最初の熱気球による飛行の成功/メルボルンのクレーモン・ガートンズからウィリ
アム・デインがオーストラリアン号により飛行に成功
1858年2月1日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領代行「ロレンス・セペダ」(~7日)
1858年2月3日-09:00|日本|茨城県ひたちなか市|安政4年12月20日|水戸藩的那珂湊に建造中の2基目の反射炉、竣
工
1858年2月4日-01:00|ドイツ| |||ヘルマン・ゴルトシュミットが小惑星エウロパ発見
1858年2月6日-09:00|日本| ||安政4年12月23日|長崎海軍伝習所に幕府艦船鵬翔丸(カリテリア号340t)引き渡し
1858年2月7日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領「ミゲル・サンティン・デル・カステイリョ・イ・パロタ」(~1860
0201/18590119に事実上退位)
1858年2月14日-05:30|インド/イギリス| |||ダール国はイギリス領インド統治下(~18600501)
1858年2月14日-09:00|日本| ||安政5年1月|<出版>山形素真「素真画譜」初編
1858年2月14日-09:00|日本|東京都墨田区|安政5年1月|<大相撲>安政5年1月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内
優勝:(東前2)鬼面山, 8勝0敗2休
1858年2月14日-09:00|日本|北海道登別市|安政5年1月|登別温泉で最初の休泊所として第一滝本館開業
1858年2月14日-09:00|日本| ||安政5年1月1日|<死去>初代木津宗詮(99歳)茶人
1858年2月19日-01:00|フランス| |||ナポレオン3世が治安維持法を制定
1858年2月20日 00:00|イギリス| |||<就任>イギリス連合王国第36代首相「第14代ダートマス伯爵エドワード・スミス=スタンリー」保守
党(第2期~18590611)
1858年2月22日-09:00|日本|東京都中央区|安政5年1月9日|亥の下刻に浅草町猿若町三丁目の森田座より出火、同
町二丁目、聖天町、金龍山下瓦町焼失、市村座も焼ける
1858年2月26日-08:00|中国| ||清・咸豊8年|<即位>ダライ・ラマ「12世テンレーギヤツォ」(~18750425死去)
1858年2月27日-09:00|日本|東京都江東区|安政5年1月14日|幕府、深川越中島に講武所付属の銃隊訓練場完成
1858年2月28日-04:00|ロシア| |||ロシアで農民問題秘密委員会が農民問題主要委員会に改組

1860迄 (3252件)

- 1858年3月4日 06:00|アメリカ| |||<死去>ヘリ-63歳(誕生17940410)浦賀に来航したアメリカの提督
- 1858年3月6日-09:00|日本|長崎県五島市|安政5年1月21日|<交替>肥前福江藩12530石「五島盛成」隠居⇒三男「五島盛徳」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1858年3月10日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ジョン・オシャノン」(~18591027)
- 1858年3月11日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|安政5年1月26日|<死去>井上正甫(81歳)前陸奥棚倉藩主
- 1858年3月12日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「エグリントン伯爵アーサー・ウィリアム・モンゴメリー」(2回目~18590713)
- 1858年3月13日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>アセンション島司令官「ウィリアム・ファーガソン・バーネット」(~18610705)
- 1858年3月13日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍メimak級フリゲイト「コロラド」(4772t,ゴスポート造船所で建造)
- 1858年3月14日-05:30|インド/イギリス| |||チャネリ国はイギリス領インドに占領された(~1861年)
- 1858年3月15日 04:30|ベネチア| |||<就任>ベネチア大統領「ペドロ・ロケアル・エスカント」無所属(1期目~3.18)
- 1858年3月15日 04:30|ベネチア| |||モカス政権。保守党と自由党がそれぞれ反乱を起こす中で崩壊/フアン・カストロ・コントレラスがカカスを占拠/そのまま内戦に移行
- 1858年3月17日 00:00|アイルランド| |||アイルランド 民族運動組織フィアン同盟がニューヨークで結成
- 1858年3月18日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ 王国首相「ヤン・シエイク・ワッヘン」(~18600223)
- 1858年3月18日 03:00|ブラジル| |||リオ・デ・ジャネイロ間に初の舗装道路
- 1858年3月18日 04:30|ベネチア| |||<就任>ベネチア共和国解放軍最高責任者「フアン・カストロ・コントレラス」(⇒7.26暫定国家元首⇒18590105暫定大統領~18590802)PL
- 1858年3月18日-09:00|日本|岡山県倉敷市|安政5年2月4日|<死去>池田政和(38歳)前備中生坂藩主
- 1858年3月21日-05:30|インド/イギリス| |||イギリス軍が、インド 反乱の中心のアフ州の州都ラクナウを陥落させる
- 1858年3月24日 11:00|日本|東京都中央区|安政5年2月10日|(~11日)<江戸日本橋安政5年の大火>戌の刻(20時頃)、安針町と長浜町二丁目の境にある魚店の納屋から出火、瀬戸物町から伊勢町、長浜町、室町裏通りへと焼け広がった/江戸橋を超えて青物町、万町通一丁目から二丁目の裏手、左内町、本材木町四丁目まで延焼/新右衛門町、平松町、南油町中通りにも延焼/海賊橋向かいの牧野侯の屋敷にも火が移り、そこから坂本町、南茅場町が全焼、八丁堀一円も全焼/北紺屋町から岡崎町、日比谷町、松川町へと進み、本八丁堀高縄台地、南丁堀へと延び、さらに霊巖島、長崎町、富島町から佃島へ飛び火、十軒町へと延焼、阿波藩中屋敷、細川侯、松平淡路守屋敷などを焼いて翌日の巳半刻(午前11時半ごろ)にようやく鎮火/被害は町数で85町、長さ延べ18町余(約2km)、幅平均4町(約440m)ほどが焼亡、焼亡町数118か町
- 1858年3月28日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>レユニオン知事「ダリカウ男爵Rodolphe Augustin」(~18640919)
- 1858年3月28日-03:00|サウジアラビア| |||<死去>メッカ・シャリフ「ムハンマド 3世・イブン・アブドゥル・ムイン」
- 1858年3月28日 01:00|カボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カボベルデ 総督「セバスチャン・ロペス・デ・カリエロス・イ・メネズ」(~1860年6月)
- 1858年3月29日-05:30|インド| |||<廃位>ムガル帝国皇帝「バハドゥル・シャ-2世」インド 大反乱によりビルマへ追放、ムガル帝国滅亡
- 1858年3月30日 06:00|アメリカ| |||アメリカのハイマン・リップマンが消しゴム付き鉛筆の米国特許を取得(1875年却下)
- 1858年3月31日 00:00|イギリス| |||<死去>17代モートン伯「ジョン・ショルト・ダグラス」
- 1858年3月31日 00:00|イギリス| |||<就任>18代モートン伯「ショルト・ジョン・ダグラス」(~18841224死去)
- 1858年4月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「フランチェスコ・グイェイ・ジャン」 「マリノ・マルヘリ」
- 1858年4月2日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|安政5年2月19日|<交替>備中庭瀬藩2万石「板倉勝全」隠居⇒養子「板倉勝弘」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月22日、版籍奉還)
- 1858年4月5日-09:00|日本| ||安政5年2月22日|<死去>初代宇治紫文(68歳)浄瑠璃太夫
- 1858年4月6日-02:00|ルーマニア/オーストリア| |||<就任>オーストリア民政・軍事トランシルヴァニア総督「ハインリヒ・F・ライヘル・フォン・レプツェルン」(6.25まで代行~9.20)
- 1858年4月8日-09:00|日本|大阪府大阪市|安政5年2月25日|大坂大阪道頓堀角座より出火、難波新地の見世物小屋も焼ける
- 1858年4月9日-08:00|日本| ||安政5年2月26日|<1858飛越地震>午前1時頃、立山連峰の西、越中国と飛騨国の国境付近で、跡津川断層の活動によるマグニチュード7.0~7.1の内陸直下の大地震発生/富山では、城の石垣、門や塀が破損、武士屋敷や町家の多くが全潰/飛騨地方の断層に近い、高原川や宮川流域の村むらで、全家屋が倒壊した集落もあり、のち、角川地震と呼んだ/立山連峰の大鷲山と小鷲山の大崩壊で、現在、立山カゲウと呼ばれている、へこんだ個所の底に向かって山体の一部が岩層なだれとなって崩れ落ち、中腹にあった立山温泉で建物の普請にあたっていた作業員30人余を呑み込んだ。そして、大量の土砂を常願寺川の上流の湯川やその支流の谷に堆積させ、さらに、湯川の谷を流下した土砂は常願寺川支流の真川との合流点に達し、そこから真川の谷を逆流して堆積し、それぞれの川の流れをせき止めた上、上流部では雪解けの水が急速に溜まりはじめたため、いくつもの大きな池が生まれた
- 1858年4月10日 00:00|イギリス| |||イギリス国会議事堂の時計塔に重さ13.5tの大時鐘が完成。工事担当者ベンジャミン卿に因みビッグ・ベンと命名
- 1858年4月12日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国暫定閣僚評議会議長(首相)「マヌエル・オルティス・デ・ゼバルロス ガルシア」(~7.13)
- 1858年4月14日-09:00|日本|東京都|安政5年3月|「永代橋」修復、石橋に架け替え
- 1858年4月14日-09:00|日本|東京都中央区|安政5年3月|<初演>「黒手組曲輪達引」<黒手組助六>[作・二代目河竹新七]助六、権九郎・四代目市川小團次、市村座
- 1858年4月19日 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督「アントニオ・ペレイラ・モウニョ・デ・アルバカーキ・コタ・ファルカン」(~

1860迄 (3252件)

- 同年)⇒代行「ジ ョン・ピコルノ・ペレス」(1回目)⇒総督「オリア・ペレイラ・バレット」(5回目~18590416)
- 1858年4月21日-09:00|日本|千葉県旭市|安政5年3月8日|<死去>大原幽学(62歳)農政学者. 村の訴訟や荒廃を嘆き、墓地で切腹/天保9年(1838年)先祖株組合という農業協同組合を世界で初めて創設
- 1858年4月23日-09:00|日本| ||安政5年3月10日|<1858立山鷹崩れ>飛越地震14日後、信濃大町付近を震源とするマグニチュード5.7の地震が起き、その衝撃によって湯川をせき止めていた土砂が崩れた
- 1858年4月26日 00:00|ポルトガル| ||<就任>フンチャル地区民政知事「Jose Maria Baldy」(~18600229)
- 1858年4月30日-01:00|マルタ/イギリス| ||<死去>イギリス直轄植民地マルタ総督「ウィリアム・レイド卿」
- 1858年4月30日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地マルタ総督「ジョーン・ガスパール・マランシュ卿」(~18641130)
- 1858年5月-05:30|インド/イギリス| ||ナグランド国がイギリスの統治に反乱(~6月)
- 1858年5月 04:00|グレタダ/イギリス| ||<就任>グレタダ 副総督代行「フランス・エルバートン・チェックリー」(4回目~6月)
- 1858年5月 07:00|メキシコ| ||グアハラト、保守党軍により陥落. フォレスは米国に亡命し臨時政府樹立
- 1858年5月1日-03:00|サウジアラビア| ||<就任>メッカ・シャリフ「アブドゥッラー・ハッシャ・ブン・ムハンマド」(~18770626、死去)
- 1858年5月6日-09:00|日本| ||安政5年3月23日|<死去>小柳常吉(41歳)元大相撲力士、大関
- 1858年5月7日 05:00|パナマ| ||<就任>パナマ大統領代行「ラモン・カンボア」(~9.30)
- 1858年5月8日-02:00|南アフリカ| ||ユトレヒト共和国をラテンソールの共和国に編入
- 1858年5月8日 06:00|アメリカ| ||<第3次セミノール戦争>ミルミス大佐がインディアンの戦争終結と宣言
- 1858年5月8日-09:00|日本| ||安政5年3月25日|<死去>鼻山人(69歳)戯作者
- 1858年5月8日-09:00|日本| ||安政5年3月25日|市川斎宮、蕃書調所での最初の印刷事業に成功
- 1858年5月8日-09:00|日本|滋賀県大津市|安政5年3月25日|<死去>本多康融(47歳)前近江膳所藩主
- 1858年5月10日-08:00|インドネシア| ||<死去>マタラム王国スルタン「Pakubuwono7世」
- 1858年5月10日-08:00|インドネシア| ||<即位>マタラム王国スルタン「Pakubuwono8世」(~18611228死去)
- 1858年5月10日-02:00|ラトビア| ||<就任>ケルラント総督代行「ユリウス・グスタフ・フォン・キューブ」(~21日)
- 1858年5月10日 04:00|ガイアナ/イギリス| ||<就任>イギリス領ガイアナ総督「ウィリアム・エドモント・ウッドハウス」(2回目~18610509)
- 1858年5月11日 06:00|アメリカ| ||<加盟>メソチア準州⇒アメリカ合衆国メソチア州(32番目)
- 1858年5月12日 00:00|ガイアナ/イギリス| ||<就任>イギリス領ゴールドコースト総督・最高司令官代行「ヘンリー・ハーバート」(~18600420)
- 1858年5月13日-09:00|日本| ||安政5年4月|<出版>孟斎好寅(猛斎芳虎)「錦花集」
- 1858年5月15日 00:00|イギリス| ||英国でロイヤル・イタリアン・オペラ新築開場(コヴェント・ガーデン)
- 1858年5月21日-02:00|ラトビア| ||<就任>ケルラント総督「ヨハン・フォン・ブレウエルン」(~18680902)
- 1858年5月22日 05:00|ロシア| ||<就任>グラーナイ連盟大統領マリアノ・オスベ・ナ・ロドリゲス[保守党](~18610401)
- 1858年5月24日-09:00|日本|広島県広島市|安政5年4月12日|<交替>安芸広島藩42万6500石「浅野齊肅」隠居⇒長男「浅野慶熾」が継ぐ(⇒同年9月10日、死去)
- 1858年5月27日-01:00|赤道ギニア/スペイン| ||<就任>フェルナント・ホー総督「カルロス・デ・チャコン・イ・ミケナ」(~18590901)
- 1858年5月28日-04:00|ロシア/中国| ||ロシア暦5月16日;清の成豊8年4月16日|ロシアと清朝の間でアイグン条約が結ばれる/黒竜江が国境になる
- 1858年5月29日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<死去>サントメ・プリンシペ 総督「Francisco Antonio Correia」
- 1858年5月29日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「政府評議会(不完全)Candido Augusto Xavier/Bernardo Soares Vieira da Mota」(~18590207)
- 1858年5月31日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>アングラド・エロイス民政知事「Cassiano Sepulveda Teixeira」(~18590406)
- 1858年6月-09:30|オーストラリア| ||オーストラリアで最大の金塊の一つ「ウェルカム」ハラルト近くで、コンウォール鉱夫によって発見される/62.85キログラム
- 1858年6月-05:30|インド| ||<就任>グワルニル国統治者(マハラジャ・シンデイア)「ラオ・サーヒブ・スワタル」反乱軍が一時的に州都を占拠(~20日)
- 1858年6月-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ| ||ペタル・ペシャ・ポポヴィッチ(~1875年没)率いるボスニアにおける地方反乱(トルコ人の反乱) (~12月)
- 1858年6月 04:00|グレタダ/イギリス| ||<就任>グレタダ 副総督代行「チャールズ・レイ」(~1859年2月)
- 1858年6月2日-12:00|ニュージーランド| ||<即位>キングタガ王「ホタウ・イ・テ・ホウヘロ」王権確立(オクラント南部、タポ湖を取り囲むタナキ地方の端までの地域~18600625没)
- 1858年6月2日-01:00|イタリア| ||イタリア人の天文学者ジョヴァンニ・ハッティスタ・ド・ナティによって彗星C/1858L1(ド・ナティ彗星)発見
- 1858年6月3日-05:30|インド/イギリス| ||ナグランド国はイギリス領インドに併合
- 1858年6月3日-09:00|日本|長野県飯山市|安政5年4月22日|<交替>信濃飯山藩35000石「本多助賢」隠居⇒養子「本多助実」が継ぐ(⇒慶応3(1867)年4月4日、隠居)
- 1858年6月4日-09:00|日本|東京都千代田区|安政5年4月23日|<就任>大老「井伊直弼」(~万延1年3月3日)
- 1858年6月7日-09:00|日本| ||安政5年4月26日|<1858立山鷹崩れ>真川をせき止めてた天然ダムが崩れ、泥水や大木を激流が押し流し、神通川や白岩川に流れ込み、富山平野の下流の村むらは大洪水に襲われた/被害は加賀藩領で田畑の流失など2万5795石分/富山藩領では田畑の流失など6250石分/飛越地震及び立山鷹崩れによる被害は、富山藩領では70人死亡、城下の家中(藩の武士)の家屋全潰及び半潰318戸、町家の全潰及び半潰1872戸、土蔵の全潰、半潰は家中のもの40棟、町家のもの1095棟など、合計家屋2190戸、土蔵は1183棟が全潰、半潰、流失/寺社及びお堂の全潰及び半潰30か所/飛驒では全部で70村に被害が出、209人死亡、家屋全潰323戸、同流失4戸、同焼

失5戸、土蔵全潰18棟、同流失3棟、寺社及びお堂は全潰14棟/そのほか加賀藩領で146人死亡、家屋の全潰及び半潰1172戸、同流失1319戸(寺含む)、土蔵の全潰及び半潰283棟、同流失477棟(納屋含む)、寺社及びお堂の全潰及び半潰35か所/加賀大聖寺藩1人死亡、家屋全潰148戸、同沈下35戸、土蔵全潰142棟、同大破174棟/そのほか福井藩領、勝山藩領、大野藩領など越前国下で被害が出た/被害の合計は426人死亡、全潰、半潰、流失、焼失、沈下、大破した家屋6069戸、同土蔵2356棟、同寺社、お堂137か所

- 1858年6月10日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの植物学者ブラウン/84歳(誕生17731221)ブラウン運動の発見者
- 1858年6月12日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国首席大臣代行「ステファン・ミトロフ・カジリッチ」(~18590418)
- 1858年6月12日 04:00|ドミニカ共和国| |||<就任>ドミニカ共和国大統領「ルセ・デ・ジ・デ・リオ・バルベルデ・ペレス」(~7.27)
- 1858年6月13日-04:00|ロシア/中国| |||清がロシアと天津条約を締結/イギリス・フランスへのアロ戦争の賠償金の支払い/南京・台湾などの開港を認めさせる
- 1858年6月13日-09:00|日本|静岡県沼津市|安政5年5月3日|<死去>駿河沼津藩5万石「水野忠良」(25歳)⇒従弟「水野忠寛」が継ぐ(⇒文久2(1862)年閏8月20日、隠居)
- 1858年6月17日-09:00|日本| ||安政5年5月7日|中国経由で入港中の米軍艦(ミシシッピ号、ペリ艦隊の4船うちの1船)乗組員にコレラ患者/長崎に上陸し市中に流行。死者767人をだす→7月以降江戸に流行
- 1858年6月17日-09:00|日本|東京大学|安政5年5月7日|江戸の医者伊東玄朴らが日本で初めての天然痘予防接種の治療所を神田お玉ヶ池に開設
- 1858年6月18日-08:00|中国/アメリカ| |||清がアメリカと天津条約を締結
- 1858年6月18日-05:30|インド/イギリス| |||イギリス軍との戦いでジャージーの女王ラクシュミーが戦死
- 1858年6月26日 00:00|イギリス/中国| |||清がイギリスと天津条約を締結
- 1858年6月26日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、モモン教徒の反乱終結
- 1858年6月27日-01:00|フランス/中国| |||清がフランスと天津条約を締結
- 1858年6月30日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Leopoldo O' Donnell」自由党(~18630302)
- 1858年7月-09:30|オーストラリア| |||フィッツロイ川などで金が発見され、クィーンズランドで初めてのゴールドラッシュが起こる
- 1858年7月1日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「メフメト・カニハッパ」(1回目~9.18)
- 1858年7月1日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Narciso Ametller y Cabrera」(~18590122)
- 1858年7月1日 00:00|イギリス| |||リネ協会会報にダーウインとウォレスが進化論の概要を発表
- 1858年7月2日-09:30|オーストラリア| |||トリスの登記制度が南オーストラリアで導入/土地権の登記や譲渡が容易になり、他の植民地や海外で広く導入されるようになった
- 1858年7月6日-06:30|ミャンマー| |||マンダレーの御所の建物、すべて竣工
- 1858年7月12日-09:30|オーストラリア| |||アデレード、『サウス・オーストラリアン・アドヴァタイザー』創刊
- 1858年7月13日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国暫定閣僚評議会議長(首相)「フアン・マヌエル・デル・マル・イ・バルネト」(~15日)
- 1858年7月14日-09:00|日本|京都府京都市|安政5年6月4日|<京都大火>京都・下京の諏訪町から出火、烏丸へ燃え移り、さらに方々に飛火
- 1858年7月15日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国閣僚評議会議長(首相)「ミゲル・デ・サン・ロマン・イ・メサ」(~1859年6月)
- 1858年7月20日-01:00|フランス/イタリア| |||皇帝ホセ・レオン3世と「サルデーニャ王国」首相カミッロ・ベンツォンテ・デ・イ・カール、との間で「プロヒエール密約」が締結/「サルデーニャ」がフランスにサヴォイア、ニースを割譲/フランスは「サルデーニャ」の「対オーストリア戦争」(イタリア統一戦争)への支援を約束
- 1858年7月22日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリヤ暫定総督「Francisco Ceballos」(~同年)
- 1858年7月23日 00:00|イギリス| |||イギリスで、ユダヤ人権撤除法が廃止され、ユダヤ人の議席獲得が認められる
- 1858年7月24日-05:30|インド| |||<就任>ケントル国ラジャ「サンサルセン」(~1862年)
- 1858年7月24日-08:00|中国| ||清・咸豊8年6月14日|盛平天国が清(清)帝国によって消滅
- 1858年7月26日 04:30|ベトナム| |||ベトナム大統領フアン・カストロ、暫定国家元首を名乗る
- 1858年7月27日 04:00|ドミニカ共和国| |||<就任>ドミニカ共和国大統領「パド・ロ・サンタ・ファミリア」(4回目、18590131まで代行~18610318)
- 1858年7月28日-09:00|日本|新潟県新発田市|安政5年6月18日|<死去>溝口直諒(60歳)前越後新発田藩主
- 1858年7月29日-09:00|日本/アメリカ| ||安政5年6月19日|幕府、日米修好通商条約と貿易章程に調印
- 1858年7月29日 00:00|イギリス/アメリカ| |||英国と米国の間に大西洋を通る電信用の海底ケーブルが敷設される/大英帝国のヴァンティア島(アイルランド領)とアメリカのニューファントランド島(カナダ領)の間
- 1858年7月30日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|安政5年6月20日|<交替>紀伊和歌山藩55万5千石「徳川慶福」将軍「家定」の世子となり辞任⇒6月25日、養子「徳川茂承」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1858年7月31日-09:00|日本|東京都千代田区|安政5年6月21日|<解任>老中「松平忠固」「堀田正睦」
- 1858年8月-03:30|イラン| |||イランで大宰相制が廃止され6省を設置
- 1858年8月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Bostancibashizade Mehemet Reshid Pasha」(~1860.5)
- 1858年8月-02:00|南アフリカ/イギリス| |||イギリス領カプリアの属領としてトケルワ保護区創設
- 1858年8月2日 06:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領カナダ州共同首相「ジョージ・ブラウン(カナダ西部)」「アンソニー・ラブ・ド・リオン(1回目/カナダ東部)」(~6日)
- 1858年8月2日-09:00|日本|東京都千代田区|安政5年6月23日|<就任>老中「松平乗全」(~万延1年4月28日)、「太田資始」(~安政6年7月23日);<再任>老中「間部詮勝」(~安政6年12月24日)

1860迄 (3252件)

- 1858年8月3日-05:30|インド/イギリス| |||インド 統治法により、イギリス東インド 会社によるインド 支配が終了/以後イギリス政府による直接支配となり、ムガル朝が名実ともに滅亡
- 1858年8月3日-02:00|エジプト/イギリス| |||イギリスの探検家・スティーブがナイル川水源の湖に到達。ビクトリア湖と命名
- 1858年8月5日 06:00|カナダ/アメリカ| |||大西洋海底ケーブルが完成し、最初の送信が開始(ニューファンドランド〜アイルランド)
- 1858年8月5日-09:00|日本|京都府京都市|安政5年6月26日|<就任>京都所司代「酒井忠義」(⇒1862(文久2年6月30日))
- 1858年8月5日-09:00|日本|長崎県平戸市|安政5年6月26日|<死去>肥前平戸藩61700石「松浦曜」(47歳)⇒甥「松浦詮」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月19日、版籍奉還)
- 1858年8月6日 00:00|イギリス| |||<死去>8代クィーンズベリー侯「アーチボルド・ウィリアム・ダグラス」
- 1858年8月6日 00:00|イギリス| |||<就任>9代クィーンズベリー侯「ジョン・ショルト・ダグラス」(~19000131死去)
- 1858年8月6日 06:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領カナダ州共同首相「ジョージ・ステイブソン・カリエイ卿(2回目/カナダ 東武)」 「ジョン・アレクサンダー・マクドナルド(3回目/カナダ 西部)」(~18620524)
- 1858年8月9日-09:00|日本| |||安政5年7月|<出版>国芳、広重、芳晴、芳綱等「浅草名所一覽」
- 1858年8月9日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政5年7月|語学伝習所を英語伝習所と改称し、岩原屋敷内奉行支配組頭の永持享次郎宅に設立
- 1858年8月10日-01:00|カメルーン/イギリス| |||アンバズ湾に英国バプテスタ宣教協会によって解放奴隷のためのビクトリア入植地設立(~18870328)
- 1858年8月11日-05:30|インド| |||<就任>ケルワイ国支配者(ナワブ)「モハマト・ナジャフ・カーン」(~18870115没)
- 1858年8月11日-01:00|スイス/イギリス| |||チャールズ・ハリントンがアイブ初登頂
- 1858年8月11日-09:00|日本| |||安政5年7月3日|幕府、官医に西洋医術の採用を許す。伊東玄朴ら、幕府官医となる
- 1858年8月12日-09:00|日本/イギリス| |||安政5年7月4日|英国女王より木造スクナー型蒸気船王室ヨット「エンビロル」(370t 木造スクナー型蒸気船:1856年、イギリス、ブラックウォールのグリーン造船所で製造就役)が幕府に贈呈、砲艦「蟠竜丸」と改称
- 1858年8月13日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|安政5年7月5日|<交替>尾張藩61万9500石「徳川慶勝」隠居⇒弟「徳川茂徳」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1858年8月13日-09:00|日本/イギリス|東京都品川区|安政5年7月5日|イギリスの軍艦4隻が日本との開港条約を迫って品川に来航
- 1858年8月13日-09:00|日本|新潟県糸魚川市|安政5年7月5日|<交替>越後糸魚川藩1万石「松平直廉」越前福井藩の家督相続⇒10月26日、養子「松平直静」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1858年8月14日-09:00|日本|静岡県富士市|安政5年7月6日|<改易>駿河川成島藩1万石「本郷泰固」5000石没収
- 1858年8月14日-09:00|日本|東京都千代田区|安政5年7月6日|<死去>徳川家定。江戸城で病死(35歳、文政7(1824)0408生)江戸幕府第13代将軍
- 1858年8月15日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島総司令官「Narciso de Ametller y de Cabrera」(~1861年)
- 1858年8月16日-09:00|日本| |||安政5年7月8日|幕府、海防掛を廃し、外国奉行を設置
- 1858年8月18日-09:00|日本/オランダ| |||安政5年7月10日|幕府が、日蘭修好通商条約・貿易章程に調印
- 1858年8月19日-09:00|日本/ロシア| |||安政5年7月11日|幕府が、日露修好通商条約・貿易章程に調印(安政6年7月10日批准)
- 1858年8月20日 00:00|イギリス/カナダ| |||ハドソン湾会社の管轄を離れて、ブリティッシュ・コロニア植民地が成立
- 1858年8月21日-09:00|日本|山形県新庄市|安政5年7月13日|<死去>戸沢正胤(67歳)元出羽新庄藩主
- 1858年8月23日 06:00|アメリカ| |||<就任>アメリカ海軍サード級ブリゲイト「サットン」(1726t、ニューヨーク海軍工廠で建造)
- 1858年8月24日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安政5年7月16日|<死去>薩摩藩72万8700石「島津斉彬」(50歳⇒12月28日、甥「島津忠義」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1858年8月26日-09:00|日本| |||安政5年7月18日|<死去>市河米庵(80歳)書家、漢詩人
- 1858年8月26日-09:00|日本| |||安政5年7月18日|軍艦「朝陽丸」(1858年オランダ・キングデルフ造船所で竣工)幕府が領収就役
- 1858年8月26日-09:00|日本/イギリス| |||安政5年7月18日|幕府が、日英修好通商条約(翌年6月12日、批准)・貿易章程に調印
- 1858年8月29日-09:30|オーストラリア| |||ストニーの『エンパイア』発行停止
- 1858年8月29日-09:00|日本|滋賀県高島市|安政5年7月21日|<死去>分部光寧(50歳)前近江大溝藩主
- 1858年8月31日-01:00|アルジェリア/フランス| |||<就任>フランス軍アルジェリア司令官「パトリック・モリス・ド・マックマホン」(~18590424)
- 1858年8月31日-01:00|アルジェリア/フランス| |||<就任>フランス領アルジェリア植民地大臣「パレオン3世」(~18590321)
- 1858年8月31日-01:00|フランス/スペイン/ベトナム| |||フランス・スペイン連合艦隊が、ベトナムのダナンを占領
- 1858年8月31日-09:00|日本| |||安政5年7月23日|<死去>2代中山南枝(69歳)歌舞伎役者
- 1858年9月-01:00|北マケドニア/トルコ| |||<就任>ウスケブ・ワリス(知事)兼マスティル・ワリス(総督)「アルカト・マザール・オスマン・パシャ」(~1859年8月)
- 1858年9月1日-07:00|ベトナム/フランス| |||フランス軍がダナン(名前をトゥーランに改名)を占領
- 1858年9月3日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|安政5年7月26日|<死去>下総生実藩1万石「森川俊位」(18歳)⇒養子「森川俊徳」が継ぐ(⇒文久2(1862)年10月24日、死去)
- 1858年9月4日-09:00|日本|新潟県|安政5年7月27日|相川町大火、1331軒を焼失/佐渡奉行所および学問教諭所(修教館)を焼き、役人137人が被災する
- 1858年9月6日-09:00|日本|山形県米沢市|安政5年7月29日|<死去>上杉勝義(67歳)前出羽米沢新田藩主

1860迄 (3252件)

- 1858年9月7日-09:00|日本| ||安政5年8月|桂川圃周、「ハルマ和解」を改訂増補した「和蘭字彙」を蕃書調所に納める
- 1858年9月7日-09:00|日本|岐阜県海津市|安政5年8月|<交替>美濃高須藩3万石「松平義比」宗家尾張藩を相続、「徳川茂徳」と改名⇒長男「松平義端」が継ぐ(⇒万延元(1860)年5月18日、3歳で死去)
- 1858年9月8日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「アフォンソ・デ・カストロ」(~1期目1861年)
- 1858年9月10日 06:00|アメリカ| ||<就任>米国天文学者でカトリック教会の神父ジョージ・サールが小惑星「パンドラ」発見
- 1858年9月12日-09:00|日本| ||安政5年8月6日|<完成>大野藩榎太開拓用西洋式帆船「大野丸」就役
- 1858年9月12日-09:00|日本|大阪府豊中市|安政5年8月6日|<死去>青木重龍(59歳)前摂津麻田藩主
- 1858年9月12日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|安政5年8月6日|<死去>鳥取西館新田藩2万石「池田清直」(47歳)⇒養子「池田清緝」が継ぐ(⇒文久2(1862)年8月24日、死去)
- 1858年9月14日 00:00|セネガル/フランス| ||<就任>フランス領セネガル総督代行「アルマント・ド・ボン」(~18590212)
- 1858年9月15日-03:30|イラン| ||<就任>ペルシャ大宰相「ミルザ・ジャファール・カーン・モシール・アルダウ」(~1861年11月)
- 1858年9月16日-09:00|日本| ||安政5年8月10日|<死去>3代清元延寿太夫(37歳)浄瑠璃清元節家元
- 1858年9月16日-09:00|日本| ||安政5年8月10日|彗星乾方出現/16日夜に至り見えなくなる
- 1858年9月17日 10:00|ポルトガル| ||<就任>フランス領ポルトガル知事兼ソウエル諸島帝国弁務官「Jean-Marie Joseph Theodos e Saisset」(~18590425)
- 1858年9月17日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|安政5年8月11日|宇和島藩領内にコレラ流行し、10日間で1640人死亡
- 1858年9月17日-09:00|日本|京都府宮津市|安政5年8月11日|宮津城下町でコレラ発生し、城下で医者にかかった30人中14人死亡
- 1858年9月18日-01:00|ポルトガル/ベルギー/オランダ/トルコ| ||<就任>ポルトガル領ベルギー総督「アルファント・メフト・アキフ・パシヤ」(~11.18)
- 1858年9月19日-09:00|日本|岡山県新見市|安政5年8月13日|<死去>備中新見藩18000石「関長道」(44歳)⇒婿養子「関長克」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月22日、版籍奉還)
- 1858年9月20日-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「フリート・リヒ・フリンツ・ツェー・リヒテンシュタイン」(~18610523)
- 1858年9月22日-09:00|日本| ||安政5年8月16日|<死去>10代杵屋六左衛門(59歳)長唄家元
- 1858年9月27日-09:00|日本| ||安政5年8月21日|<死去>柳下亭種員(52歳)戯作者
- 1858年9月28日-09:00|日本|岡山県岡山市|安政5年8月22日|<死去>板倉勝全(29歳)前備中庭瀬藩主
- 1858年10月-09:30|オーストラリア| ||ナショナル・バンク・オブ・オーストラリア、メルボルンで創設
- 1858年10月-08:00|マレーシア| ||<死去>パング・ハラ・セリ・マハラジャ「トウン・アリ・ビン・トウン・コリス」
- 1858年10月-08:00|マレーシア| ||<即位>パング・ハラ・セリ・マハラジャ「トウン・ムハンマド・タヒル・ビン・トウン・アリ」(~18630530没)
- 1858年10月-05:00|パキスタン| ||<就任>パルハール王国ワジール「シヤマター・アル・アハマト・カーン・マラザイ」(2回目~18590525)
- 1858年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリッポ・ベルツィ」(「ハスターレ・マルクッチ」)
- 1858年10月1日 05:00|パナマ| ||<就任>パナマ大統領代行「ラファエル・ヌニェス」(~18581101)
- 1858年10月2日-04:00|ロシア| ||ロシア帝国のスクリュブリャート「スヴェトラナ」(フランスのポルトーにある造船所Kredit Maritim e & Arschanで1858年3月3日に進水)就役
- 1858年10月2日-09:00|日本|岐阜県山県市|安政5年8月26日|<死去>美濃高富藩1万石「本庄道貫」(62歳)⇒長男「本庄道美」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月24日、版籍奉還)
- 1858年10月3日-05:00|パキスタン| ||<死去>パルハール王国ワジール「ファス・モハマト・カーン」
- 1858年10月3日-05:00|パキスタン| ||<就任>パルハール王国ワジール「モハマト・パルハール・カーン4世」(~18660325没)
- 1858年10月4日-09:00|日本|三重県三重郡菟野町|安政5年8月28日|<死去>伊勢菟野藩11000石「土方雄嘉」(30歳)⇒10月19日、長男「土方雄永」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1858年10月5日-09:00|日本|東京都|安政5年8月29日|<死去>渋江抽斎。コレラのため(54歳)医師、考証家、書誌学者
- 1858年10月5日-09:00|日本|福井県|安政5年8月29日|<若狭小浜安政5年の大火>真夜中、須崎町の船小屋から出火、折からの北風にあおられ、またたく間に市街をなめ尽くした。塩屋町から北本町、大津町、本町、八百屋町、川縁町と延焼、魚屋町、安良町、新町、瀬木町、市場三町と灰にし、和泉町、突抜町、松本町、川崎町、塩浜小路も炎に包み、松寺小路、材木町、今在家町、東宮前町、質屋町も見逃さず、鶴羽小路、永三小路、広小路、大蔵小路、石屋小路にも延焼し、達磨小路、薬師小路、今町、風呂小路、二鳥居町から八幡小路、中西町、西宮前町、福岡町、富田町と次々と燃え広がり焼失させた。この火事で町の東部と中部の全域、西部の一部、1805軒、蔵6~70か所を灰とした
- 1858年10月7日-01:00|ドイツ| ||プロシヤ王が精神異常をきたし、ゲイテール1世が摂政となる
- 1858年10月7日-09:00|日本| ||安政5年9月|<出版>松亭金水(葛飾為斎画)「日蓮上人一代図会」
- 1858年10月7日-09:00|日本|群馬県沼田市|安政5年9月1日|下久屋村で西の空に彗星が確認される
- 1858年10月8日-09:00|日本|京都府京都市|安政5年9月2日|<死去>梁川星巖。コレラのため(70歳)漢詩人/捕縛令が出ていた
- 1858年10月9日 00:00|宇宙| ||彗星が現れる
- 1858年10月9日 06:00|アメリカ| ||アメリカで、馬車と鉄道を結んで大陸横断郵便が開始される
- 1858年10月9日-09:00|日本/フランス| ||安政5年9月3日|幕府が、日仏修好通商条約・貿易章程に調印
- 1858年10月11日-02:00|メキシコ| ||<就任>アマガザ統治者(ソコ)「マウエ・ヌヌマロ」(1回目~?)⇒「ムジラ・ヌヌマロ」(1回目~?)⇒「マウエ・ヌヌマロ」(2回目~1862年)
- 1858年10月12日-12:00|フィジー/イギリス| ||カバウはフィジーをイギリスのガイナリア女王に割譲
- 1858年10月12日-09:00|日本|東京都|安政5年9月6日|<死去>歌川広重。コレラのため(62歳、寛政9(1797)年生)浮世絵師
- 1858年10月13日-09:00|日本|京都府京都市|安政5年9月7日|<安政の大獄>京で小浜元藩士の儒学者・梅田雲浜逮捕される

1860迄 (3252件)

- 1858年10月16日-09:00|日本|東京都|安政5年9月10日|<死去>鈴木其一。コレラのため(63歳)絵師/抱一上人の門弟、光琳の風を学び得る
- 1858年10月16日-09:00|日本|広島県広島市|安政5年9月10日|<死去>安芸広島藩42万6500石「浅野慶熾」(23歳)⇒1月4日、養子「浅野長訓」が継ぐ(⇒明治2(1869)年正月24日、隠居)
- 1858年10月18日-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワキア総督・領主「王子副王:エマニル・グ・リゴレ・ハ・レヌ/イオン・ミハイル・ヌ/イオン・アレクサンドル・フィレスク」(~18590124)
- 1858年10月19日-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「王子副王:ステファン・コンスタンチン・カトルギ(〜18581220)/ウァシーレ・コンスタンティン・ストゥルツァ/アナスタシー・パナイオチエ・ハヌ/イオン・アレクサンドル・カンタクジ・ノハ・シュカヌ(18581222~)」(~18590105)
- 1858年10月21日-01:00|フランス| ||<初演>ジャック・オフエンバック《喜歌劇「天国と地獄」》パリのブッフエ・パリジヤン劇場/カン踊りが披露される
- 1858年10月23日-09:00|日本|長野県飯山市|安政5年9月17日|<死去>本多助賢(68歳)前信濃飯山藩主、元若年寄
- 1858年10月25日 10:00|ポーランド| ||<就任>ソシエ諸島及び特定フランス暫定司令官「Pierre Joseph Ernest de Saisset」(~18590101)
- 1858年10月28日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン領メリヤ総督「Manuel Buceta del Villar」(2期目~1860年)
- 1858年10月29日-09:30|オーストラリア| ||シドニー、アデレード、メルボルン間の電信線完成。61年にはブリスベン、77年にはパースが加わる
- 1858年10月30日-09:00|日本|東京都|安政5年9月24日|<死去>山東京山(90歳)戯作者
- 1858年11月-05:30|インド| ||<就任>カンゴール国ラジャ「マダン・モハット・シェカル・デオ」(~不明)
- 1858年11月1日-08:00|マレーシア/イギリス/シンガポール/インド| ||ハチン、マラッカ、シンガポールが英インド総督下の海峡植民となる
- 1858年11月1日-05:30|インド/イギリス| ||<就任>イギリス領インド帝国副王・総督「キルブラハムのカンク子爵チャールズ・ジョン・カンク」(~18620321)
- 1858年11月1日-05:30|インド/イギリス| ||ムガル帝国を廃止するとともに東インド会社も解散し、インド帝国(ウイクトリア女帝)成立
- 1858年11月2日 05:00|パナマ| ||<就任>パナマ大統領「セ・デ・ハルテ・イア・オレエラ」(3回目~18600930)
- 1858年11月5日-09:00|日本|愛知県豊田市|安政5年9月30日|<死去>三河拳母藩2万石「内藤政文」(29歳)⇒長男「内藤文成」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月22日、版籍奉還)
- 1858年11月5日-09:00|日本|東京都|安政5年9月30日|7月末頃から江戸でコレラが大流行。2万8千人余りが死亡
- 1858年11月6日-05:00|パキスタン| ||<死去>外ワル統治者(ミール)「ジャハング・カーン」
- 1858年11月6日-01:00|ドイツ| ||<就任>プロシヤ王国首相「カール・アントン・フォン・ホエツォレルン=ジゲマリンゲン」(~18620312)
- 1858年11月6日-09:00|日本| ||安政5年10月|<出版>佐久間象山「迅発撃銃図説」
- 1858年11月6日-09:00|日本| ||安政5年10月|歌川(安藤)広重の「名所江戸百景」が完結(安政3年2月~)
- 1858年11月6日-09:00|日本|慶應義塾|安政5年10月|福沢諭吉が鉄砲州(築地中津藩中屋敷内)で塾を開き蘭学を教えた
- 1858年11月8日-01:00|フランス/イギリス/モンテネグロ| ||ツルコへの独立がイギリス、フランスによって承認
- 1858年11月8日 00:00|イギリス| ||<死去>イギリスの数学者ヒュー・コック/67歳(誕生17910419)
- 1858年11月8日 00:00|イギリス/中国/アメリカ| ||上海で、清が英米両国と関税税率協定に調印
- 1858年11月10日 00:00|ポルトガル| ||<就任>キマンイス公「アルデグンデス」(~19460415死去)ポルトガル王ミゲル1世の娘、パルム公カカ3世の次男であるバルデイ伯爵エンリコと結婚
- 1858年11月10日-09:00|日本/オランダ|佐賀県佐賀市|安政5年10月5日|オランダ船「カガサ」(300t木製コルベット;1856年、ラント・ロツェルダム)のシービス・アント・サンスで竣工)を佐賀藩が購入「電流丸」となる(⇒慶応4年、新政府が佐賀藩から徴発)
- 1858年11月12日-01:00|リヒテンシュタイン| ||<死去>リヒテンシュタイン公「アロイス2世」
- 1858年11月12日-01:00|リヒテンシュタイン| ||<就任>リヒテンシュタイン公「ヨハン2世」(~19290211年没)
- 1858年11月16日-09:00|日本|福島県二本松市|安政5年10月11日|<交替>陸奥二本松藩100700石「丹羽長富」隠居⇒六男「丹羽長国」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年12月7日、5万石に減封、隠居)
- 1858年11月17日 00:00|イギリス| ||<死去>イギリスの社会運動家オーウェン/87歳(誕生17710514)
- 1858年11月18日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「マフメト・カニ・パシャ」(2回目m~18590610)
- 1858年11月20日 00:00|イギリス| ||<死去>4代コータウン伯「ジェームズ・トーマス・ストップフォード」
- 1858年11月20日 00:00|イギリス| ||<就任>5代コータウン伯「ジェームズ・ジョージ・ヘンリー・ストップフォード」(~19141108死去)
- 1858年11月24日-09:00|日本| ||安政5年10月19日|<死去>初代杵屋勝三郎(不明)長唄三味線方
- 1858年11月28日-09:00|日本|東京都|安政5年10月23日|<安政の大獄>越前藩士の志士・思想家橋本左内、江戸で逮捕される
- 1858年11月30日-09:00|日本|東京都千代田区|安政5年10月25日|<就任>第14代征夷大将軍「徳川慶福」/紀伊和歌山→直轄江戸800万石
- 1858年11月30日-09:00|日本|新潟県長岡市|安政5年10月25日|<死去>越後長岡藩74000石「牧野忠雅」(60歳)元寺社奉行・京都所司代・老中⇒養子「牧野忠恭」が継ぐ(⇒慶応3(1867)年7月11日、隠居)
- 1858年12月-03:00|サウジアラビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ビジャース総督「ハチ・クトゥビヤリ・アリ・パシャ」(~1861年10月)
- 1858年12月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス「Halil Kamili Pasha」(~1859.3)
- 1858年12月-01:00|ペナン| ||<死去>ケトゥ国支配者「アデグベデ」
- 1858年12月-01:00|ペナン| ||<死去>ダホメ王国国王「ケゾ・グ・ハラハ・セトコ」
- 1858年12月-01:00|ペナン| ||<就任>ケトゥ国支配者「アデイロ」(~1867年)

1860迄 (3252件)

- 1858年12月-01:00|ペナン| |||<即位>ダヌ王国国王「ケレ・キニ・アホラ・ト・ゴト・ハ・サウ」(~18891229没)
- 1858年12月 00:00|モリタニア| |||<就任>ブラク連合エミール「シィ・アリ・ウルト・アマト」(~1893年没)
- 1858年12月2日-09:00|日本|東京都千代田区|安政5年10月27日|<解任>老中「久世広周」
- 1858年12月7日-09:00|日本| ||安政5年11月3日|<死去>立原春沙(41歳) 画家
- 1858年12月8日-01:00|ルウェー| |||<就任>ルウェー首席国務長官「ハンス・クリスチャン・ビーターセン」(~18611212)
- 1858年12月8日-01:00|ルウェー/スウェーデン| |||<就任>ルウェー総督代行「ハンス・クリスチャン・ビーターセン」(~18611212)
- 1858年12月8日-09:00|日本|広島県広島市|安政5年11月4日|<交替>広島新田藩3万石「浅野長訓」広島藩を継ぐ⇒甥「浅野長興」が継ぐ(⇒文久2(1862)年12月24日、宗家広島藩「長訓」の養嗣子となる)
- 1858年12月9日-09:00|日本| ||安政5年11月5日|<死去>石川瓊洲(49歳) 画家
- 1858年12月10日-01:00|フランス/イタリア| |||プロンビエールの密約に基づいて、フランスとサルデーニャが正式に調印
- 1858年12月12日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「アパエテ子爵アントニオ・パウリーノ・リンホ・デ・アブレウ」(~18590810)
- 1858年12月15日-01:00|フランス| |||レップ・スガズエス 運河会社を設立し社長に就任
- 1858年12月17日-09:00|日本| ||安政5年11月13日|<死去>大喜豊助(46歳) 陶工
- 1858年12月19日-07:00|日本|東京都千代田区|安政5年11月15日|<江戸神田安政5年相生町の大火>暁丑の刻(午前2時ごろ)、神田相生町の北にある若林屋敷から出火、同屋敷に連なる武家屋敷に次々と延焼/炎は相生町から佐久間町へと広がり、和泉橋も焼き落とし柳原堤を乗り越えて東神田鎌倉横町代地、松下町代地へと広がり、お玉が池の武家地から弁慶橋通り、旅籠町へと飛び火して馬喰町二丁目まで灰にした/明け方には堀留町、大伝馬町へと延焼、牢屋敷を焼いた炎は、小伝馬町より小舟町、堀留町、新乗物町へと延び、岩代町から新材木町、葺屋町、境町の半分を灰とした/元大坂町、甚左衛門町、小網町一丁目と容赦なく焼き、荒布橋も焼き落とし/その後、神田一円つまり須田町、三河町など残らず焼き、日本橋へと足を伸ばし、お堀端鎌倉町、竜閑町、本銀町、本町、室町通りなど半分の町並みを焼き、南は具足町、炭町まで伸ばし戌の下刻(21時ごろ)鎮火/被害は、およそ長さ延べ22町余(約2.5km)、幅は平均して7町(約800m)ほど、町家が町数にして259町、武家屋敷80軒ほど
- 1858年12月20日-09:00|日本|鹿児島県|安政5年11月15日|西郷隆盛と月照上人(46)が入水。月照は死亡し、西郷は助けられ、藩の手で奄美大島に匿われる
- 1858年12月21日-11:00|ニュージーランド/フランス| |||<就任>ニュージーランド暫定司令官「Louis Felix Roussel」(~18590320)
- 1858年12月23日-01:00|セルビア| |||<解任>セルビア公「アレクサンダル・カラジョルジエヴィッチ」追放
- 1858年12月23日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公「ミロシュ・オブレノヴィッチ1世」(2度目~18600926、老齢のため死去)
- 1858年12月23日 05:00|ハイチ| |||度重なる愚行に怒るラト支配層は、フアブル・ニコラス・ジエラルを議長に革命委員会を結成し、フアウルへの反乱を開始
- 1858年12月27日-05:30|インド| |||<就任>クタル国統治者(ラ)「ジヤイ・チャント」(~1895年没)
- 1858年12月27日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|安政5年11月23日|<交替>伊予宇和島藩10万石「伊達宗城」隠居⇒従弟「伊達宗徳」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1858年12月29日 00:00|イギリス| |||<死去>3代オフォード伯爵「ホレス・ウォルポール」
- 1858年12月29日 00:00|イギリス| |||<就任>4代オフォード伯爵「ホレス・ウォルポール」(~18941207死去)
- 1858年12月30日-09:00|日本|大阪府大阪市|安政5年11月26日|<就任>大坂城代「松平豊前守信篤(信義)」(~万延1.12.28)
- 1859年-08:00|マレーシア| |||<就任>サラワク・ラジャ代行「ジョン・ブルック」(~1863年)
- 1859年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Muhammad Arsyad」(~1876年)
- 1859年-08:00|シンガポール| |||シンガポール植物園オープン
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>キム統治者(シム)「ラボン・シン」(~1871年)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>タラト 国統治者(ターケル)「ケンガルシンジ・グアナジ」(~1892年没)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>タラト 国統治者(マハラ)「サルダルシムジ・シヤムシムジ」(~1860年)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>ナルシンブル国ラジャ「ブラジヤ・サンタール・ハリヤンタン・モハト」(~1884年)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>ハタリ国支配者(ナワブ)「アブド・アル・カリム・カーン」(~1913年没)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>ハル・ラハラ国ラジャ「チャクラタル・パール」(~18880830没)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>ヒハト国統治者(テイワン)「ゴビント・ダス」(~1872年没)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>ホル国統治者(ラ)「ナヴァルシンジ・ハハトシンジ」(~18641123没)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>マソール国統治者(ラ)「オンカー・シン」(~1865年没)
- 1859年-05:30|インド| |||<就任>ルガシ国統治者(ラ・ハ・ハートウル)「サルダール・シン」(~1860年)
- 1859年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>シバルガン汗国ハキム「ハキム・カーン」(~1875年)
- 1859年-04:30|アフガニスタン| |||コトウスがアフガニスタンに編入
- 1859年-04:30|アフガニスタン| |||バタフシヤンはアフガニスタン支配下
- 1859年-04:00|UAE| |||<死去>トハイ統治者(ハキム)「Sheikh Said1世 ibn Bati」
- 1859年-04:00|UAE| |||<就任>トハイ統治者(ハキム)「Sheikh Hushur ibn Maktum」(~18861122死去)
- 1859年-04:00|ロシア| |||チルカシアの部族がロシアに降伏(~1864年)
- 1859年-03:00|クウェート| |||<死去>クウェート統治者「シェイク・ジャビル1世・イブン・アブドゥッラー・アル・サハ」
- 1859年-03:00|イェメン/イギリス| |||<就任>イギリス領アデン理事官「ウィリアム・Marcus Coghlan」(~1863年)
- 1859年-03:00|クウェート| |||<就任>クウェート統治者「シェイク・サハ2世・イブン・ジャビル・アル・サハ」(~1866年11月没)
- 1859年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのワシ「フサメッティン・エフェンディ」(~1862年)
- 1859年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマーム「アルマンスール・アルセイ3世」(~1863年)
- 1859年-02:00|コンゴ 民主共和国| |||<死去>カハレ王国ムワミ・ナブシ・カハレ「ナブシ22世マコソベ」

1860迄 (3252件)

- 1859年-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス管財人「メフメド・カイルツァー・ハシヤ・カイカム」(~1861年)
- 1859年-02:00|コンゴ 民主共和国| |||<即位>カバレ王国ムミ・ナブシ・カバレ「ナブシ23世ヒヤテラナ」(~1889年)
- 1859年-02:00|コンゴ 民主共和国| |||カバレ王国首都はクブントウブジントウに(~1899年)
- 1859年-01:00|ガボン/フランス| |||<就任>ガボン・キニア湾入植地司令官「ピエール・アレクサンドル・マイユタル」(~1860年)
- 1859年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Ramon Gomez y Pulido」(1期目~1864年)
- 1859年-01:00|ナイジェリア| |||<即位>ヨロ王国アラフィン「アデル」(~1875年)
- 1859年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>アフリカ国統治者(アフリカ)兼シムネ王国統治者(ハイ)「ハイ・カンタ」(~1872年没)
- 1859年 00:00|セネガル| |||<就任>サラム統治者(フル・サラム)「サンハ・ラヘ・ファル」(~1864年)
- 1859年 00:00|モロッコ| |||<就任>モロッコ大宰相「ムサ・ヒベン アフマド」(~1878年没)
- 1859年 04:00|アンティグア・バブーバダ| |||<就任>アンティグア総督代行「ヘラリス・ロビンソン」(~同年)⇒「ハート・エントウイスル・ジヤート」(~同年)
- 1859年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントクリストファーズ 副総督代行「トマス・プライス」(~1860年)
- 1859年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヴァージン諸島大統領「トマス・Price」(2期目~1861年)
- 1859年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>ヴァージン諸島主席「Thomas Price」(2期目~1861年)
- 1859年1月-04:00|セイシェル/イギリス| |||<就任>イギリス領セイシェル長官代「チャールズ・ロバート・テルフェア」(2度目~9月)
- 1859年1月 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリブ諸島市民知事代理「Eduardo Fernandez San Roman」(~2月)
- 1859年1月1日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島主任判事「George Martin Frederick Young」(2期目~12.31)
- 1859年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ヤコブ・ステンフリ」Rad(2期目~12.31)
- 1859年1月1日 10:00|ホリネシア| |||<就任>ソラエ諸島外務特定フランス司令官「Louis Eugene Gaultier de la Richerie」(~18600601)
- 1859年1月1日-09:00|日本| ||安政5年11月28日|<死去>岩佐一亭(80歳)書道家
- 1859年1月2日 00:00|イギリス| |||<死去>16代ロシス 伯「ジョージ・ウィリアム・イヴリン・レスリー」
- 1859年1月2日 00:00|イギリス| |||<就任>17代ロシス 女伯「ハンリエッタ・アンダーソン・モシェット・レスリー」先代の姉(~18860210死去)
- 1859年1月2日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領代行「ホセ・マヌエル・スナノ・デ・ラ・ルス・ロブレ・ヘスエラ」(~22日)
- 1859年1月2日-09:00|日本|山口県萩市|安政5年11月29日|長州藩、松下村塾を閉鎖命令
- 1859年1月3日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>ロシア領エストニア総督「ウイヘルム・オットー・コルネリウス・アレクサンダー・ウルリヒ」(~18681023)
- 1859年1月4日-09:00|日本|東京都千代田区|安政5年12月1日|<改名>第十四代将軍「徳川慶福」⇒「徳川家茂」(⇒慶応2年、死去)
- 1859年1月4日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|安政5年12月1日|郡山城二の丸屋形全焼。飛び火して五軒屋敷2軒および茶園場武家屋敷1軒類焼
- 1859年1月5日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「アレクサンドル・イオン1世ケザ」(~18620122)
- 1859年1月5日 04:00|チリ| |||チリ南部のマプーチェ族、内戦に呼応して最後の抵抗運動に決起。移住者に対する襲撃を開始
- 1859年1月7日 06:00|アメリカ| |||コロラド州アイダホ・スプリングの南クリア・クリークで砂金の鉱床が発見される/第2次ゴールドラッシュのきっかけになる
- 1859年1月14日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事代理「Louis Andre Lagrange」(2期目~6.2)
- 1859年1月15日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国大統領「ファブール・ニコラ・ウィリアム・ジェファート」(~18670313) 国民党寡頭制へと移行。ペションの16年憲法に基づく新憲法を公布
- 1859年1月15日 05:00|ハイチ| |||革命委員会、スルウクを追放し「ハイチ共和国」を宣言
- 1859年1月17日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア閣僚会議議長(首相)「イオン・コンスタンティン・ストゥルツァ」(~3.8)
- 1859年1月21日 04:00|BES諸島| |||<就任>ホーネル副知事代理「Herman Francois Gerardus Wagner」(⇒1860年副知事~18651214)
- 1859年1月22日-01:00|ドイツ| |||ブラームスピアノ協奏曲第1番初演(ノーファー)
- 1859年1月22日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領代行「ホセ・マリア・ノ・デ・サラス・バルホサ」(~23日)
- 1859年1月23日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ暫定大統領「ミゲル・グレゴリオ・デ・ラ・ルス・アテナゲネス・ミラモン・イ・タレロ」(~同日)
- 1859年1月24日-02:00|ルーマニア/トルコ| |||<合併>モルダヴィア、ワラキア⇒モルダヴィア・ワラキア連合公国
- 1859年1月24日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア・ワラキア連合公「アレクサンドル・イオン1世ケザ」(~18620122)
- 1859年1月24日-01:00|フランス/イタリア| |||サルデーニャ王国とフランスの秘密同盟が成立
- 1859年1月24日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ暫定大統領「フェリックス・マリア・スロガ・トリロ」(2回目~18600813)
- 1859年1月25日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア閣僚会議議長(首相)「イオン・アレクサンドル・フィリプスク」(~3.27)
- 1859年1月25日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領代行「ホアキン・エウラシウス・グスマン・ウガルテ・アルバラト」(2回目~2.15)
- 1859年1月25日 06:00|エルサルバドル| |||エルサルバドル独立を宣言
- 1859年1月26日-09:00|日本| ||安政5年12月23日|<死去>4代山下金作(68歳)歌舞伎役者
- 1859年1月28日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ホーソン伯「フレデリック・ジョン・ロビンソン」
- 1859年1月28日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ホーソン伯「ジョージ・フレデリック・サミュエル・ロビンソン」(⇒11.14兼3代ト・グレイ伯⇒

1860迄 (3252件)

18710623初代琳^ン侯~19090709死去)

- 1859年1月28日-09:00|日本|大阪府岸和田市|安政5年12月25日|<死去>岡部長慎(72歳)前和泉岸和田藩主
- 1859年1月29日-09:00|日本|山口県萩市|安政5年12月26日|吉田松陰、野山獄再入獄
- 1859年2月 00:00|セカ^ル| |||<就任>フタ^ト統治者統治者(アルマ^ニ)「ムスタファ[・]バ[・]」(~9月)
- 1859年2月 04:00|ケ^レタ[・]ギ^{リス}| |||<就任>ケ^レタ[・]副総督代行「フランス[・]イルバ[・]トン[・]フェック^リ」(5回目~5月)
- 1859年2月2日-09:00|日本|鹿児島県奄美市|安政5年12月30日|西郷吉之助、大島に流される
- 1859年2月3日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|安政6年|浦賀^トック完成<日本初のドライブ^トック>
- 1859年2月3日-09:00|日本|北海道函館市|安政6年|ロシア領事館付属聖堂として函館ハリストス正教会創建
- 1859年2月3日-09:00|日本| ||安政6年1月|<安政の大獄>宮家公卿の家臣30余人と水戸藩京都留守居役鶴飼親子らが逮捕される
- 1859年2月3日-09:00|日本| ||安政6年1月|<出版>歌川広重「富士見百図」
- 1859年2月3日-09:00|日本|東京都墨田区|安政6年1月|<大相撲>安政6年1月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(東小結)鬼面山, 8勝0敗1預1休
- 1859年2月4日-02:00|エ^ンフト^ト| |||エ^ンフト, シイ山聖カ^リ修道院でC[・]フォン[・]ティッシェ^ント[・]ル^フが聖書写本(シイ写本)発見
- 1859年2月7日 00:00|サ^トメ[・]ブ[・]リン^シハ[・]ホ[・]ルト^ガル^ル| |||<就任>サ^トメ[・]ブ[・]リン^シハ[・]総督「Luis Jose Pereira e Horta」(~18600708)
- 1859年2月10日-01:00|リ^ヒテン^シュ^タイン^ト| |||<就任>リ^ヒテン^シュ^タイン^ト摂政「フランス[・]カ[・]デ[・]ハ[・]ウ^ラ」(~18601109)
- 1859年2月14日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「鄭元容」(~18631020)
- 1859年2月14日 06:00|アメリカ| |||<加盟>オ^レゴン^準州⇒アメリカ合衆国オ^レゴン^州(33番目)
- 1859年2月15日 06:00|エル^サル^バト^ル| |||<就任>エル^サル^バト^ル共和国大統領代行「ヒ[・]マ^リア[・]ペ[・]ル^タ」(~3.12)
- 1859年2月15日-09:00|日本| ||安政6年1月13日|幕府、神奈川・長崎・箱館への出稼ぎ・移住・自由売買を許可
- 1859年2月16日-01:00|フランス| |||フランスでイ音(中央ハの上)を435Hzとする法律成立:音律に関する初めての標準
- 1859年2月17日-01:00|イ^タリ^ア| |||<初演>ジュ[・]セ[・]ツ[・]ッ[・]フ[・]ォ[・]ルト[・]ウ[・]ニ[・]フ[・]ァ[・]ン[・]チ[・]ェ[・]ス[・]コ[・]ウ[・]ェ[・]ル[・]ティ[・] 《歌劇「仮面舞踏会」》
- 1859年2月18日-07:00|ベ[・]ト[・]ナム[・]フランス[・]ス[・]ペ[・]イン^ト| |||フランス[・]ス[・]ペ[・]イン^ト連合軍がサイ[・]ゴン^ト(サイ[・]ゴン^ト)とベ[・]ト[・]ナム[・]南部の3つの省(ヒ[・]エ[・]ソ[・]フ[・]、ジ[・]ア[・]テ[・]イン[・]デ[・]イ[・]ント[・]ウ[・]オン^ト)を占領
- 1859年2月19日 00:00|カ^リヤ[・]諸^島/ス^ペイン^ト| |||<就任>ス^ペイン^ト王領カ^リヤ[・]諸^島市民知事「Joaquin Ravenet y Marentes」(~18610819)
- 1859年2月20日 04:30|ベ[・]ネ[・]ス[・]エ[・]ラ^ト| |||ベ[・]ネ[・]ス[・]エ[・]ラ^トで自由党(連邦党)は連邦制を宣言/中央集権制を掲げる保守党(中央集権党)とのあいだに「連邦戦争」
- 1859年2月21日 04:00|アル^バ・オ^ラン^ダ | |||<就任>アル^バ 島副知事代理「Borchard Specht2世」⇒「Michael de Veer」(1期目~同年死去)⇒副知事「Herman Francois Gerardus Wagner」(~1860年)
- 1859年2月26日 00:00|セ^カル^フフランス| |||ゴ^レ島はセ^カル^ルに再編入
- 1859年3月-02:00|シ^リア[・]アラ^ブ/トル^コ| |||<就任>タ[・]マス[・]カ[・]ス[・]ワ^{リス}「Ahmed Nazir Pasha」(~1860.6)
- 1859年3月-01:00|ク^ロア^チア^ト| |||<就任>タ[・]ル^マチ^ア王国総督・司令官代行「ケ[・]オ[・]ルク[・]リッ[・]ター[・]フ[・]ォ[・]ン[・]マル[・]ツ[・]ィ[・]ア[・]ニ[・]フ[・]ォ[・]ン[・]ザ[・]シ[・]」(~5月)
- 1859年3月1日-01:00|サン^{マリ}ノ^ト| |||<就任>サン^{マリ}ノ^ト共和国執政「ジュ[・]リア[・]ノ[・]ペ[・]ル[・]ツ[・]ィ[・]」「ミケ[・]レ[・]チ[・]ェ[・]コ[・]リ[・]」
- 1859年3月1日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|安政6年1月27日|宇和島藩、蒸気船完成
- 1859年3月5日-09:00|日本|東京都中央区|安政6年2月|<初演>「十六夜清心」[作・二代目河竹新七]江戸・市村座
- 1859年3月6日-09:00|日本| ||安政6年2月2日|<死去>2代富士田音蔵(62歳)長唄唄方
- 1859年3月8日-02:00|ル[・]マ[・]ニア^ト| |||<就任>モ^ルダ[・]ウ[・]イ[・]閣僚会議議長(首相)「イ[・]オン[・]デ[・]イ[・]ミ[・]トリ[・]エ[・]ギ[・]カ^ト」(~4.27)
- 1859年3月11日-09:00|日本|青森県弘前市|安政6年2月7日|<交替>陸奥弘前藩10万石「津軽順承」隠居⇒婿養子「津軽承昭」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月24日、版籍奉還)
- 1859年3月12日 06:00|エル^サル^バト^ル| |||<就任>エル^サル^バト^ル共和国大統領「ヒ[・]ヘ[・]ラル^ト・ハ[・]リ[・]オ[・]ス[・]エ[・]ヒ[・]ノ[・]サ^ト」(18600201まで代行~18631026)
- 1859年3月13日 00:00|イ[・]ギ[・]リス^ト| |||<死去>9代フェ[・]ラ[・]ズ[・]伯「ワ[・]ント[・]ン[・]セ[・]ウ[・]オ[・]リス[・]シ[・]ヤ[・]リ[・]」
- 1859年3月13日 00:00|イ[・]ギ[・]リス^ト| |||<就任>10代フェ[・]ラ[・]ズ[・]伯「セ[・]ウ[・]オ[・]リス[・]エ[・]ド[・]ワ[・]ト[・]・シ[・]ヤ[・]リ[・]」(~19120726死去)
- 1859年3月13日 04:00|バル^バト^ス/イ[・]ギ[・]リス^ト| |||<就任>イ[・]ギ[・]リス^ト領バル^バト^ス総督兼最高司令官代理「James Walker」(1期目~12.25)
- 1859年3月13日 04:00|グ[・]ア[・]ド[・]ル[・]フ[・]/フランス| |||<就任>グ[・]ア[・]ド[・]ル[・]フ[・] 暫定知事「Napoleon Joseph Louis Bontemps」(~18600104)
- 1859年3月13日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政6年2月9日|<閉鎖>西役所の海軍伝習所(遠隔地長崎では経費がかかり)
- 1859年3月16日-09:00|日本| ||安政6年2月12日|<死去>5代望月太左衛門(不明)歌舞伎囃子方
- 1859年3月17日 00:00|ポ[・]ルト^ガル^ル| |||<就任>ポ[・]ルト^ガル^ル王国第21代首相「アント[・]ニ[・]オ[・]・ヒ[・]エ[・]・デ[・]・ス[・]ザ[・]・マ[・]ヌ[・]ィ[・]ル[・]エ[・]・メ[・]セ[・]ス[・]セ[・]ヴ[・]エ[・]リ[・]ム[・]・デ[・]・ノ[・]ロ[・]ニ[・]ヤ^ト」(4期目~18600426)
- 1859年3月17日-03:00|日本|長崎県五島市|安政6年2月13日|長崎舌岐郷/浦元居のタイ網漁船7隻が五島沖に出漁中、漁師53人が強い突風で遭難/漁師の間で春の初めの強い突風を「春一(春一番)」と呼ぶようになる
- 1859年3月19日-01:00|フランス| |||<初演>シャル[・]フラン^ソワ[・]グ[・]ノ[・] 《歌劇「ファウスト」》
- 1859年3月19日 00:00|イ[・]ギ[・]リス^ト| |||<死去>デ[・]ヴ[・]オン^ト伯「ウィ[・]リア[・]ム[・]コ[・]ト[・]ニ[・]」
- 1859年3月19日 00:00|イ[・]ギ[・]リス^ト| |||<就任>デ[・]ヴ[・]オン^ト伯「ウィ[・]リア[・]ム[・]レ[・]ジ[・]ナル^ト・コ[・]ト[・]ニ[・]」(~18881118死去)
- 1859年3月19日 00:00|イ[・]ギ[・]リス^ト| |||スコットランド 国立美術館開館
- 1859年3月20日-11:00|ニュー[・]カ[・]ルド[・]ニア[・]フランス| |||<就任>ニュー[・]カ[・]ルド[・]ニア[・]司令官「Jean Pierre Thomas Durand」(~18600701)
- 1859年3月21日-01:00|アル^ジェ^リア[・]フランス| |||<就任>フランス領アル^ジェ^リア[・]植民地大臣「フ[・]ロ[・]ス[・]ペ[・]ル[・]ト[・]・シ[・]ヤ[・]ス[・]ル[・]エ[・]ロ[・]ハ^ト」(~1860112)

4)

- 1859年3月22日 05:00|エアドル| |||エアドルで地震(M6.3)死者5000人
- 1859年3月26日-03:00|日本|東京都|安政6年2月22日|<江戸青山安政6年の大火>明け方から青山穂田の芸州(安芸国)候下屋敷内と松平江州(遠江国)候屋敷内から相次いで出火/隣接する松平志摩守、井上河内守下屋敷など諸家の下屋敷に延焼、町家にも炎は延び、緑町、原宿町、久保町を焼き、竜岩寺、滋光寺、熊野権現社の別当浄性院など寺社や旗本屋敷から千駄ヶ谷組屋敷も焼亡/延焼範囲は四谷大通りから西は大木戸手前まで、東は塩町から伝馬町三丁目までで、念仏坂上下一円が灰となった。牛込原町、若松町は寺多数が焼亡。高田、早稲田町や供養坂町の組屋敷、武家地などが多く焼けた。高田毘沙門堂、穴八幡も焼亡、高田の炎は目白台に飛び火し大名屋敷を灰としている。また一口の炎は、雑司ヶ谷村から高田村、戸塚村一帯の町家、大名屋敷を焼き、大野山本浄寺は飛び火が移り焼亡、音羽一丁目の西側まで焼き、辰の下刻(午前9時ごろ)鎮火/被害はおよそ諸大名の上屋敷、下屋敷あわせて20余か所、小名の屋敷は数知れず、組屋敷も数か所が焼けた/神社3か所、寺院50余か所、町家は35町ほど、広さにして長さおよそ1里8町余(約5km)、幅平均4町半(約490m)が焦土と化している
- 1859年3月27日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア閣僚会議議長(首相)「コンスタンティン・アレクサンドル・クル・トラスク」(~9.6)
- 1859年3月28日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《セレナト 第1番ニ長調》
- 1859年3月28日-09:00|日本|東京都|安政6年2月24日|軍艦奉行設置/永井尚志(44歳)、初代軍艦奉行に任命
- 1859年3月30日-09:00|日本|高知県高知市|安政6年2月26日|<交替>土佐藩20万2600石「山内豊信(容堂)」隠居⇒養子「山内豊範」が継ぐ(~明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1859年3月31日 04:00|アンティグア・バーブーダ| |||<就任>アンティグア総督代行「エドワード・ジョン・エド」(~1860年4月)
- 1859年4月3日-09:00|日本| ||安政6年3月|<出版>雪花園実信「名筆画譜」
- 1859年4月4日-01:00|ドイツ| |||<初演>ジャコモ・マイハーク《歌劇「ディノラ」影の歌》
- 1859年4月4日 06:00|アメリカ| |||デキシランド・ジヤズの誕生ニューヨークのマニックス・ホールで「I wish I was in Dixies-land」初演
- 1859年4月6日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>アングラト・ロイスモ民政知事「Jose Maria da Silva Leal」PR(~18610215)
- 1859年4月9日-09:00|日本| ||安政6年3月7日|<死去>飯田秀雄(69歳)国学者、歌人
- 1859年4月11日-09:00|日本|大阪府大阪市|安政6年3月9日|大阪城代に治安や風俗取締のため、長町4町の旅籠・木賃宿以外での無宿者の宿泊を禁止
- 1859年4月13日-04:00|ロシア| |||ウエテノをロシアが占領
- 1859年4月13日-09:00|日本|香川県丸亀市|安政6年3月11日|<交替>讃岐多度津藩1万石「京極高琢」隠居⇒養子「京極高典」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月24日、版籍奉還)
- 1859年4月16日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの政治思想家アレクシト・トクヴィル(1805-)主著「アメリカのデモクラシー」
- 1859年4月16日 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督代行「ジョアン・ホセ・コルソ・ベレス」(2回目~18600225)
- 1859年4月16日-09:00|日本|大阪府大阪市|安政6年3月14日|大阪城代、仕法講・歌合に託した富くじ類興行、はったり・鯛屋こまの如き博打に類似の遊戯禁止
- 1859年4月17日-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||<死去>ベニ湾英国領事「ベンジャミン・キャンベル」
- 1859年4月18日-05:30|インド/イギリス| |||タンティアトペーが処刑され、セバの乱が完全に鎮圧
- 1859年4月18日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国首席大臣「ツヴェトコ・ラビッチ」(~18601108)
- 1859年4月18日-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||<就任>ベニ湾英国領事代理「エドワード・フランス・Lodder」(~18591125)
- 1859年4月20日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル/オランダ| |||オランダとポルトガルが国境合意。ポルトガルはフロレス、ソラ、パンタル、アゾールの島々の権利を譲り、マカタルの飛び地としてオランダの主権認定(1904年にポルトガルへ)/オランダはマバウラをポルトガルに譲り渡し、オクシアンボの飛び地に対するポルトガルの主権を認める(1904年にニムティはオランダへ)
- 1859年4月20日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督代行「アレクサンダー・フィッツジェームズ」(~18600918)
- 1859年4月23日 00:00|カンビア/イギリス| |||<就任>イギリス王領カンビア総督代行「ダニエル・ロバートソン」(3回目~9.6)
- 1859年4月24日-01:00|アルジェリア/フランス| |||<就任>フランス軍アルジェリア司令官「フィリップ・アントワヌ・ダクス・グイレル」(~8.17)
- 1859年4月25日 10:00|ポリネシア| |||<就任>フランス領オセアニア知事兼ソシエテ諸島帝国弁務官「Louis Eugene Gaultier de la Richerie」(~18600114)
- 1859年4月25日-09:00|日本|東京都|安政6年3月23日|<死去>7代市川團十郎(69歳)歌舞伎役者(5代市川海老蔵)
- 1859年4月27日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア閣僚会議議長(首相)「エマニル・コスタツシュ・イオン・エブレヌ」(~18600430)
- 1859年4月27日-01:00|イタリア| |||トスカナ大公レオポルト2世、トスカナ臨時政府の圧力に屈して国外退去
- 1859年4月28日-01:00|オーストリア/イタリア| |||オーストリア帝国がサルデーニャ王国に宣戦布告
- 1859年4月28日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント副総督代行「アレクサンダー・マクロート」(2回目~5.9)
- 1859年4月29日-01:00|イタリア/オーストリア| |||オーストリア軍がヒエモンテに侵入し、イタリア統一戦争が始まる
- 1859年4月30日 00:00|イギリス| |||イギリスの小説家ディケンズが週刊雑誌「一年中」第一号から長編小説「二都物語」を連載(11月26日完結)
- 1859年5月-01:00|カオチア| |||<就任>ダルマチア王国総督・司令官代行「ラティスラス・フライヘル・ナジ」(~同年)
- 1859年5月 04:00|グレナダ/イギリス| |||<就任>グレナダ副総督「コーネリアス・ヘントリック・コトライト」(2回目~1860年5月)
- 1859年5月 06:00|アメリカ| |||アメリカ海軍支援艦「マチューセツ」(1168t)陸軍需品部に移管
- 1859年5月1日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの薬剤師ジョン・ウォーカー(1781年~)燐マッチを発明
- 1859年5月2日 00:00|イギリス| |||英国でコンウォールとデヴォン州を結ぶロイヤルハート橋開通

1860迄 (3252件)

- 1859年5月4日 00:00|イギリス| |||<死去>7代リズ公「フランス・ジョージ・ゴットルフイン・ダーシー・ダーシー＝オズボーン」
- 1859年5月4日 00:00|イギリス| |||<就任>8代リズ公「ジョージ・ゴットルフイン・オズボーン」5代公の次男初代ゴットルフイン男爵フランスの長男(18720808死去)
- 1859年5月4日 03:00|サンピエール島/ミロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミロン島司令官「ロシエール伯Emile Francois Guillaume Clement」(18630913)
- 1859年5月4日-09:00|日本|北海道石狩市|安政6年4月2日|イカリ役所, イカリ八幡町に新築完成・移転
- 1859年5月5日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの数学者「テ・イクレ/54歳(誕生18050213)/テ・イクレ級数を発見した
- 1859年5月5日 03:00|ブラジル/ペネア| |||ブラジル・ペネア国境条約調印
- 1859年5月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>ドイツの地理学者「アレクサンダー・フォン・ホルト/89歳(誕生17690914)
- 1859年5月6日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督「ウィリアム・ゴットリントン卿」(18650920)
- 1859年5月6日 00:00|イギリス| |||<死去>11代リズ公「フランス・ステュアート」
- 1859年5月6日 00:00|イギリス| |||<就任>12代リズ公「ジョン・ステュアート」先代の弟(18671108死去)
- 1859年5月6日 05:00|エクアドル| |||<就任>エクアドル国エンカ政府指導者「ヘロモ・カリオン」(7日)
- 1859年5月6日 06:00|アメリカ| |||コロラド州アイダホ・スプリングの南クリア・クリークで金鉱が発見される(第2次ゴールドラッシュ)
- 1859年5月8日 05:00|エクアドル| |||<就任>エクアドル国エンカ政府指導者「フランス・スコロ・ロリス/ギジェルモ・フランコ」(9.27)
- 1859年5月9日 04:00|セントピント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントピント副総督代行「ウィリアム・チャールズ・サージエント」(18600509)
- 1859年5月10日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||スペインがコスタリカ独立を承認
- 1859年5月12日-01:00|オーストリア/フランス| |||フランスがサルデーニャを支援してオーストリアに宣戦布告
- 1859年5月12日-09:00|日本| ||安政6年4月10日|<死去>新発田収蔵. 酒害のため(40歳) 蘭方医、篆刻家
- 1859年5月15日 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ総督「Louis Marie Francois Tardy de Montravel」(18640501死去)
- 1859年5月17日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「ヨハン・ベルナルト・グラーフ・フォン・レベック・ローテンラウエン」(18610204)
- 1859年5月18日-09:00|日本|長崎県長崎市|安政6年4月16日|長崎海軍伝習所閉鎖(ホッパの医学伝習とハルテスの製鉄所建設は続行) 江戸築地軍艦操練所へ組織まとまる
- 1859年5月20日-01:00|コロンビア| |||<就任>コロンビア・首席・総督・司令官代行「ピーター・グラーフ・フォン・ヤチェウ・イツ」(8.11)
- 1859年5月21日 00:00|イギリス| |||<就任>初代カンガ伯「チャールズ・ジョン・カンガ」(18620617死去廃絶)
- 1859年5月21日-09:00|日本| ||安政6年4月19日|<死去>黒沢翁満(65歳) 国学者、歌人
- 1859年5月22日-11:00|ニューカドニア/フランス| |||<就任>ニューカドニア司令官代理「Jean-Marie Saisset」(18600402)
- 1859年5月22日-01:00|イタリア| |||<死去>両シチリア王「フェルディナンド2世」49歳(誕生18100112)
- 1859年5月22日-01:00|イタリア| |||<即位>両シチリア王「フランチェスコ2世」(18610320)
- 1859年5月23日-06:30|ミャンマー| |||ビルマのミントウン王がマンダレーに遷都
- 1859年5月23日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<就任>ドイツ連邦議会大統領特使(フランクフルト・アム・メイン)「アロイス・フライヘル・フォン・キューッ」(18660824)
- 1859年5月27日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍蒸気戦闘スloop「ハートフォード」(2900t, チャールズ・タウン海軍工廠で建造)
- 1859年5月30日-01:00|オーストリア/イタリア| |||第二次イタリア独立戦争:パレストロの戦い、ピエモンテ軍はパレストロでオーストリア軍を撃破
- 1859年5月31日 00:00|イギリス| |||英国の首都ロンドンにある国会議事堂大時計「ビッグ・ベーン」が動きはじめる/ウェストミンスター宮殿(英国国会議事堂)に付属する時計台の大時計の愛称/時計台の高さは96.3米
- 1859年6月 05:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「セ・エ・ファビオ・メルギー・イ・バルト・バリエ」(9月)
- 1859年6月1日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||ホンダ州リビのシエル国がイギリスに併合される
- 1859年6月2日-02:00|トルコ| |||トルコ東部エルズルムで地震M6.4. 死者2千人
- 1859年6月2日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Antoine Marie Ferdinand de Maussion de Cande」(18640715)
- 1859年6月3日 05:00|エクアドル| |||エクアドル, ウルビナ将軍, ゲアキルからキトに進軍, ガルシア・モロの軍隊を破る/キトの「暫定政府」消滅
- 1859年6月4日-01:00|イタリア/オーストリア/フランス| |||第二次イタリア独立戦争:フランスとピエモンテの同盟軍はロンバルディアに入りマントヴァの戦いでオーストリア軍を破った
- 1859年6月4日-09:00|日本/イギリス|長崎県長崎市|安政6年5月4日|英領事オールコック, 英艦サンプトン号で長崎に入港-長崎領事館(妙行寺, 領事館)を開設
- 1859年6月6日 00:00|イギリス| |||イギリス, ホッグ党, 旧ピール派, 急進派の下院議員274人がウィリス・ルムで自由党を充足させる
- 1859年6月6日-09:00|日本|茨城県結城市|安政6年5月6日|<交替>下総結城藩18000石「水野勝進」隠居⇒養子「水野勝任」が継ぐ(⇒文久2(1862)年10月2日, 死去)
- 1859年6月7日-05:30|インド| |||<就任>テリガール国ジャハーン・シャー(1871年12月没)
- 1859年6月8日-01:00|フランス/イタリア| |||フランスとピエモンテの連合軍がミラノに入城する/オーストリア軍はヴェネチアへ撤退
- 1859年6月10日-04:00|ロシア| |||モスクワとヤロスラーリの間の鉄道が開通
- 1859年6月10日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「オスマン・マザール・パシャ」(18610123)
- 1859年6月10日 00:00|トコ| |||<就任>ロシヤ統治者(トクヘ・アウオト)「ラテ・アロミタ・ローソフ・リーゼント」(12.10)
- 1859年6月11日-01:00|イタリア| |||<退位>モナ・レツジョ公「フランチェスコ5世」サルデーニャ王国に併合され滅亡
- 1859年6月11日-01:00|ドイツ| |||マルクスの『経済学批判』が刊行される

1860迄 (3252件)

- 1859年6月12日-01:00|オランダ| |||<就任>エノ伯「レオポルト2世」(~18690122死去)
- 1859年6月12日 00:00|イギリス| |||<就任>イギリス連合王国第37代首相「第3代パーマストン子爵ヘンリー・ジョン・テンペル」自由党(2期目~18651018)
- 1859年6月12日 06:00|アメリカ| |||米国初「アダム」でコムストック銀山発見
- 1859年6月13日-09:00|日本| ||安政6年5月13日<死去>天野宗歩(44歳)将棋棋士/棋聖
- 1859年6月13日-09:00|日本|大阪府大阪市|安政6年5月13日<死去>4代三柘大五郎(62歳)歌舞伎役者
- 1859年6月17日-09:00|日本|岡山県岡山市|安政6年5月17日<死去>木下利愛(56歳)前備中足守藩主
- 1859年6月18日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「アントニー・T. ヘンフィル大佐」(~186005)
- 1859年6月21日-03:00|日本|青森県青森市|安政6年5月21日<青森安政6年の大火>町の9割以上が焼ける
- 1859年6月24日-01:00|イタリア/オーストリア/フランス| |||第二次イタリア独立戦争:イタリアと同盟を結んだナポレオン3世指揮のフランス軍が北イタリアのサルフェーノでオーストリア軍を撃破
- 1859年6月24日-09:00|日本| ||安政6年5月24日|幕府、安政金銀の鑄造と外国貨幣の通用を布告
- 1859年6月25日 00:00|イギリス| |||<死去>5代タナーヴィル伯「チャールズ・ヘネット」
- 1859年6月25日 00:00|イギリス| |||<就任>6代タナーヴィル伯「チャールズ・ヘネット」(~18991218死去)
- 1859年6月25日-09:00|日本| ||安政6年5月25日|幕府、百姓・町人の異様な服装を禁止
- 1859年6月28日-09:00|日本| ||安政6年5月28日|幕府、アメリカ・ロシア・イギリス・フランス・オランダの5ヶ国に、神奈川・長崎・箱館の3港での自由貿易を許可
- 1859年6月29日-09:00|日本| ||安政6年5月29日|幕府、旧貨幣の併用令を布告
- 1859年6月30日-01:00|フランス| |||フランスのアクロバットの名人シャルル・フロデインがナイアガラ滝の上49米に綱を張り、渡ることになり成功/アクロバットとは「綱渡り」を意味し、アクロス(頂上)とパウエイン(歩くこと)の合成語
- 1859年6月30日-09:00|日本|群馬県高崎市|安政6年6月|碓井藤塚の沼賀茂一郎、水車動力の製糸機械を製作
- 1859年6月30日-03:00|日本|京都府|安政6年6月|(~9月末)京都で真性コレラ(コレラ)流行/洛中死者1869人、洛外死者835人
- 1859年6月30日-09:00|日本| ||安政6年6月1日|幕府が安政小判(正字小判)、安政一分判金、安政二朱銀(馬鹿二朱)、安政丁銀・豆板銀発行
- 1859年6月30日-09:00|日本|神奈川県横浜市|安政6年6月1日|東海道と開港場(横浜)を結ぶ横浜道が完成
- 1859年7月1日-09:00|日本/アメリカ| ||安政6年6月2日|日米新条約に基づき、神奈川・長崎・箱館が開港
- 1859年7月1日-09:00|日本| ||安政6年6月2日|幕府が貿易許可の3開港場で江戸図面、官服、法制書籍、武艦類、兵学書類、甲冑、刀剣などを外人に売ることを禁止
- 1859年7月1日-09:00|日本|神奈川県横浜市|安政6年6月2日|神奈川運上所(税関の前身)開設(→1871年横浜運上所→1872年横浜税関)
- 1859年7月1日-09:00|日本|三越伊勢丹ホールディングス|安政6年6月2日|「越後屋」、横浜開港に伴い、横浜に呉服店開店
- 1859年7月3日-09:00|日本|神奈川県|安政6年6月4日|幕府、外国奉行5人に神奈川奉行兼務を命じる(神奈川奉行始め)
- 1859年7月4日-09:00|日本|神奈川県横浜市|安政6年6月5日|幕府、外国人の神奈川居留地および遊歩区域を定め、取締りを布告
- 1859年7月6日-09:00|日本/オランダ|沖縄県|安政6年6月7日|琉球王府、オランダと琉蘭修好条約を結ぶ
- 1859年7月7日-09:00|日本/アメリカ|東京都港区|安政6年6月8日|米公使ハリス、麻布善福寺に入り仮公使館を設置
- 1859年7月8日-01:00|スウェーデン/ルウェー| |||<死去>ルウェー・スウェーデン王「オスカル1世」60歳(誕生17990704)
- 1859年7月8日-01:00|スウェーデン/ルウェー| |||<即位>ルウェー王「カール4世」兼スウェーデン王「カール15世」(~18720918死去46歳)
- 1859年7月8日 11:00|ミッドウェー諸島/アメリカ| |||ノースカロライナ州ミッドブルック大尉によって島々が発見され「ミッドブルック諸島」または「ブルック諸島」と名付けられた
- 1859年7月11日-01:00|イタリア| |||ウイラフランカの和でパルマ公国、ロンバルディアはサルデーニャ王国へ
- 1859年7月11日-01:00|オーストリア/フランス/イタリア/スイス| |||ウイラフランカでナポレオン3世とオーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世が単独講和を結び、イタリア独立戦争が終る
- 1859年7月11日 00:00|イギリス| |||英国チャールズ・ディケンズ作の長編小説「二都物語」発売(全3巻で2億冊発行)
- 1859年7月11日-09:00|日本/イギリス| ||安政6年6月12日|日英修好通商条約批准交換
- 1859年7月12日-01:00|イタリア| |||サルデーニャが講和仮条約を承認し、カヴールは首相を辞任
- 1859年7月13日 04:00|アルバ/シント・マルテン/キュラソー/BES諸島| |||<就任>オランダ領アンティル総督「Johannes Didericus Crolius」(~18660416)
- 1859年7月16日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「カール伯爵ジョージ・ウィリアム・フレデリック・ハワード」(2回目~18641108)
- 1859年7月19日-01:00|イタリア| |||<就任>サルデーニャ王国首相「Alfonso Ferrero La Marmora」(~18600121)
- 1859年7月19日-09:00|日本| ||安政6年6月20日|幕府、諸侯・旗本以下の武士に、開港場での舶来武器の購入を許可
- 1859年7月21日-01:00|イタリア| |||<即位>トスカナ大公「フェルディナント4世」レオポルト2世の息子(~18600322、トスカナ大公国はサルデーニャ王国に併合され、滅亡)
- 1859年7月21日-01:00|イタリア| |||<退位>トスカナ大公「レオポルト2世」
- 1859年7月21日-09:00|日本| ||安政6年6月22日|幕府が新二朱銀を廃止し洋銀1ドルを1分銀3個の公館レートを通告
- 1859年7月25日-09:00|日本/イギリス|東京都港区|安政6年6月26日|オールコック、東禅寺に仮公使館を設置し英国旗掲揚
- 1859年7月27日-09:00|日本|長崎県島原市|安政6年6月28日<死去>肥前島原藩65000石「松平忠精」(28歳)⇒養子「

1860迄 (3252件)

松平忠淳が継ぐ(⇒万延元(1860)年6月2日、死去)

- 1859年7月28日-01:00|カアチア| |||<就任>カアチア・ハン・首席・総督・司令官「ヨハン・ハプテスト・グラーフ・コロニー」(~18600619)
- 1859年7月30日-09:00|日本| ||安政6年7月1日|幕府、飯盛旅籠屋の営業を禁止
- 1859年7月30日-09:00|日本|大阪府大阪市|安政6年7月1日|<死去>初代中村歌六(81歳)歌舞伎役者
- 1859年7月31日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ミント・伯「ギルバート・エリオット=マーレイ=キンマウント」
- 1859年7月31日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ミント・伯「ウィリアム・ヒュー・エリオット=マーレイ=キンマウント」(~18910317死去)
- 1859年8月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ヒヴァ・ハン国対立ハン「Muhammad Fena' Khan」
- 1859年8月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリシア知事代理「Joseph Freiherr von Kalchberg」(~12月)
- 1859年8月-01:00|北マケドニア/トルコ| |||<就任>ウスクブ・ワリス(知事)兼マスティル・ワリス(総督)「エフベキル・リュステム・ハシヤ」(~1860年3月)
- 1859年8月-01:00|カアチア| |||<就任>ダルマチア王国総督・司令官「ラザロ・フライヘル・フォン・マミュラ」(~18651002)
- 1859年8月2日 04:30|ベネチア| |||<辞任>ベネチア大統領「リアン・カストロ」
- 1859年8月2日 04:30|ベネチア| |||<就任>ベネチア大統領「ペドロ・ダ・アル・エスカント」無所属(2期目~9.29)連邦党のファルコンの率いる反乱軍が、いったん政権を握る
- 1859年8月6日-09:30|オーストラリア| |||ホート・アデレードとメルボルン間航路を走るアトメラ号、ノサンバ・ラント岬近くで座礁し、83人が死亡
- 1859年8月6日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| |||<就任>イギリス領海峡植民地総督「ウィリアム・オーファー・カウエナー」(~18670317)
- 1859年8月7日-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国マニココ「ヒータ6世」(~18910214没)
- 1859年8月9日-01:00|オーストリア/イタリア| |||第二次イタリア独立戦争:休戦協定締結
- 1859年8月9日-09:00|日本|長野県伊那市|安政6年7月11日|<交替>信濃高遠藩33000石「内藤頼寧」隠居⇒七男「内藤頼直」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月20日、版籍奉還)
- 1859年8月10日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「アンジョムニス・ダ・シルバ・フェラス」(~18610302)
- 1859年8月11日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領ギアナ総督「ライナルト・ファン・ファン・ランズベルク」(~18670629)
- 1859年8月14日 06:00|コスタリカ| |||<解任>コスタリカ共和国大統領「ファン・ラファエル・モラ・ホラス」政変により国を追われ米国亡命
- 1859年8月14日 06:00|コスタリカ| |||<就任>コスタリカ共和国大統領「ホセ・マリア・モンテアレグレ・フェルナンデス」(18600429まで代行~18630508)
- 1859年8月16日-01:00|フランス| |||フランスで政治犯に対する「恩赦令」が出される
- 1859年8月16日-08:00|中国/アメリカ| ||清・咸豊9年7月18日|米清条約が批准される
- 1859年8月17日-01:00|アルジェリア/フランス| |||<就任>フランス軍アルジェリア司令官「エドモン・シャルロット・マルティン・レー」(~18601124)
- 1859年8月17日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国のジョン・ワイスが気球に123通の手紙と23枚の回状を積んでインディアナ州のラファイエットから離陸し、浮力不足のため26マイル先のクローフォード・ウィルに不時着したがアメリカ初の航空郵便となった
- 1859年8月18日-05:30|インド| |||<就任>パオ国支配者(ナワブ)「イマム・アブ=ダウラ・サイン」(~18831005)
- 1859年8月20日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地総督代行「ロバート・ヘンリー・ウインヤード」(~186000704)
- 1859年8月21日 00:00|イギリス| |||イギリス海軍のアロー級砲艦「ヒュー・ケル」イギリス・リバプールで竣工(のち民間に売却され「ストーク」となった)
- 1859年8月21日 05:00|エクトル| |||<就任>エクトル国グアヤ最高指導者「ギルモ・フランコ」(~18600924)
- 1859年8月21日-09:00|日本|東京都千代田区|安政6年7月23日|<解任>老中「太田資始」
- 1859年8月22日-09:00|日本| ||安政6年7月24日|<安政6年南関東一円風水害>夜より翌日に至るまで大風雨/利根川の堤は武州忍領北河原村にて決壊すること凡そ百五十間(約270m)、荒川堤は同領久下村にておなじく五か所、長さ合わせて三百十七間(約580m)、水一時に溢れ、夕七つ時頃(16時ごろ)より田畑冠水、水上の村々より水一円に押し来たり、床上四、五尺(1.2~1.5m)、五、六尺(1.5~1.8m)の浸水/忍領から葛西に至る間、人馬家財などの流失数えきれず/堤切れ口より砂石押し入り、田畑損亡多く、荒川溢水
- 1859年8月23日-09:00|日本| ||安政6年7月25日|<安政6年南関東一円風水害>相模の河川も相模川などが氾らん、八つ時、大水、川上所々堤切切、東、河内筋、梁竹三間(約5.5m)八間(約15m)位の家、数々流れ来る/川筋、死人、家、材木多く流れ来る/村内いづれも床へ水上がる/江戸の荒川沿岸も相模川沿岸も多くの家が床上浸水の被害を出し、はりの長さ、間口と奥行きが5.5mと15mもあるような大きな家も水に流され田畑が冠水/桐生や足利方面も大洪水となり、多数の死亡者が出た
- 1859年8月23日-09:00|日本/アメリカ|神奈川県横浜市|安政6年7月25日|米フェニクス号(艦長ブルック大尉)、横浜で難破
- 1859年8月25日-09:00|日本/ロシア|神奈川県横浜市中区|安政6年7月27日|ロシア海軍士官ら3人が横浜で日本人数名の襲撃を受け、海軍少尉マン・モフト、水兵ワグネルが死亡、まかない係が重傷を負った
- 1859年8月27日 06:00|アメリカ| |||ペンシルバニア州のロックウェル会社のエドウィン・トレーク(40)が、タタスガイル付近でドリル式鑿井法により石油の汲み出しに成功
- 1859年8月28日 00:00|モロッコ| |||<死去>モロッコ・スルタン「アブ・アルファトル・アブド・アル・ラーマン」81歳
- 1859年8月28日 00:00|モロッコ| |||<即位>モロッコ・スルタン「ムハンマド4世」(~18730916死去71歳)
- 1859年8月30日-09:00|日本| ||安政6年8月3日|<死去>石田悠汀(62歳)画家

1860迄 (3252件)

- 1859年9月 00:00|セガル | |||<就任>フクトロ統治者統治者(アルマニ)「マドゥ・ウ・ビラン・ワン」(10回目~1860年10月)
- 1859年9月 05:00|ヘル | |||<就任>ヘル共和国閣僚評議会議長(首相)「ジョン・ミゲル・テル・カルピオ・メルカ」(~1860年7月)
- 1859年9月1日-01:00|赤道キニア/スヘイン | |||<就任>フェルナンド・ホー-総督「ル・デ・ラ・ガンダ・ライ・ナハロ」(~18620630)
- 1859年9月1日 00:00|世界 | |||1859年の太陽嵐:太陽フレアで大規模磁気嵐発生(~9月2日)オーロラがキューバでも観測、電信途絶
- 1859年9月1日 06:00|アメリカ | |||アメリカ、フلمانの最初の寝台車が運行
- 1859年9月4日-05:30|インド | |||<就任>アジヤイガル国ラジャ「ランジ・ヨー・シン」(~18770101)、摂政「アジヤイガルのラジマタ」(~1868年)
- 1859年9月4日 05:00|エクトル | |||<就任>エクトル国大統領「臨時政府(反乱):ガブリエル・グレゴリー・ガルシア・モレノ(25日から)/マヌエル・ゴメス・テラ・トレ・ガニコ・テナ(25日まで)/ル・マリア・アビレス・カッポル(代理)/ハシフィック・チボガ・ボルハ」(~6.4)
- 1859年9月4日 05:00|エクトル | |||<就任>エクトル国臨時政府「メンバー:ガブリエル・ガルシア・モレノ/シエロモ・カリオン/フランド・チボガ/ラファエル・カルハル」(~18610110)
- 1859年9月6日-04:00|ロシア | |||コーカサス・イマーテ地域、チェチェンはロシアに編入
- 1859年9月6日-02:00|南アフリカ | |||<就任>オレンジ自由国国家大統領代行「サイアス・レイニエ・スナイマン」(~18600208)
- 1859年9月6日-02:00|ルーマニア | |||<就任>ワキア閣僚会議議長(首相)「ニコラエ・アレクサンドル・クレトクレスク」(~10.11)
- 1859年9月6日 00:00|ガンビア/イギリス | |||<就任>イギリス王領ガンビア総督「ジョージ・アッパ・ス・クー・ター・シー」(~18660219)
- 1859年9月7日-09:30|オーストラリア | |||<市制>ブリスベンの市の創設
- 1859年9月7日 00:00|イギリス | |||英国でビッグ・ベン運用開始
- 1859年9月9日-08:00|中国/イギリス | |||清・咸豊9年8月13日|<就任>第5代香港総督「ハ・キュリス・ジョージ・ロバート・ロビンソン」(~18650311)
- 1859年9月14日-02:00|トルコ | |||イスタンブールにアメリカ式の大学のロバート・カレッジが開設される
- 1859年9月14日-09:00|日本|富山県富山市|安政6年8月18日|<死去>前田利保(60歳)元越中富山藩主
- 1859年9月15日-09:00|日本|兵庫県三田市|安政6年8月19日|<死去>摂津三田藩36000石「九鬼精隆」(36歳)⇒11月16日養子「九鬼隆義」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1859年9月16日-01:00|ドイツ | |||ドイツで自由主義者の政治組織「国民協会」が成立
- 1859年9月16日 00:00|イギリス/中国/日本 | |||安政6年8月20日|英上海-長崎航路の第一便、上海出港
- 1859年9月17日 05:00|エクトル | |||キト、グアヤキル、ケンカ、ロハがそれぞれ自治政府を樹立。統一国旗は廃止される
- 1859年9月18日 05:00|エクトル | |||<就任>エクトル国連邦政府指導者「マヌエル・カリオン・ピソツァーノ」(~18600323)
- 1859年9月18日-09:00|日本|三重県桑名市|安政6年8月22日|<死去>伊勢桑名藩113000石「松平定猷」(26歳)⇒10月16日、婿養子「松平定敬」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年1月18日、強制隠居)
- 1859年9月18日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|安政6年8月22日|<死去>本多忠升(69歳)前伊勢神戸藩主
- 1859年9月19日-01:00|ドイツ | |||<初演>ヨハネス・ブラームス《マリアの歌Op. 22》
- 1859年9月19日-09:00|日本 | |||安政6年8月23日|メキシコ・ドル銀貨と同品位の安政一分銀を鋳造
- 1859年9月21日 00:00|イギリス | |||イギリスの物理学者マクスウェルが気体の動力学理論の論文発表/個々の粒子の速度分布はマクスウェル分布に従う事を示した
- 1859年9月22日-01:00|チュニジア | |||<死去>フサイン朝ハ「ムハンマド2世」48歳
- 1859年9月23日-09:00|日本|茨城県水戸市|安政6年8月27日|幕府、徳川斉昭に水戸での永蟄居を、水戸藩主徳川慶篤・同藩附家老中山信宝に差控を命じる
- 1859年9月23日-09:00|日本|東京都中央区|安政6年8月27日|水戸藩「茅根伊予之介」、「鶴飼吉左衛門・幸吉父子」伝馬町の牢内で斬首
- 1859年9月23日-09:00|日本|東京都千代田区|安政6年8月27日|幕府、一橋家当主「一橋慶喜」に隠居謹慎を命じる
- 1859年9月23日-09:00|日本|東京都千代田区|安政6年8月27日|幕府、西丸留守居「川路聖謨」に免職隠居蟄居を、軍艦奉行「永井尚志」に免職隠居差控を命じる
- 1859年9月23日-09:00|日本|東京都豊島区|安政6年8月27日|水戸藩「安藤帯刀」駒込の三田藩邸において切腹
- 1859年9月24日-01:00|チュニジア | |||<即位>フサイン朝ハ「ムハンマド3世」アル=フサイン2世の息子(~18821028死去69歳)
- 1859年9月24日 06:00|カタ | |||ケベックがカタの首都に復帰
- 1859年9月27日 05:00|エクトル | |||<就任>エクトル国ケンカ政府指導者「ラモン・ボレロ」(~11.13)
- 1859年9月29日 04:30|ベネズエラ | |||<就任>ベネズエラ共和国暫定大統領「マヌエル・フェリペ・トバル」PC(⇒18600412大統領代理~18610520)中央集権党が政権を奪回
- 1859年9月29日-09:00|日本 | |||安政6年9月4日|<死去>石川依平(69歳)歌人、国学者
- 1859年10月-03:00|イラク/トルコ | |||<就任>バグダットのワリス「ムスタファ・ヌリ・パシャ卿」(~1861年1月)
- 1859年10月 06:00|アメリカ | |||<就役>アメリカ海軍ワイオミング級スループ「ワイオミング」(1457t,フィラデルフィア海軍工廠で建造)
- 1859年10月1日-09:00|日本|千葉県佐倉市|安政6年9月6日|<交替>下総佐倉藩11万石「堀田正睦」隠居⇒四男「堀田正倫」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1859年10月2日-01:00|サンマリノ | |||<就任>サンマリノ共和国執政「パラムテ・マルベリ」「ヒエール・マッテオ・ベルティ」
- 1859年10月2日-09:00|日本 | |||安政6年9月7日|幕府、唐銅真鍮の製造販売禁止の触書きを出す
- 1859年10月3日 00:00|イギリス | |||<死去>5代ジャージー伯「ジョージ・チャイルド・ウイリアムズ」
- 1859年10月3日 00:00|イギリス | |||<就任>6代ジャージー伯「ジョージ・オーガスタス・フレデリック・チャイルド・ウイリアムズ」(~24日死去)
- 1859年10月4日 06:00|アメリカ | |||カンザス州で、反奴隷制の憲法ワヤドット憲法が成立
- 1859年10月5日 04:00|バミューダ/イギリス | |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「ウィリアム・マンロー大佐」(1期目~1

1860迄 (3252件)

8600216)

- 1859年10月7日-09:00|日本|鹿児島県|安政6年9月12日|<死去>島津齊興(69歳)元薩摩藩主
- 1859年10月8日-09:00|日本|徳島県|安政6年9月13日|<死去>蜂須賀齊昌(65歳)前阿波徳島藩主
- 1859年10月9日-09:00|日本|東京都|安政6年9月14日|<死去>儒学者「梅田雲浜」江戸獄中で病死
- 1859年10月9日-09:00|日本|長野県上田市|安政6年9月14日|<死去>信濃国上田藩53000石「松平忠固」元寺社奉行・大坂城代・老中(48歳)急死⇒三男「松平忠礼」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月19日、版籍奉還)
- 1859年10月11日-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワキア閣僚会議議長(首相)「イオン・デ・イミトリー・ギカ」(~18600528)
- 1859年10月12日 00:00|イギリス| ||<死去>ロバート・スチーブンスン、土木技術者・鉄道技師(生年1803年)
- 1859年10月16日 00:00|イギリス| ||<死去>ウェストモラント 伯「ジョン・フェイン」
- 1859年10月16日 00:00|イギリス| ||<就任>ウェストモラント 伯「フランス・ウィリアム・ヘンリー・フェイン」先代の子(~18910803死去)
- 1859年10月16日 06:00|アメリカ| ||ジョン・ブライアン、バージニア州北西部のハーバース・フェリー連邦軍兵器庫を22人のゲリラ(黒人6人をふくむ)により襲撃
- 1859年10月18日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「クブル・メフメト・エミン・パシャ」(2期目~12.24)
- 1859年10月18日 06:00|アメリカ| ||ジョン・ブライアンの戦い、全国の支援を受けることなく2日後に敗北
- 1859年10月18日-09:00|日本|佐賀県鹿島市|安政6年9月23日|<死去>鍋島直賢(26歳)前肥前鹿島藩主
- 1859年10月20日-09:00|日本| ||安政6年9月25日|幕府、武家諸法度を頒布
- 1859年10月21日-01:00|ナイジェリア| ||<死去>ソコ帝国スルタン「Ali Babba bin Bello」
- 1859年10月22日 00:00|モロッコ/スペイン| ||セウタとモロッコとの境界を巡り、スペインは宣戦布告/モロッコ戦争開始
- 1859年10月24日-01:00|ナイジェリア| ||<即位>ソコ帝国スルタン「Ahmadu Atiku」(~18661102死去)
- 1859年10月24日 00:00|イギリス| ||<死去>6代ジャージ ー伯「ジョージ・オーガスタス・フレデリック・チャイルド・ウイリアムズ」
- 1859年10月24日 00:00|イギリス| ||<死去>8代ウォルト・グレイヴ 伯「ウィリアム・ウォルト・グレイヴ」
- 1859年10月24日 00:00|イギリス| ||<就任>7代ジャージ ー伯「ウィクター・アルバート・ジョージ・チャイルド・ウイリアムズ」(~19150531死去)
- 1859年10月24日 00:00|イギリス| ||<就任>9代ウォルト・グレイヴ 伯「ウィリアム・フレデリック・ウォルト・グレイヴ」先代の孫(~19300812死去)
- 1859年10月26日-09:00|日本| ||安政6年10月1日|<死去>原采蘋(62歳) 詩人
- 1859年10月27日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ニューサウスウェールズ 植民地政府首相「ウィリアム・フォスター」無所属(~18600309)
- 1859年10月27日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ウィリアム・ニコルソン」(~18601126)
- 1859年11月-02:00|ブルガリア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ウイェイン・ワリス(総督)「ミルザ・メフメト・サイト・パシャ」(~1861年9月)
- 1859年11月 00:00|アイルランド/デンマーク| ||<就任>アイルランド 総督代行「トルドゥル・ヨハン」(2回目~18600615)
- 1859年11月1日-09:00|日本|東京都中央区|安政6年10月7日|<安政の大獄>幕府が、福井藩士橋本佐内(26歳)・頼三樹三郎(35歳)・飯泉喜内(55歳)ら伝馬町牢屋敷で処刑
- 1859年11月5日-09:00|日本/フランス/中国|神奈川県横浜市|安政6年10月11日|仏国神奈川領事館使用人の清国人横浜で西洋人と間違われ斬殺される
- 1859年11月6日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍ナカアンセット級スループ「ナカアンセット」(1235t, チャールズ・タウン海軍工廠で建造)
- 1859年11月8日-01:00|ドイツ| ||<死去>ロイス=グライツ侯「ハインリヒ20世」
- 1859年11月8日-01:00|ドイツ| ||<就任>ロイス=グライツ侯「ハインリヒ22世」(~19020419)
- 1859年11月9日 00:00|シラレネ/イギリス| ||バグセル島、タートル諸島、ベントウ島、チャー島がイギリスに併合される
- 1859年11月10日-01:00|オーストリア/フランス/イタリア/スイス| ||オーストリア、フランス、サルデーニャ王国の間でチュルビ講和条約が締結され、ロンバルディアがサルデーニャ領になる
- 1859年11月11日 03:00|アルゼンチン| ||アルゼンチンが講和条約でブエノスアイレス州の編入を規定
- 1859年11月11日-09:00|日本|東京都千代田区|安政6年10月17日|江戸城本丸の中之口から出火し本丸御殿を全焼
- 1859年11月12日-01:00|フランス| ||パリのホレオン・サーカスで世界初の空中ブランコ
- 1859年11月13日 05:00|エクアドル| ||<就任>エクアドル国カニヤルとアズアイ(グアヤスとともに)リーダ ー「マリア・ノ・モロ」(~18600303)
- 1859年11月14日 00:00|イギリス| ||<死去>2代ト・グレイ伯「トマス・フィリップ・ド・グレイ」
- 1859年11月14日 00:00|イギリス| ||<就任>3代ト・グレイ伯「ジョージ・フレデリック・サミュエル・ロビンソン」2代ロビン伯(⇒18710623初代ロビン侯~19090709死去)
- 1859年11月15日-09:00|日本|岡山県浅口市|安政6年10月21日|川手文次郎、備中国浅口郡大谷村で金光教創始
- 1859年11月17日 05:00|エクアドル/ペルー| ||ペルーとエクアドルの間に国境紛争が起こる/ギジェルモ・フランコは、ペルー軍とMapasingue条約を結び、南部アマゾン上流地帯諸州を割譲
- 1859年11月17日-09:00|日本|福島県いわき市|安政6年10月23日|<死去>陸奥湯長谷藩15000石「内藤政恒」(24歳)⇒12月28日、養子「内藤政敏」が継ぐ(⇒文久3(1863)年6月27日、死去)
- 1859年11月21日-09:00|日本|静岡県富士市|安政6年10月27日|<廃藩>駿河川成島藩1万石「本郷泰固」失策の責任⇒旗本5000石
- 1859年11月21日-09:00|日本|東京都中央区|安政6年10月27日|<死去>吉田松陰、安政の大獄により捕縛され、江戸伝馬町の獄にて斬首(30歳、文政13(1830)0804生)長州藩士、教育者、思想家(安政の大獄第3次断罪)
- 1859年11月24日-01:00|フランス| ||仏海軍戦艦ラ・グロワール進水(初の外洋航行可能な甲鉄戦艦)
- 1859年11月24日 00:00|イギリス| ||英国自然科学者チャールズ・ダーウインが進化論の著作「種の起源」刊行(即日完売)
- 1859年11月24日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ラートレ公爵フランス・セラノ・イ・ド・ミ

1860迄 (3252件)

ンゲス (~18621210)

- 1859年11月24日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍イロクォイ級スルーフ「イロクォイ」(1488t、ブルックリン海軍工廠で建造)
- 1859年11月24日-09:00|日本|東京都墨田区|安政6年11月|<大相撲>安政6年11月場所[江戸本所回向院](10日間)
幕内優勝:(東関脇)響灘、6勝0敗3分1休
- 1859年11月24日-09:00|日本|東京都中央区|安政6年11月|<創建>笠間稲荷神社東京別社(紋三郎稲荷)
- 1859年11月24日-09:00|日本|北海道函館市|安政6年11月|カトリック元町教会創建
- 1859年11月25日-01:00|ナヰヰェリア/イギリス| |||<就任>ベトナム英国領事「ジョージ・Brand」(~18600616死去)
- 1859年11月28日 06:00|ロシア/イギリス| |||<就任>ペイ諸島マヤクア条約(18600714批准、18610601発効)により、ペイ諸島とロシアのモスクト領土が英国からロシアに割譲される
- 1859年11月29日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍モヒカン級スルーフ「モヒカン」(1461t、ホーツマス海軍工廠で建造⇒1872末、メアアイランドにて沈没)
- 1859年12月-09:30|オーストラリア| |||南オーストラリア、ウォルター・ヒューズ、スペンサー湾の東岸で銅を採掘/後にウオラーとして知られる
- 1859年12月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリシア知事代理「Karl Ritter von Mosch」(1期目~1861.6)
- 1859年12月-01:00|スペイン/キューバ| |||キューバ、コンチャ総督、退任。かわってキューバ生まれのケオールを妻にもつフランスコセノ将軍が就任
- 1859年12月2日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国首相「カール・エドヴァルト・ロットウット」(~18600208)
- 1859年12月2日 06:00|アメリカ| |||米国奴隷制度廃止運動家ジョン・ブラウンが奴隷反乱に失敗し処刑される
- 1859年12月3日-09:00|日本|神奈川県横浜市中区|安政6年11月10日|岩槻屋佐吉ら港崎遊郭開設(⇒1867年11月豚屋火事で焼失)
- 1859年12月5日-09:00|日本|東京都|安政6年11月12日|<死去>画人、高島千春(81歳)
- 1859年12月7日-09:00|日本| ||安政6年11月14日|<死去>宇喜多一蕙(65歳)画家
- 1859年12月8日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの随筆家ド・クインツ/74歳(誕生17850815)「アヘン常用者の告白」など
- 1859年12月10日-09:30|オーストラリア| |||<就任>クイーンズランド植民地政府首相「ロバート・ハーバート」
- 1859年12月10日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>クイーンズランド植民地総督「ジョージ・ホウエン」(~18680104)
- 1859年12月10日-09:30|オーストラリア| |||クイーンズランド植民地が設立される
- 1859年12月10日 00:00|トゴ| |||<就任>トゴ統治者(トクベ・アウオト)「アレクサンデル・ホエウ・イ・ロソソ2世」(~18810512没)
- 1859年12月13日-09:00|日本|滋賀県蒲生郡日野町|安政6年11月20日|<死去>市橋長富(55歳)前近江仁正寺藩主
- 1859年12月15日-09:00|日本|富山県富山市|安政6年11月22日|<交替>越中富山藩10万石「前田利声」隠居⇒養子「前田利同」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1859年12月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>ドイツの童話作家グリン兄弟の弟ウィルヘルム・グリン/73歳(誕生17860224)
- 1859年12月23日-09:00|日本|大分県玖珠郡玖珠町|安政6年11月30日|<死去>豊後森藩12500石「久留島通胤」(32歳)⇒長男「久留島通靖」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1859年12月23日-09:00|日本|神奈川県小田原市|安政6年11月30日|<死去>相模小田原藩11万3000石「大久保忠愨」(31歳)⇒養子「大久保忠礼」が継ぐ(⇒明治元(1868)年9月27日、強制隠居)
- 1859年12月24日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ミュテリシム・リュシュティ・パシャ」(1期目~18600528)
- 1859年12月25日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督兼最高司令官「Francis Hincks」(2期目~18620104)
- 1859年12月31日-09:00|日本|静岡県下田市|安政6年12月8日|幕府、下田港を閉鎖
- 1860年-08:00|シンガポール/イギリス| |||<就任>イギリス領海峡植民地シンガポール駐在評議員「ロナルド・マクファーソン」(~18670401)
- 1860年-07:00|ラオス/シリア・アラブ| |||チャンパーサクをタイが占領(~1863年)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>アルワル国摂政「タル・ラクティール・シン(行政評議会議長)」(~18630914)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>ウタール国ラジャ「ラル・ヒンデシュヴァリ・プラサド・シン・デオ」(~1876年没)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>ウアラ国統治者(タル・サーヒブ)「メラジ・プリタラジ」(~18750820没)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>カウルダ国統治者(タークル)「バジナート・シン」(~不明)⇒「ラム・シン」(~1863年没)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>ガンゴール国ラジャ「ダナルタン・シエカル・デオ」(~1865年)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>ジャソ国統治者(テュワン)「ラム・シン」(~1865年没)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>タンタ国統治者(マハラ)「ハリスムジ・ナルムジ」(~18761201没)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>チャルカリ国ラジャ「ジャイ・シン・デオ」(~18800321没)、摂政「ラニ・ハト・クンワル・ジュ」(~1862年)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>トラヴァンコール藩王「ラーマ・ヴァルマ3世」(~1880年)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>ハリナ国統治者(タル・サーヒブ)「フラタプ・シンジ・ノンハンジ」(8か月)
- 1860年-05:30|インド| |||<就任>ルガシ国統治者(ラオ・ハートウル)「ヒラ・シン」(~1872年没)
- 1860年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<死去>ブハラ・アミール国マンギト朝アミール「ナスルッラー・ハーン」
- 1860年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>ブハラ・アミール国マンギト朝アミール「サイイド・ムサッファルッテ・イン・ハーン」(⇒1868年、ロシア帝国の保護国になる~18851112死去)
- 1860年-04:00|UAE/イギリス| |||<就任>イギリスのシャルジャ在住土着代理人「Haji Ya' qub」(~1866年死去)
- 1860年-04:00|ロシア| |||テミルコイ、ナトウカイ、ヘスレーの部族がロシアに降伏
- 1860年-03:00|カンタ | |||<就任>ブソコラ統治者(オムハイト)「ルウイキ2世キエラマイノルウエシヤカラキヤンビ」(~1880年)
- 1860年-03:00|カンタ | |||<就任>ブソラ統治者(オムハマ)「ムハギ2世」(~1872年頃)
- 1860年-03:00|ジブチ | |||<即位>タジュラ・スルタン国スルタン「ムハンマド・ヒン・マンダイトウ」(~18620309)
- 1860年-03:00|ソマリア | |||<即位>マジーン・スルタン「Suldaan Cismaan Suldaan Maxamuud Suldaan Cismaan」(~1927

1860迄 (3252件)

年)

- 1860年-03:00|エチピア| |||シエラはエチピアに併合(~1864年)
- 1860年-03:00|ヨモロ| |||ムブデはイソラに従属(~1872年)
- 1860年-02:00|ザンビア| |||<就任>ベンガ 国統治者(シテムケル)「フ ウェンビヤ1世シテムケル26世」(~1866年没)
- 1860年-02:00|ザンビア| |||<就任>ムント 統治者(ムウェネ・ムント・ワ・ルナ)「カシナ2世リエンガ・シエネ・ムント 2世」(~1867年)
- 1860年-02:00|コンゴ 民主共和国| |||<即位>グ ウェシエ王国ムミ・グ ウェシエ「グ ウェシエ8世クワイガ 2世」(~1863年没)
- 1860年 00:00|トゴ| |||<就任>アグバ ナンキン摂政「ロコ・ファントジ」(~1877年)
- 1860年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>ウオンカフォン統治者「フェンダ・サハシ・モトウ」(~?)
- 1860年 00:00|セネガル| |||<就任>ケヨール統治者(タンメル)「マ=ゴド ウ・クンバ・ヤンテ・ファル」(~1861年)
- 1860年 00:00|モーリタニア| |||<就任>タガ ニット連邦エミール(シュラティット系)「ラスール」
- 1860年 00:00|モーリタニア| |||<就任>トラルザ 連邦エミール「シテ・イムハ イリカ・ウアルト・ムハンマト」(~1871年7月没)
- 1860年 00:00|セネガル| |||<就任>パ ウール統治者(ティーン)「マ=ゴド ウ・クンバ・ヤンテ・ファル」(3回目)⇒「セ・ヤシソ・ンゴ・ン・ジ エゲン・ファル」(3回目~1871年)
- 1860年 04:00|アルバ /オランダ| |||<就任>アルバ 島副知事「Michael de Veer」(2期目~1863年)
- 1860年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントクリストファーズ 副総督「ヘンジヤミン・フリ・キャンベル・ハイソ」(~1866年)
- 1860年 04:00|モントセラト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセラト大統領「Samuel Cockburn」(~1862年)
- 1860年 04:00|シント・マルテン/オランダ| |||<就任>オランダ 領シント・マルテン副知事「Willem Hendrik Johan van Idsinga」(~1865年)
- 1860年 04:00|フ エルトリコ/スペイン| |||<就任>ビ エクス島知事「Francisco Gomez de Mercado」(1期目~1862年)
- 1860年 10:00|ホ リネシア| |||ライアテアとタハアは独立回復
- 1860年1月-09:30|オーストラリア| |||スノーウィー・マウンテンズ で金の発見のニュースが伝わり、カイトラでゴールドラッシュが起こる
- 1860年1月1日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島主任判事「Thomas Buffett」(~18611231)
- 1860年1月1日-01:00|フランス| |||<区制>パリ市域が20区に拡大再編
- 1860年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「フリート リヒ・フライヘーローゼ」Lib(2期目~12.31)
- 1860年1月1日-09:00|日本|東京都|安政6年12月9日|大川橋御修復成り、渡初
- 1860年1月1日-09:00|日本|新潟県新潟市|安政6年12月9日|日米和新条約に基づき、新潟が開港
- 1860年1月5日 04:00|グアートルブ /フランス| |||<就任>グアートルブ 知事「Charles Victor Frebault」(1期目~18620111)
- 1860年1月12日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<死去>スペイン領フィリピン総督「フェルナント・デ・ルサガラ」
- 1860年1月12日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督代理「Ramon Maria Solano y Llanderal」(~8.29死去)
- 1860年1月13日-09:00|日本|香川県高松市|安政6年12月21日|高松城下西浜町出火、50軒余焼失
- 1860年1月14日 10:00|ホ リネシア| |||<就任>フランス領オセアニア司令官兼ソラワ諸島帝国弁務官「Louis Eugene Gaultier de la Richerie」(~1864年)
- 1860年1月15日-05:30|インド | |||<就任>ナガール国ラジャ「アガー・シン」(~1876年12月没)
- 1860年1月16日-09:00|日本|東京都千代田区|安政6年12月24日|<辞任>老中「間部詮勝」
- 1860年1月20日-05:30|インド | |||<就任>ダラウール国ラジャ・マハラナ「フランテ ガジ 2世・ラムテ ガジ」(~18910917没)
- 1860年1月20日-09:00|日本| ||安政6年12月28日|7匁以上の外国銀貨に施印し、一分銀3枚と交換することを定める/改三分定銀発行
- 1860年1月21日-01:00|イタリア| |||<就任>サルデーニャ王国首相「カール伯カミロ・Benso」(~18610323イタリア首相)
- 1860年1月23日-01:00|フランス/イギリス| |||フランスとイギリスの間で「自由貿易協定」である「英仏通商条約」(コブテン条約)が調印される
- 1860年1月24日-01:00|デンマーク| |||<再任>デンマーク第(6)代評議会議長「カール・クリスチャン・ホル」無所属(~18631231)
- 1860年1月29日-09:00|日本/イギリス|東京都港区|安政7年1月7日|イギリス公使館通詞の伝吉、泉岳寺で暗殺される
- 1860年2月4日 00:00|モロッコ/スペイン| |||テトゥアンがスペインに占領された(~18620502)
- 1860年2月5日-09:00|日本|東京都中央区|安政7年1月14日|<初演>河竹黙阿弥「三人吉三廓初買」[作・二代目河竹新七], お坊吉三・河原崎権十郎、御嬢吉三・岩井桑三郎、和尚吉三・四代目市川小團次、市村座
- 1860年2月6日-09:00|日本| ||安政7年1月15日|<死去>4代黒沢琴古(不明)尺八奏者
- 1860年2月6日-09:00|日本|東京都千代田区|安政7年1月15日|<就任>老中「安藤信正」(~文久2年4月11日)
- 1860年2月8日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オレンジ 自由国国家大統領「マルティヌス・グエッセル・フレトリウス」(~18630617)
- 1860年2月8日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国首相代行「ブ リクセン=ファイネック男爵カール・フレデリック・アクセル・ブ ロ」(~24日)
- 1860年2月9日-09:00|日本/アメリカ|東京都品川区|安政7年1月18日|日米修好通商条約批准書交換のため「咸臨丸」、米軍艦「ホーバク号」に遺米使節団乗船し品川沖を出港
- 1860年2月10日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《セレナト 第2番イ長調》
- 1860年2月15日-09:00|日本|神奈川県厚木市|安政7年1月24日|<死去>大久保教孝(74歳)前相模荻野山中藩主
- 1860年2月16日 04:00|バミュダ /イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミュダ 総督「フリーマン・マレー大佐」(2期目~18610314)
- 1860年2月18日-01:00|フランス| |||<初演>シャルル・フランソワ・グノー《歌劇「フィレンとホーシス」》
- 1860年2月18日 06:00|ペリズ /イギリス| |||<就任>ペリズ 居留地管理者(ジャマカの知事に従属)代行「トマス・フ ライス」(~1861年11月)
- 1860年2月18日-09:00|日本|東京都千代田区|安政7年1月27日|講武所が築地から神田小川町へと移転

1860迄 (3252件)

- 1860年2月19日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリタ総督「Luis Lemni Demandre de la Breche」(~1861年)
- 1860年2月20日-12:00|ニュージーランド| |||ニュージーランドで第2次アングロ・マオリ戦争が始まる
- 1860年2月23日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ王国首相「ホル男爵フロリス・アドリアーン」(2回目~18610223)
- 1860年2月24日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国首相「カール・クリスチャン・ホル」(2回目~18631231)
- 1860年2月24日-09:00|日本|神奈川県横浜市中区|安政7年2月3日|横浜ホテル開業(現レストランかをりの場所)<日本初のハ->
- 1860年2月25日 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督「アントニオ・カンティド・ザガロ」(~18620225)
- 1860年2月26日-09:00|日本/オランダ|神奈川県横浜市鶴見区|安政7年2月5日|横浜の本町通りで、オランダ人船長のW・テ・フォスと、N・デ・ツクルが攘夷派により斬殺される
- 1860年2月29日 00:00|ポルトガル| |||<就任>フンチャル地区民政知事「ファロウ 伯 Joaquim Pedro Quintela」(~18620108)
- 1860年3月-01:00|北マテニア/トルコ| |||<就任>ウスクブ・ワリス(知事)兼マスティル・ワリス(総督)「アリヤナ・ムスタファ・パシヤ」(~1863年7月)
- 1860年3月-01:00|イタリヤ| |||トスカナは国民投票の結果サルデーニャ王国へ併合、トスカナ大公フェルディナンド4世退位
- 1860年3月1日 03:00|ウルグアイ| |||<就任>ウルグアイ東方共和国大統領「ベルナルド・ベロ」国民党(2回目~18640301)
- 1860年3月5日 03:00|アルゼンチン| |||<就任>アルゼンチン連邦大統領「サンティアゴ・ラファエル・ルイス・マニエル・ホセ・マリア・デル・キ・ロドリゲス」(~18611105)
- 1860年3月7日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス王領カプリア副知事「ジョン・マクリン」(~18641224)
- 1860年3月7日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||イギリス領カプリアが独立した王領植民地となる(~18660417)
- 1860年3月9日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ニューサウスウェールズ植民地政府首相「ジョン・ロバートソン」無所属(~18610109)
- 1860年3月9日-09:00|日本|静岡県藤枝市|安政7年2月17日|<死去>駿河田中藩4万石「本多正寛」(53歳)⇒閏3月16日、弟「本多正訥」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年7月13日、安房長尾藩4万石に移封)
- 1860年3月13日-09:00|日本|岡山県真庭市|安政7年2月21日|<死去>美作勝山藩23000石「三浦朗次」(27歳)⇒養子「三浦弘次」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年5月6日、隠居)
- 1860年3月17日-09:00|日本|静岡県富士宮市|安政7年2月25日|大石寺石之坊より出火、富士見庵・寿命坊・遠信坊・学寮焼失
- 1860年3月17日-09:00|日本|長野県佐久市|安政7年2月25日|<死去>信濃岩村田藩15000石「内藤正縄」(66歳)⇒嫡孫「内藤正誠」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1860年3月18日-01:00|イタリヤ| |||ハルマ、サルデーニャ王国に併合
- 1860年3月21日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《ハラーデ ニ長調Op. 10-2》《ハラーデ ニ短調Op. 10-3》
- 1860年3月22日-01:00|イタリヤ| |||<退位>トスカナ大公「フェルディナンド4世」トスカナ大公国はサルデーニャ王国に併合され、滅亡
- 1860年3月22日-09:00|日本|京都府京都市|安政7年3月|<死去>2代清水六兵衛(71歳)陶工
- 1860年3月22日-09:00|日本|東京都墨田区|安政7年3月|<大相撲>安政7年2月場所[江戸本所回向院](10日間)幕内優勝:(西小結)不知火, 8勝0敗1分1休
- 1860年3月24日-01:00|フランス/イタリヤ| |||トリノ条約が調印され、サルデーニャがサヴオイア、ニースをフランスに譲渡
- 1860年3月24日-01:00|モロッコ/フランス| |||ニース郡(マントンとロヴァリュヌを含む)がサルデーニャに属していたことによりフランスへ割譲(18600614発効)
- 1860年3月24日-09:00|日本|滋賀県彦根市|安政7年3月3日|<死去>近江彦根藩30万石(大老)「井伊直弼」(46歳)桜田門外の変により暗殺される⇒4月28日、家督を次男「井伊直憲」が継ぐ(⇒文久2(1862)年11月20日、10万石減封され20万石)
- 1860年3月24日-09:00|日本|東京都|安政7年3月3日|幕府、洋書出版手続きを改正/天文・暦算は天文方へ戻し、洋書の翻訳と医学書は蕃書調所へ出稿し、出版後は一部を納本すると決定
- 1860年3月24日-09:00|日本|東京都千代田区|安政7年3月3日|<桜田門外の変>井伊直弼が、江戸城桜田門外で関鉄之介が指揮する18人の浪士に暗殺される
- 1860年3月26日-05:30|インド| |||<就任>ファルタン国統治者(タイク)「ムドージ・ラオ・ジャン・ラオ」(~19161017)
- 1860年3月26日 00:00|モロッコ/スペイン| |||スペインとモロッコが平和条約に調印/モロッコ戦争終了. スペインは2000万ドルの賠償, Ceutaのフロンティアの拡大, もう一つの飛び地(Ifni)を獲得
- 1860年4月 04:00|アンティグア・バーブーダ| |||<就任>アンティグア総督代行「ウィリアム・バウム卿」(~1回目)⇒「カーペイリー・ハミルトン」(2回目~1862年)
- 1860年4月 04:00|ドミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領ドミニカ副総督代行「ジョージ・バークレ」(~18611230)
- 1860年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・フィリッピ」「ピエトロ・リギ」
- 1860年4月3日 06:00|アメリカ| |||ホニー・エクスプレスなどによる大陸横断の郵便事業開始/早馬のリレーでミズリー州セント・ジョセフからカリフォルニア州サンフランシスコまで郵便を10日間で運ぶ
- 1860年4月4日-02:00|南アフリカ| |||南アフリカ共和国にライオンバーグ共和国編入
- 1860年4月5日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・咸豊10年3月15日|朝鮮で崔済愚が東学党を創始
- 1860年4月7日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事代行「ジェームズ・ウォーカー」(~18610325)
- 1860年4月8日-09:00|日本| ||万延1年3月18日|「萬延」に改元
- 1860年4月9日-01:00|フランス| |||世界で始めて音声記録(フォノグラフ). 発明は1857年フランス人技師E. スコット
- 1860年4月10日-09:00|日本|京都府京都市|安政7年3月20日|<死去>真葛長造(64歳)陶工
- 1860年4月20日 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領ゴールドコースト総督・最高司令官「エドワード・ブロック・アントリュース」(~18620414)
- 1860年4月20日-09:00|日本|愛知県豊田市|安政7年3月30日|<死去>内藤政成(59歳)前三河拳母藩主
- 1860年4月21日-09:00|日本|千葉県野田市|万延1年閏3月1日|<加増>下総関宿藩58000石「久世広周」⇒68000石(⇒

1860迄 (3252件)

文久2 (1862) 年8月16日、58000石に減封強制隠居)

- 1860年4月21日-09:00|日本|東京都千代田区|万延1年閏3月1日|<就任>老中「久世広周」(~文久2年6月2日)
- 1860年4月22日-01:00|フランス/イタリア| ||<就任>サウジアとニスがフランスに割譲される
- 1860年4月25日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍ナガンセット級スループ「セミノール」(1235t, ペンソラ海軍工廠で建造)
- 1860年4月26日 00:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル王国首相代理「アントニオ・マリア・デ・フォンテス・ペレイラ・デ・メロ」(1期目~5.1)
- 1860年4月26日 00:00|西サハラ/スペイン/モロッコ| ||リデ・オとイニは、ワラス条約(テトゥアン)(スペインに占領されていない)でモロッコからスペインに割譲
- 1860年4月30日-05:30|インド| ||<就任>ポータル国支配者(ナワ・ベガム)「シカンデル・ベガム」(~18681030)
- 1860年4月30日-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア閣僚会議議長(首相)「ミハイル・イリ・コカ・ルニチエヌ」(~18610117)
- 1860年5月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>アレック・ワリス(総督)「Sehsuvarzade Ismail Hakki Pasha」(~12月)
- 1860年5月 04:00|ケレタ/イギリス| ||<就任>ケレタ 副総督「コーネリアス・ヘントリクセン・コトライト」(3回目~1861年)
- 1860年5月1日-05:30|インド| ||<就任>タール国ラジャ「アナン・ラオ3世・プアル」(2回目~18980729)
- 1860年5月1日 00:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル王国第22代首相「ジョアキン・アントニオ・デ・アギアル・エ・リベロ」(2期目~7.4)
- 1860年5月1日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍スループ「タコタ」(1369t, コスポート造船所で建造)
- 1860年5月7日-01:00|イタリア| ||<初演>カエターノ・ド・ネッティ 《歌劇「リータ」》
- 1860年5月7日 00:00|カナダ/オランダ| ||<就任>オランダ 領事「ニコラス・ミュゼン」(~18610121)
- 1860年5月9日-09:30|オーストラリア| ||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「トマス・レイノルズ」(~18611008)
- 1860年5月9日 04:00|セントビンセント/イギリス| ||<就任>イギリス領セントビンセント副総督代行「チャールズ・ロジャース・ネビット」(~18610520)
- 1860年5月9日-09:00|日本| ||万延1年閏3月19日|幕府、五品(雑穀・水油・蠟・呉服・生糸)の神奈川直送貿易を禁止し、江戸問屋経由を命じる(五品江戸回し令)
- 1860年5月10日-01:00|ドイツ| ||キルヒホフとブレンゲンが「セウム」を発見
- 1860年5月15日-01:00|イタリア| ||カラフィーミの戦いで、ガリバルディ軍が勝利
- 1860年5月15日 06:00|アメリカ| ||米国初のプロ野球チーム誕生、シンシチ・レッド・ストッキングス
- 1860年5月21日-09:00|日本| ||万延1年4月|<出版>玉蘭斎貞秀「横浜土産」
- 1860年5月21日-09:00|日本| ||万延1年4月|<出版>玉蘭松川半山「三国高僧図会」
- 1860年5月21日-09:00|日本| ||万延1年4月|<出版>川鍋暁斎「暁斎画譜」
- 1860年5月21日-09:00|日本|山口県下関市|万延1年4月|長州藩軍艦「庚申丸」完成
- 1860年5月21日-09:00|日本| ||万延1年4月1日|富士登山が許可され、参詣者が集まる(八月晦日まで)
- 1860年5月23日 06:00|アメリカ/日本| ||万延1年4月3日|遣米使節新見正興・村垣範正・小栗忠順ら、ワシントンで、アメリカ国務長官加と日米修好通商条約の批准書を交換
- 1860年5月24日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地マルタ総督代理「チャールズ・Warren」(~7.2)
- 1860年5月27日-01:00|イタリア| ||<イタリア統一運動>ジュゼッペ・ガリバルディ司令官がパレルモへの進撃を開始
- 1860年5月28日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「クブルリス・メフメト・エミン・パシャ」(3期目~18610806)
- 1860年5月28日-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワキア閣僚会議議長(首相)「ニコラエ・コンスタンティン・ゴレスク」(~7.13)
- 1860年5月28日-09:00|日本|長崎県長崎市|万延1年4月8日|長崎茂木村木場名山川河内で山崩れ、圧死32人
- 1860年5月29日-01:00|イタリア| ||ニツァとサウジアで、住民投票によりサルデーニャ王国から分離しフランスに合併することが決定
- 1860年5月29日-09:00|日本| ||万延1年4月9日|幕府が、万延小判金(雛小判)・万延一分判金・万延二分判金・万延二朱判金発行
- 1860年5月30日-01:00|イタリア| ||ガリバルディの千人隊がパレルモを解放
- 1860年5月31日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| ||<就任>セントクロア総督「Wilhelm Ludvig Birch」(~18710225死去)
- 1860年6月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワリス「Mehmed Mu'ammer Pasha」(~11月)
- 1860年6月 01:00|カボベルデ/ポルトガル| ||<就任>カボベルデ 総督「サン・ジヤソア子爵ジヤソア・コレイア・デ・アルメイダ」(~18610323)
- 1860年6月1日-05:30|インド| ||<就任>パリナ国統治者(タル・サーヒブ)「スルジッ・プラブ・シン」(~1885年11月没)
- 1860年6月2日-01:00|スペイン| ||<即位>スペイン王ホセ・カルロス3世「カルロス3世」(~18681003)
- 1860年6月2日-01:00|イタリア| ||シリア臨時政府が共有地再分配の法令を公布
- 1860年6月2日-08:00|中国| ||清の咸豊10年7月2日|清でアメリカ人が太平軍に対抗して洋槍隊を組織
- 1860年6月3日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ストラフォード 伯「ジョン・ベング」
- 1860年6月3日 00:00|イギリス| ||<就任>2代ストラフォード 伯「ジョージ・ステューブンス・ベング」(~18861029死去)
- 1860年6月6日-09:00|日本|熊本県熊本市|万延1年4月17日|<死去>肥後熊本藩54万石「細川斉護」(57歳)⇒7月12日、次男「細川韶邦(慶順)」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月17日、版籍奉還)
- 1860年6月9日-01:00|ドイツ| ||<初演>ロベルト・アレクサンダー・シューマン 《チェロ協奏曲イ短調》
- 1860年6月9日 05:00|ペルー| ||<就任>ペルー共和国閣僚評議会議長(首相)「ジョン・アントニオ・ベッソ・イ・トリアス・デ・ラ・ヒエトラ」(~8月)
- 1860年6月11日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍スループ「ホーニー」(1533t, フィラデルフィア海軍工廠で建造)
- 1860年6月12日-04:00|ロシア| ||ロシアで国立銀行が創設
- 1860年6月16日-01:00|ナイジェリア/イギリス| ||<死去>ベコン湾英国領事「ジョージ・Brand」

1860迄 (3252件)

- 1860年6月16日-01:00|ナヰヰ/イヰリス| |||<就任>ペニ湾英国領事代理「ハリ-Hand」(~12. 13)
- 1860年6月17日 00:00|イヰリス| |||イヰリスの蒸気客船「グレート-イスタン」就航(1858年1月30日進水)
- 1860年6月17日-09:00|日本|東京都中央区|万延1年4月28日|幕府、江戸北八丁堀の牧野誠成(丹後田辺藩主)邸に
国益主法掛を設置
- 1860年6月17日-09:00|日本|東京都千代田区|万延1年4月28日|<解任>老中「松平乗全」
- 1860年6月18日 06:00|アメリカ| |||ボルネオでの民主党大会で民主党が南北対立で分裂
- 1860年6月19日-01:00|クワチア| |||<就任>クワチア・パン・首席・総督・司令官「ヨ-ベフ・フライヘル・フォン・ソクチェグ・イツ」(~18670627)
- 1860年6月21日-09:00|日本| |||万延1年5月3日|<死去>中伊三郎(不明)銅版画家
- 1860年6月23日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国議会在公文書の印刷局「合衆国政府印刷局」を設置
- 1860年6月23日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|万延1年5月5日|福澤諭吉らに乗せた咸臨丸がアメリカから浦賀へ帰
国
- 1860年6月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>グェストファーレン王「ジ-エロム・ホ-ナ-ルト」(生年1784年)
- 1860年6月25日-12:00|ニュ-ジ-ラント| |||<死去>キンギ-タンガ王「ホ-タウ-イ-テ-和ウロ」
- 1860年6月25日-12:00|ニュ-ジ-ラント| |||<即位>キンギ-タンガ王代行「ウレム-タ-ミナ-タレヒ-ヒ-テ-ワロア」(~7. 5)
- 1860年6月26日-01:00|フランス/イヰリス/中国| |||英仏聯軍、中国に再度宣戦布告
- 1860年6月27日-09:00|日本|山形県東根市|万延1年5月9日|<交替>出羽長瀨藩11000石「米津政易」隠居⇒弟「米津
政明」が継ぐ(⇒慶応元(1865)年12月11日、隠居)
- 1860年6月28日-09:00|日本| |||万延1年5月10日|<万延元年東海・東北大水害>(~6月)近畿から中部、関東、東北
地方が連日の暴風雨に襲われ、特に東海地方各地の被害が大きく、伊勢湾に高潮が発生し木曾・揖斐・長良の三
川や天竜川が大洪水となった/東北仙台藩領でも大洪水が起こり、表高(額面上の米の収穫高)の9割近い54万55
00石余の損害を受けた
- 1860年6月29日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|万延1年5月11日|淀藩藩主稲葉政邦公が家老の松尾直在に藩校
明親館(現明親小学校の前身)を設立させた/京都市域唯一の藩校
- 1860年6月30日-05:30|スリランカ/イヰリス| |||<就任>イヰリス領セイロン総督代行「ハリ-フレ-リック-ロッキア」(~7. 30)
- 1860年6月30日-09:00|日本| |||万延1年5月12日|改三分定銀を廃止し、洋銀の時価通用を布告
- 1860年7月-09:30|オーストラリア| |||ジョン・フェアファクス・ア-ド・サ-ズ、週刊紙『シ-ニ-メール』を創刊
- 1860年7月 10:00|ポ-リネシア| |||<死去>ポ-ラ-ウ統治者「Tapoa2世」
- 1860年7月1日 06:00|アメリカ| |||<死去>チャ-ルス・グ-ット・イ-、発明家(生年1800年)
- 1860年7月2日-04:00|ロシア| |||<ウラジ-オストク開基の日>ロシア帝国輸送船「マンジ-ユル号」が金角湾到達。砦建設を開始
- 1860年7月4日 00:00|ポ-ルトガル| |||<就任>ポ-ルトガル王国第23代首相「ヌ-ベ-セ-ベ-ロ-デ-メント-カ-ロム-デ-モウ-バ-レ-ット」(2
期目~18650417)
- 1860年7月5日-12:00|ニュ-ジ-ラント| |||<即位>キンギ-タンガ王「トカホ-マツタエ」(1864年8月からタ-フィアオ)(~18940826没)
- 1860年7月6日-09:00|日本|岐阜県海津市|万延1年5月18日|<死去>美濃高須藩3万石「松平義端」(3歳)⇒叔父「松平
義勇」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月20日、版籍奉還)
- 1860年7月8日 00:00|サントメ-ブ-リンハ/ポ-ルトガル| |||<就任>サントメ-ブ-リンハ 総督「政府評議会(不完全)Manuel de Mel
o/Vicente Frederico Scarnichia」(~11. 21)
- 1860年7月9日-02:00|シリア-アラブ| |||タ-マクスでキリスト教徒の虐殺事件
- 1860年7月9日 00:00|イヰリス| |||イヰリス、ナインゲ-ル看護訓練学校が開校
- 1860年7月11日 00:00|チャン礼諸島| |||<死去>イヰリス王領ジャ-ジ-島副知事「Godfrey Charles Mundy」
- 1860年7月12日 00:00|チャン礼諸島| |||<就任>イヰリス王領ジャ-ジ-島副知事「William Turnbull Renwick」(~9. 20)
- 1860年7月13日-02:00|ル-マニア| |||<就任>ワキア閣僚会議議長(首相)「エマノ-ル・ユスタチ-イオン-エ-ブレヌ」(~18610417)
- 1860年7月13日 04:00|プ-エルトリコ/スペイン| |||<就任>プ-エルトリコ知事兼提督代理「Sabino Gamir y Maladen」(~8月)
- 1860年7月14日 06:00|ホヰジュラス/イヰリス| |||ペ-イ諸島がイヰリスからホヰジュラスに割譲された
- 1860年7月18日-09:00|日本|神奈川県横浜市神奈川区|万延1年6月|伊予松山藩が勝海舟の指導で東海道の神奈川
宿沖を埋め立てて神奈川台場完成
- 1860年7月18日-09:00|日本|静岡県浜松市|万延1年6月1日|<死去>森の石松、侠客、遠州中郡で都田の吉兵衛兄弟
に騙し討ちに遭い殺される
- 1860年7月19日-09:00|日本|長崎県島原市|万延1年6月2日|<死去>肥前島原藩65000石「松平忠淳」脚気衝心のため
(20歳)⇒養子「松平忠愛」が継ぐ(⇒文久2(1862)年7月21日、死去)
- 1860年7月20日-01:00|イタリア| |||ガ-リバルディによるシリア開放
- 1860年7月23日-09:00|日本| |||万延1年6月6日|<死去>10代千宗左(43歳)茶人、表千家家元
- 1860年7月26日-05:30|インド| |||<就任>カチ国統治者(ミザ-マハラ)「フ-ラク-マルジ-2世」(~18760101没)
- 1860年7月26日-05:30|インド| |||<就任>デ-ワス国ラジャ「クリシュナ-ラオ2世-フ-アル-ハ-バ-サ-ヒブ」(~18991012没)
- 1860年7月26日 10:00|ポ-リネシア| |||<就任>ポ-ラ-ウ統治者「Te ari-i maeva rua2世」(~18730212死去)
- 1860年7月27日-09:00|日本|東京都|万延1年6月10日|<死去>浮世絵師、一宝斎芳房(24歳、国芳門人)
- 1860年7月29日-09:00|日本|福島県いわき市|万延1年6月12日|<死去>陸奥泉藩2万石「本多忠徳」(43歳)⇒8月20日
、弟「本多忠紀」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年12月7日、2000石減封され強制隠居)
- 1860年7月30日-05:30|スリランカ/イヰリス| |||<就任>イヰリス領セイロン総督代行「チャ-ルス・エ-ド-マント-ウィルキンソン」(~10. 22)
- 1860年8月-09:30|オーストラリア| |||ラミン-フラット(ニュー-サウスウェ-ルズ のヤング 近郊)で金が発見される
- 1860年8月 04:00|プ-エルトリコ/スペイン| |||<就任>プ-エルトリコ知事兼提督「Rafael Echague y Bermingham」(~18620217)
- 1860年8月 05:00|ペ-ル-| |||<就任>ペ-ル-共和国閣僚評議会議長(首相)「マヌ-エル-モ-ル」(~1862年)

1860迄 (3252件)

- 1860年8月1日 00:00|イギリス| ||イギリス海軍最初の装甲艦「ウォリア」就役(1860年12月26日ロンドンテムズ 鉄工造船所で浸水)
- 1860年8月1日 04:00|アンティグア・バブーダ| ||アンティグアとバブーダ 統合
- 1860年8月1日-09:00|日本|和歌山県新宮市|万延1年6月15日|<交替>紀伊新宮藩35000石(紀州藩附家老)「水野忠央」隠居⇒嫡男「水野忠幹」が継ぐ(⇒慶応4(1868)年1月24日、新政府により新宮藩35000石の独立大名と認められる)
- 1860年8月2日 00:00|アイスランド/デンマーク| ||<就任>アイスランド 総督代行「トルドゥール ヨナソン」(3回目~18650803)
- 1860年8月3日-01:00|フランス| ||<初演>シャル・フランソワ・グノー 《歌劇「鳩」》
- 1860年8月3日-09:00|日本/ポルトガル|東京都|万延1年6月17日|日本・ポルトガル修好通商条約、江戸で締結
- 1860年8月4日-01:00|リビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国トリポリニア・クリス(総督)「マフムド・ベニム・ハシヤ」(~18670618)
- 1860年8月4日-01:00|ガボン/フランス| ||<就任>ガボン・ギニア湾入植地司令官「セザール・シャルル・ジョセフ・ラテイエ」(~1861年)
- 1860年8月6日-09:00|日本| ||万延1年6月20日|幕府、陪臣の軍艦操練所入学を許可
- 1860年8月8日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「カルロス・アウグスト・フランコ」(~18610207)
- 1860年8月9日-09:00|日本| ||万延1年6月23日|生糸荷物取引の新仕法(運送法)が実施
- 1860年8月10日-09:00|日本|神奈川県横浜市金沢区|万延1年6月24日|<交替>武蔵六浦藩12000石「米倉昌寿」隠居⇒六男「米倉昌言」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1860年8月11日-01:00|チェコ| ||<就任>モラヴィア総督「アントン・グラーフ・フォルカッハ・フォン・キームス・ウント・ガーツ」(~11.20)
- 1860年8月11日-09:00|日本|東京都千代田区|万延1年6月25日|<就任>老中「本多忠民」(~文久2年3月15日)
- 1860年8月11日-09:00|日本|福岡県北九州市|万延1年6月25日|<死去>豊前小倉藩15万石「小笠原忠嘉」(22歳)⇒養子(安志藩主)「小笠原忠幹」が継ぐ(⇒慶応1年9月6日(18651025)、死去)
- 1860年8月13日-01:00|モンテネグロ| ||<死去>モンテネグロ公「タネー01世」暗殺される/34歳(誕生18260521)
- 1860年8月13日-01:00|モンテネグロ| ||<就任>モンテネグロ公「ニコラ1世」(~19100828)
- 1860年8月13日 07:00|メキシコ| ||<就任>メキシコ合衆国大統領代行「ホセ・イグナチオ・ヒゴック」(~15日)
- 1860年8月13日-09:00|日本| ||万延1年6月27日|<死去>佐久良東雄、高橋多一郎を匿って捕縛され、獄中で病死(50歳)国学者、歌人
- 1860年8月14日-03:00|モット/フランス| ||<就任>フランス保護領モット総監「シャルル・ルイ・ガブリエ」(~18641214)
- 1860年8月14日-09:00|日本|東京都|万延1年6月28日|<死去>4代尾上菊五郎(53歳)歌舞伎役者
- 1860年8月15日 07:00|メキシコ| ||<就任>メキシコ合衆国暫定大統領「ミゲル・グレゴリオ・デ・ラ・ルス・アテナゲネス・ミラモン・イ・タロ」(2回目~12.24)
- 1860年8月17日-09:00|日本|東京都|万延1年夏|江戸に悪疫流行死者30万を数う
- 1860年8月17日-09:00|日本|東京都中央区|万延1年7月|<初演>「八幡祭小望月賑」<縮屋新助、美代吉殺し>[作・二代目河竹新七]、市村座
- 1860年8月18日-05:30|インド| ||<就任>ティルガッタムコトウ国ラジャ「ラーマ・ウアルマ4世」(~18660806)
- 1860年8月18日-09:00|日本|群馬県高崎市|万延1年7月2日|<死去>上野高崎藩82000石「松平輝聴」(34歳)⇒8月24日、長男「松平輝聲」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月19日、版籍奉還)
- 1860年8月18日-08:00|中国| ||清・咸豊10年7月2日|太平天国軍が上海を攻撃するが、英仏軍に敗れる
- 1860年8月19日-01:00|イタリヤ| ||ガリバルディが、メッシナ海峡を渡りホリ王国に進攻
- 1860年8月21日-08:00|中国| ||清・咸豊10年7月5日|英仏連合軍が大沽砲台を占領
- 1860年8月28日-09:00|日本|新潟県五泉市|万延1年7月12日|<死去>越後村松藩3万石「堀直休」(25歳)⇒11月1日、養子「堀直賀」が継ぐ(⇒明治元(1868)年10月19日、隠居蟄居)
- 1860年8月29日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<死去>スペイン領フィリピン総督代理「Ramon Maria Solano y Llanderal」
- 1860年8月29日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<就任>スペイン領フィリピン総督「Juan Herrera Davila」(~18610202)
- 1860年9月 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「スティーブン・ジョン・ヒル卿」(3回目~18610721)
- 1860年9月5日-09:00|日本| ||万延1年7月20日|<死去>7代田中伝左衛門(不明)歌舞伎囃子方
- 1860年9月5日-09:00|日本/ドイッ| ||万延1年7月20日|プロシア使節、幕府に対し和親条約の締結を求める
- 1860年9月6日-01:00|ドイッ| ||<死去>メクレンブルク=シュトレリッツ大公「ゲオルク」
- 1860年9月6日-01:00|ドイッ| ||<即位>メクレンブルク=シュトレリッツ大公「フリードリヒ・ヴィルヘルム(2世)」ゲオルクの息子(~19040530 死去)
- 1860年9月8日-09:00|日本|静岡県下田市|万延1年7月23日|木造帆船「鵬翔丸」(1857年、製造イギリス商船「カリナ・テレシ」を、1858年、幕府が購入)下田沖で台風に巻きこまれて沈没
- 1860年9月12日 06:00|ホッジユス/イギリス| ||英国からウーカーを引き渡されたホッジユス政府は、直ちに銃殺刑に処す
- 1860年9月12日-09:00|日本| ||万延1年7月27日|<死去>馬場錦江(60歳)俳人
- 1860年9月12日-09:00|日本/イギリス| ||万延1年7月27日|イギリス公使オールコック、外国人で初めて富士山に登る
- 1860年9月13日 00:00|マン島/イギリス| ||<就任>マン島副知事代理「Mark Hildesley Quayle」(1期目~1860年)
- 1860年9月15日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国行政評議会議長代行「ヨハネス・ヘルマナス・グロブラー」(~12.6)
- 1860年9月18日-01:00|バチカン/イタリヤ| ||ピエモンテ軍がカステルフィデルトの戦いで教皇軍を破る
- 1860年9月20日 00:00|チャン礼諸島| ||<就任>イギリス王領ジャージー-島副知事「Robert Percy Douglas卿」(~18631005)
- 1860年9月20日-09:00|日本|滋賀県東近江市|万延1年8月6日|<交替>近江山上藩13000石「稲垣太篤」隠居⇒婿養子「稲垣太清」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)

1860迄 (3252件)

- 1860年9月21日-01:00|ドイツ| ||<死去>ドイツの哲学者シュペッハウアー/72歳(誕生17880222)
- 1860年9月22日-09:00|日本| ||万延1年8月8日|武士の師弟らの外国語学修が許可される
- 1860年9月26日-01:00|セルビア| ||<死去>セルビア公「ミロシュ・オヴレノウ」1世
- 1860年9月26日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公「ミハイロ・オヴレノウ」1世(2度目~18680610、コシュトニャクで暗殺された)
- 1860年9月26日-01:00|ルクセンブルク| ||<就任>ルクセンブルク政府議長「ウイクトル・ド・トルネーコ男爵」(~18671203)
- 1860年9月28日-09:00|日本|岡山県倉敷市|万延1年8月14日|<死去>備中岡田藩10343石「伊東長裕」(45歳)⇒従弟「伊東長とし」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月23日、版籍奉還)
- 1860年9月29日-01:00|イタリヤ| ||サルデーニャ王、マルケとウンブリアを占領
- 1860年9月29日-09:00|日本|茨城県水戸市|万延1年8月15日|<死去>徳川齊昭(烈公)(61歳、寛政12(1800)0312生)第9代水戸藩主
- 1860年10月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| ||<死去>フハラ・ハン国アミール「ナスルッラー・ハン」
- 1860年10月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| ||<即位>フハラ・ハン国アミール「Sayyid Muzaffar ad-Din Bahadur Khan」(~18851112死去)
- 1860年10月 04:00|セントクリストファー・ネイビス| ||<就任>ネイビス大統領代行「アンソニー・マスケレイヴ」(~1861年4月)
- 1860年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ガエターノ・ベルツィ」|「コスタンツォ・ダミアニ」
- 1860年10月1日-01:00|イタリヤ| ||ウーゴ・カヴルノの戦い/ガリバルディがフランス2世軍を破る
- 1860年10月1日 05:00|パナマ| ||<就任>パナマ大統領「サンティアゴ・デ・ラ・カデーア・アル」(~18620725)
- 1860年10月1日-09:00|日本|長崎県長崎市|万延1年8月17日|長崎に西洋式の病院(養生所)が設立される/院長は松本良順、教授にボンペが就任
- 1860年10月4日-01:00|ガボン/コートジボワール/フランス| ||<制定>コートジボワール・ガボン植民地
- 1860年10月5日-09:00|日本|福岡県朝倉市|万延1年8月21日|<交替>筑前秋月藩5万石「黒田長元」隠居⇒六男「黒田長義」が継ぐ(⇒文久2(1862)年正月26日、16歳で死去)
- 1860年10月6日-05:30|インド| ||イギリス領インドで、刑法と刑事訴訟法が可決される
- 1860年10月11日 09:00|日本|東京都台東区|万延1年8月27日|暮六時、猿若町一丁目勘三郎が芝居の後ろ茶屋奴利屋栄助宅より失火して、二丁目三丁目ともに三座の芝居焼亡
- 1860年10月12日-09:00|日本|東京都|万延1年8月28日|江戸幕府、大風雨による、江戸市中での材木その他の価格高騰を及び所職人の賃金引き上げを禁止
- 1860年10月13日-08:00|中国/フランス/イギリス| ||アロ号戦争で英仏連合軍、北京占領
- 1860年10月17日 00:00|イギリス| ||<コルブ>第1回全英オープン選手権優勝:ウイリー・パーク(スコットランド/174)
- 1860年10月18日 00:00|イギリス/中国| ||清・咸豊10年9月5日|イギリス軍が離宮円明園に放火し焼失
- 1860年10月19日-07:00|カンボジア| ||<死去>カンボジア王国国王「アン・ドゥオン」
- 1860年10月19日-07:00|カンボジア| ||<即位>カンボジア王国国王「ノロム・ブ・ロムハ・リラック」(~19040424没)
- 1860年10月20日-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国宰相「ミクロス・ハール・ロウ・ヴァイ・ヴァン・アイ・エス・ルスコディ」(~18610718)
- 1860年10月20日-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国統治評議会議長「キョルジ・マイラート」(~18611105)
- 1860年10月20日-01:00|オーストリア| ||オーストリアで十月勅令憲法が公布される
- 1860年10月20日 00:00|マン島/イギリス| ||<就任>マン島副知事「Francis Pigott Stainsby Conant」(~1863年死去)
- 1860年10月21日-01:00|イタリヤ| ||シチリアとサポリ他南部イタリヤで人民投票が行われ、サルデーニャ王国への併合になる
- 1860年10月21日 00:00|イギリス| ||<死去>リッチモンド公・レノックス公・マーチ伯・ダートリー伯「チャールズ・ゴードン・レノックス」
- 1860年10月21日 00:00|イギリス| ||<就任>リッチモンド公・レノックス公・オビニー公・マーチ伯・ダートリー伯「チャールズ・ヘンリー・ゴードン・レノックス」(⇒兼18760113ゴードン公・キンラウ伯~19030927死去)
- 1860年10月22日-05:30|スリランカ/イギリス| ||<就任>イギリス領セイロン第12代総督「チャールズ・ジャスティン・マッカーシー」(3度目~18631201)
- 1860年10月24日 00:00|イギリス/中国| ||清・咸豊10年9月11日|清朝とイギリスの間に北京条約が調印される/イギリス領香港の誕生の糸口になる
- 1860年10月25日-01:00|フランス/中国| ||清・咸豊10年9月12日|清朝とフランスの間に北京条約が調印される
- 1860年10月26日-05:30|インド| ||<就任>デウス国摂政「マハニ・ヤムナバイ」(~18670323)
- 1860年10月26日 04:00|BES諸島| ||<就任>セント・ユスタティウス島副知事「Nicolaas Albertus Rost van Tonningen」(~1870年)
- 1860年10月26日-09:00|日本|奈良県高市郡高取町|万延1年9月13日|<死去>植村家教(75歳)前大和高取藩主
- 1860年10月31日 00:00|イギリス| ||<死去>10代ダンドナルド伯「トマス・コラン」ブラジル帝国マラニャン侯
- 1860年10月31日 00:00|イギリス| ||<就任>11代ダンドナルド伯「トマス・バートン・コラン」先代の息子(~18850115死去)
- 1860年11月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワシ「Muftizade Emin Muhlis Pasha」(~1862.2)
- 1860年11月1日-09:30|オーストラリア| ||<就任>タスマニア植民地政府首相「ウィリアム・ウェストン」(~18610802)
- 1860年11月4日-01:00|イタリヤ| ||マルケ、ウンブリアで住民投票によりサルデーニャ王国に併合が決定
- 1860年11月6日 06:00|アメリカ| ||アメリカ、共和党のリカンが第16代大統領に当選
- 1860年11月7日-02:00|ルーマニア| ||ルーマニアでヤシー大学が創設される
- 1860年11月8日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公国首席大臣「フィリップ・フリストイッチ」(~18611021)
- 1860年11月9日-09:00|日本/アメリカ|東京都品川区|万延1年9月27日|米派遣正使、ナイガウ号で品川帰国
- 1860年11月10日 00:00|コートジボワール/フランス| ||<就任>ケランバッサム(ヌムル砦)民間司令官「シャルル・ルネ・ガブリエル・リボー」(~1862年7月没)
- 1860年11月13日-09:30|オーストラリア| ||オーストラリアのニュー・サウスウェールズ植民地のラング・フラットで金鉱夫の反中国人暴動が

1860迄 (3252件)

起こる

- 1860年11月13日-09:00|日本|東京都墨田区|万延1年10月|<大相撲>万延1年10月場所[江戸本所回向院](7日間)幕内優勝:(東小結)鬼面山,6勝0敗1休
- 1860年11月13日-09:00|日本|長崎県長崎市|万延1年10月|長崎に大浦外国人居留地第一期埋め立て工事竣工(常磐町・大浦町・下り松町)
- 1860年11月13日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|万延1年10月1日|大阪除痘館が古手町から尼崎町1丁目(→今橋3丁目)に移転
- 1860年11月14日-04:00|ロシア/中国| ||清・咸豊10年10月2日:ロシア暦11月2日|清朝とロシアとの間に条約が締結される/中ソの国境が成立/清、ウリシ川以東を露に割譲
- 1860年11月15日-01:00|スロベニア/オーストリア| ||<就任>オーストリア領スロベニア知事「キステンラント知事」(~18610424)
- 1860年11月15日-01:00|スロベニア/ドイツ| ||<就任>ドイツ軍スロベニア地方長官「カール・ジークムント・グラーフ・ホエンウァルト」(~18610406)
- 1860年11月15日-01:00|チエコ| ||シシリアとモロヴァが合併(~18610329)
- 1860年11月17日-05:30|インド| ||<就任>ラジピプラ国統治者(ラジャ・マハラ)「カンビルシジ・ベリサルジ」(~18970110没)
- 1860年11月20日-01:00|チエコ| ||<就任>モロヴァ総督「グスタフ・イクナツ・グラーフ・チヨリンスキー・ライヘル・フォン・レスケ」(~18620521)
- 1860年11月21日-01:00|ドイツ| ||<死去>シャウムブルク=リッペ侯「ゲオルク・ウイヘルム」
- 1860年11月21日-01:00|ドイツ| ||<就任>シャウムブルク=リッペ侯「アドルフ1世ゲオルク」(~18930508死去)
- 1860年11月21日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「Jose Pedro de Mello」(~18620708)
- 1860年11月24日-01:00|アルジェリア/フランス| ||<就任>フランス領アルジェリア総督「エイマール・ジャン・ジャック・ペリシエ」(2回目~18640522)
- 1860年11月25日 00:00|イギリス| ||<死去>ノーフォーク公・アランデル伯・サリー伯「ヘンリー・ケラング・イル・フィッツアラン=ハワード」
- 1860年11月25日 00:00|イギリス| ||<就任>ノーフォーク公・アランデル伯・サリー伯「ヘンリー・フィッツアラン=ハワード」先代の子(~19170211死去)
- 1860年11月26日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「リチャード・ヒールズ」(~18611114)
- 1860年11月26日-09:00|日本|東京都千代田区|万延1年10月14日|神田於玉池の種痘館を種痘所と改称
- 1860年11月26日-09:00|日本|兵庫県姫路市|万延1年10月14日|<死去>播磨姫路藩15万石「酒井忠顕」(25歳)⇒12月9日、養子「酒井忠績」が継ぐ(⇒慶応3(1867)年2月28日、隠居)
- 1860年12月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>アレッポ・ワリス(総督)「Ramazanoglu Mehemet Ismet Pasha」(~1863.2)
- 1860年12月-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「イムレ・グロフ・ミロ・ヒトヴァキ」(政府大統領)」(2回目~18611207)
- 1860年12月 04:00|ケレタダ/イギリス| ||<就任>ケレタダ 副総督代行「ウィリアム・スティープソン」
- 1860年12月 04:00|サン・バルテルミー/スウェーデン| ||<就任>スウェーデン王領セント・バーソロミュー島知事「Fredrik Carl Ulrich」(~18680811死去)
- 1860年12月6日-02:00|南アフリカ| ||<就任>南アフリカ共和国行政評議会議長代行「ステファヌ・ショーマン」(~18620417)
- 1860年12月10日-01:00|アルジェリア| ||フランス領アルジェリア中央政府の組織に関する勅令を發布
- 1860年12月12日-05:30|インド| ||ウタールプラデシュ国がブルガジャから分離国家となる
- 1860年12月14日 00:00|イギリス| ||<死去>4代ハバデーン伯「ジョージ・ハミルトン=ゴートン」元イギリス首相(生年1784年)
- 1860年12月14日 00:00|イギリス| ||<就任>5代ハバデーン伯「ジョージ・ハミルトン=ゴートン」(~18640322死去)
- 1860年12月17日-09:00|日本|東京都|万延1年11月6日|外国奉行堀織部正、江戸城内で条約文面の不備を安藤信正に詰問され自宅で切腹
- 1860年12月17日-09:00|日本|兵庫県姫路市|万延1年11月6日|<交替>播磨安志藩1万石「小笠原貞幹」本家の豊前国小倉藩家督を相続⇒長男「小笠原貞孚」が継ぐ(⇒明治2(1869)年6月24日、版籍奉還)
- 1860年12月19日 00:00|イギリス| ||<死去>初代タルハウジー侯「ジェームズ・アンドリュ・ブロンラムゼイ」廢絶
- 1860年12月19日 00:00|イギリス| ||<就任>11代タルハウジー伯「フォックス・モルラムゼイ」(~18740706死去)
- 1860年12月20日 06:00|アメリカ| ||<脱退>アメリカ合衆国:サウス・カロライナ州
- 1860年12月20日-09:00|日本| ||万延1年11月9日|<死去>三浦梧門(53歳)画家
- 1860年12月20日-09:00|日本|東京都千代田区|万延1年11月9日|火災で焼失した江戸城本丸を復元
- 1860年12月21日-01:00|ナジエリア/イギリス| ||<就任>ベコン湾英国領事「ヘンリー・グラント・Foote」(~18610517死去)
- 1860年12月23日 07:00|メキシコ| ||フランス、米国の支援を受けベラルクスへの上陸に成功/レフォルマ法公布/教会の十分の一税の廃止、教会財産の無償没収を宣言
- 1860年12月24日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|万延1年11月13日|<死去>安房勝山藩12000石「酒井忠一」(38歳)⇒長男「酒井忠美」が継ぐ(⇒明治2(1869)年5月、加知山藩と改名)
- 1860年12月27日-01:00|イタリア| ||<退位>両シチリア王「フランチェスコ2世」
- 1860年12月28日 07:00|メキシコ| ||<就任>メキシコ合衆国暫定大統領「フェリクス・マリア・スロガ・トリロ」(3回目~18620323)
- 1860年12月30日-09:00|日本|東京都千代田区|万延1年11月19日|<解任>老中「脇坂安宅」